高松市埋蔵文化財調査報告第60集

太田第２土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告　第六冊

天満（てんま）・宮西（みやにし）遺跡（いせき）

～　集落・水田編　～

2002年12月

高松市教育委員会

例　　言

1　本報告書は，太田第２土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書の第六冊で，高松市松縄町に所在する天満・宮西遺跡の調査報告（集落・水田編）を収録した。

2　発掘調査および整理作業については，高松市教育委員会が実施した。

3　調査から報告書作成に至るまで，下記の関係機関ならびに方々の助言と協力を得た。記して謝意を表したい。（敬称略，五十音順）

香川県教育委員会　財団法人香川県埋蔵文化財調査センター　讃岐文化遺産研究会
石上英一（東京大学史料編纂所教授）　魚島純一（徳島県立博物館学芸員）
金田章裕（京都大学副学長）　工楽善通（元奈良国立文化財研究所埋蔵文化財センター長）
寒川　旭（関西センター大阪大手前サイト主任研究員）　高橋　学（立命館大学文学部教授）
外山秀一（皇學館大学文学部教授）　丹羽佑一（香川大学経済学部教授）

4　天満・宮西遺跡の調査は，昭和63年度に文化振興課文化財専門員山本英之が立会調査を実施し，本調査を平成元年度に同専門員川畑聰・嘱託中西克也が行った。整理作業は川畑が行った。

5　本報告書の編集・執筆は，川畑が行った。

6　本報告書掲載の写真撮影には，杉本和樹氏（西大寺フォト）の協力を得た。

7　本文の挿図として，国土地理院発行２万５千分の１地形図「高松南部」および高松市都市計画図２千５百分の１「三条」「木太２」を一部改変して使用した。

8　発掘調査で得られたすべての資料は，高松市教育委員会で保管している。

9　本報告書の高度値は海抜高を表し，方位は座標北を表す。国土座標数値は，平成元年度のものを使用している。

10　本書で用いる遺構の略号は次のとおりである。

ＳＡ…柵列　ＳＢ…掘立柱建物　ＳＤ…溝　ＳＨ…竪穴住居　ＳＫ…土坑　ＳＰ…柱穴
ＳＲ…旧河道　ＳＸ…不明遺構

目　　次

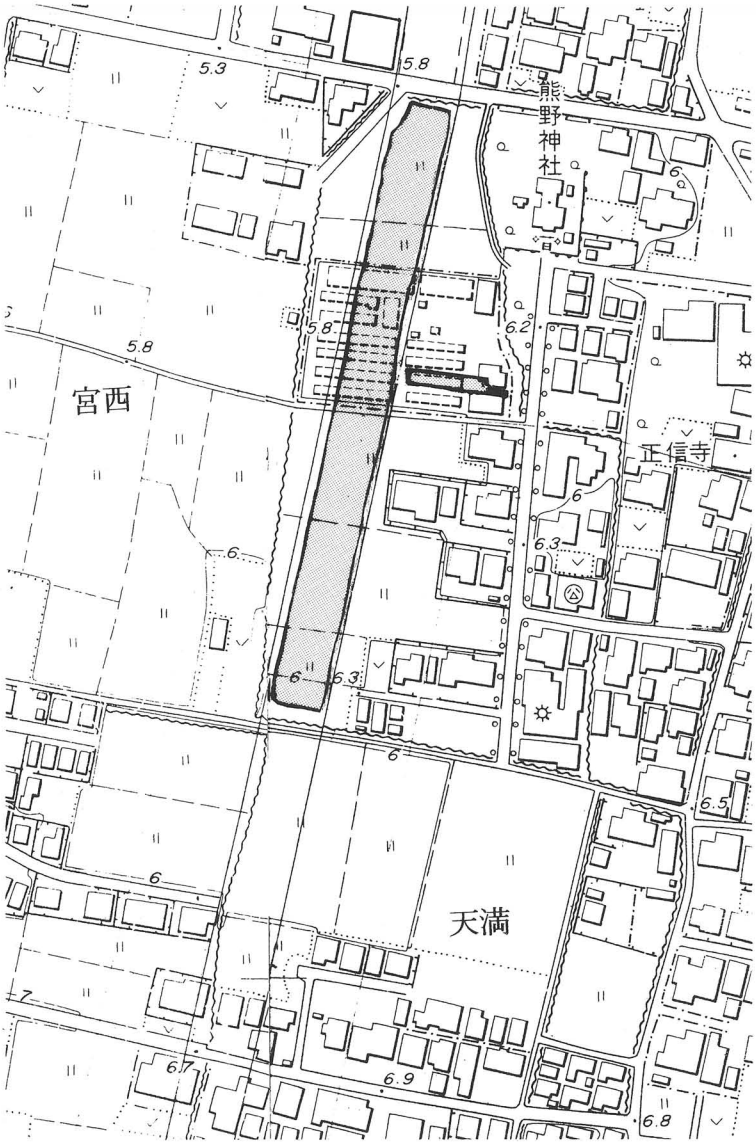
例言・目次 …… 1
第１章　調査の経緯と経過
　第１節　調査の経緯 …… 2
　第２節　調査の経過 …… 2
第２章　地理的環境・歴史的環境
　第１節　地理的環境 …… 3
　第２節　歴史的環境 …… 3
第３章　調査の成果
　第１節　調査区の設定と遺構番号 …… 5
　第２節　遺跡の概要と基本層序 …… 5
　第３節　弥生時代前期の遺構と遺物 …… 14
　第４節　弥生時代後期～古墳時代前期初頭の遺構と遺物 …… 25
　第５節　飛鳥時代～鎌倉時代の遺構と遺物 …… 108
　第６節　室町時代～江戸時代の遺構と遺物 …… 116
　第７節　その他の遺物 …… 118
第４章　まとめ
　第１節　遺構の変遷 …… 119
　第２節　弥生時代前期の土器と集落の位置付け …… 119
　第３節　弥生時代後期～古墳時代前期初頭における集落の変遷 …… 123

第１章　調査の経緯と経過

第１節　調査の経緯

天満・宮西遺跡は，高松市松縄町に位置し，太田第２土地区画整理事業の中で整備が進められている都市計画道路福岡多肥上町線の予定地にあたる。

太田第２土地区画整理事業は，昭和62年２月２日の香川県都市計画審議会による都市計画決定を受けて，昭和63年度から実施されている。事業区域は，高松市街の南郊約６kmの田園地帯で，林，木太，太田，多肥の４地区に及ぶ360.6haは全国有数の事業規模である。この地域には，一般国道11号高松東道路ならびに四国横断自動車道の建設が予定され，これによる急速な市街化が予想されるため，路線沿線の市街化ならびに都市基盤整備を計画的に進める目的で事業計画がなされたものである。



第１図　調査区位置図（縮尺1/2,500）

第２節　調査の経過

高松市松縄町天満において，弥生時代前期の土器が出土することは，昭和40年に細渓・六車両氏によって報告され，天満遺跡と呼称されていた。昭和63年度に至って，天満地区の北に隣接する宮西地区において，都市計画道路側溝工事に伴う立会調査で弥生土器が出土した。天満遺跡が，宮西地区にまで広がっていると考えられたことから，天満・宮西遺跡と命名され，道路予定地のうち約210m分について埋蔵文化財包蔵地として発掘調査を実施することになった。平成元年９月１日から平成２年２月28日にかけて，高松市教育委員会が発掘調査を実施した。掘削工事は鉄建建設㈱に，航空写真測量は国際航業㈱に発注した。なお，実際に発掘調査したのは宮西地区のみで，道路予定地内の天満地区は旧河道にあたり，埋蔵文化財包蔵地とは認められなかった。旧地形分析から見て，天満地区の弥生土器出土地点は，道路予定地より東側と推測される。

参考文献

細渓福太郎・六車恵一1965「高松市天満弥生式遺跡」『文化財協会報　特別号７』香川県文化財保護協会

※同論文掲載の地図では，天満遺跡は上林町に所在するが，文章中に「高松市松縄町天満」と明記されていることから，地図が誤りだと判断される。なお，上林町には天満の字名は存在しない。

第２章　地理的環境・歴史的環境

第１節　地理的環境

瀬戸内海に北面した香川県のほぼ中央に，低い山塊に囲まれた高松平野がある。高松平野は西側が南から五色台へと続く山地，東側が立石山山地によって取り囲まれた東西20km，南北16kmの範囲に及んでいる。また，この平野は，讃岐山脈から流下し，北へ流れて瀬戸内海へ注ぐ香東川をはじめ本津川・春日川・新川などによって形成された扇状地でもある。

さて，現在石清尾山塊の西を直線に北流する香東川は，17世紀初頭の河川改修によって一本化されたもので，古代以前においては香川町大野付近から東へ分岐した後，石清尾山塊の南側を回り込んで平野中央部を東北流する別の主流路があった。この旧流路は，現在では水田及び市街地の地下に埋没してしまったが，空中写真等から複数の旧河道が知られており，発掘調査によってもその痕跡が確認されている。なお，17世紀の廃川直前の流路は御坊川としてその名残をとどめている。

第２節　歴史的環境

高松平野中央部で，最古の遺跡は，縄文時代草創期の有舌尖頭器が表採された大池遺跡である。しばらくの空白後，晩期の遺跡が発掘されており，木製農具が出土した林・坊城遺跡やさこ・長池遺跡，東中筋遺跡，木器加工場であった居石遺跡等をあげることができる。

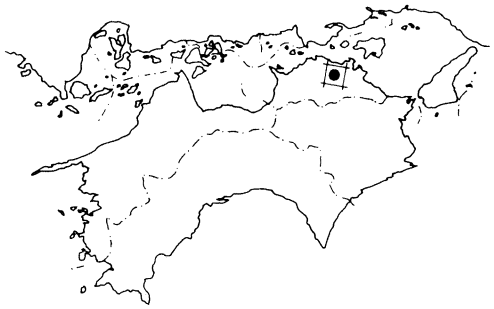
弥生時代前期に移ると，天満・宮西遺跡，汲仏遺跡で集落をめぐる環壕が発掘されるとともに，上西原遺跡，さこ・長池遺跡，さこ・長池Ⅱ遺跡で不定形小区画水田が見つかっている。中期になると，さこ・長池遺跡，さこ・長池Ⅱ遺跡，井手東Ⅰ遺跡，多肥松林遺跡，日暮・松林遺跡で住居跡，周溝墓等を伴う集落の一部が調査されているが，松林周辺以外は規模・密度とも総じて希薄である。

弥生時代後期になると遺跡は数・規模ともに爆発的に増加し，上天神遺跡，天満・宮西遺跡，凹原遺跡，空港跡地遺跡のように十数棟の住居跡と大量の廃棄土器を伴う集落が出現する。

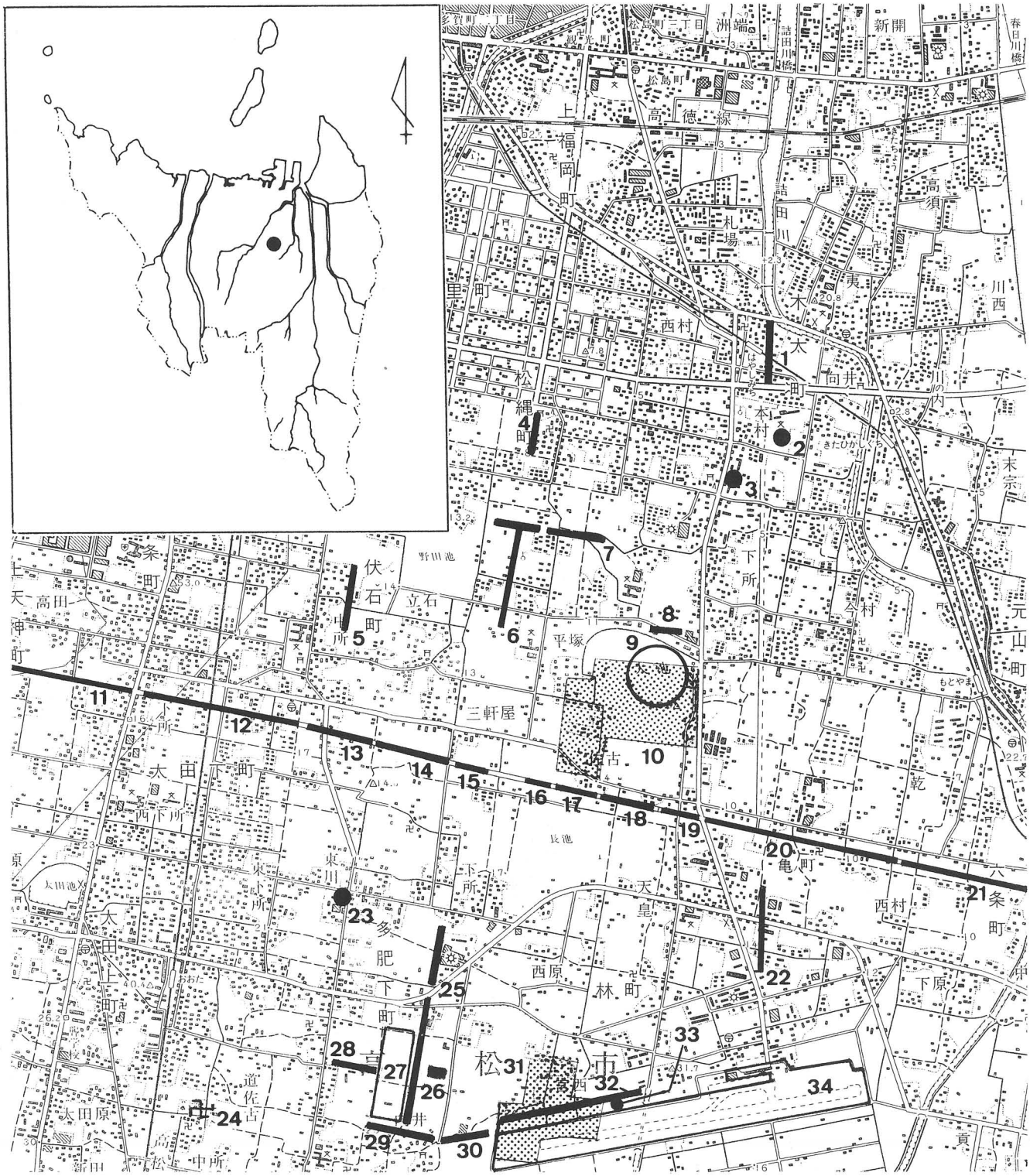
古墳時代では，これら弥生時代後期の遺跡が前期初頭に至るまで集落が存続する。また，太田下・須川遺跡では古墳時代中期の集落を検出している。一方，古墳の分布状況を概観すると，石清尾山古墳群をはじめ，主に丘陵上に古墳が築造されている。

古代では条里遺構が注目される。各遺跡で，条里界線にあたる遺構を検出しており，飛鳥時代から現代に至るまで時代は様々であるが，条里地割施行が段階的に進んだことが明らかになりつつある。中でも，松縄下所遺跡は現地表面の条里とは10数メートルずれた位置にありながら地表条里と同方向の道路側溝を検出し，時期も７世紀代にまで遡り得るなど高松平野の条里施行に関わる可能性がある重要な遺跡である。また，さこ・長池Ⅱ遺跡では旧香川・山田郡界線にあたる部分に幅６ｍの間隔で並行する道路側溝を検出している。

中世では，さこ・長池遺跡，さこ・松ノ木遺跡で，旧河道が埋没していく過程の凹地に小規模な区画の水田面が検出されている。また，空港跡地遺跡では，溝に囲まれた屋敷跡を確認している。



第２図　遺跡位置図



第３図　周辺主要遺跡分布図（縮尺1/25,000）

第３章　調査の成果

第１節　調査区の設定と遺構番号

天満・宮西遺跡の調査は，対象地が約5,040㎡と広大で南北に細長いことから，北から順に20m単位に１～11区と呼称した(第５・６図)。この調査区とは別に，都市計画道路に取り付く６m街路(５区の東，240㎡）も調査対象地と追加されたので，これを６m街路区と呼称する（第７図)。なお，６～11区にかけての西側約120m分は，民有地への車道確保のため調査対象から外れた。

遺構番号については，調査時に検出した順に付けており，本報告でも原則として調査時の遺構番号を踏襲した。柱穴・水田・中近世溝・旧河道を除く検出した遺構一覧については，第１～３表のとおりである。

第２節　遺跡の概要と基本層序

調査前の対象地は，養鶏場や水田として利用されていた。都市計画道路福岡多肥上町線では幅員24m道路予定地のうち松縄町宮西地区の総長210m分が調査対象となり，面積は約5,040㎡を測る。そのうち，民有地への車道や側溝部分などを除くと，実際の掘削面積は3,176㎡となった。また，追加された６m街路の掘削面積は約150㎡である。

さて，天満・宮西遺跡は高松平野の中央部でも北よりに位置する。この平野には香東川の旧河道が幾本も埋没しており，これら流路の沖積作用によって形成された微高地が数多く点在している。天満・宮西遺跡で検出された集落跡も，この微高地上に立地している（第４図)。微地形分析によると，天満・宮西遺跡の微高地は，南東から北西にのびる楕円形を呈し，南北の長さ約250m，東西幅約100mを測る。なお，天満・宮西遺跡の調査では，１～３区において微高地北側の小谷とさらに北東に所在する別の微高地も検出している。

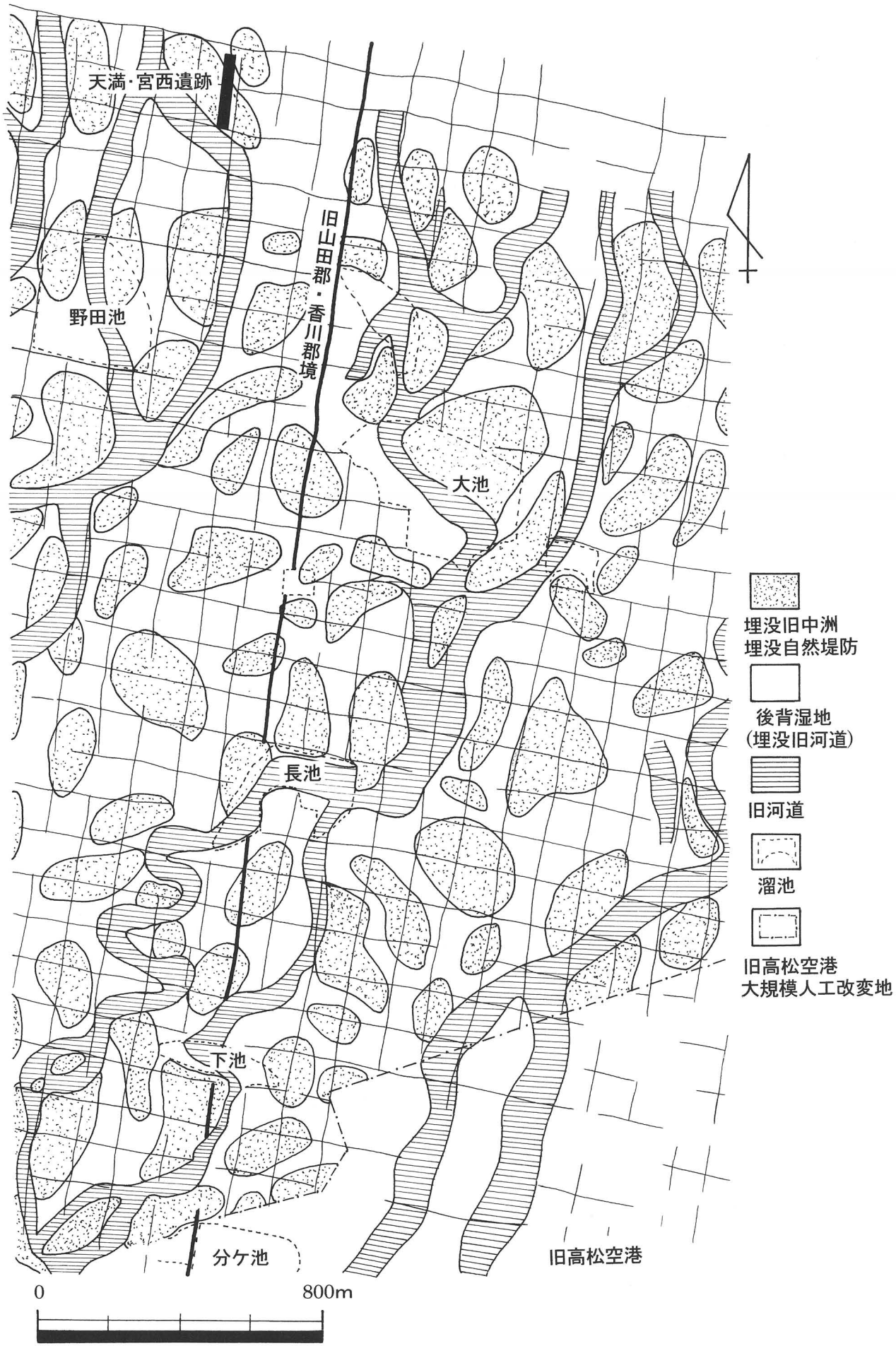
遺跡の基本層序は，第８図のとおりである。調査区全体は，昭和63年度の道路造成工事により削平を受けており，微高地上では工事用花崗土を除去すると，すぐに遺構面が現れた。微高地は浅黄色シルト質極細砂等で形成されており，標高は5.0～5.8mを測り，南から北に向かって傾いている。

一方，小谷では，複雑な堆積を示す。まず上から概観すると，１a～５層といった中世～近世・近代の耕作土層と考えられる水平に堆積している土層が認められる。このうち，３a層において，鋤跡・牛の足跡を検出している。６層上面では，石組畦畔を有する小区画水田（飛鳥時代）が存在した。この小区画水田の下に，小谷の堆積層を切り込む形で，弥生時代後期の旧河道が蛇行している。弥生時代後期～古墳時代前期初頭の旧河道は，７層の堆積層が見られるとともに，微高地上の集落から廃棄された多量の弥生土器が出土した。小谷の堆積層は３層あるが，出土遺物が皆無であったことから，埋没時期の特定には至らなかった。旧河道底は，標高3.8～4.2mを測り，微高地と同じく南から北に傾いている。

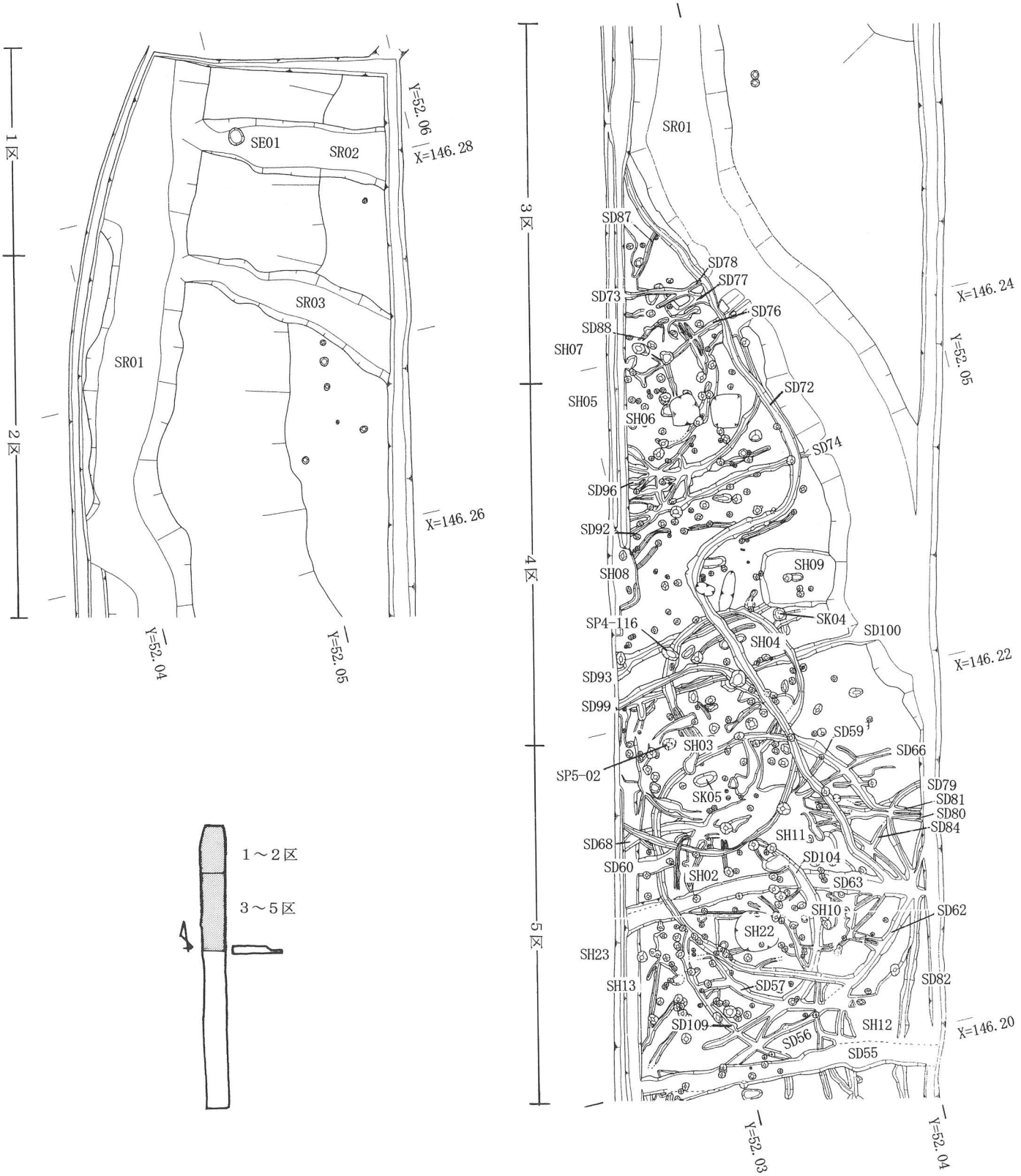
微高地および小谷で検出した遺構は，弥生時代前期，弥生時代後期～古墳時代前期初頭，飛鳥～鎌倉時代，室町～江戸時代のものである。これらの遺構は，竪穴住居25棟，掘立柱建物跡12棟，井戸２基，溝136条，柵列６列，柱穴約900基，土坑15基，不明遺構８基，水田２面を数え，遺構および包含層から30㍑コンテナ約87箱分の遺物が出土した。ただし，小谷底にあった弥生時代後期～古墳時代前期初頭の旧河道については，別報告となるため，遺物数からは除外している。微高地上の遺構は，後世の削平を受けているものが多く，本文中に記載されている遺構の法量は現存の値を示す。

参考文献

高橋　学1992「高松平野の地形環境」『讃岐国弘福寺領の調査』高松市教育委員会

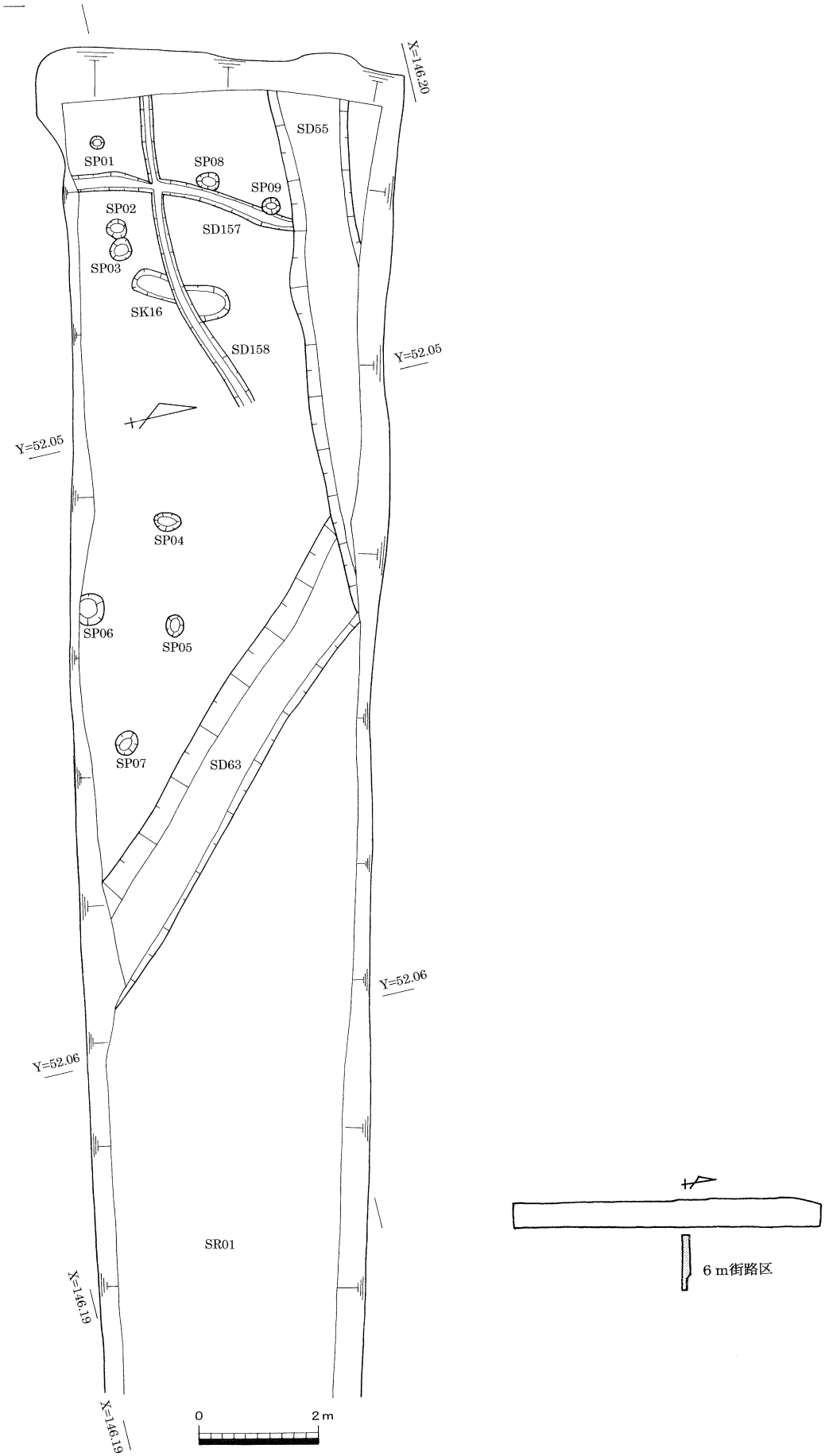


第４図　天満・宮西遺跡周辺の微地形（縮尺１/15,000，高橋学1992をもとに北側約500ｍ分を追加）

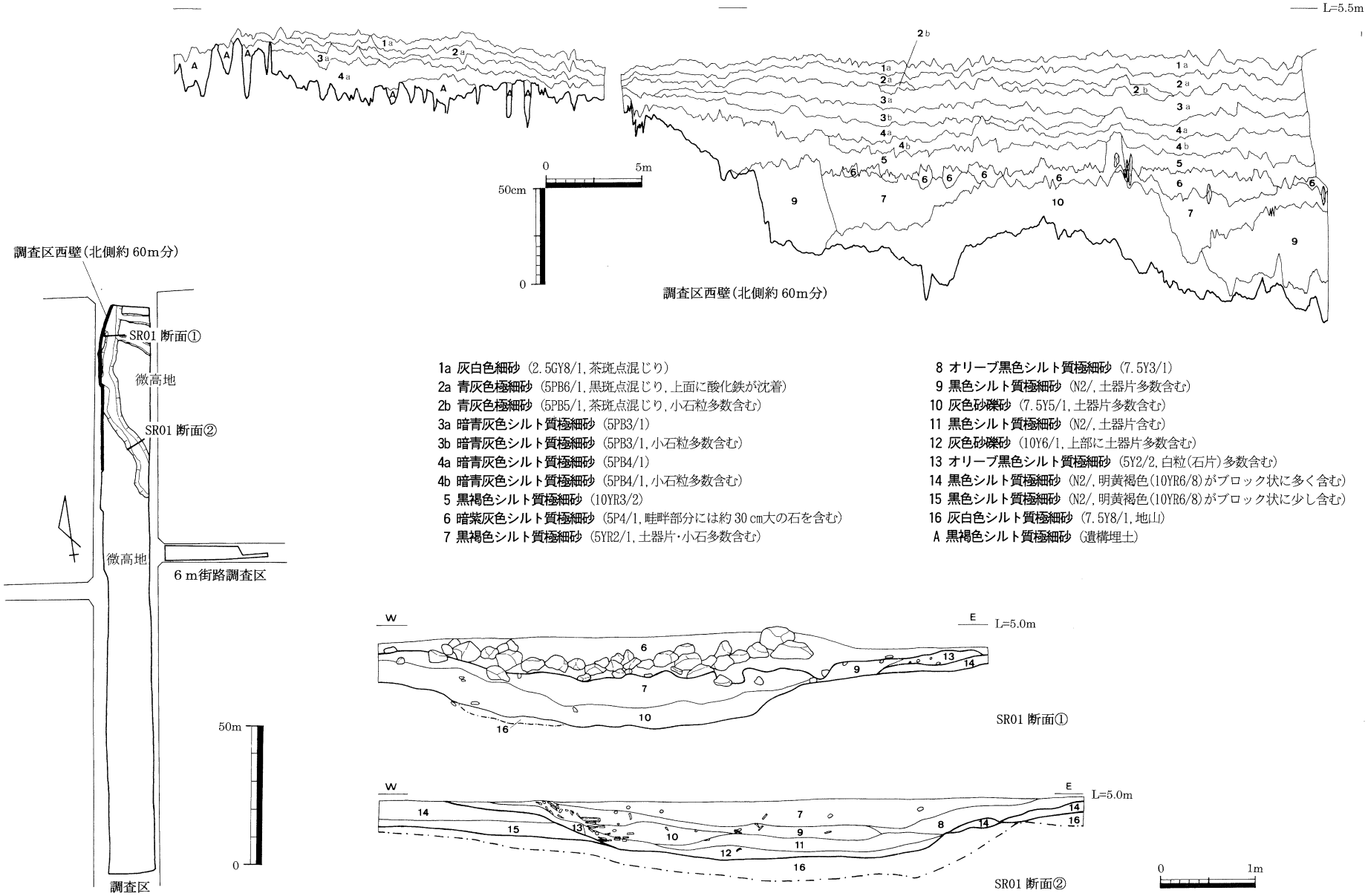


第5図　1～5区遺構配置図(縮尺1/300)

第6図　6～11区遺構配置図(縮尺1/300)



第7図　6m街路遺構配置図(縮尺1/100)



第 8 図　調査区西壁土層図(縮尺縦1/30・横1/300)・旧河道ＳＲ01断面図(縮尺1/60)

	区　割	掲載頁	備　考
ＳＨ１	6区北西	25	
ＳＨ２	5区西	25	
ＳＨ３	4～5区西	31	
ＳＨ４	4区中央	32	
ＳＨ５	3～4区西	32	
ＳＨ６	3～4区西	32	
ＳＨ７	3～4区西	32	
ＳＨ８	4区西	33	
ＳＨ９	4区東	108	
ＳＨ10	5区中央	37	
ＳＨ11	5区中央	37	
ＳＨ12	5区南東	45	
ＳＨ13	5区南西	45	
ＳＨ14	6区南東	46	計4棟分
ＳＨ15	6区南東	46	
ＳＨ16	7区北西	54	
ＳＨ17	7区東	54	
ＳＨ18	10区南西	58	
ＳＨ19	5～6区西	58	
ＳＨ20	7区北東	60	
ＳＨ21	10～11区西	60	
ＳＨ22	5区中央	60	
ＳＨ23	5区西	64	
ＳＢ１	11区中央	64	
ＳＢ２	11区東	65	
ＳＢ３	11区東	66	
ＳＢ４	10区北東	67	
ＳＢ５	10区北東	68	
ＳＢ６	10区北東	68	
ＳＢ７	8区南東	68	
ＳＢ８	8区中央	68	
ＳＢ９	8区北西	68	
ＳＢ10	10～11区東	70	
ＳＢ11	10区北西	72	
ＳＢ12	10～11区	72	
ＳＡ１	10区南西	72	
ＳＡ２	9区中央	72	
ＳＡ３	9区中央	72	
ＳＡ４	9区北東	74	
ＳＡ５	8区南	74	
ＳＡ６	7区東	74	
ＳＥ１	1区中央	74	
ＳＥ２	7区中央	74	

	区　割	掲載頁	備　考
ＳＫ１	7区北東	77	
ＳＫ２	—	—	
ＳＫ３	8区東	78	
ＳＫ４	4区中央	112	
ＳＫ５	5区北西	78	
ＳＫ６	6区南西	24	
ＳＫ７	7区中央	24	
ＳＫ８	7区中央	80	
ＳＫ９	—	—	
ＳＫ10	6区北東	24	
ＳＫ11	8区北	80	
ＳＫ12	7～8区西	80	
ＳＫ13	8区北西	—	
ＳＫ14	8区北西	80	
ＳＫ15	9区北	80	
ＳＫ16	6ｍ街路	—	
ＳＫ17	7区中央	—	
ＳＸ１	11区北西	—	
ＳＸ２	3区西	—	
ＳＸ３	4区北	—	
ＳＸ４	10区北東	—	
ＳＸ５	6区北	—	
ＳＸ６	5区南	—	
ＳＸ７	5区南東	—	
ＳＸ８	—	—	
ＳＸ９	7区北東	—	

第1表　天満・宮西遺跡遺構一覧（1）

	区　割	掲載頁	備　考
ＳＤ 1	11区南西	109	
ＳＤ 2	11区東	80	ＳＤ09と同一
ＳＤ 3	—	—	
ＳＤ 4	11区北	109	
ＳＤ 5	10～11区	58	ＳＨ18周溝
ＳＤ 6	—	—	ＳＤ05へ
ＳＤ 7	10区西	84	
ＳＤ 8	10区西	60	ＳＨ21周溝
ＳＤ 9	10区南東	80	ＳＤ02と同一
ＳＤ 10	10区南東	—	
ＳＤ 11	8区南	14	
ＳＤ 12	7区東	54	ＳＨ17周溝
ＳＤ 13	—	—	ＳＤ12・35へ
ＳＤ 14	7区南西	84	
ＳＤ 15	9区北東	84	
ＳＤ 16	—	—	ＳＫ15へ
ＳＤ 17	—	—	
ＳＤ 18	9区北西	84	
ＳＤ 19	9区北西	—	
ＳＤ 20	9区北西	84	
ＳＤ 21	8区東	84	
ＳＤ 22	8区中央	84	
ＳＤ 23	8区北東	87	
ＳＤ 24	8区北東	87	
ＳＤ 25	8区北東	87	
ＳＤ 26	—	—	
ＳＤ 27	7～8区東	87	
ＳＤ 28	—	—	
ＳＤ 29	—	—	ＳＫ11へ
ＳＤ 30	—	—	ＳＫ13へ
ＳＤ 31	7区南西	—	
ＳＤ 32	7区南西	91	
ＳＤ 33	—	—	ＳＤ150へ
ＳＤ 34	7区東	60	ＳＨ20周溝
ＳＤ 35	7区東	91	
ＳＤ 36	7区東	46	ＳＨ14・15周溝
ＳＤ 37	7区東	91	ＳＨ14・15周溝
ＳＤ 38	11区南西	91	
ＳＤ 39	11区北西	60	ＳＨ21周溝
ＳＤ 40	11区南西	—	
ＳＤ 41	10区南西	60	ＳＨ21周溝
ＳＤ 42	6区東	46	ＳＨ14・15周溝
ＳＤ 43	6区東	46	ＳＨ14・15周溝
ＳＤ 44	6区東	46	ＳＨ14・15周溝
ＳＤ 45	6区東	49	ＳＨ14・15周溝
ＳＤ 46	6区東	46	ＳＨ14・15周溝
ＳＤ 47	6区北東	—	ＳＤ147と同一
ＳＤ 48	6区東	49	ＳＨ14・15周溝
ＳＤ 49	6区東	91	
ＳＤ 50	6区東	—	

	区　割	掲載頁	備　考
ＳＤ 51	6区北西	—	
ＳＤ 52	5～6区	58	ＳＨ19周溝
ＳＤ 53	6区東	91	ＳＤ82と同一
ＳＤ 54	6区北西	—	
ＳＤ 55	5区南	109	
ＳＤ 56	5区中央	94	
ＳＤ 57	5区中央	37	ＳＨ10周溝
ＳＤ 58	—	—	ＳＤ59へ
ＳＤ 59	5区中央	38	ＳＨ11周溝
ＳＤ 60	5区西	94	
ＳＤ 61	5区東	—	
ＳＤ 62	5区中央	38	ＳＨ10・11周溝
ＳＤ 63	5区中央	14	
ＳＤ 64	—	—	ＳＤ72へ
ＳＤ 65	—	—	
ＳＤ 66	5区北東	94	
ＳＤ 67	5区北東	—	
ＳＤ 68	5区西	64	ＳＨ23周溝
ＳＤ 69	5区北	—	
ＳＤ 70	—	—	ＳＤ72へ
ＳＤ 71	4区中央	—	
ＳＤ 72	3～5区	109	
ＳＤ 73	3～4区西	33	ＳＨ06周溝
ＳＤ 74	4区北西	94	
ＳＤ 75	3区南西	33	ＳＨ06排水溝
ＳＤ 76	3区南西	33	ＳＨ05排水溝
ＳＤ 77	3区南西	95	
ＳＤ 78	3区南西	95	
ＳＤ 79	5区東	95	
ＳＤ 80	5区東	37	ＳＨ10周溝
ＳＤ 81	5区東	38	ＳＨ11周溝
ＳＤ 82	5区東	91	ＳＤ53と同一
ＳＤ 83	5区中央	60	ＳＨ22周溝
ＳＤ 84	5区東	95	
ＳＤ 85	5区東	95	
ＳＤ 86	4区北	—	
ＳＤ 87	3区南西	95	
ＳＤ 88	3区南西	97	
ＳＤ 89	3区南西	33	ＳＨ05排水溝
ＳＤ 90	—	—	
ＳＤ 91	4区北	33	ＳＨ05周溝
ＳＤ 92	4区北	97	
ＳＤ 93	4区南	97	
ＳＤ 94	4区北	97	
ＳＤ 95	4区北	—	
ＳＤ 96	4区北	33	ＳＨ05周溝
ＳＤ 97	4区北	97	
ＳＤ 98	—	—	ＳＤ93へ
ＳＤ 99	4～5区西	31	ＳＨ03周溝
ＳＤ100	4区南	97	

第２表　天満・宮西遺跡遺構一覧（２）

	区　割	掲載頁	備　考
ＳＤ101	—	—	ＳＤ100へ
ＳＤ102	4区南	—	
ＳＤ103	5区中央	99	
ＳＤ104	5区西	64	ＳＨ23周溝
ＳＤ105	5区西	—	
ＳＤ106	5区西	37	ＳＨ10周溝
ＳＤ107	5区南	—	
ＳＤ108	5区西	64	ＳＨ23周溝
ＳＤ109	5区中央	60	ＳＨ22周溝
ＳＤ110	—	—	
ＳＤ111	5区中央	—	
ＳＤ112	5区中央	—	
ＳＤ113	5区中央	99	
ＳＤ114	5区中央	99	
ＳＤ115	5区東	—	
ＳＤ116	5区東	37	ＳＨ10周溝
ＳＤ117	5区中央	—	
ＳＤ118	5区西	—	
ＳＤ119	5区西	99	
ＳＤ120	5区西	58	ＳＨ19周溝
ＳＤ121	5区中央	99	
ＳＤ122	5区西	58	ＳＨ19周溝
ＳＤ123	—	—	ＳＤ55へ
ＳＤ124	5区西	99	
ＳＤ125	—	58	ＳＨ19周溝
ＳＤ126	—	—	
ＳＤ127	—	—	
ＳＤ128	—	—	
ＳＤ129	5区東	—	
ＳＤ130	5区東	—	
ＳＤ131	6区北西	112	
ＳＤ132	6区北西	99	
ＳＤ133	6区北西	99	
ＳＤ134	6区北西	58	ＳＨ19周溝
ＳＤ135	5区南東	102	
ＳＤ136	5区南東	—	
ＳＤ137	5区南東	58	ＳＨ19周溝
ＳＤ138	5～6区東	45	ＳＨ12周溝
ＳＤ139	5区南東	102	
ＳＤ140	6区東	60	ＳＨ20周溝
ＳＤ141	6区西	102	
ＳＤ142	6区中央	49	ＳＨ14・15周溝
ＳＤ143	6区中央	49	ＳＨ14・15周溝
ＳＤ144	6区中央	49	ＳＨ14・15周溝
ＳＤ145	6区東	60	ＳＨ20周溝
ＳＤ146	6区東	49	ＳＨ14・15周溝
ＳＤ147	6～7区東	—	ＳＤ47と同一
ＳＤ148	6区中央	102	
ＳＤ149	7区東	54	ＳＨ17周溝
ＳＤ150	7区東	—	

	区　割	掲載頁	備　考
ＳＤ151	7区東	—	
ＳＤ152	7区東	—	
ＳＤ153	10区西	—	
ＳＤ154	11区北西	102	
ＳＤ155	11区北西	—	
ＳＤ156	11区北西	—	
ＳＤ157	11区北西	—	
ＳＤ158	6ｍ街路	—	
ＳＤ４	11区北	83	下層溝

第3表　天満・宮西遺跡遺構一覧（3）

第３節　弥生時代前期の遺構と遺物

弥生時代前期の溝２条・土坑３基を５～８区で検出した。このうち溝２条は，集落を囲んでいた環濠の北と南部分にあたり，別番号だが同じ溝である。土坑３基は，すべて環濠に囲まれた範囲内に位置し，集落に伴うものと考えられる。

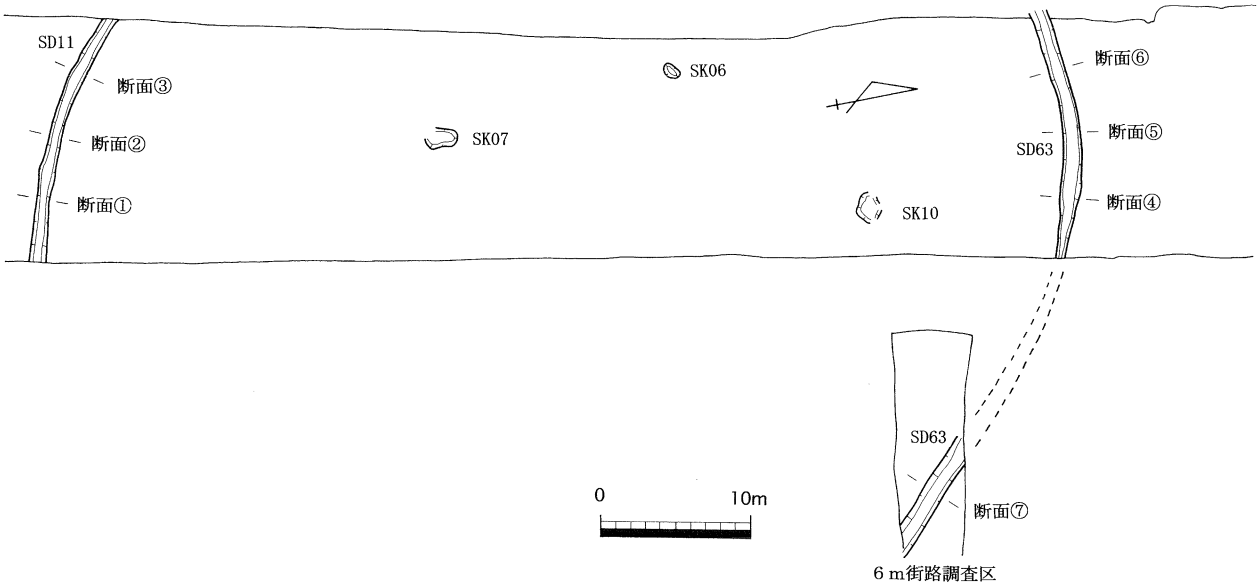
環濠ＳＤ11・63（第10～20図）

５区でＳＤ63，８区でＳＤ11，６ｍ街路区でＳＤ63の延長を確認した溝で，ＳＤ11・63と別番号だが，本来は円を描いて完結する同じ溝と考えられる。溝で囲まれた範囲の直径は約65ｍを測る。旧地形から見れば，南北約250ｍ，東西約100ｍの規模をもつ微高地の南東部分を占め，ＳＤ11は微高地の高い場所に，ＳＤ63は微高地縁辺近くにあたる。

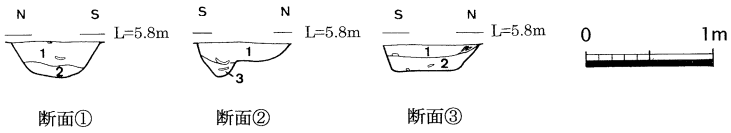
溝の規模は，幅80cm～１ｍ20cm，深さ約20～55cmを測り，断面はＵ字形もしくは逆台形を呈する。埋土は，ＳＤ11・63で２～３層，６ｍ街路区ＳＤ63で４層に分かれ，同じ遺構内でも場所によって微妙に堆積状況が違う。ＳＤ11では第１層を上層，第２・３層を下層，ＳＤ63では第４層を上層，第５～７層を下層として調査した。土器・石器は，ＳＤ11・63ではおおむね上層・下層に分けて取り上げたが，６ｍ街路は充分な調査期間が確保できず，上下層一緒に取り上げることになった。

出土した弥生土器の器種構成は，壺（１～８・43～47・51～56・73～84）・甕（９～16・29～32・48～50・57～62・85～89）が圧倒的に多く，蓋（90）・鉢（33・34）・高杯（17・63・69）がわずかに存在する。壺には小型のものが含まれる。甕は，いわゆる如意状口縁であり，体部が膨らむものとそうでないものがあり，大きさも大小さまざまである。

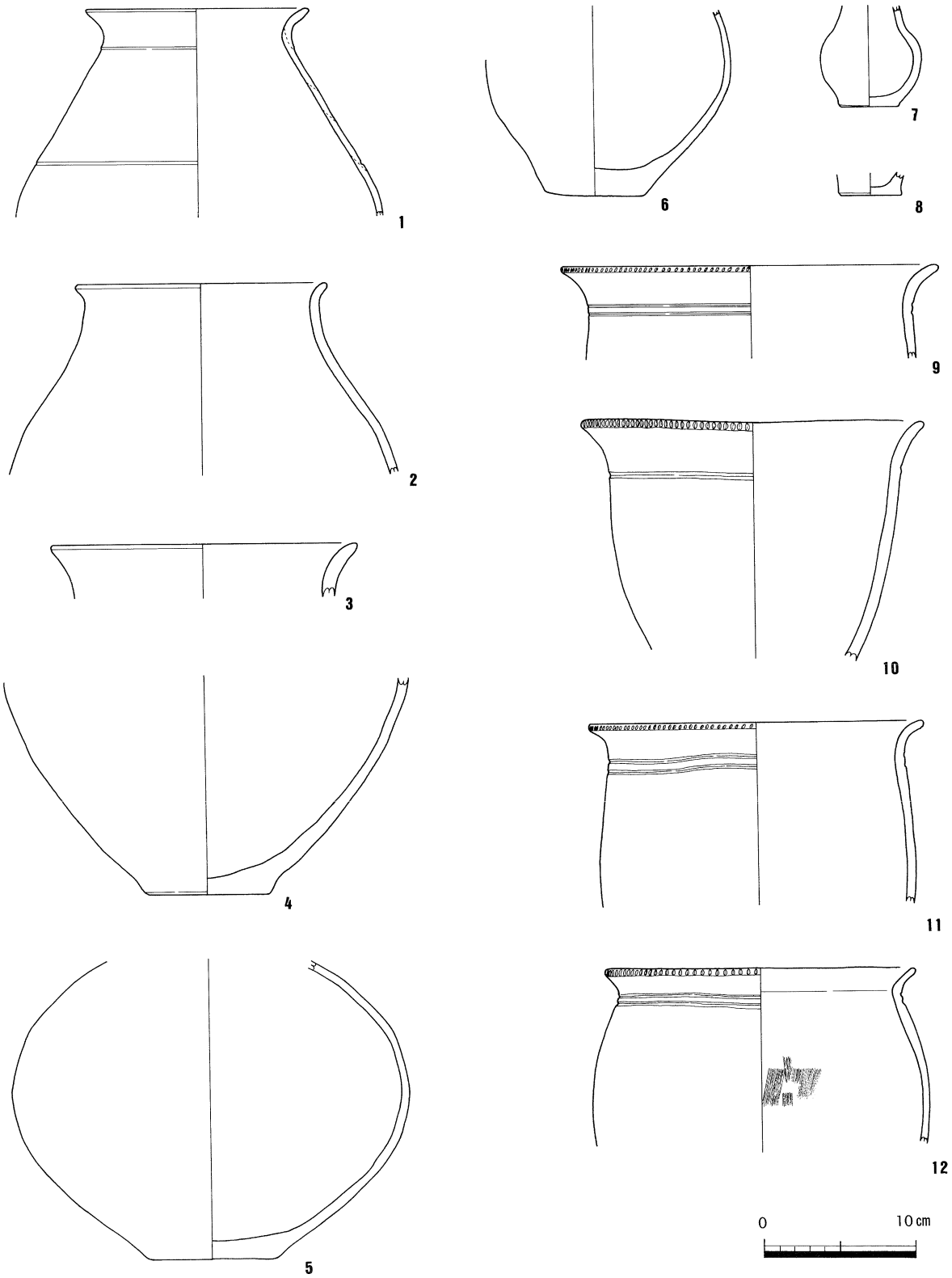
壺は，下層においては頸部と肩に段をもつか１条の沈線を引くか無文であるが，上層においては数条の沈線を引くものや削り出し突帯をもつものが出現する。甕は，下層において頸部に１～２条の沈線を引くが，上層においては沈線が３条以上のものや削り出し突帯のものが出現する。さらに，甕外面の調整は，篦磨きが主体であるが，上層で刷毛を施すもの（57）が見られるようになる。これらの特徴から，環濠ＳＤ11・63は弥生時代前期前半後葉～後半前葉と推定され，下層と上層出土遺物に時期差が認められる。このことは，環濠が一度に埋まったのではなく，徐々に埋没したことを推測させる。



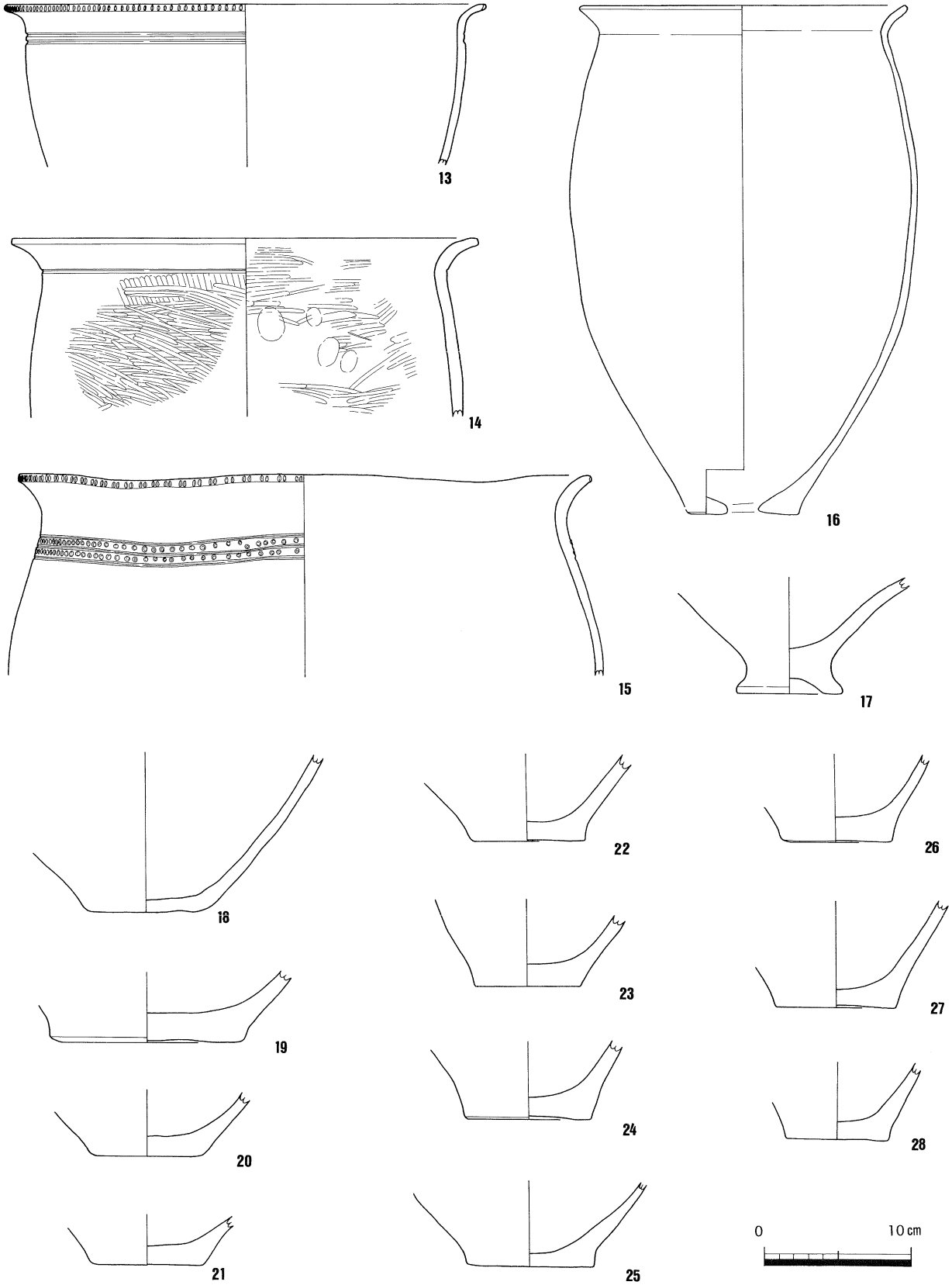
第９図　弥生時代前期遺構配置図（縮尺1/500）



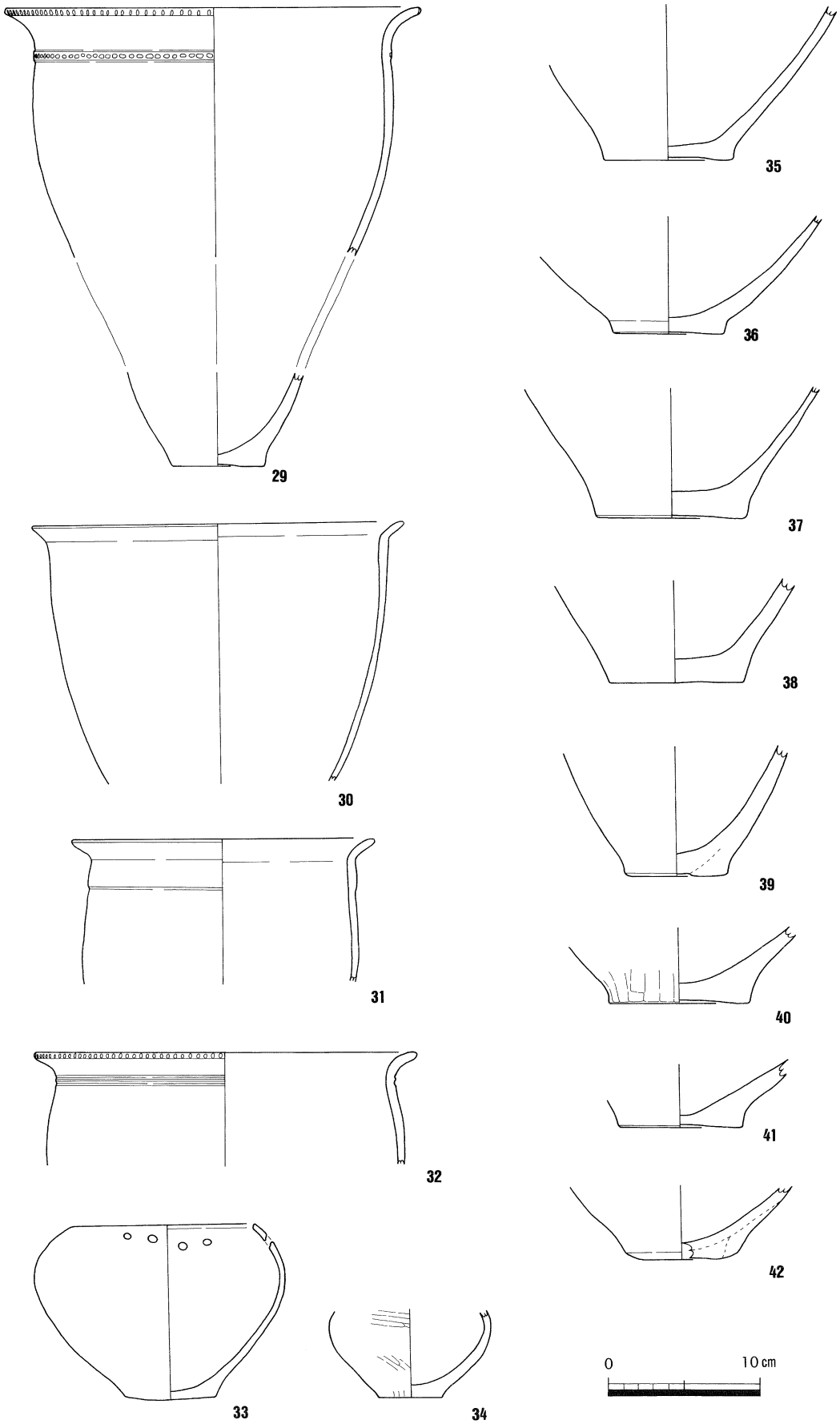
1 黒褐色シルト質極細砂（10YR3/2）
2 黒褐色シルト質極細砂
（10YR3/2，地山をブロック状に含む）
3 黒 色 シルト質極細砂（7.5YR2/1）



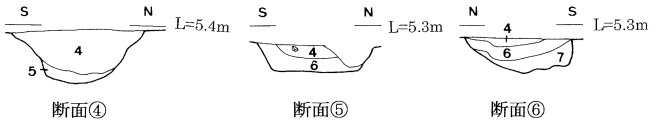
第10図　ＳＤ11断面図（縮尺1/60）下層出土遺物実測図①（縮尺1/4）



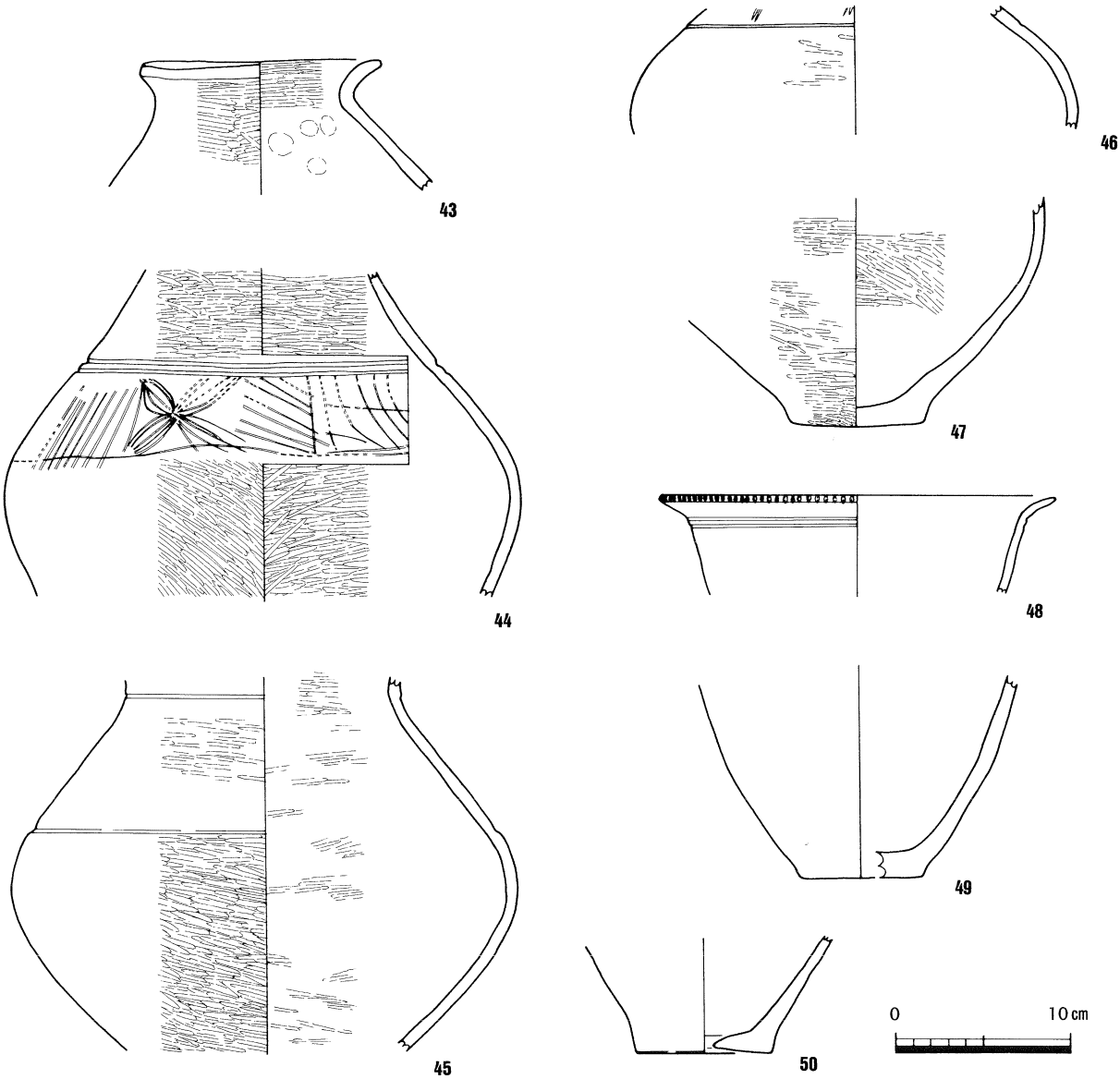
第11図　ＳＤ11下層出土遺物実測図②(縮尺1/4)



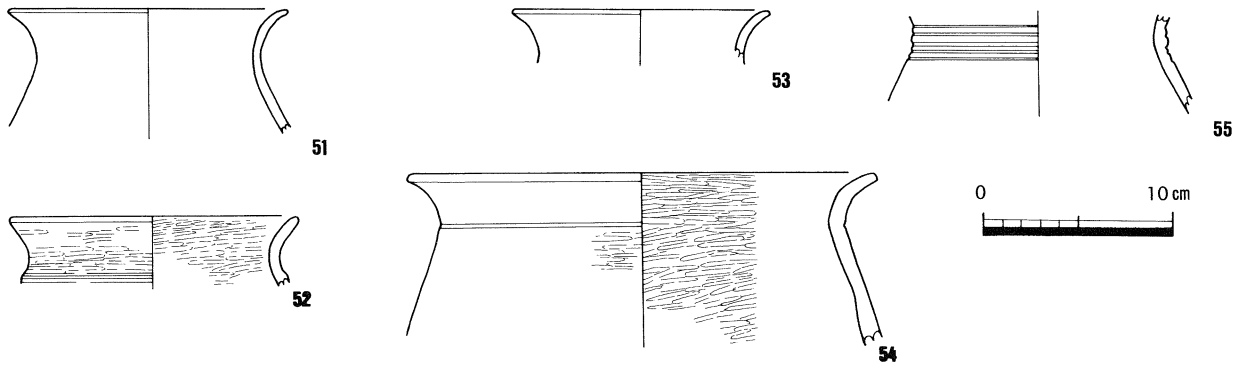
第12図　ＳＤ11上層出土遺物実測図（縮尺1/4）



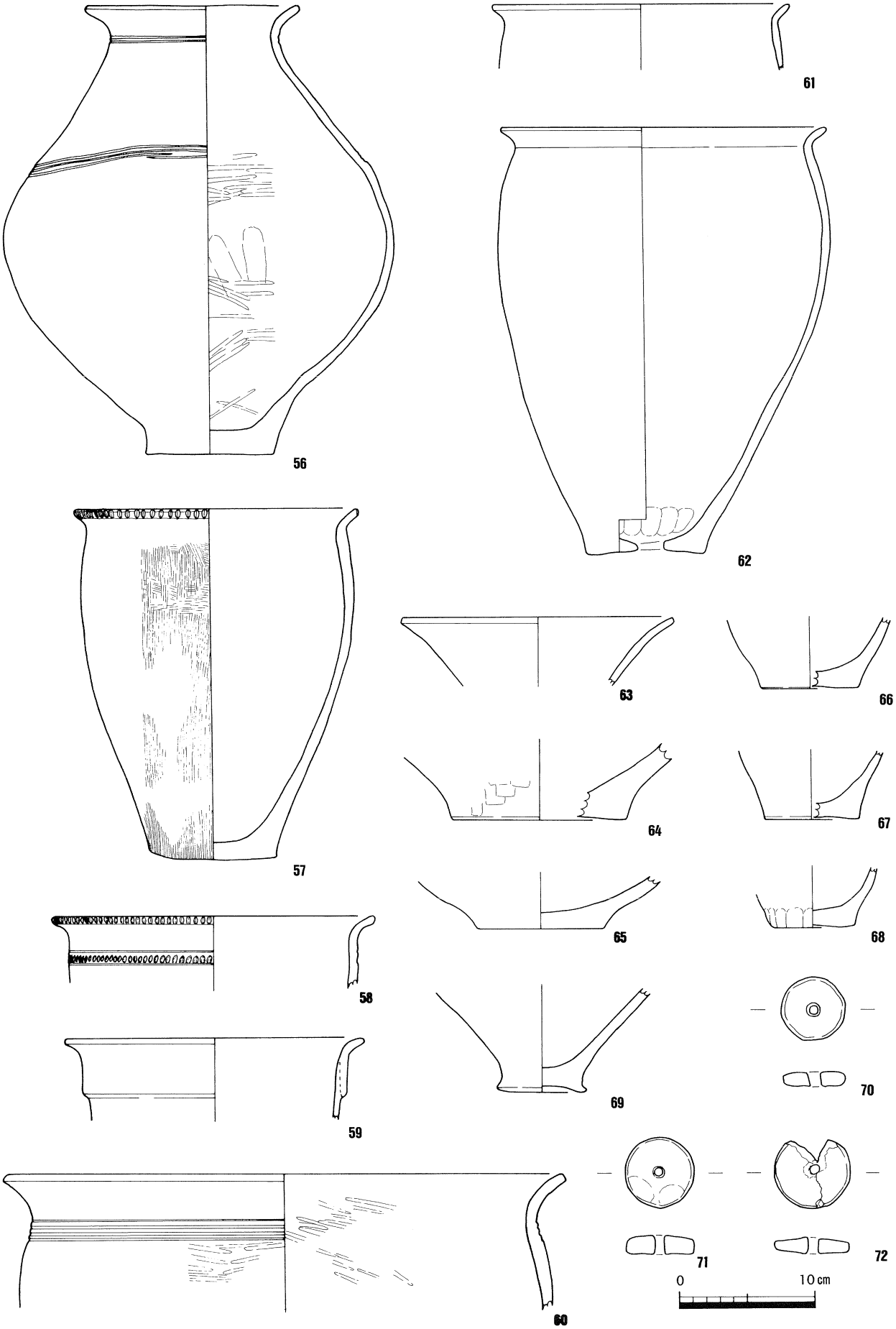
4 黒褐色シルト質極細砂
(10YR3/1, 地山をブロック状に含む)
5 黒褐色シルト質細砂 (10YR3/1)
6 黒色シルト質極細砂 (10YR4/1)
7 黒色シルト質極細砂
(10YR4/1, 地山をブロック状に含む)



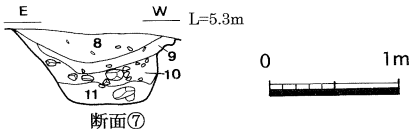
第13図　ＳＤ63断面図(縮尺1/60)下層出土遺物実測図(縮尺1/4)



第14図　ＳＤ63上層出土遺物実測図①(縮尺1/4)

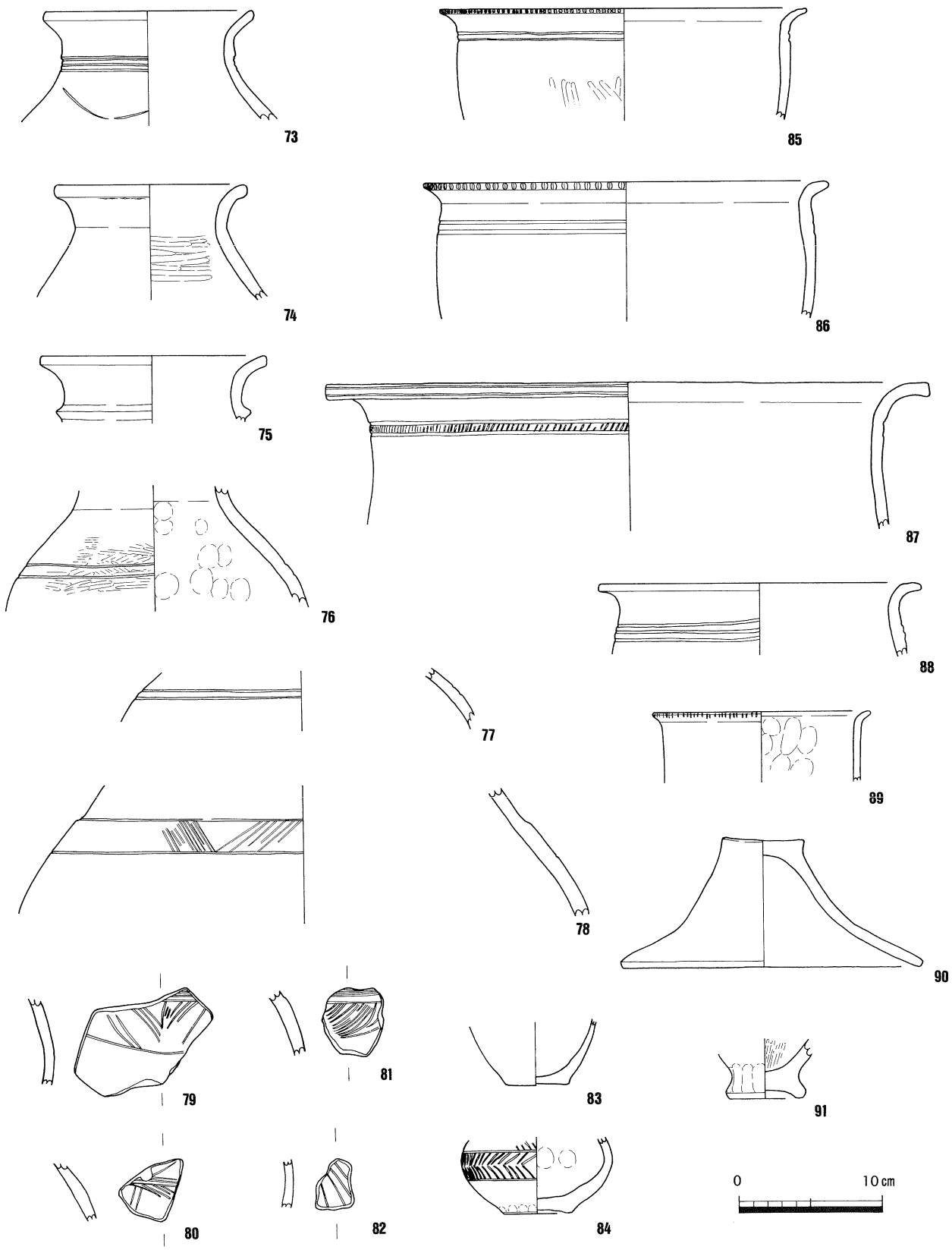


第15図　ＳＤ63上層出土遺物実測図②(縮尺1/4)

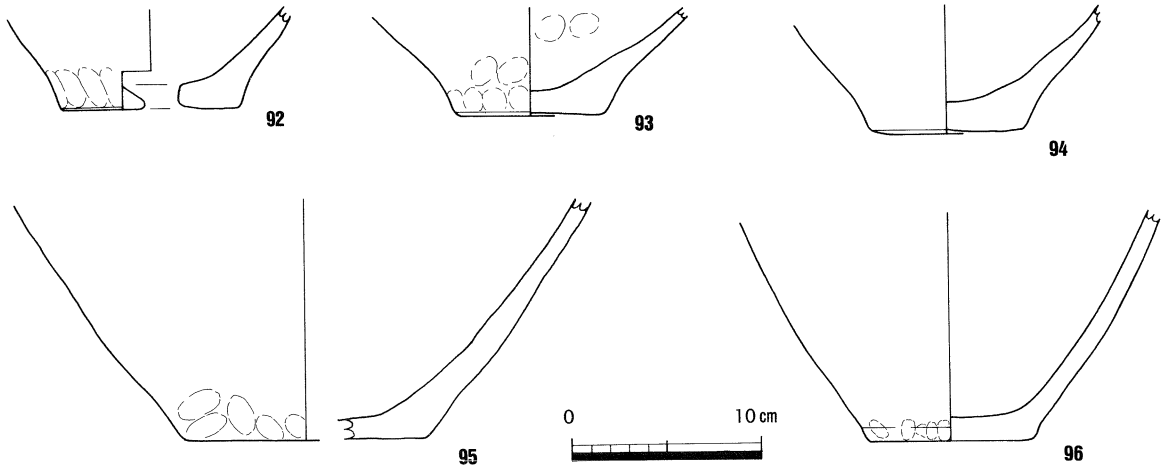


断面⑦

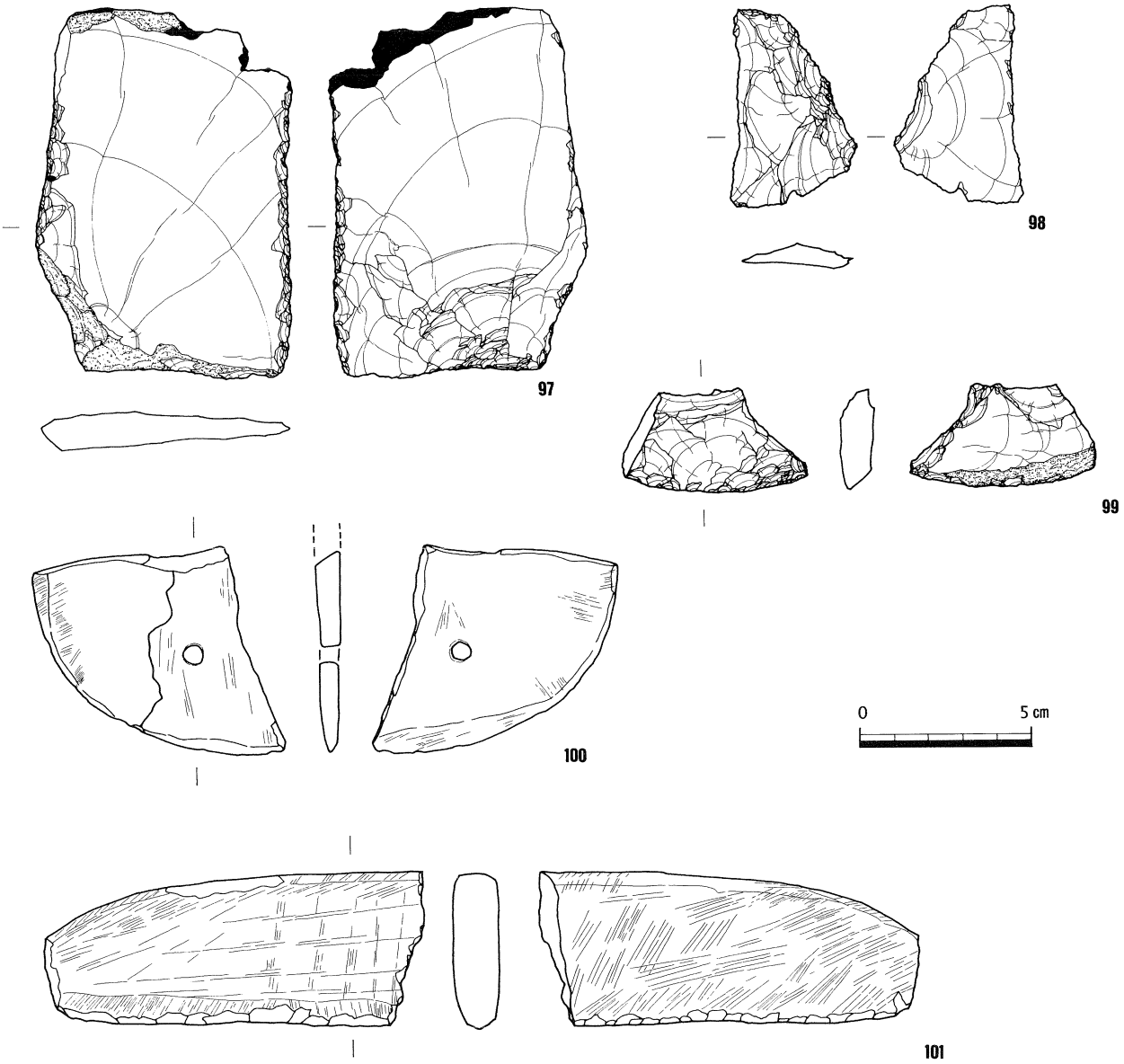
8 黒色シルト質極細砂　(7.5YR2/1)
9 黒色シルト質極細砂　(7.5YR2/1，白色の小石粒を含む)
10 黒色シルト質極細砂　(7.5YR2/1，拳大の石を多く含む)
11 黄灰色シルト質極細砂 (2.5Y6/1，拳大の石を多く含む)



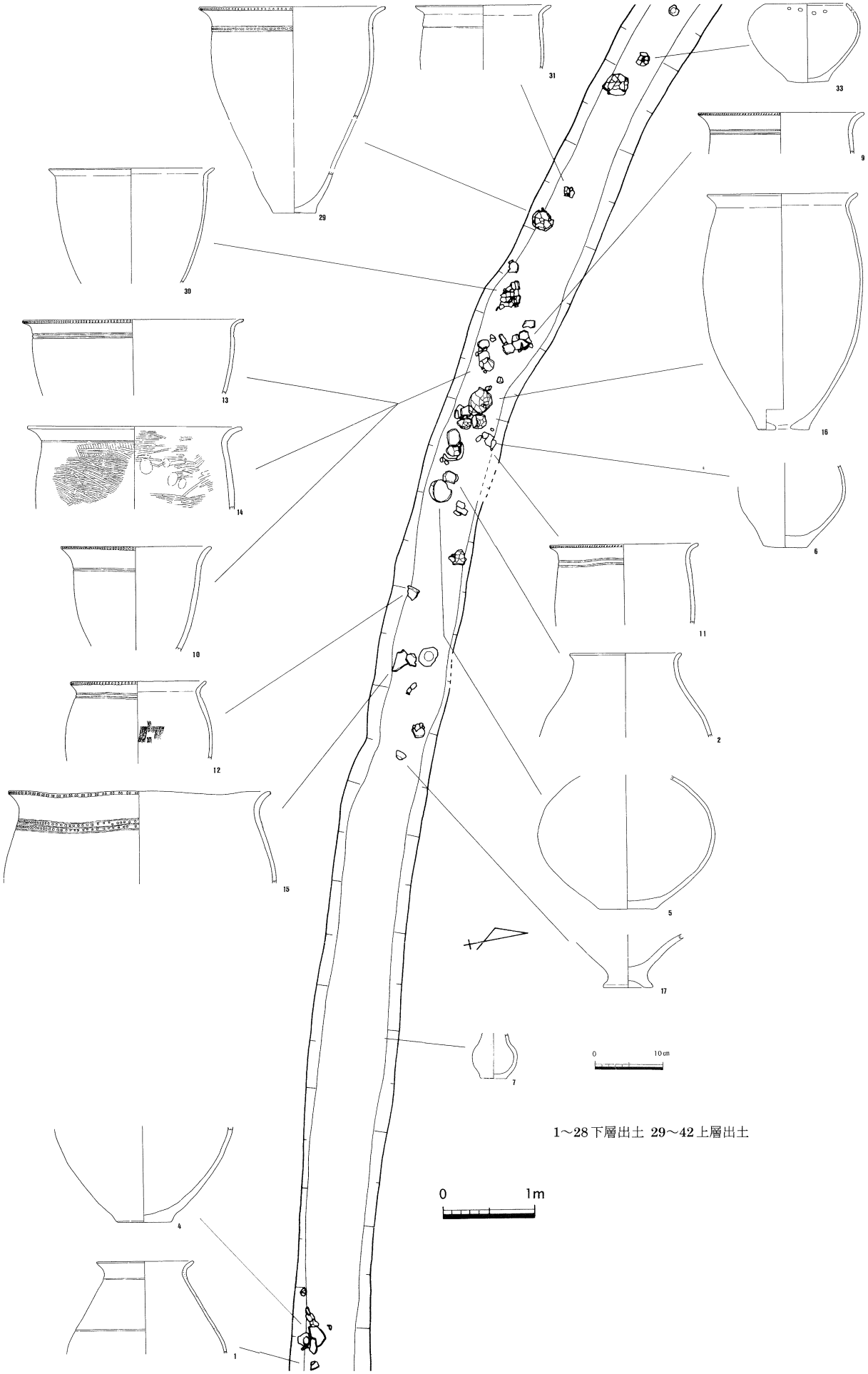
第16図　6ｍ街路ＳＤ63断面図(縮尺1/60)出土遺物実測図①(縮尺1/4)



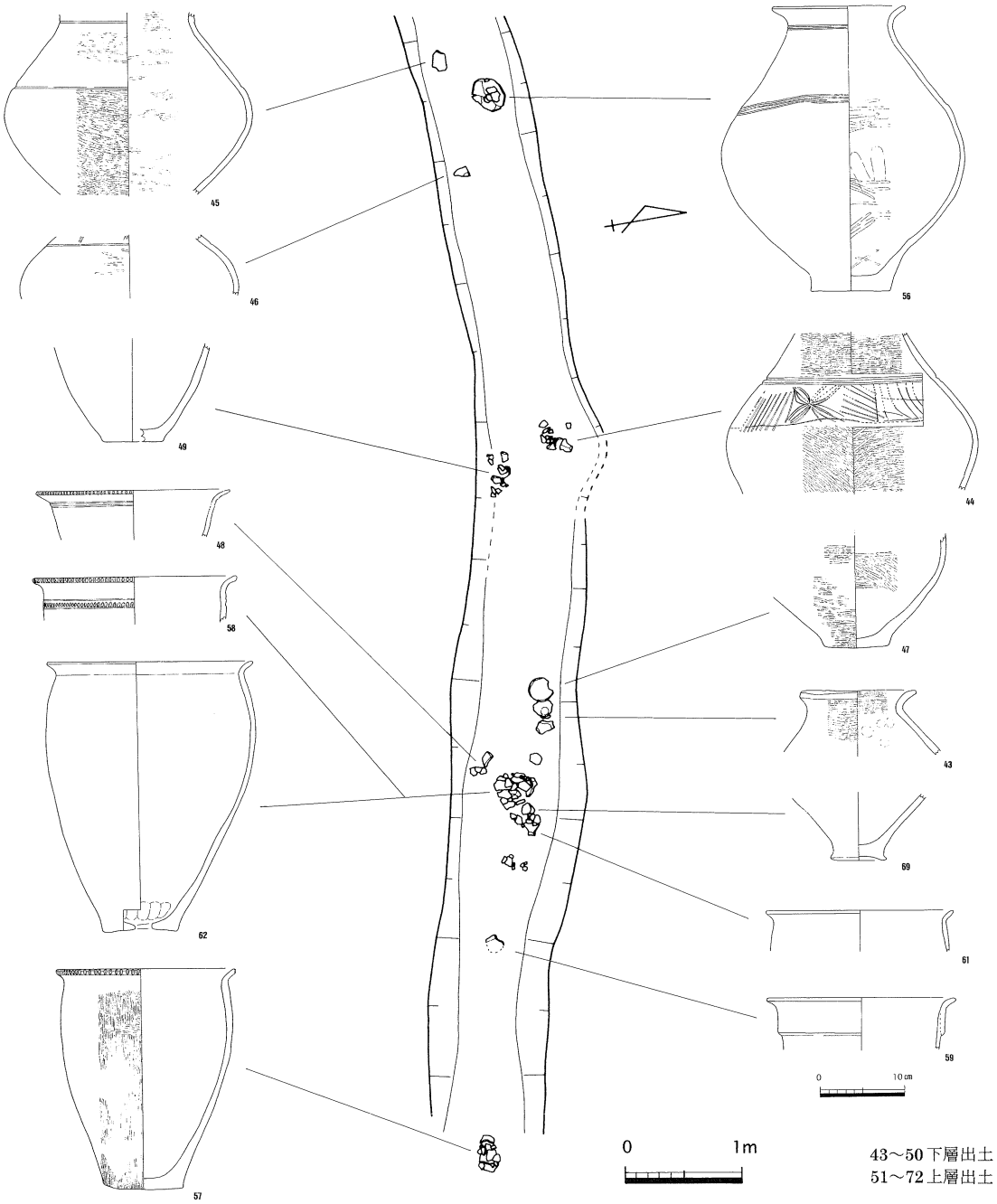
第17図　６ｍ街路ＳＤ63出土遺物実測図②（縮尺1/4）



第18図　ＳＤ63（６ｍ街路含む）出土遺物実測図（縮尺1/2）



第19図　ＳＤ11遺物出土状況図（遺構縮尺1/60，遺物縮尺1/8）



第20図　ＳＤ63遺物出土状況図（遺構縮尺1/60，遺物縮尺1/8）

土器の紋様のうち，注目されるのは壺（44）で，肩部に幾何学紋と組み合わせた木葉紋を施している。施紋方法は，２条の太い沈線から約５cm下に細い沈線を引いて紋様を描く空間をつくり，そこに木葉紋や縦線・斜線・曲線のみで構成される区画を，それぞれ区画幅約６cmを基準に箆描きで施している。壺(78)は，肩部の段から約２cm下に沈線を引き，約10本を一束とした斜線を交互に違えて箆描きで施している。壺肩部の破片（79～82）は同一個体の可能性があり，羽状紋が施されている。小形壺（84）は，体部最大径に紋様を施しており，２条の沈線の間に羽状紋を２段に施し，さらに上にも羽状紋を施した痕跡が認められる。

石器は，サヌカイトを材料とした打製の刃器（97～99），磨製石庖丁（100），磨製石鎌（101）が出土している。なお，弥生時代後期の遺構および遺構検出時に磨製石庖丁（149・792）が出土しており，これらは本来前期の遺構に伴うものであろう。

ＳＫ06（第21図）

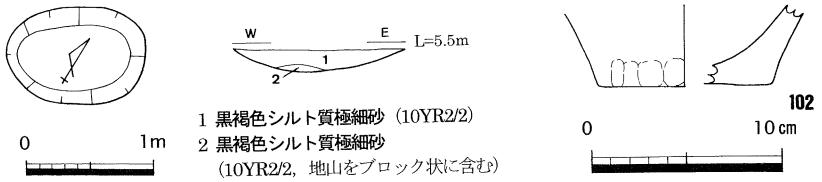
６区西で検出した直径約80cm～１ｍ10cm，深さ約20cmを測る楕円形の土坑で，断面は浅いＵ字形を呈する。出土した底部（102）は胎土が粗く径の大きい平底であることから，弥生時代前期と考えられる。

ＳＫ07（第22図）

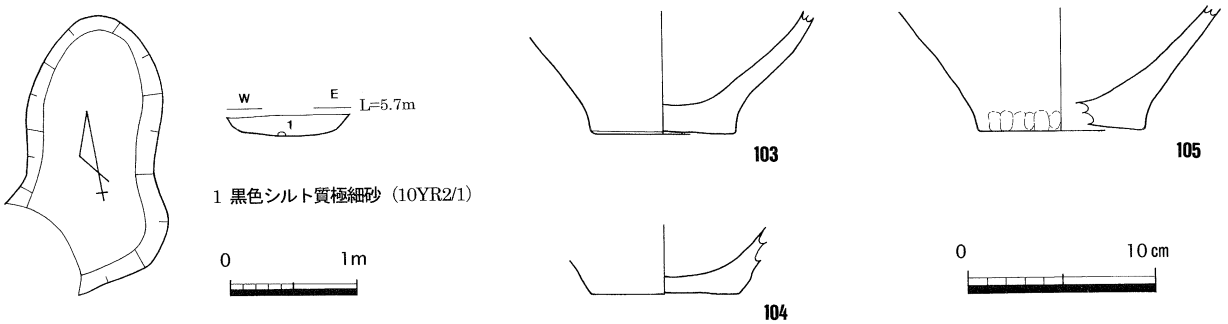
７区中央で検出した幅約１ｍ10cm，長さ２ｍ10cm，深さ約20cmを測る瓢箪形の土坑で，断面は浅いＵ字形を呈する。ＳＥ02と重複し，ＳＥ02より先行する。出土した底部（103～105）は，胎土が粗く径の大きい平底であることから，弥生時代前期と考えられる。

ＳＫ10（第23図）

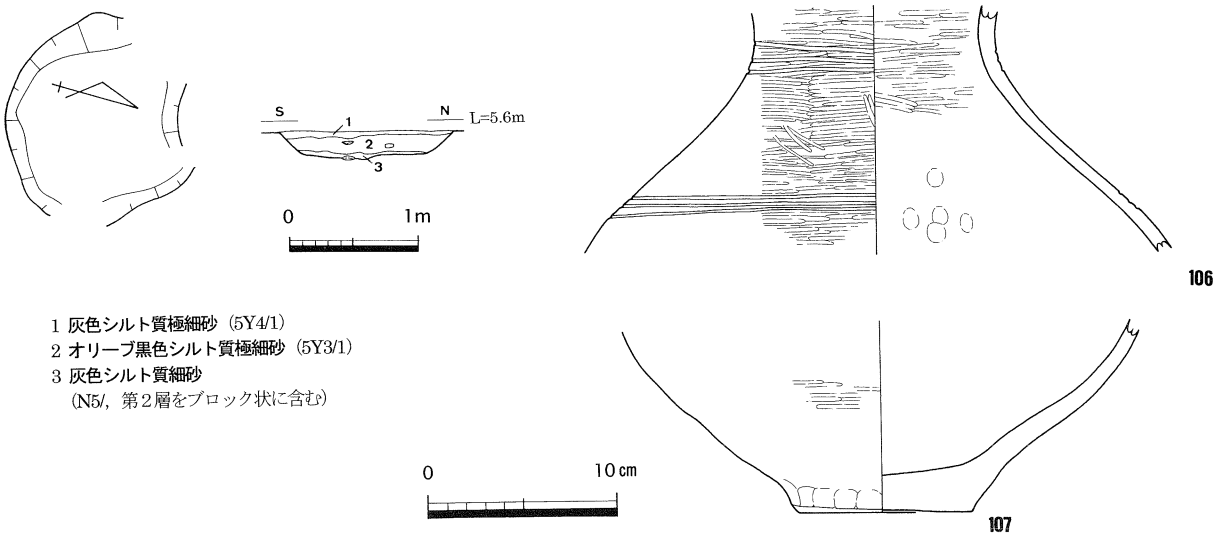
６区東で検出した直径約１ｍ40cm～１ｍ60cm，深さ約25cmを測る不整な円形の土坑で，断面は逆台形を呈する。ＳＤ47・138と重複し，これらより先行する。弥生土器壺（106）・底部（107）が出土している。壺の頸部と体部上位には３条の篦描き沈線が見られ，内外面には篦磨きが密に施されている。弥生時代前期後半前葉と考えられる。なお，この壺と底部は同じ色調・胎土であり，同一個体の可能性がある。



第21図　ＳＫ06平面・断面図（縮尺1/60）出土遺物実測図（縮尺1/4）



第22図　ＳＫ07平面・断面図（縮尺1/60）出土遺物実測図（縮尺1/4）



第23図　ＳＫ10平面・断面図（縮尺1/60）出土遺物実測図（縮尺1/4）

第４節　弥生時代後期～古墳時代前期初頭の遺構と遺物

弥生時代後期～古墳時代前期初頭と考えられる竪穴住居24棟・掘立柱建物跡12棟・井戸２基・柵列６列・溝48条（周溝を除く）・土坑８基などを調査区全域で検出した。このうちＳＥ01のみが調査区北東隅にある別の微高地に位置する。

弥生時代後期～古墳時代前期初頭に属する土器については，この時期の土器を時代別に「弥生土器」「土師器」と厳密に分けることは不可能であることから，「弥生土器」で呼称を統一した。また，土器の細かい時期については，大嶋編年案（大嶋和則2001）・大久保編年（大久保徹也1990・1996・2002）・真鍋編年（真鍋昌宏2000）など最近幾つかの編年案が示されているが，本文中では本遺跡が高松平野にあることを重視し，高松平野の遺跡出土土器を対象にした大嶋編年案の「様相１～６」を主に使用している。なお，この「様相１～６」は，大久保編年の「下川津Ⅰ～Ⅵ」にほぼ相当する。

参考文献

大久保徹也1990「下川津遺跡における弥生時代後期から古墳時代前半の土器について」『下川津遺跡』香川県教育委員会ほか
大久保徹也1996「各地域における弥生時代後期土器の様相－讃岐－」『古代学協会四国支部第10回資料　弥生後期の瀬戸内海』
大久保徹也2002「四国北東部における地域的首長埋葬儀礼様式の成立時期をめぐって」『論集徳島の考古学』徳島考古学論集刊行会
大嶋和則2001「高松平野における庄内並行期の土器様相」『庄内式土器研究ＸＸⅣ』庄内式土器研究会
真鍋昌宏2000「讃岐地域」『弥生土器の様式と編年　四国編』木耳社

(1)　竪穴住居

弥生時代後期～古墳時代前期初頭に属する竪穴住居は，計24棟確認している。このうち，調査時に確認していた竪穴住居は16棟で，整理時に周溝の存在から類推したのは８棟である。平面形態は円形を基調としており，円形のもの11棟，方形のもの２棟，不明なもの11棟となっている。また，竪穴住居の周りに溝を巡らす，いわゆる周溝をもつものが本遺跡では多いのが特徴である。これは，本遺跡の立地が，海抜が低く，旧河道に面していることを考慮すると，排水をする上で必要不可欠であったのかもしれない。

ＳＨ01（第24図）

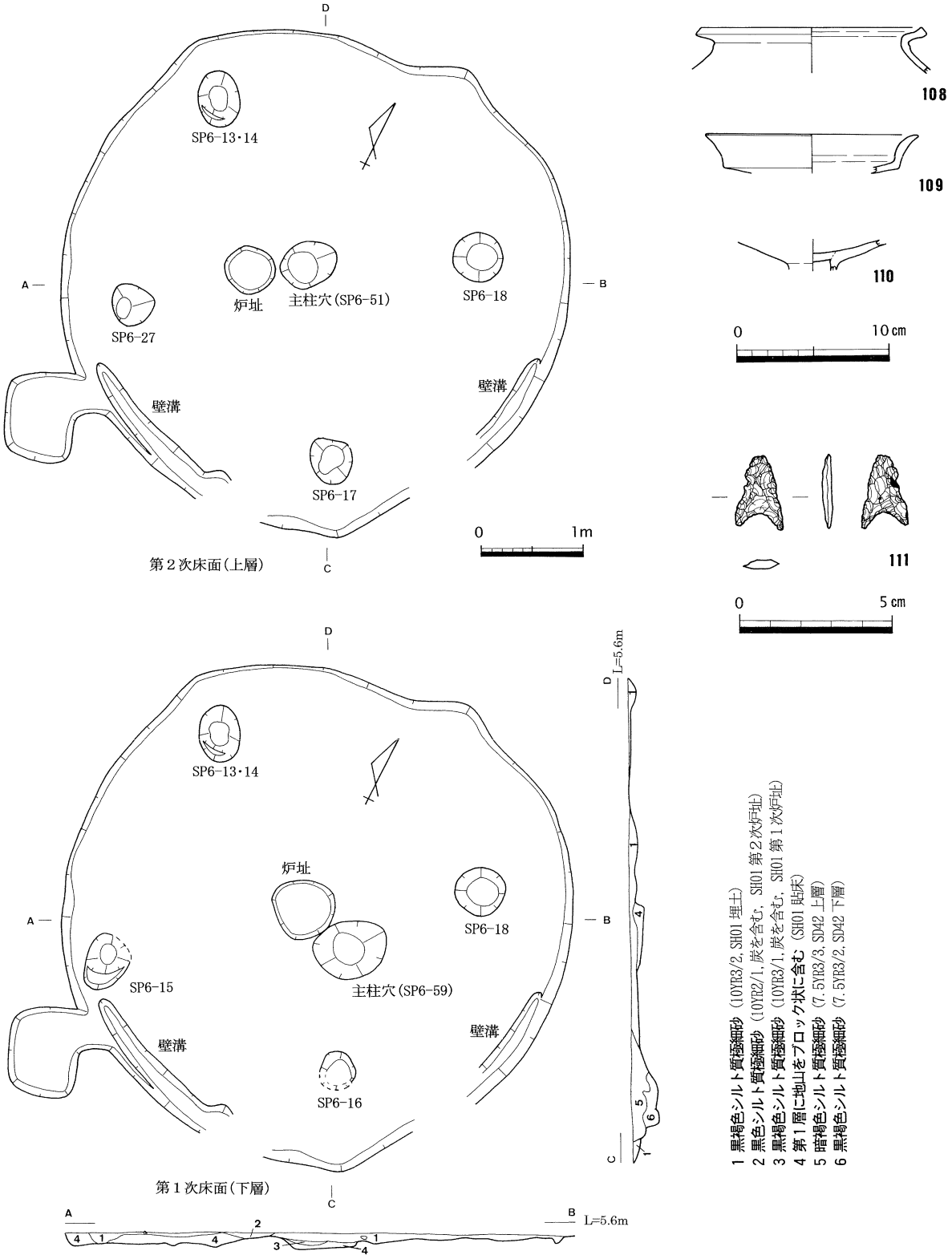
６区北西で検出した直径4.9～5.0ｍを測る円形の竪穴住居で，深さは約10cmを測る。床面積は，約19㎡である。床面は２面確認しており，少なくとも１回の建替えが想定できる。２面とも中央に楕円形の炉と円形の主柱穴を設け，主柱穴を中心に４基の柱穴を配置している。柱穴のうち，北側２基は１次面・２次面とも同じものだが，南側２基は１次面と２次面では違うもので，建替え時に南側のみ柱穴を再掘削している。壁溝は，南と東側に一部が残っている。また，南西部に小さい張り出しを有する。埋土のうち，第２層が第２次面の炉址，第１層が１次面の埋没土，第３層が第１次面の炉址であり，第４層が貼床である。第２次面の埋没土は，削平されて残っていなかった。ＳＤ42・52・134と重複し，これらより先行する。

出土遺物は少なく，図化できるのは弥生土器甕（108）・高杯（109・110）・石鏃（111）である。甕は口縁部が短く端部をつまみあげ，高杯も口縁部が短く内面に強いヨコナデが見られないことから様相２前後に相当し，ＳＨ02は弥生時代後期後半のものと考えられる。

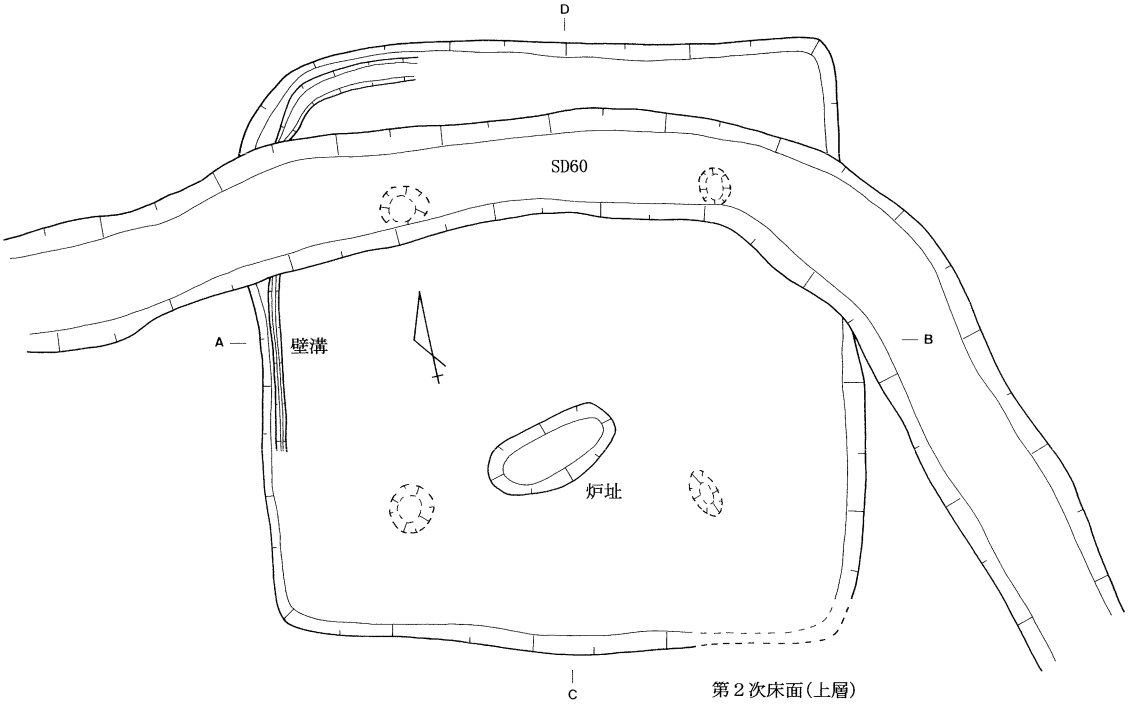
ＳＨ02（第25・26図）

５区西で検出した南北4.6～4.8ｍ，東西4.7ｍを測る方形の竪穴住居で，深さは約20cmを測る。床面積は約22㎡である。床面は２面確認しており，少なくとも１回の建替えが想定できる。第１次面（下層）では，中央に不整円形の炉を設け，炉を中心に４基の柱穴を配置している。第２次面（上層）では，楕円形の炉を南側に設けるが，予想される４基の柱穴は判然としなかった。壁溝は，北から西にかけてと南側に一部が残っている。埋土のうち，第１層が２次面の埋没土，第３層が第２次面の炉址，第２層が１次面の埋没土，第４層が第１次面の炉址であり，第５層が貼床である。ＳＨ10・11およびＳＤ60・63・99・105・106・118と重複し，ＳＤ60より先行するが，他の遺構より後出する。

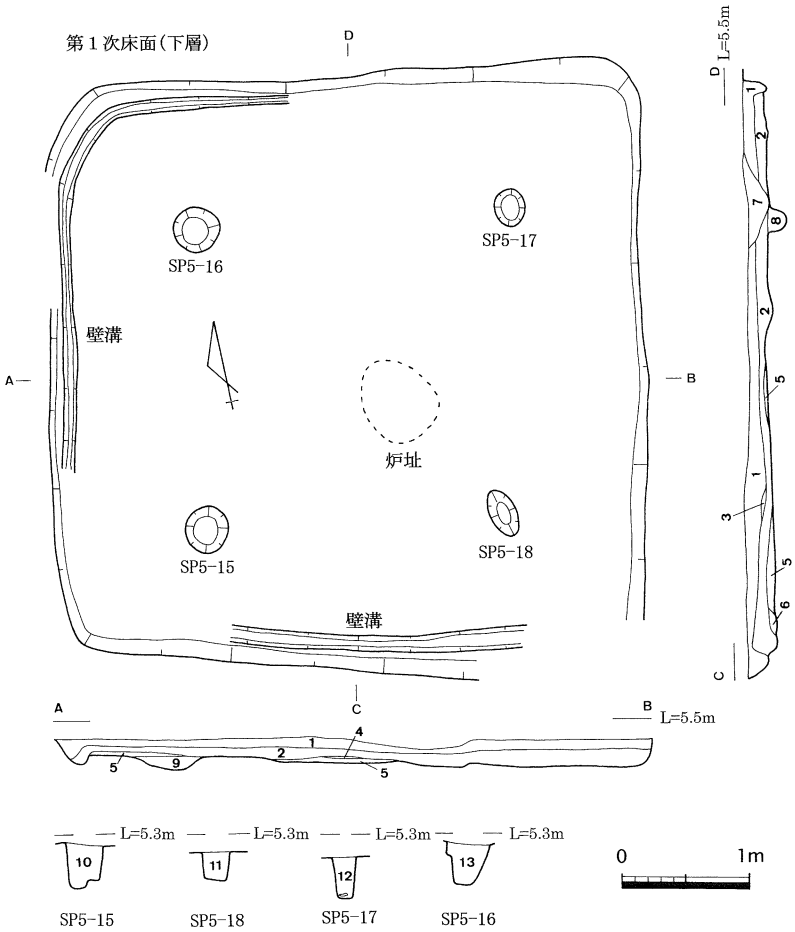
出土遺物は多く，第１次床面からは弥生土器甕（112）が，第２次炉址からは甕（113）が出土し，柱穴ＳＰ５－15からは小形鉢（123）が出土している。さらに，第１次床面と第２次床面の間にあたる埋土下層（第２層）からは広口壺（114）・甕（115）・小形鉢（118）・小形丸底土器（119）・高杯（120）などが出土している。古い時期の遺物が混じるが，甕の口縁部が水平近く伸び体部が球形化していることや，高杯の口縁部に強いヨコナデが見られ，鉢が丸底であることから様相６に相当し，ＳＨ02は古墳時代前期初頭のものと考えられる。また，ＳＨ02からは，砥石（134・135）が２点出土している。



第24図　ＳＨ01平面・断面図(縮尺1/60)出土遺物実測図(縮尺1/4,1/2)

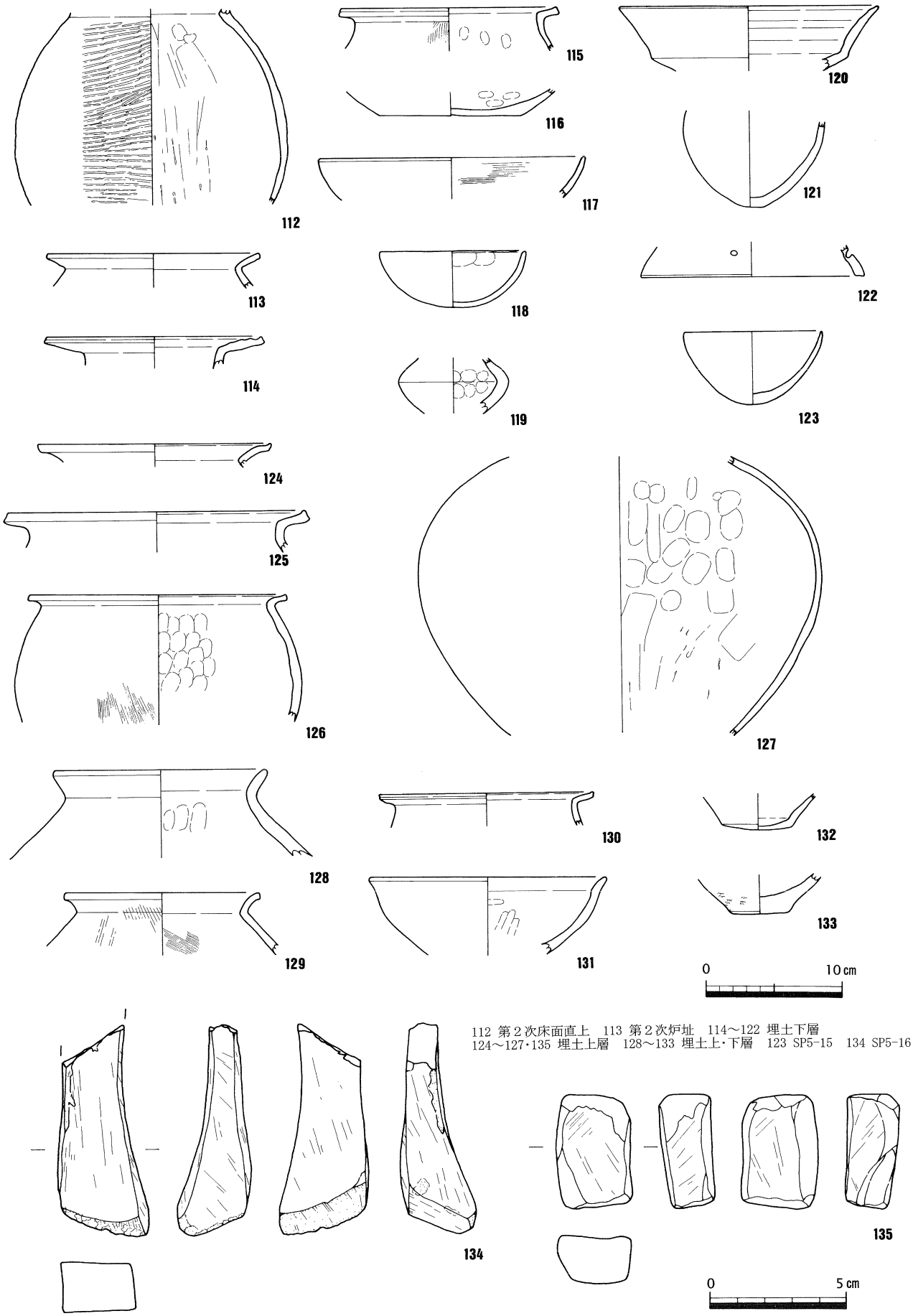


第２次床面（上層）



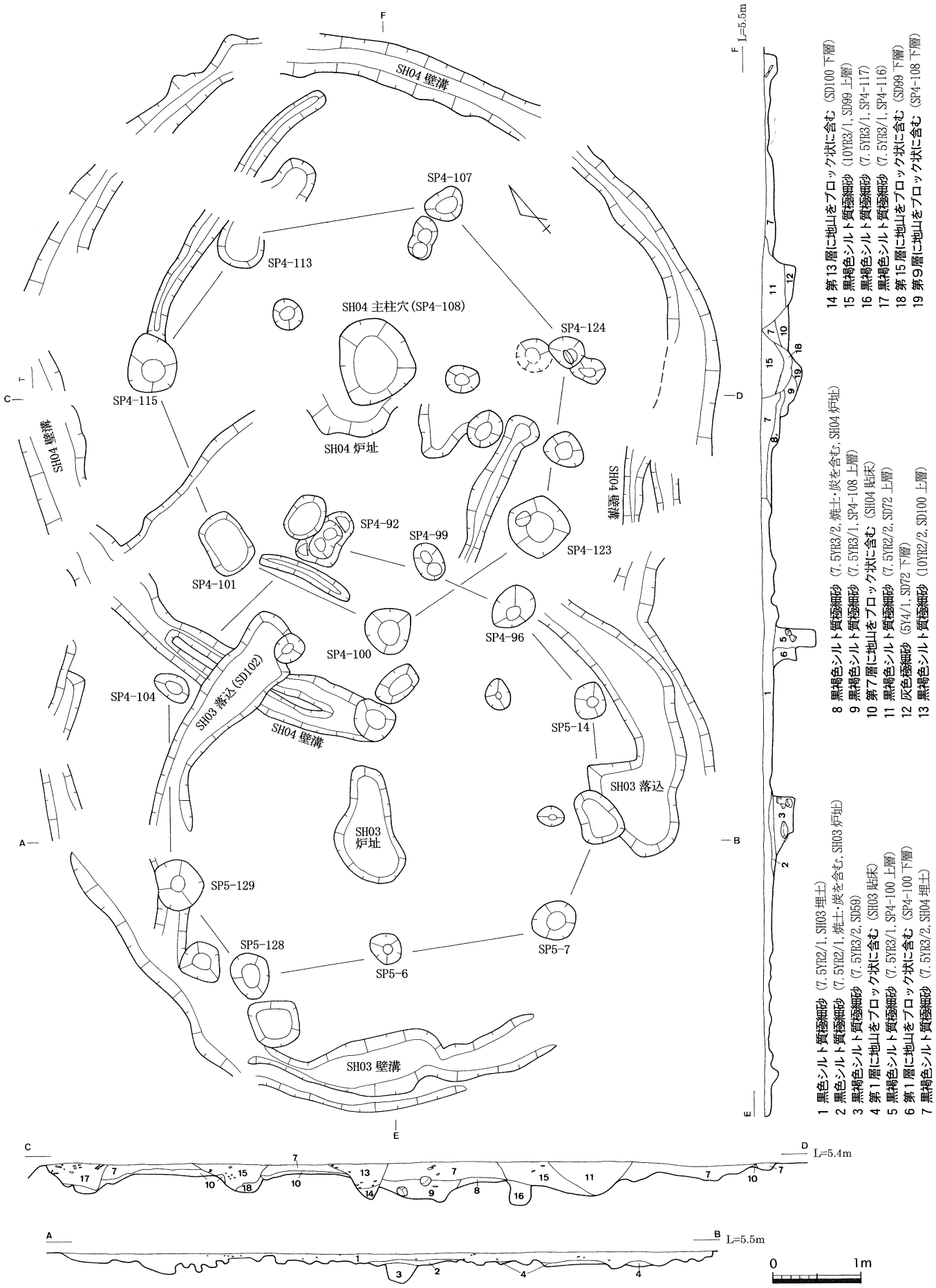
1 褐灰色シルト質極細砂（10YR4/1, SH02 埋土）
2 黒褐色シルト質極細砂（10YR3/2, SH02 埋土）
3 黒色シルト質極細砂（7.5YR1.7/1, 炭を含む, SH02 第２次炉址）
4 黒色シルト質極細砂（7.5YR1.7/1, 炭を含む, SH02 第１次炉址）
5 第２層に地山をブロック状に含む（SH02 貼床）
6 第２層に地山をわずかに含む（SH02 壁溝埋土）
7 褐灰色シルト質極細砂（7.5YR4/1, SD60）
8 黒褐色シルト質極細砂（10YR3/1, SD99）
9 黒褐色シルト質極細砂（7.5YR3/1, SD106）
10 黒褐色シルト質極細砂（10YR3/2, SP5-15）
11 黒褐色シルト質極細砂（7.5YR3/1, 地山をブロック状に含む, SP5-18）
12 黒褐色シルト質極細砂（7.5YR3/2, SP5-17）
13 黒褐色シルト質極細砂（10YR3/1, 地山をブロック状に含む, SP5-16）

第25図　ＳＨ02平面・断面図（縮尺1/60）

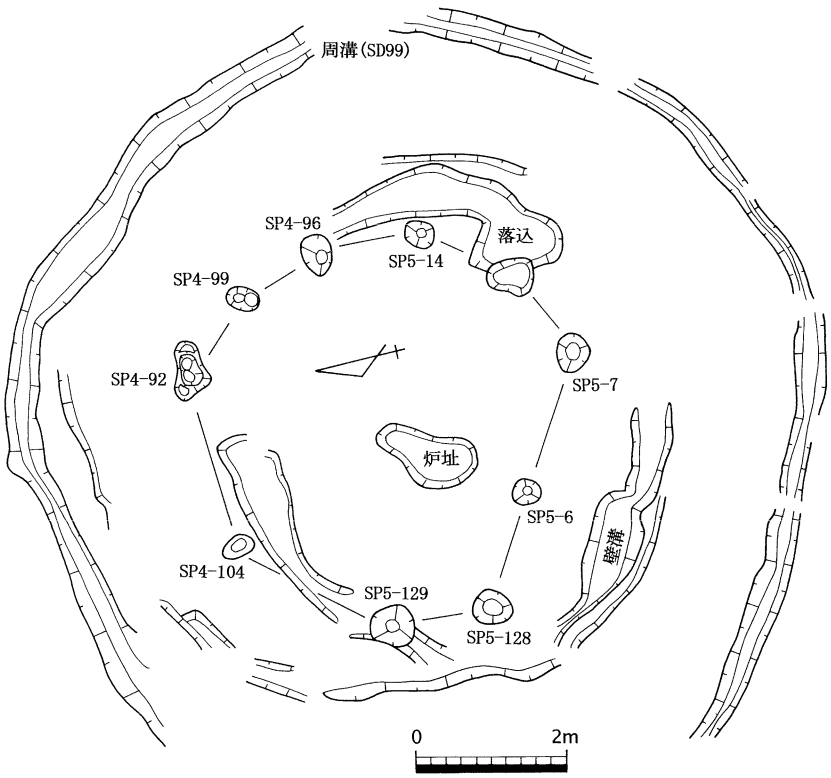


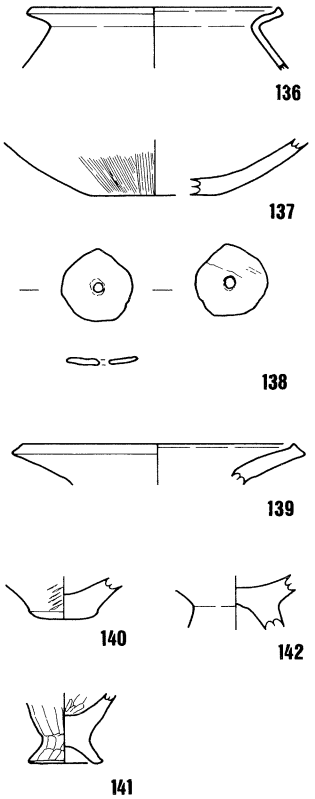
112 第２次床面直上　113 第２次炉址　114～122 埋土下層
124～127・135 埋土上層　128～133 埋土上・下層　123 SP5-15　134 SP5-16

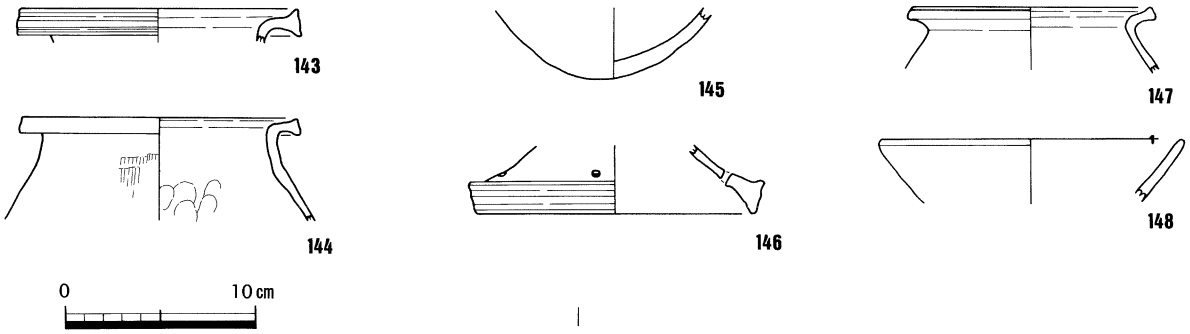
第26図　ＳＨ02出土遺物実測図（縮尺1/4, 1/2）



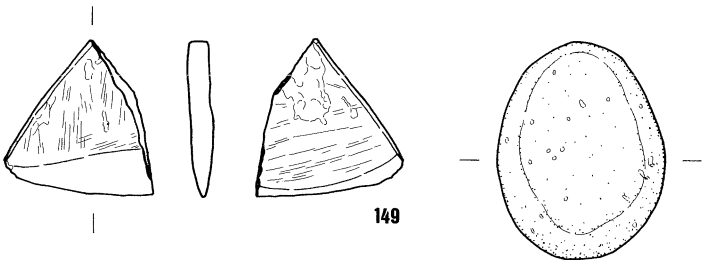
第27図　ＳＨ03・04平面・断面図(縮尺1/60)

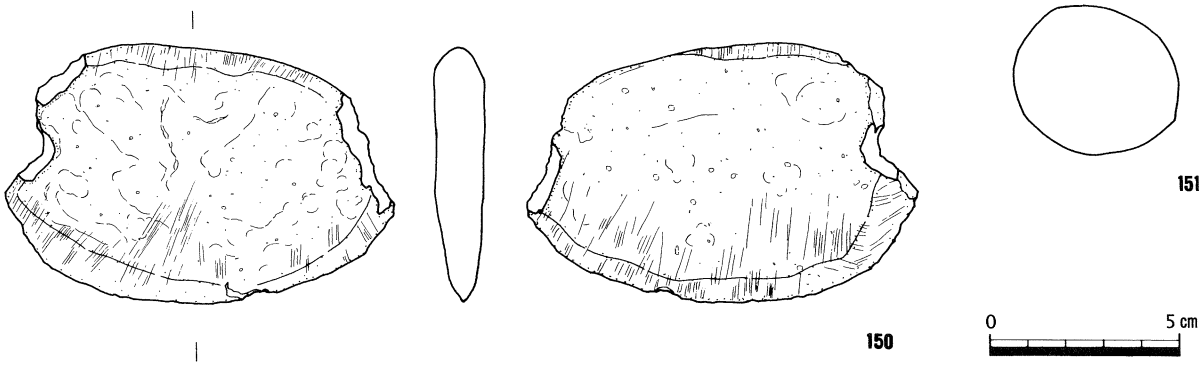






136 炉址　137・138・150・151 床面直上　139～142 埋土下層
143～146・149 埋土　147・148 落込(SD102)





第28図　ＳＨ03平面図(縮尺1/100)出土遺物実測図(縮尺1/4, 1/2)

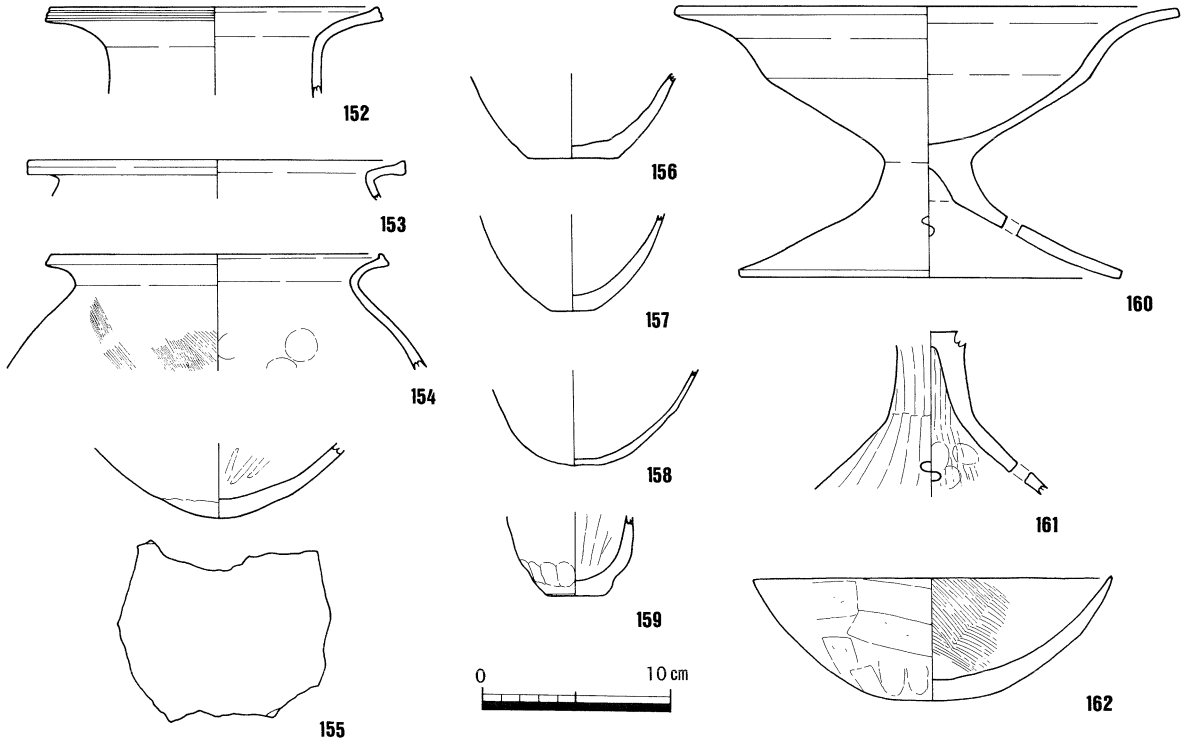
ＳＨ03（第27～29図）

４～５区西で検出した直径7.2～8.0ｍを測る円形の竪穴住居で，深さは約10cmを測る。床面積は，約45㎡である。住居外側には，ＳＤ99が周溝としてめぐっている。内部構造は，中央に不整形な炉を設け，炉を中心として10基の柱穴が配置されている。壁溝は，北西および南側に一部が残っている。さらに，住居内の北西部分および東部分には約10cmの落ち込みが見られるなど，床面は凹凸が著しい。なお，他の竪穴住居に見られるような建替えは認められない。また，後述する土坑ＳＫ05は，ＳＨ03の床面を掘り込んで設けられた可能性がある。埋土のうち，第１層が埋没土，第２層が炉址であり，第４層が貼床である。ＳＨ04・11およびＳＤ59（ＳＨ11周溝）と重複し，これらの遺構より後出する。

出土遺物のうち，弥生土器（136～148）は後期前半～様相６までの遺物が混在し，所属時期が確定しづらいが，次にのべる周溝ＳＤ99が様相６であることから，ＳＨ03も同じ時期と考えられる。よって，ＳＨ03は古墳時代前期初頭のものと考えられる。なお，磨製石庖丁片（149）は弥生時代前期のもので混入品である。磨製石庖丁（150）は，両横に抉りが入り，打製石庖丁との折衷形式を呈している。

ＳＨ03の周溝であるＳＤ99は，幅約50～80cm・深さ約30cmで断面Ｕ字形を呈し，平面は直径約10.8ｍの円を描いてＳＨ03を取り囲んでおり，囲んだ範囲の面積は約92㎡である。埋土は，２層に分かれる。ＳＨ02・04・11およびＳＤ59（ＳＨ11周溝）・68（ＳＨ23溝）・72・100と重複し，ＳＨ02とＳＤ72より先行し，他の遺構より後出する。

ＳＤ99の出土遺物は主に上層から出土し，完形に近いものがあることから，住居・周溝が廃棄された時に一緒に棄てられたものと考えられる。古い時期の遺物が混じるが，完形に近い遺物を概観すると，高杯（160）は口縁部が大きく外反し，鉢（162）や底部（155）が丸底であることから様相６に相当し，ＳＤ99は古墳時代前期初頭のものと考えられる。なお，高杯（160）はこの地域では見られない形態・胎土であり，他の地域からの搬入品である。底部（155）の外面に多く生じているひび割れの中には，朱または赤色顔料と推定される赤色のものが付着しており，特殊な使われ方をしたものと推測される。



第29図　ＳＨ03周溝ＳＤ99出土遺物実測図（縮尺1/4）

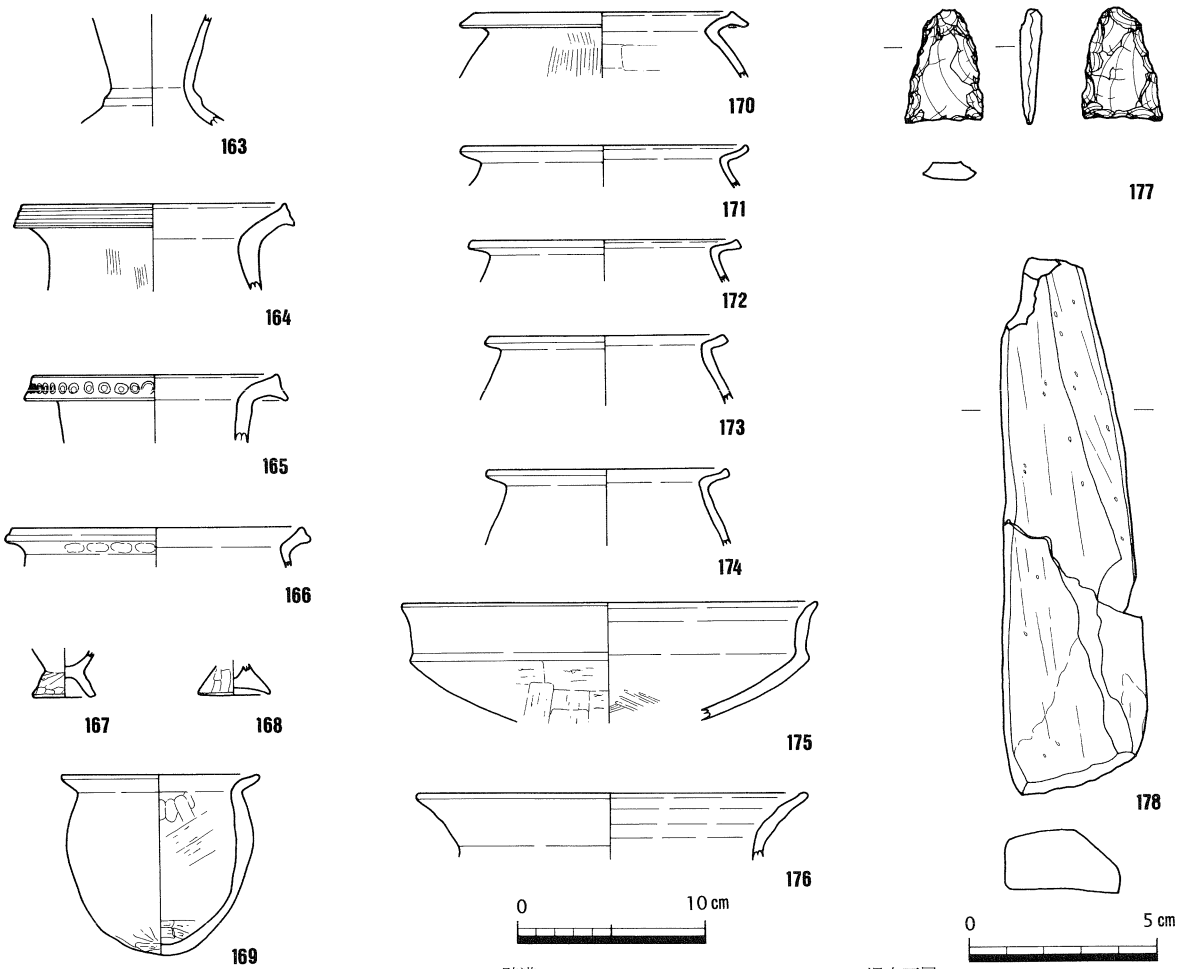
ＳＨ04（第27・30図）

４区中央で検出した直径約8.0ｍを測る円形の竪穴住居で，深さは約10cmを測る。床面積は，約50㎡である。中央に不整形な炉と円形主柱穴を設け，主柱穴を中心として７基の柱穴が配置されている。壁溝が南側を除いてほぼ全周することから，南側に出入口があった可能性が指摘できる。また，壁溝が一部二重になっていること，柱穴ＳＰ４－107・124に別の柱穴２基が隣接することから，１～２度の建替えが行われたと考えられる。埋土のうち，第７層が埋没土，第８層が炉址であり，第10層が貼床である。ＳＨ03およびＳＤ72・93・99（ＳＨ03周溝）・100と重複し，ＳＤ93より後出し，他の遺構より先行する。

出土遺物は，古相を呈するものと，新相を呈するものが見られる。壁溝や柱穴から出土した弥生土器のうち，細頸壺（163）は頸部と体部の境に凸帯が残り，甕（164～165）は口縁端部を拡張して凹線や竹管紋を施しており，小山南谷遺跡ＳＨ03と同じ時期である弥生時代後期前半中葉頃と考えられる。一方，埋土から出土した弥生土器（167～176）は，主に様相３～様相５までの遺物が混在しており，埋土の遺物に従えば，ＳＨ04は弥生時代終末期のものとなる。多数の遺構と重複しており出土遺物は混入が著しいが，後期前半まで遡る竪穴住居が他に見当たらず，竪穴住居の構造がＳＨ03と類似することや，様相４に属するＳＤ100より先行することから，ＳＨ04の時期は様相３～４と捉え弥生時代後期後半と推定される。

ＳＨ05・06・07（第31～35図）

３～４区西側で検出した竪穴住居群である。これら３棟は，ほぼ同じ場所に重複してあり，調査時に埋土を除去してから，３棟存在することが明らかになった。そのため，遺構断面も共有することから，ここ



163・164・177・178 壁溝　165 SP4-108　166 SP4-115　167・168 埋土下層
169～176 埋土

第30図　ＳＨ04出土遺物実測図（縮尺1/4，1/2）

では一括して報告する。ただし，埋土や壁溝の前後関係から判断して，ＳＨ06→ＳＨ05→ＳＨ07の順に竪穴住居が築かれている。これら竪穴住居の西半分は調査区外にあたるため，その規模は復元値である。また，これら竪穴住居は，東側で河川ＳＲ01と隣接している。

ＳＨ05（第33図）は，炉・壁溝・周溝および住居からのびる排水溝を検出した。検出した壁溝は一部であり正確な値は出ないが，直径約6.6ｍを測る円形の竪穴住居で，深さは約10cmを測る。床面積は復元値で約34㎡である。炉は，調査区壁面において確認したので，規模は不明である。排水溝ＳＤ76は，幅約30cm・深さ約10cmで断面Ｕ字形を呈し，住居内に穿たれた窪みＳＤ89から壁溝・周溝を横切って，ＳＲ01に注いでいる。その長さは，6.3ｍである。周溝であるＳＤ91・96は，幅約30～40cm・深さ約10cmで断面Ｕ字形を呈し，平面は直径約11.2ｍの円を描いてＳＨ05を取り囲んでおり，囲んだ範囲の面積は約98㎡である。なお，柱穴については図面上で復元を試みたが，特定できなかった。

ＳＨ06（第34図）は，直径6.0～8.0ｍを測る楕円形の竪穴住居と推定され，深さは約10cmを測る。床面積は復元値で約38㎡である。中央に不整形な炉と円形主柱穴が２基ずつあり，前後関係が存在することから併存したのではなく，少なくとも１度の建替えが行われたと考えられる。壁溝が一部二重になっていることからも，肯定できよう。図面上で，主柱穴を中心として６基以上の柱穴がほぼ壁溝に沿って配置されていると復元を試みた。排水溝ＳＤ75は，幅約30cm・深さ約10cmで断面Ｕ字形を呈し，壁溝からのびて周溝を横切りＳＲ01に注いでいる。周溝であるＳＤ73は，幅約20～80cm・深さ約10cmで断面Ｕ字形を呈し，平面は直径約11.0ｍの円を描いてＳＨ06を取り囲んでおり，囲んだ範囲の面積は約95㎡である。

ＳＨ07（第35図）は，直径約6.0ｍを測る円形の竪穴住居で，上部の削平が著しく炉と壁溝のみを検出できた。床面積は復元値で約28㎡である。炉は，調査区壁面において確認したので，規模は不明である。壁溝の検出幅は他のものに比べて幅広いが，これは断面観察によると２時期のものが重なっているためで，実際の幅は他のものと変わらない。図面上で，主柱穴を中心として３基以上の柱穴が配置されていると復元を試みた。ＳＨ05・06が有していた排水溝・周溝は，ＳＨ07には存在しない。

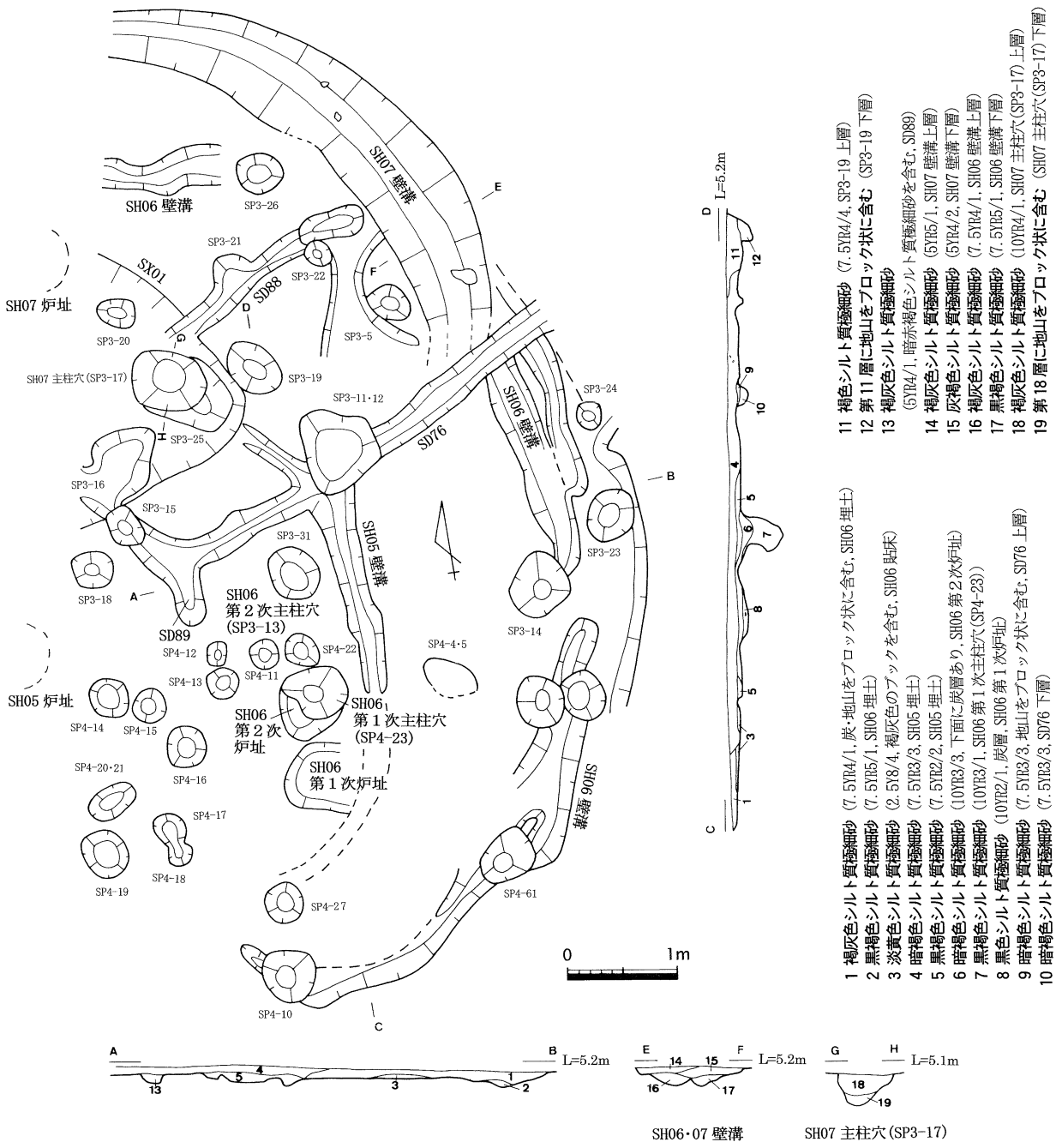
ＳＨ05・06・07およびその周溝は，ＳＤ72・77・78・88・94・96・97と重複し，ＳＤ72より先行するが，他の遺構との前後関係は不明である。

出土遺物のうち図化できるものは少なく，ＳＨ05・06の柱穴・壁溝・周溝から出土したものである。ＳＨ05壁溝から出土した弥生土器甕（179）は，口縁部が厚く端部を肥厚させており様相２である。ＳＨ05周溝ＳＤ76から出土した高杯（181）は，口縁端部にのみ強いヨコナデがあり様相３～４である。ＳＨ06柱穴ＳＰ３－13から出土した鉢底部（182）は，ハの字形に開く底部で灰白色を呈しており，丸亀平野周辺からの搬入品である。様相３に並行する時期のものであろう。ＳＨ06周溝ＳＤ73から出土した小形鉢（185）は，やや上げ底の底部があり様相３～４であり，甕底部（186）はしっかりした平底であり様相３であろう。出土遺物を概観すると，様相２の遺物が混じるが，ほかはおおむね様相３～４に納まるものと考えられる。遺構の前後関係ではＳＨ06→ＳＨ05→ＳＨ07の順であることから，ＳＨ06→ＳＨ05は様相３～４に該当し，ＳＨ05・06は弥生時代後期後半のものと考えられる。ＳＨ07はＳＨ05・06より後出するものと考えられる。

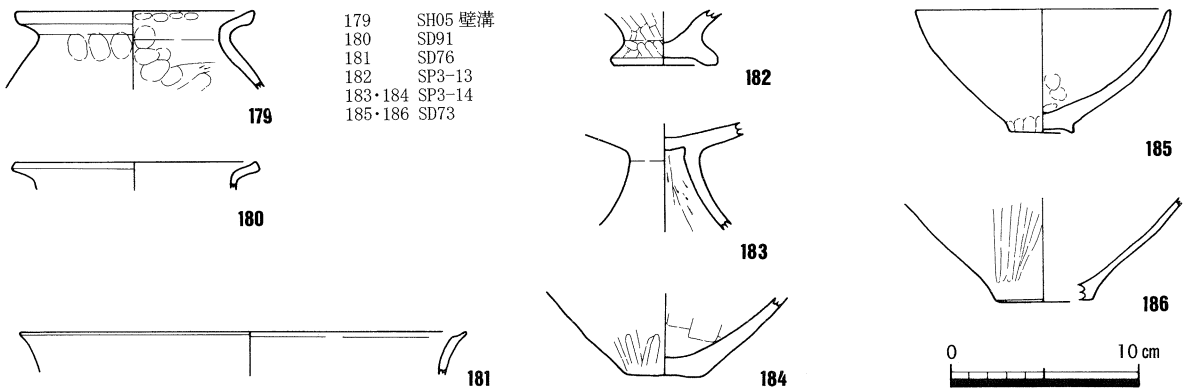
ＳＨ08（第36図）

４区西端で検出した南北4.5ｍ以上×東西1.6ｍ以上を測る方形の竪穴住居で，深さは約15cmを測る。竪穴住居の大部分が調査区外となっており，炉址や主柱穴も不明である。壁溝が，南東の角において残っている。埋土は，住居埋没土１層のみを確認している。

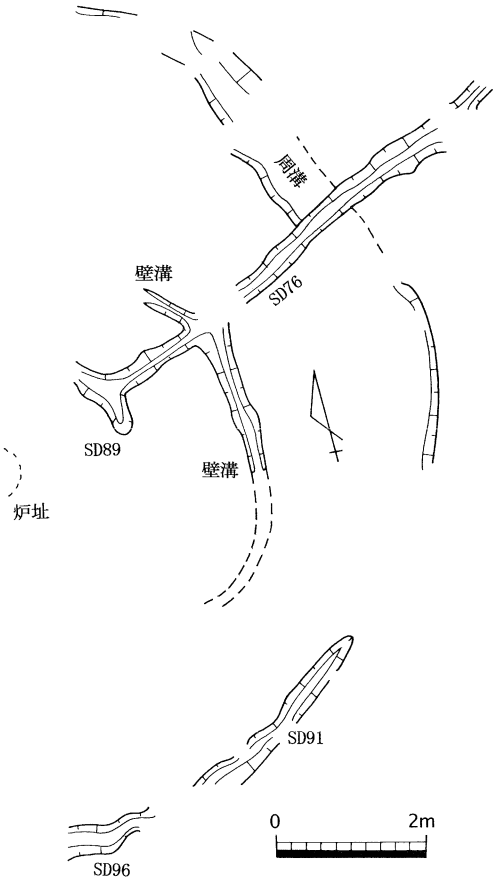
図化できる出土遺物は，弥生土器甕片（187）のみで，弥生時代後期後半～終末期のものと考えられる。



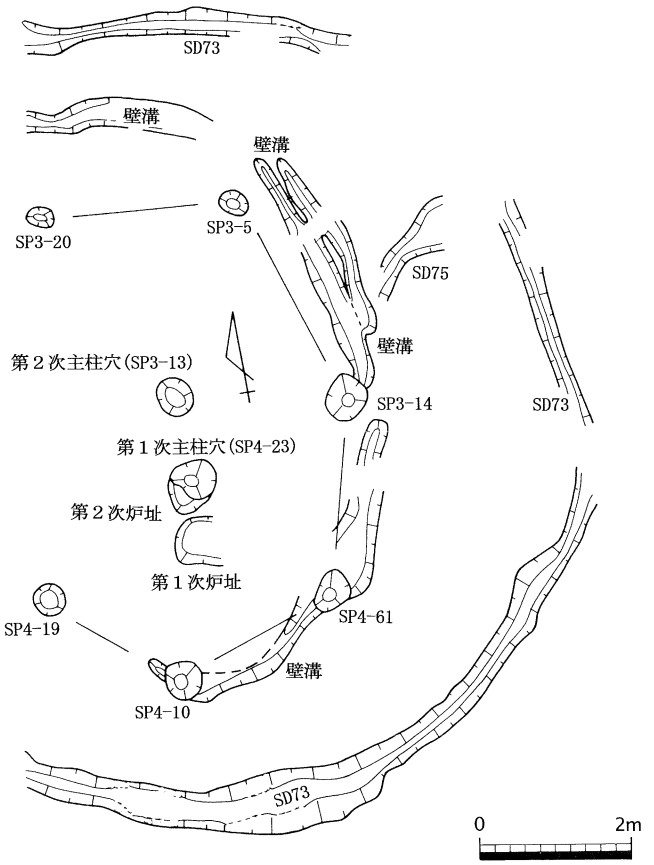
第31図　ＳＨ05～07平面・断面図(縮尺1/60)



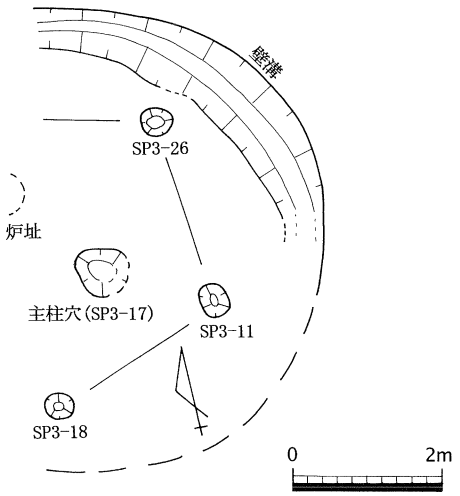
第32図　ＳＨ05～07および柱穴・周溝出土遺物実測図(縮尺1/4)



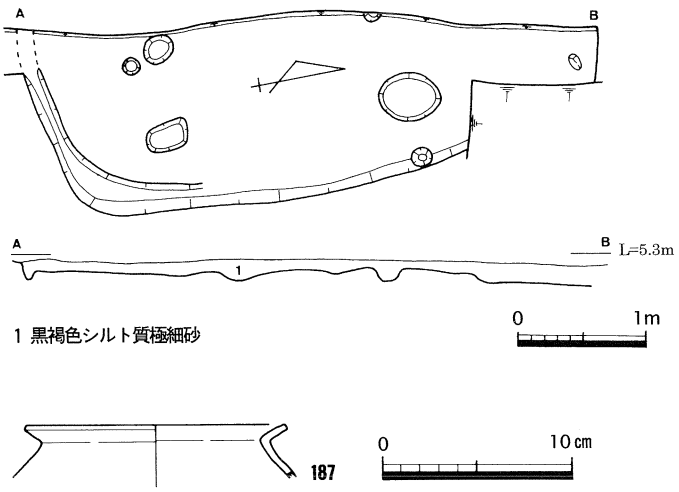
第33図　ＳＨ05平面図(縮尺1/100)



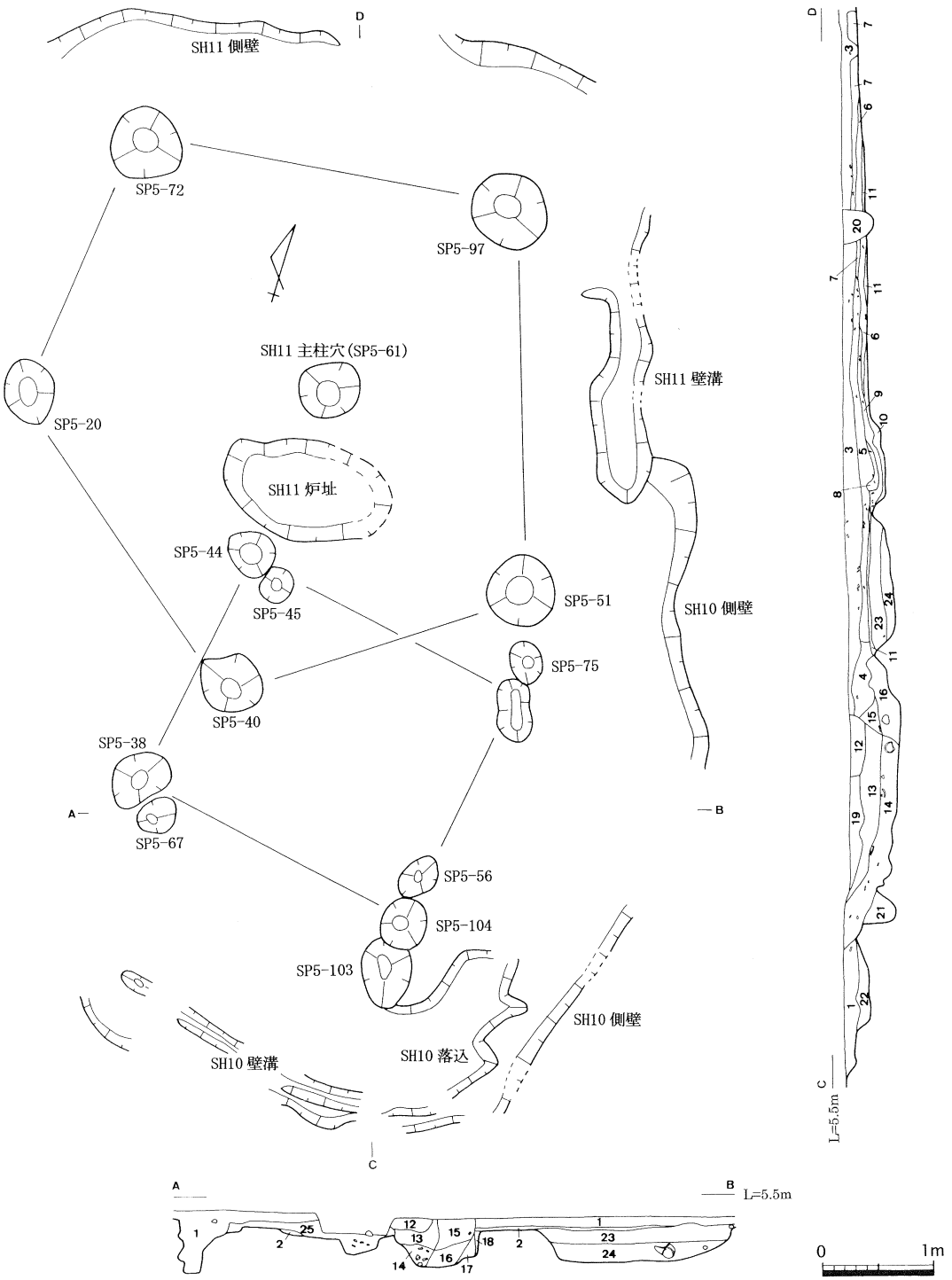
第34図　ＳＨ06平面図(縮尺1/100)



第35図　ＳＨ07平面図(縮尺1/100)



第36図　ＳＨ08平面・断面図(縮尺1/60)
出土遺物実測図(縮尺1/4)



1 暗赤褐色シルト質極細砂（5YR3/2, SH10 埋土 1）
2 第 1 層に地山をブロック状に含む（SH10 貼床）
3 暗褐色シルト質極細砂（7.5YR3/4, SH11 埋土 1）
4 第5層に地山をブロック状に含む（SH11 埋土 2）
5 暗褐色シルト質極細砂（7.5YR3/3, 地山を少し含む, SH11 埋土 3）
6 黒褐色シルト質極細砂（7.5YR3/2, SH11 埋土 4）
7 第5層より多く地山を含む（SH11 埋土 5）
8 黒褐色シルト質極細砂（7.5YR3/1, 炭を多く含む, SH11 炉址 1）
9 黒褐色シルト質極細砂（7.5YR3/1, 炭を多く含む, SH11 炉址 2）
10 黒褐色シルト質極細砂（7.5YR3/1, 炭を多く含む, SH11 炉址 3）
11 第5層に地山を多く含む（SH11 貼床）
12 黒褐色シルト質極細砂（10YR2/3, SD103）
13 黒褐色シルト質極細砂（7.5YR2/2, 地山を含む, SD104 中層）
14 黒褐色シルト質極細砂（7.5YR2/2, SD104 下層）
15 黒褐色シルト質極細砂（7.5YR3/2, Pit 上層）
16 黒色シルト質極細砂（7.5YR2/1, Pit 下層）
17 黒褐色シルト質極細砂（5YR3/1, 地山をわずかに含む, Pit 上層）
18 第 17 層より地山を多く含む（7.5YR2/2, Pit 下層）
19 黒褐色シルト質極細砂（7.5YR2/2, SD104 上層）
20 暗赤褐色シルト質極細砂（5YR3/2, SD99）
21 黒褐色シルト質極細砂（5YR3/1, Pit）
22 第 1 層に地山をブロック状に含む（SH10 落込）
23 黒褐色シルト質極細砂（7.5YR3/2, SD63 上層）
24 第 23 層に地山をブロック状に含む（SD63 下層）
25 第 1 層に地山をわずかに含む（SH10 埋土 2）

第37図　ＳＨ10・11平面・断面図（縮尺1/60）

ＳＨ10（第37～43図）

５区中央で検出した竪穴住居で，他の遺構により激しく壊されているため正確な規模は不明だが，直径約6.8mを測る不整な円形の竪穴住居と考えられる。深さは10～20cmを測る。床面積は約36㎡である。住居外側には，ＳＤ57・62・80・106・116が周溝としてめぐっている。内部構造は，壁溝が南側に一部が残っており，住居内の南東部分に落込が見られる。炉や主柱穴はすでに壊され失われているため，図面上で４基の柱穴が配置されていると復元を試みた。ＳＨ10に伴うと推定した柱穴は，２～３基ずつの組になっていることから，１度以上の建替えが行われた可能性がある。埋土のうち，第37図第１・25層が埋没土，第２層が貼床である。ＳＨ02・11およびＳＤ59（ＳＨ11周溝）・104（ＳＨ23周溝）・63・103などと重複し，ＳＤ63より後出し，他の遺構より先行する。

埋土からの出土遺物は，古い時期のものが混じるが，口縁が直角近くに屈曲し水平にのびる広口壺(188)は様相４～５に該当し，甕（190）もやや肩が張り同じ様相４～５であり，小形丸底土器（192）は体部の形骸化が進んでおり様相５と考えられる。次にのべる周溝ＳＤ57・80も様相４～５であることから，ＳＨ10は様相５でも様相４に近い時期のものと推測され，弥生時代終末期のものである。

ＳＨ10の周溝としてＳＤ57・62・80・106・116がある。ただし，ＳＤ62はＳＨ10より後出するＳＨ11の周溝でもあり，ＳＨ11の時に再利用されていることからＳＨ11で説明する。また，調査時にＳＨ10の周溝として認識できたのはＳＤ57のみで，ＳＤ62・80・106・116は図面上で復元した周溝である。そのため，遺構番号は複数となっている。もっとも残りの良いＳＤ57は，幅約50cm・深さ約20cmで断面Ｕ字形を呈する。ＳＤ80も幅約30cm・深さ約50cmで断面Ｕ字形を呈する。これら周溝の平面は，直径約11.7mを測り，北東に角をもった円を描いてＳＨ10を取り囲んでおり，囲んだ範囲の面積は約115㎡である。埋土は１層のみである。ＳＨ02・11およびＳＤ59（ＳＨ11周溝）・68（ＳＨ23周溝）・99（ＳＨ03周溝）・104（ＳＨ23周溝）・63・72と重複し，ＳＤ63より後出し，他の遺構より先行する。

ＳＤ57の出土遺物は，完形に近いものはなく時期決定がしづらいが，高杯（201）は口縁部の外反度合いからして様相４～５に相当する。ＳＤ80からの出土遺物は，片口鉢（208）は口縁部の外反度合いからして様相４～５に相当し，弥生時代終末期のものと考えられる。

ＳＨ11（第37・44～48・159図）

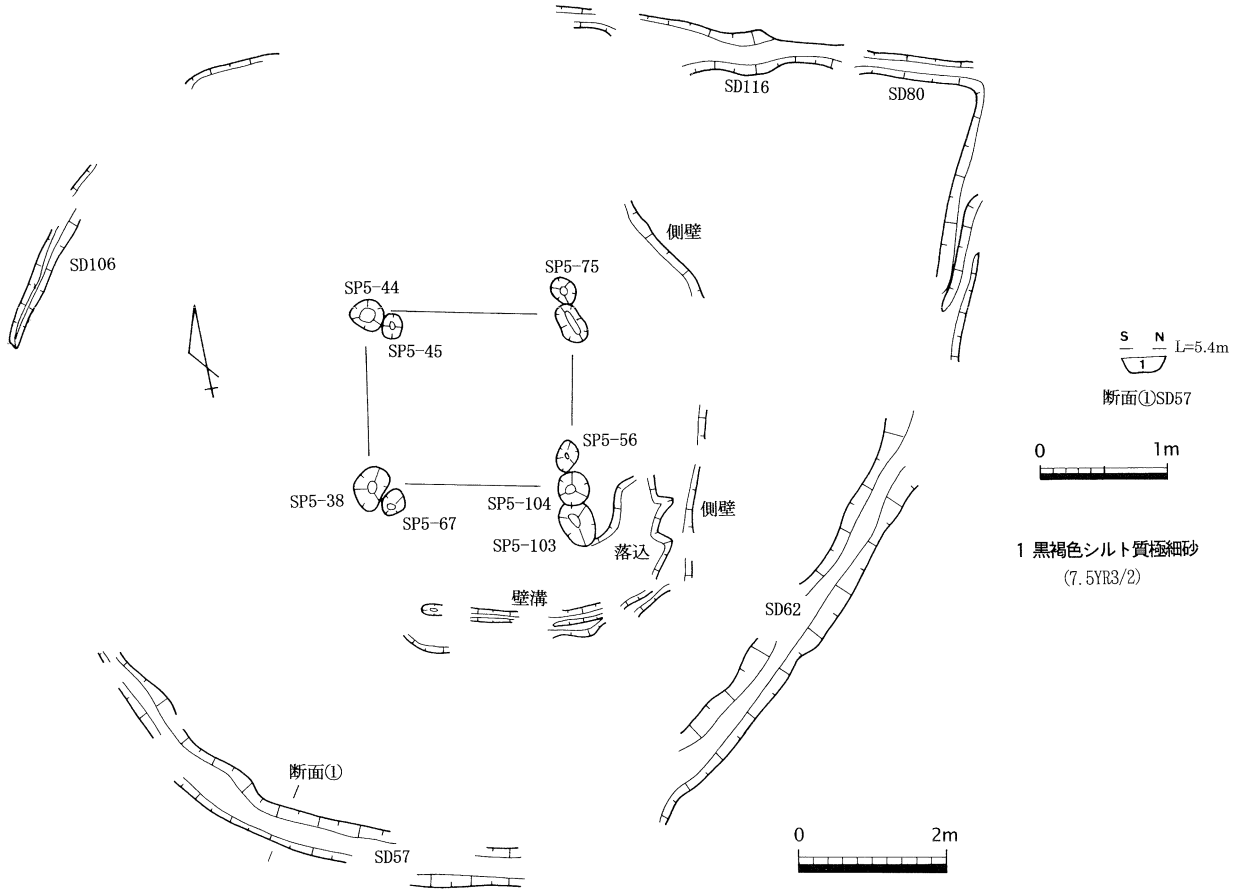
５区中央で検出した直径7.5～8.7mを測る不整な円形の竪穴住居で，深さは約20～40cmを測る。南側の側壁が不明瞭なため正確ではないが，床面積は50㎡前後と推測される。住居外側には，ＳＤ59・62・81が周溝としてめぐっている。内部構造は，壁溝が東と西側に一部が残っており，中央に楕円形の炉が設けられている。図面上で１基の主柱穴と５基の柱穴が配置されていると復元を試みた。ただし，主柱穴は他の柱穴と比べて小さくなるため，主柱穴は復元から除外した方が良いかもしれない。埋土のうち，第37図第３～７層が埋没土，第８～10層が炉址，第11層が貼床である。炉址が３層確認でき，時期差を反映していると考えられる。ＳＨ02・10およびＳＤ63・99（ＳＨ03周溝）・103・104（ＳＨ23周溝）などと重複し，ＳＨ02・103・104（ＳＨ23周溝）より先行するが，他の遺構より後出する。

埋土からの出土遺物は，古い時期のものが混じるが，炉址から出土した遺物に完形に近いものがある。甕（212）は，肩が張り体部の球胴化が見られるとともに底部は丸みをおびており様相５である。小形鉢（214）は底部が丸底であり様相５～６である。高杯（213）は，この地域では見られない形態・胎土を示しており搬入品である。この高杯の時期については，畿内の庄内式に類似例が見られ，観音寺市一の谷遺跡18号竪穴住居出土遺物にも類似例があり下川津Ⅳ～Ⅴ（様相４～５）の時期が考えられていることから，甕（212）・小形鉢（214）と同じ様相５に含まれるものと考えられる。以上のことから，ＳＨ11は様相５

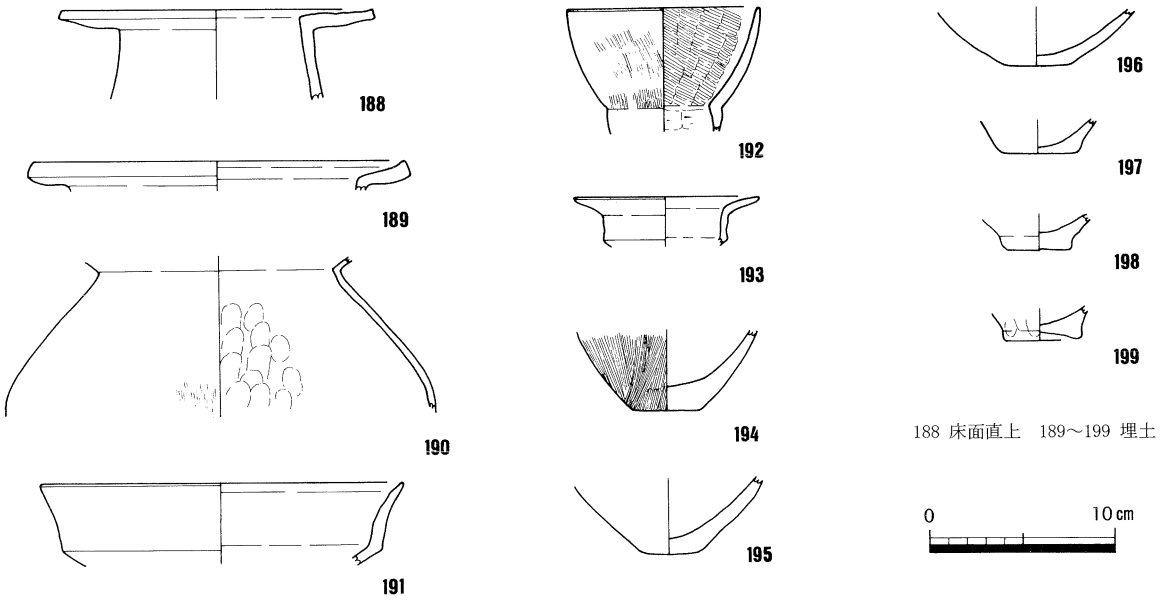
でも新しい時期に属するものと考えられ，周溝ＳＤ59出土遺物ともほぼ合致する。ＳＨ11は弥生時代終末期のものと考えられる。

ＳＨ11の周溝としてＳＤ59・62・81がある。このうち，ＳＤ62はＳＨ10の周溝であったものをＳＨ11段階で再利用したものと考えられ，さらにＳＤ59と分岐してＳＤ56とつながっている。ＳＤ59は，幅約50cm・深さ約30cmで断面逆台形またはＵ字形を呈する。埋土は２層である。ＳＤ62は，幅約60cm・深さ約30～45cmである。ＳＤ62の断面は，途中で段をもっていて上下に分けられ，上半分がＵ字形，下半分が逆台形またはをＵ字形を呈する。埋土は３～５層である。これら周溝があらわす平面は，直径約13.0～13.6mを測り，東側に約1.8mほどの張出をもつ円を描いてＳＨ11を取り囲んでおり，囲んだ範囲の面積は約160㎡である。ＳＨ03およびＳＤ63・99（ＳＨ03周溝）・68（ＳＨ23周溝）・72・104（ＳＨ23周溝）と重複し，ＳＨ03およびＳＤ99（ＳＨ03周溝）・68（ＳＨ23周溝）・72・104（ＳＨ23周溝）より先行するが，ＳＤ63より後出する。

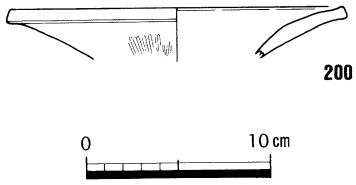
ＳＤ59の出土遺物のうち比較的完形に近いものを見ると，甕（234）は肩が張り体部の球胴化が見られるとともに口縁部が水平にのび様相５である。小形鉢（242・243）は底部が平底を残すものの丸底化が進んでおり様相５である。ＳＤ62の出土遺物は，ＳＨ11より先行するＳＨ10の時の遺物も混じるためか，甕（250・251）はＳＤ59出土のものより古い要素が認められ様相４～５に相当すると考えられる。ＳＤ81の出土遺物は，口縁が直角近くに屈曲し水平にのびる広口壺（229）が様相５に相当する。甕（230～232）は，やや肩が張り球胴化がはじまっているが，口縁部がやや厚くヨコナデが顕著であり，様相４～５に相当することから，これら出土遺物はＳＨ11と同じ弥生時代終末期のものである。また，ＳＤ81からは石鏃（686）が出土しているが，混入の可能性がある。



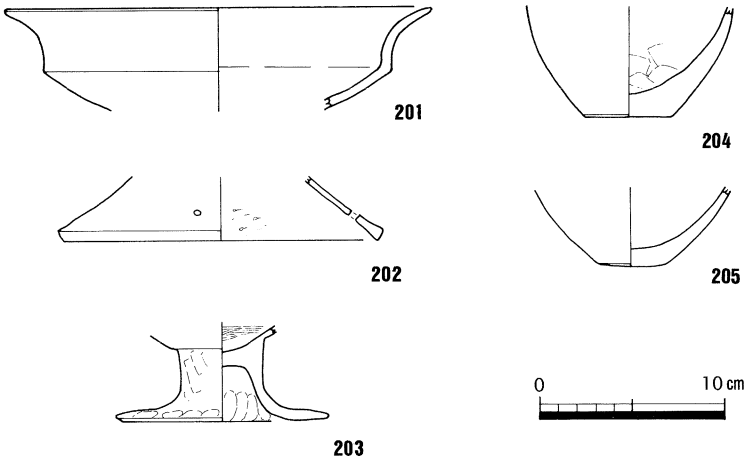
第38図　ＳＨ10平面図（縮尺1/100）周溝ＳＤ57断面図（縮尺1/60）



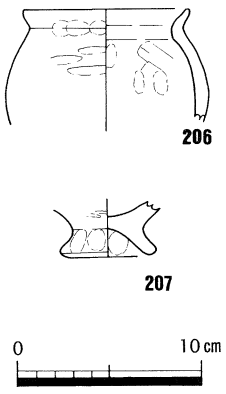
第39図　ＳＨ10出土遺物実測図(縮尺1/4)



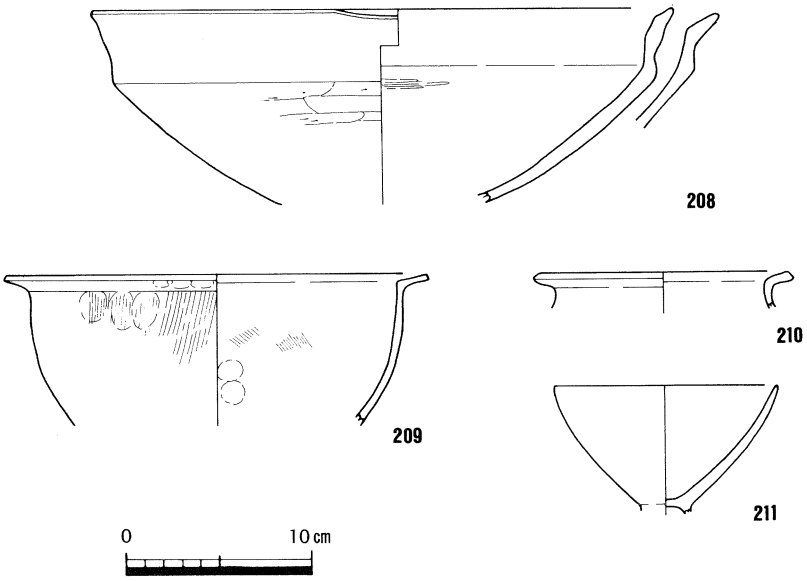
第40図　ＳＨ10柱穴ＳＰ５－56
出土遺物実測図(縮尺1/4)



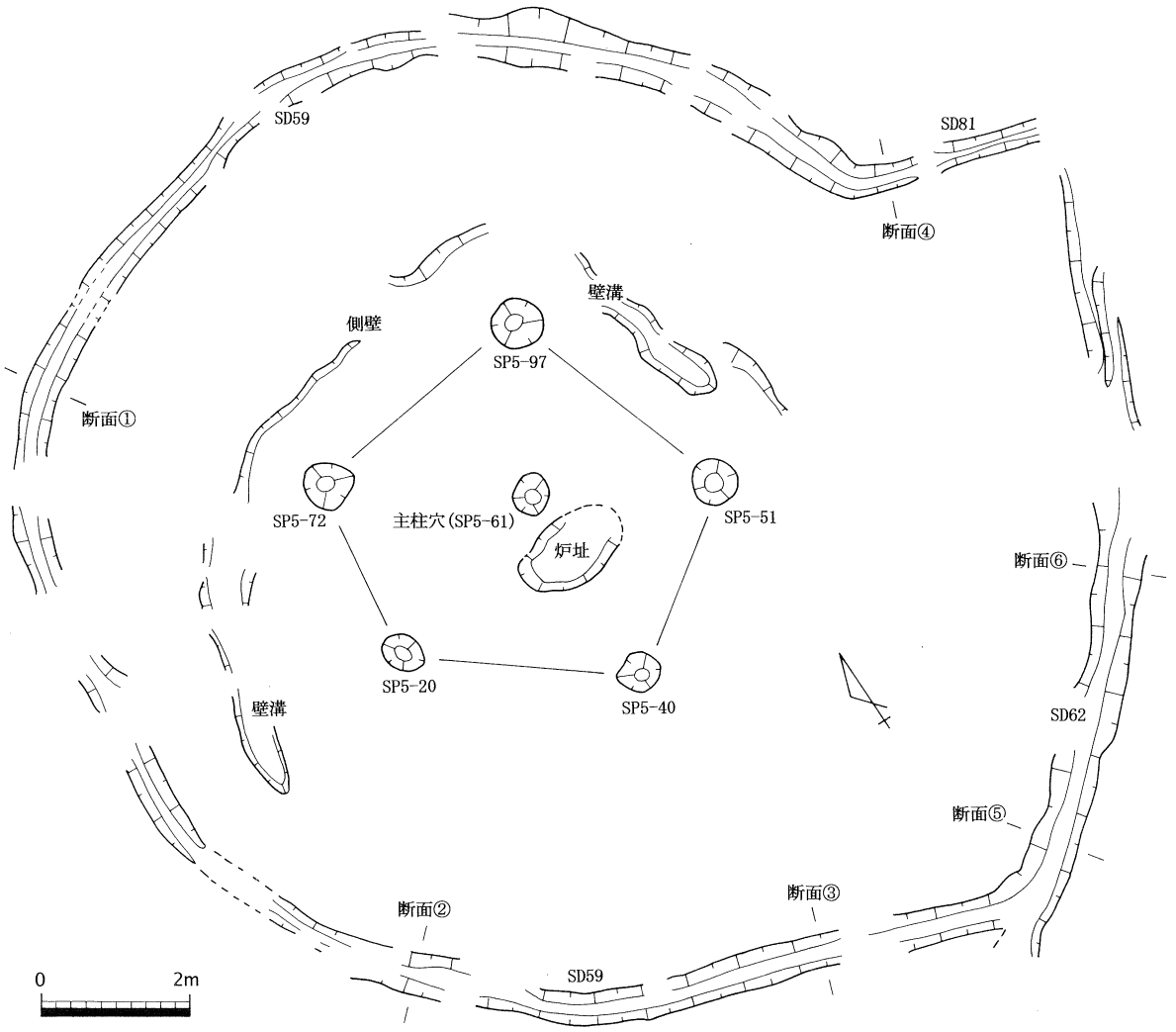
第41図　ＳＨ10周溝ＳＤ57出土遺物実測図(縮尺1/4)

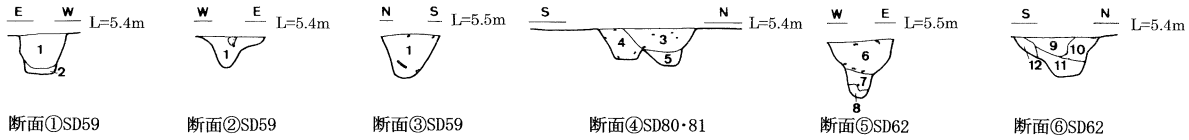


第42図　ＳＨ10周溝ＳＤ80
出土遺物実測図(縮尺1/4)



第43図　ＳＨ10周溝ＳＤ118出土遺物実測図(縮尺1/4)

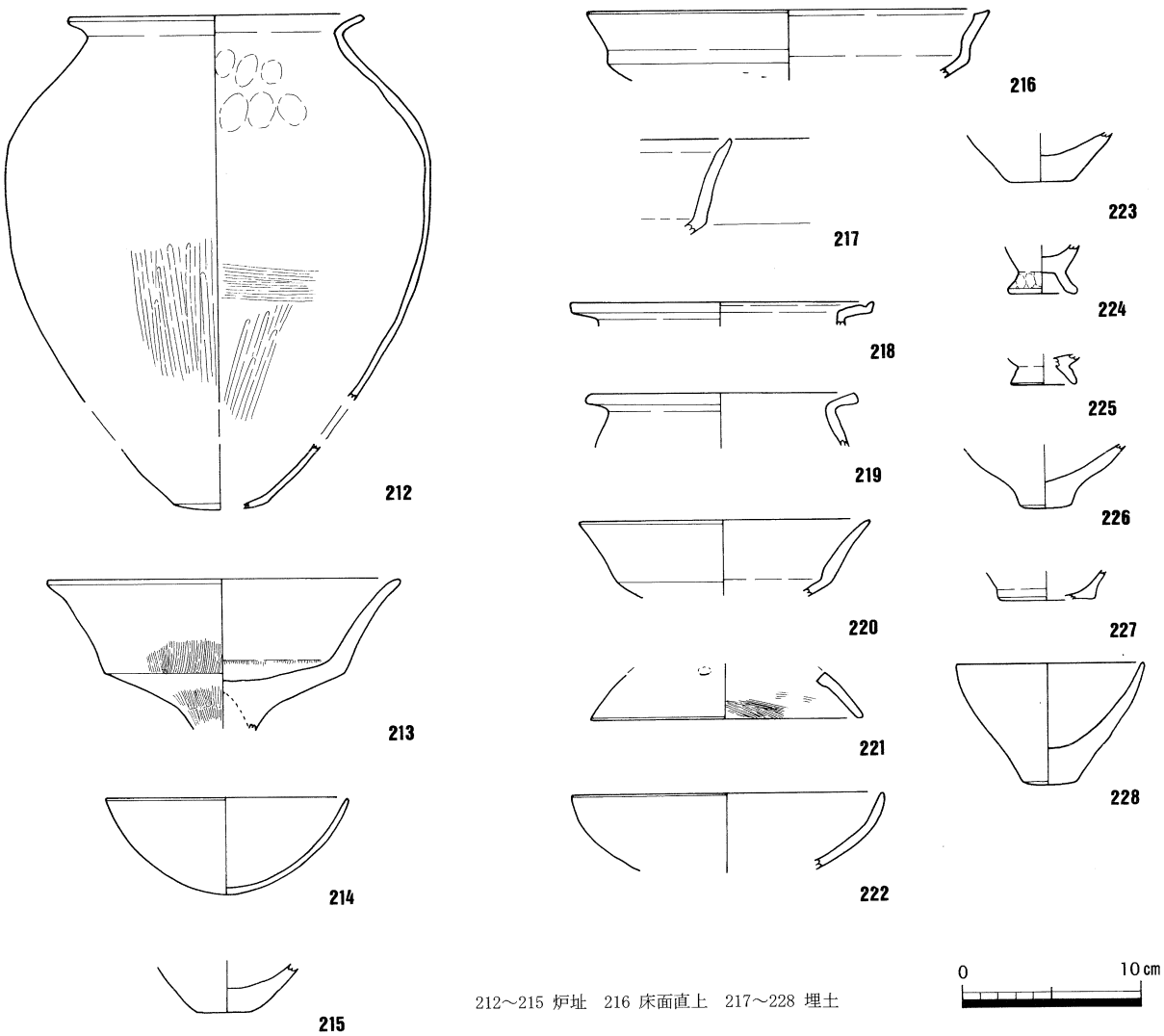




1 黒褐色シルト質極細砂 (7.5YR3/2, SD59 上層)
2 第1層に地山をブロック状に含む (SD59 下層)
3 灰褐色シルト質極細砂 (7.5YR4/2, SD85)
4 黒褐色シルト質極細砂 (7.5YR3/2, SD81)
5 黒褐色シルト質極細砂 (10YR2/2, SD80)
6 褐灰色シルト質極細砂 (10YR4/1, SD62 上層①)
7 黒褐色シルト質極細砂 (10YR3/1, SD62 中層①)
8 黒褐色細砂 (10YR3/1, SD62 下層①)
9 黒褐色シルト質極細砂 (7.5YR3/2, SD62 上層②)
10 黒褐色シルト質極細砂 (7.5YR3/1, 地山をブロック状に含む, SD62 中層②)
11 黒褐色細砂 (7.5YR3/1, SD62 下層②-1)
12 黒褐色シルト質極細砂 (7.5YR3/1, 地山をブロック状に含む, SD62 下層②-2)

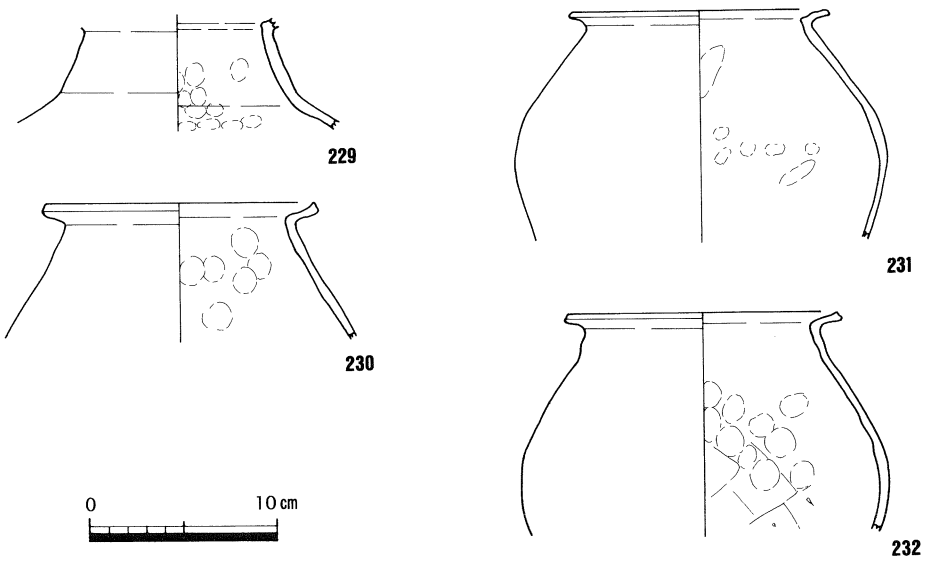
0 1m

第44図　ＳＨ11平面図(縮尺1/100)周溝断面図(縮尺1/60)

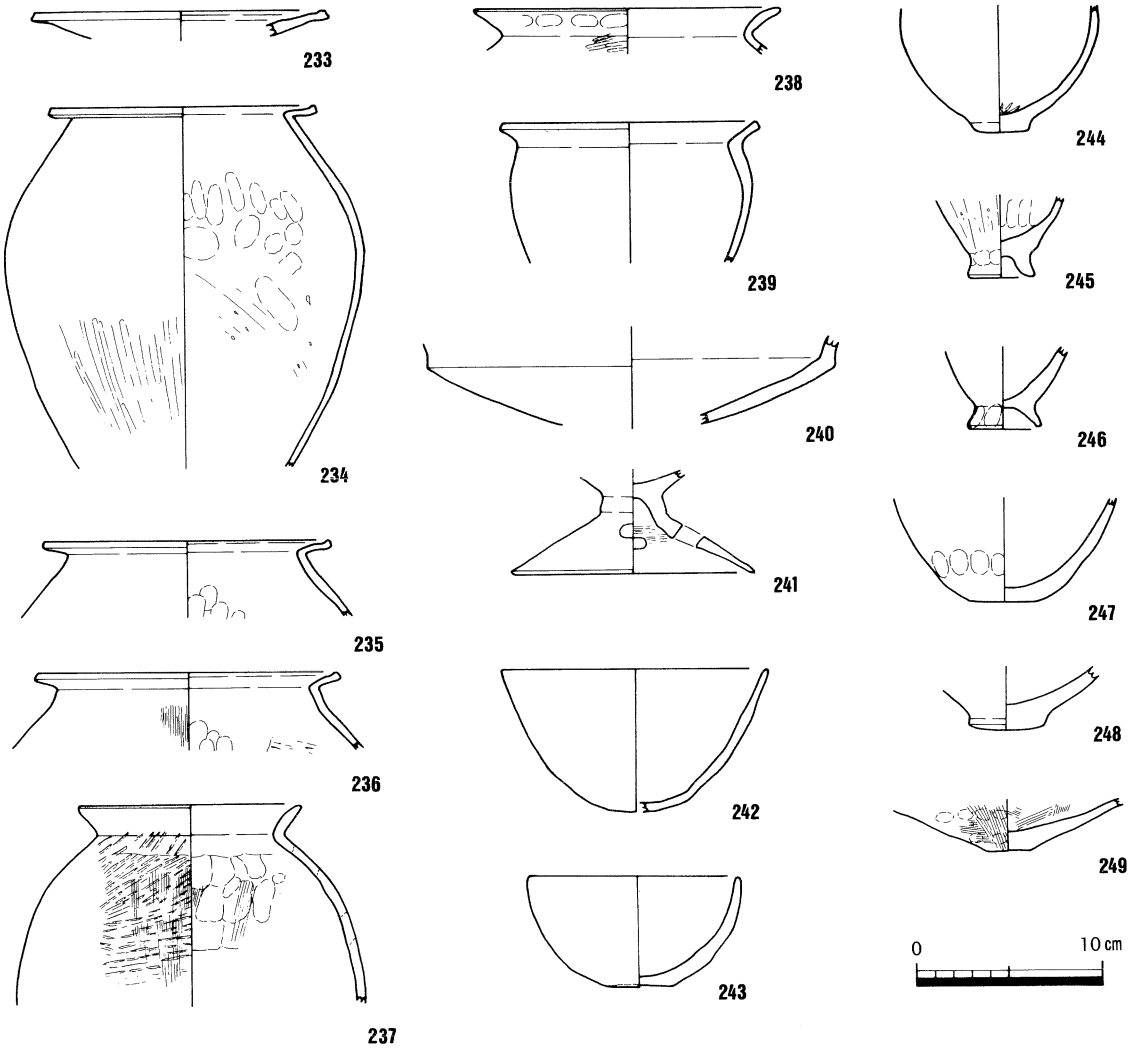


212～215 炉址　216 床面直上　217～228 埋土

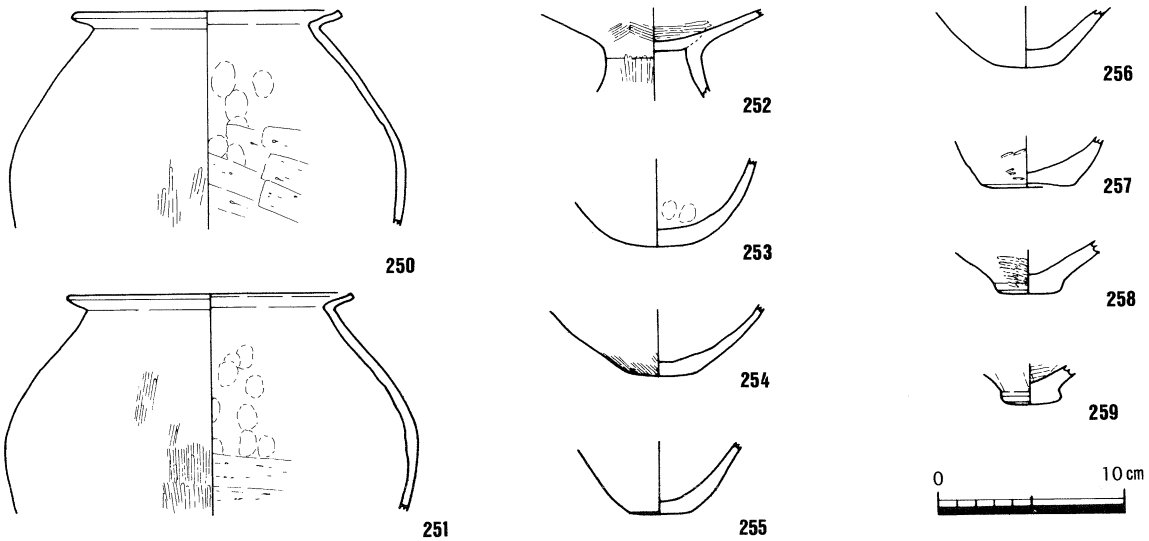
第45図　ＳＨ11出土遺物実測図（縮尺1/4）



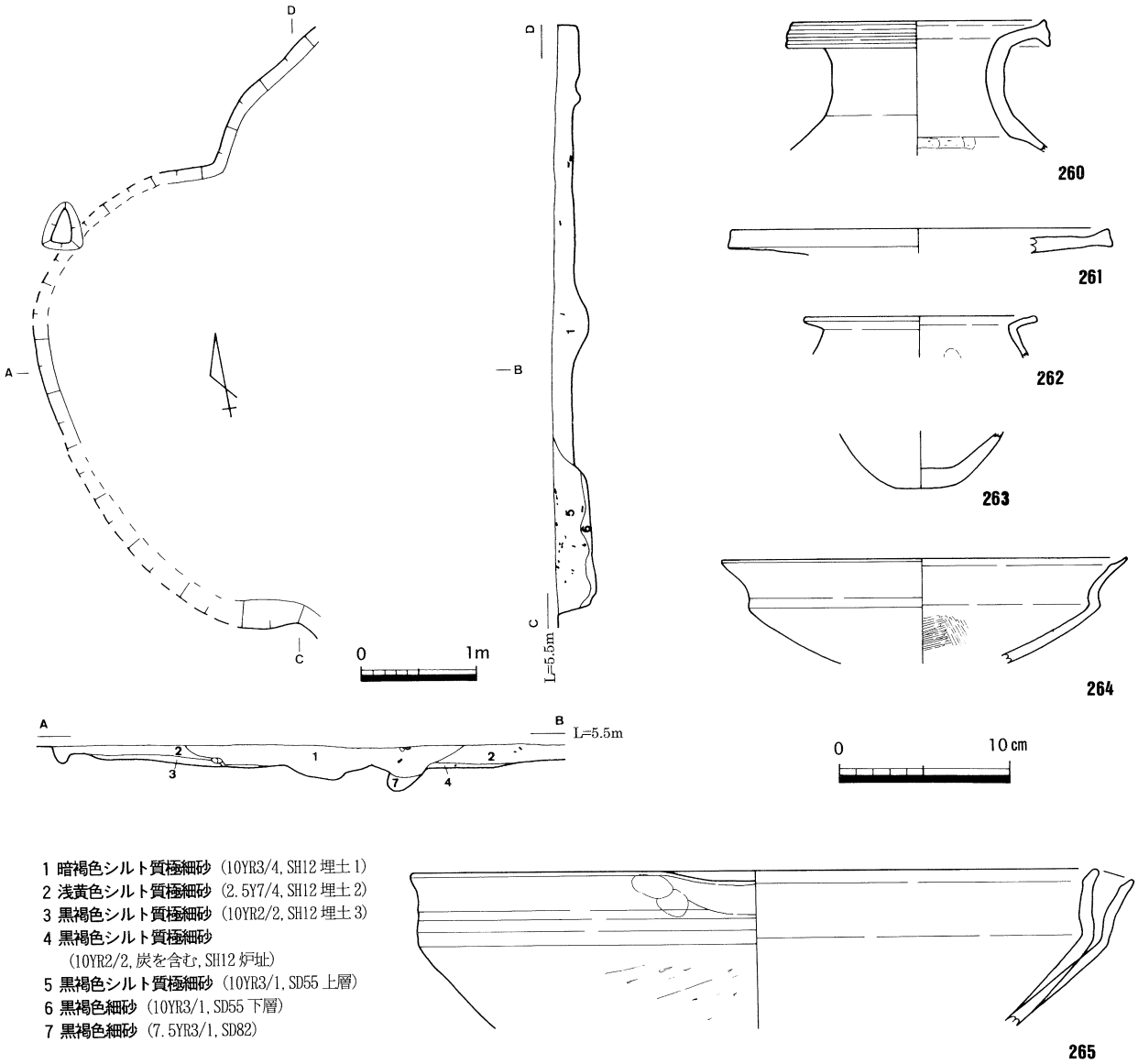
第46図　ＳＨ11周溝ＳＤ81出土遺物実測図（縮尺1/4）



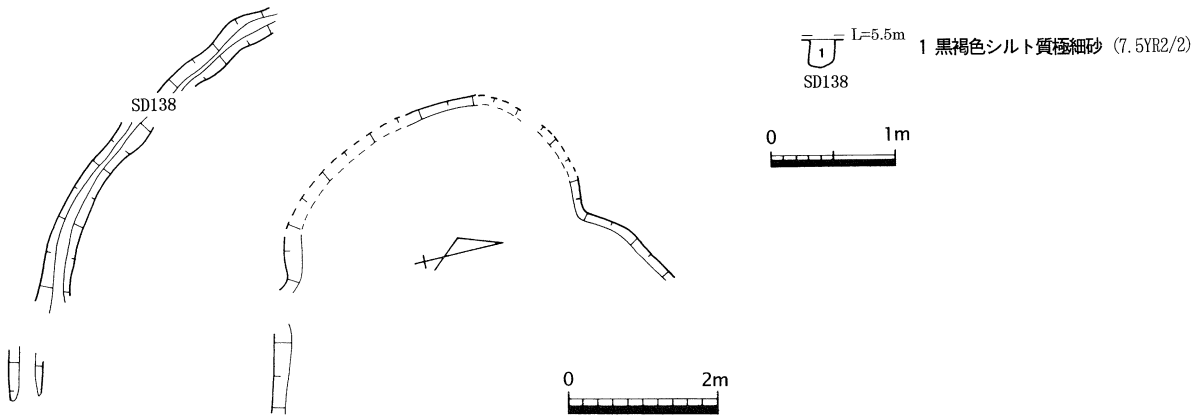
第47図　ＳＨ11周溝ＳＤ59出土遺物実測図（縮尺1/4）



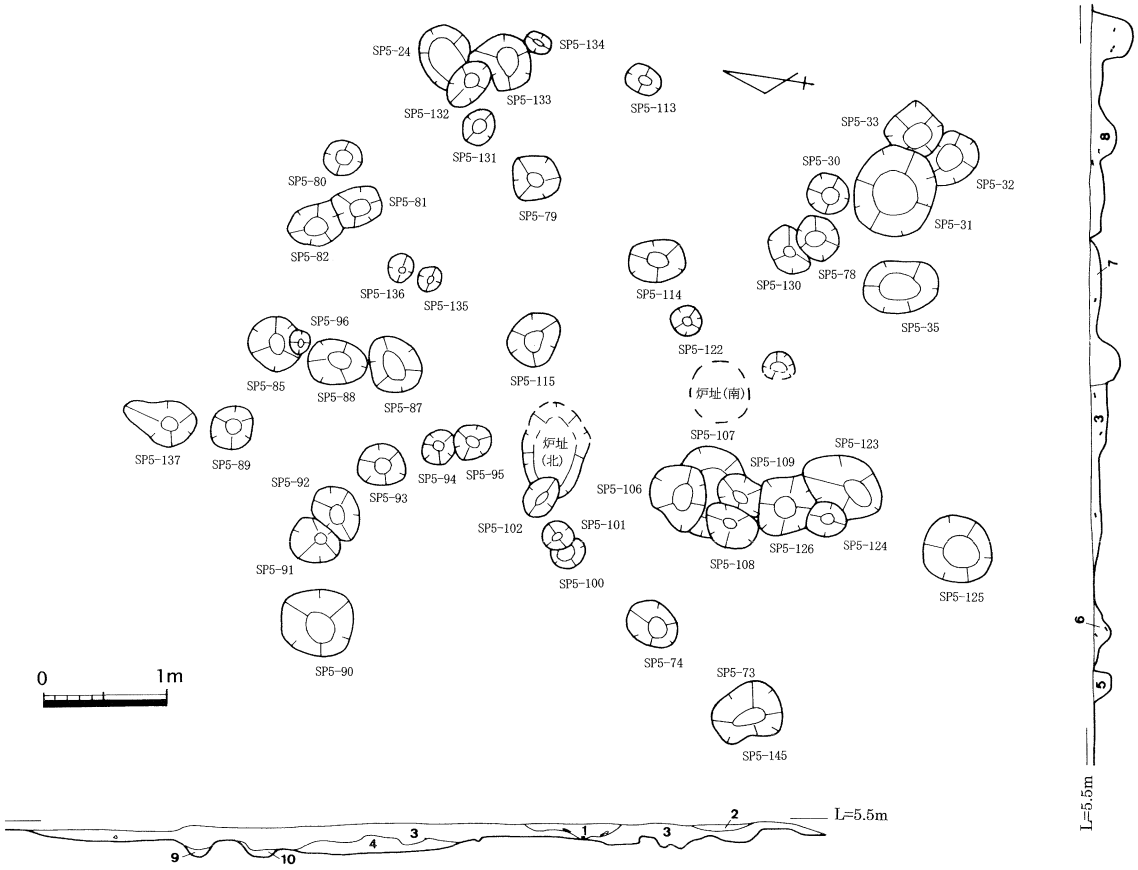
第48図　ＳＨ11周溝ＳＤ62出土遺物実測図（縮尺1/4）



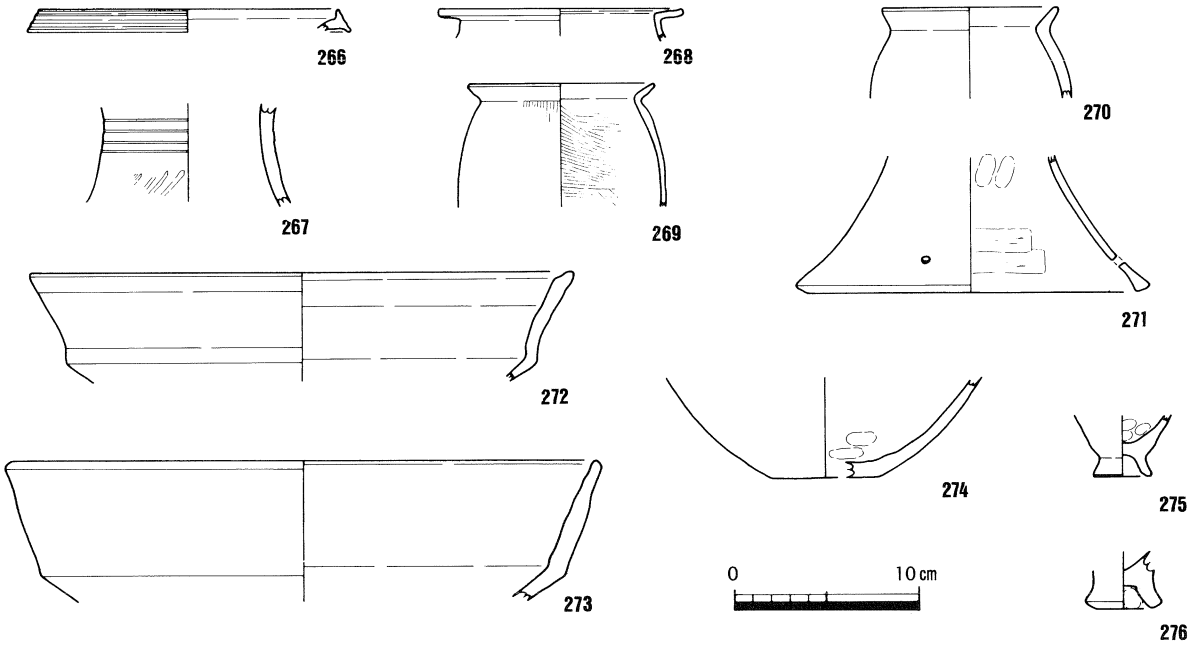
第49図　ＳＨ12平面・断面図(縮尺1/60)出土遺物実測図(縮尺1/4)



第50図　ＳＨ12平面図(縮尺1/100)周溝ＳＤ138断面図(縮尺1/60)



1 黒褐色シルト質極細砂（7.5YR3/2, 炭を含む, SH13 炉址(北)）
2 黒褐色シルト質極細砂（7.5YR3/2, 炭を含む, SH13 炉址(南)）
3 褐色シルト質極細砂（10YR4/4, SH13 下部埋土）
4 第3層に地山をブロック状に含む（SH13 落込）
5 褐灰色シルト質極細砂（10YR4/1, SD119）
6 褐灰色シルト質極細砂（10YR4/1, SP5-74）
7 黒褐色シルト質極細砂（7.5YR3/2, SD109）
8 黒褐色シルト質極細砂（7.5YR3/2, SD57・59）
9 黒褐色シルト質極細砂（7.5YR3/1, SP5-137）
10 黒褐色シルト質極細砂（7.5YR3/1, 地山をブロック状に含む, SP5-89）



第51図　ＳＨ13平面・断面図（縮尺1/60）出土遺物実測図（縮尺1/4）

ＳＨ12（第49・50図）

５区南東で検出した直径約5.5m前後を測る不整な円形と推定される竪穴住居で，深さは約20cmを測る。東半分以上が調査区外となり，さらに平面形態が不整形であるため，床面積は不明である。住居外側には，ＳＤ138が周溝としてめぐっている。内部構造は，側壁の一部と中央に炉址が残っているのみである。柱穴は不明である。他の遺構との重複が著しく，側壁と他の遺構との区別がつきにくく，また炉址は断面観察でのみ確認した。埋土のうち，第１～３層がＳＨ12の埋没土であるが，第１層は別の遺構の可能性もある。第４層が炉址である。ＳＤ55・82・109延長想定部分（ＳＨ22周溝）などと重複し，ＳＤ55より先行し，ＳＤ82より後出するが，ＳＤ109との前後関係は不明である。

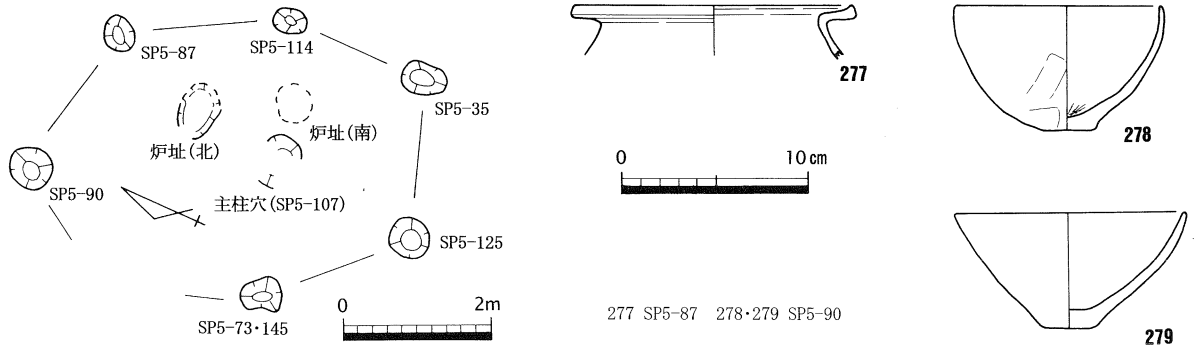
埋土からの出土遺物は，古い時期のものが混じるが，甕（262）は口縁部がうすく，高杯（264）は口縁部のヨコナデが強く，大形鉢（265）も口縁部のヨコナデが顕著なことから，様相５に属するものと考えられる。ＳＨ12は，弥生時代終末期のものと推測される。

ＳＨ12の周溝であるＳＤ138は，幅約30cm・深さ約35cmで断面Ｕ字形を呈し，平面は復元すると直径約10.0mの円を描いてＳＨ12を取り囲んでおり，囲んだ範囲の面積は約79㎡と推測される。埋土は，１層のみである。ＳＤ55・82・52（ＳＨ19周溝）などと重複し，ＳＤ55より先行し，ＳＤ82より後出するが，ＳＤ52（ＳＨ19周溝）との前後関係は不明である。

ＳＨ13（第51・52図）

５区南西で検出した。２基の炉址とそれを囲むように柱穴があることから，竪穴住居と考えられる。ただし，削平が著しく，側壁・壁溝は失われ，炉址を遺構面上で検出した。このため，平面形態・床面積は不明である。炉址が近接して２基あることから，少なくとも１度の建替が行われたと考えられる。図面上で，炉址とは別に１基の主柱穴と６基以上の柱穴が配置されていると復元を試みたが，炉址が２基あることから別の復元案も可能である。炉址と地山の間に，第３層褐色シルト質極細砂の埋土が存在するが，この土層がＳＨ13に伴うものか，または別の遺構になるかは判断できない。しかしながら，後述する埋土からの出土遺物が様相４に相当し，ＳＨ13に伴うものと想定した柱穴出土遺物も様相４に相当することから，第３層はＳＨ13に伴うものと考えたい。また，ＳＨ13周辺から出土する遺物は様相４が主体を占めることから，第３層がＳＨ13に伴わないものとしても，ＳＨ13は様相４に近い時期のものと考えられる。ＳＤ57（ＳＨ10周溝）・59（ＳＨ11周溝）・109（ＳＨ22周溝）・119・120・122・125などと重複し，ＳＤ57（ＳＨ10周溝）・59（ＳＨ11周溝）・109（ＳＨ22周溝）より先行し，他の遺構との前後関係は不明である。

埋土からの出土遺物は，古い時期のものが混じるが，高杯（272）や大形鉢（273）の口縁部はヨコナデが施されるものの直線的であることから，様相４に属するものと考えられる。一方，ＳＨ13に伴うものと想定した柱穴からの出土遺物は，甕（277）の口縁部が内面のヨコナデは顕著だが端部が肥厚しており，小形鉢（278・279）は平底であることから，様相４に属するものと考えられる。以上のことから，ＳＨ13は様相４またはこれに近い時期と推定され，弥生時代後期後半～終末期のものと考えられる。



第52図　ＳＨ13平面図（縮尺1/100）柱穴出土遺物実測図（縮尺1/4）

ＳＨ14・15（第53～65図）

６区南東で検出した。２基の炉址とその周囲に柱穴と側壁の一部があり，さらに周溝と考えられる溝が炉址と柱穴を囲んでめぐっている。ただし，削平が著しく，側壁の大部分と壁溝は失われ，炉址を遺構面上で検出した。このため，平面形態・床面積は不明であるが，第54図－１のとおり，ＳＨ14炉址を中心に６基の柱穴が配置されていると復元を試みた。なお，２基の炉址は，約２ｍ40cm離れていることから，それぞれ別の竪穴住居のものと考えられる。炉址と地山の間に，第１層黒褐色シルト質極細砂の埋土が存在するが，この土層がＳＨ14・15に伴うものか，または別の遺構になるかは判断できない。しかしながら，後述するようにＳＨ14炉址と埋土出土遺物が同じ時期であることから，ＳＨ14に伴う可能性はある。

ＳＨ14炉址から弥生土器甕（280）とミニチュア土器（281）が出土しており，甕は短い口縁部で端部が肥厚する。第１層であるＳＨ14・15下部埋土からは，長頸壺（282）・広口壺（283）・高杯（284）が出土しており，長頸壺が存在しており，広口壺の口縁端部に竹管文の加飾があること，高杯の口縁部は短く立ち上がることから，様相２に相当し，ＳＨ14は弥生時代後期後半と推定される。

次に，ＳＨ14・15の周溝及び関連溝について報告するとともに，その変遷について検討する。

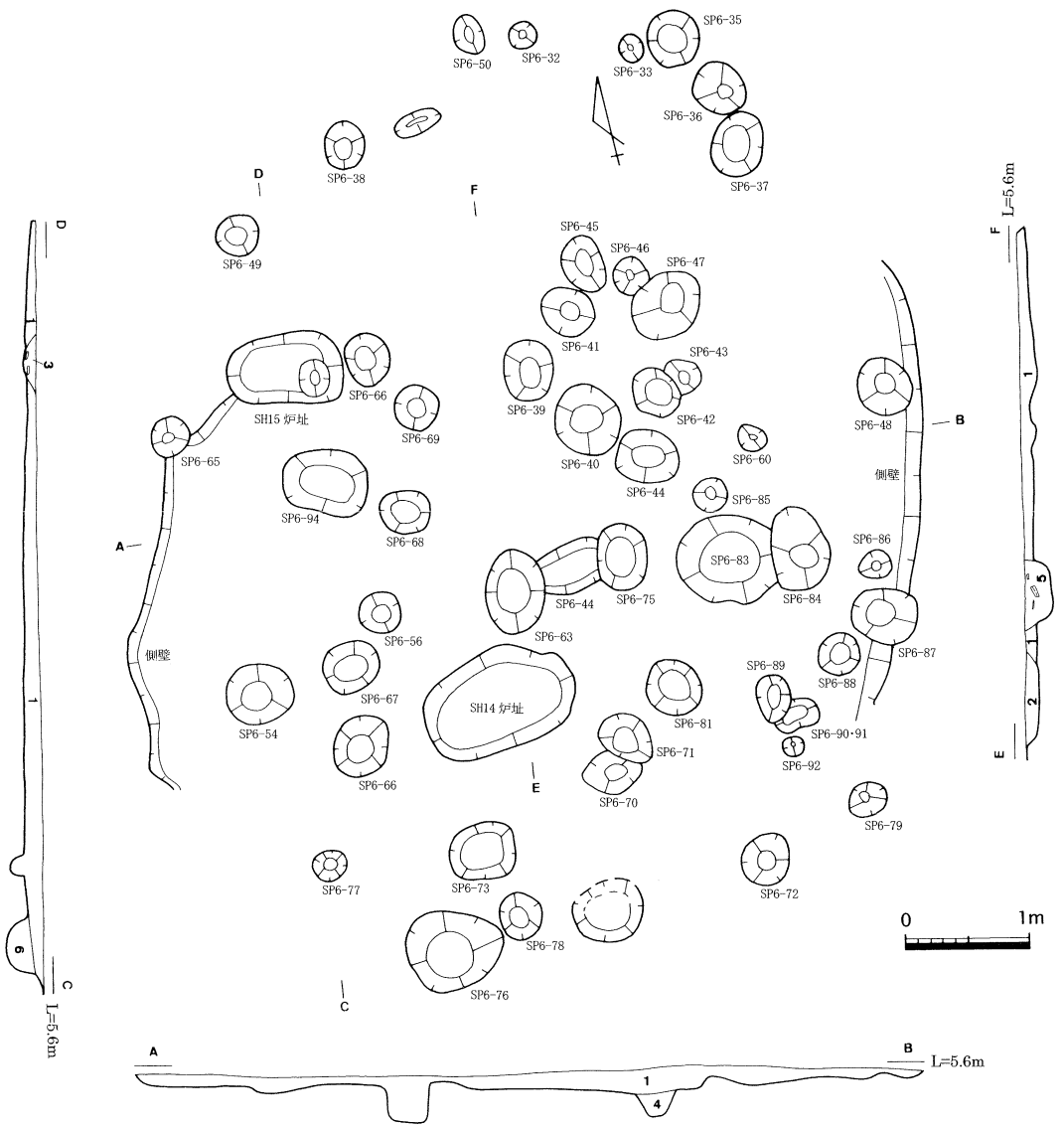
ＳＤ42（ＳＤ36）は，幅約30～50cm・深さ約20cmで断面台形またはＵ字形を呈し，平面は長径約17.4ｍ・短径11.2ｍ以上（推定約12.4ｍ）の南北に長い楕円形を描いて一周していると考えられる。東部分は調査区外に及んでおり，調査地内で確認した総長は約38ｍである。ＳＤ42が囲む範囲の推定面積は約186㎡である。埋土は１層を基本とし，部分的に２層に分かれる。なお，調査の都合上，ＳＤ42の一部をＳＤ36と呼称したが，同一の溝である。ＳＨ01及びＳＤ34・37・43・44・46・48・141・147と重複し，調査時の検討ではＳＨ01とＳＤ46・147より後出し，出土遺物の検討から他のすべての遺構より後出する。

ＳＤ42の出土遺物は，甕（285～286）・高杯（287～293）・鉢（294）が見られる。甕は口縁部が水平近くに折れ曲がり，様相５に相当する。高杯は，口縁部があまり長くなっておらず，脚部もあまり広がらず，様相２～３に相当する。一方，底部（295～297）は丸底化が始まっており，新しい様相を呈する。このように高杯と甕・底部に時期差が見られるが，ＳＤ42の下層に後述するＳＤ46が存在し，ＳＤ46が様相２に相当することから，古い様相の遺物を混入と捉えて，ＳＤ42の時期は新しい方である様相５に相当し弥生時代終末期のものと考えられる。

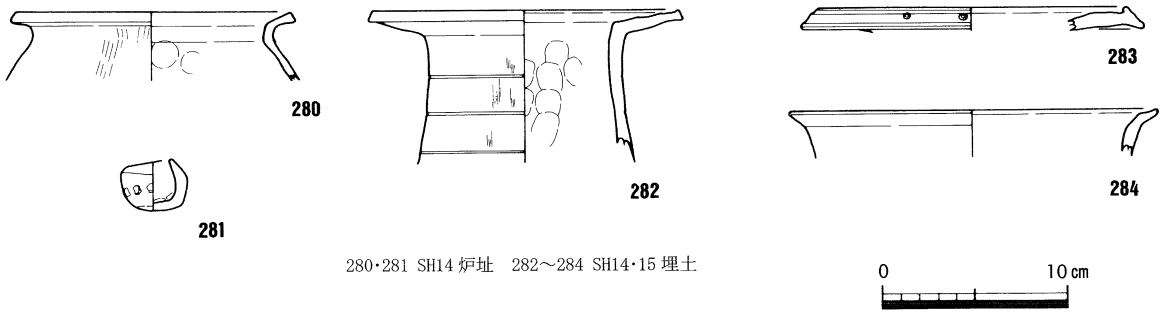
ＳＤ43は，幅約30cm・深さ約10cmで断面Ｕ字形を呈し，長さ約6.2ｍを測る。ＳＤ44・45・142交差地点からまっすぐ北北東にのび，ＳＤ52（ＳＨ19周溝）に合流することから，ＳＨ14・15の排水をＳＤ52に流す目的で掘削されたものである。埋土は１層のみである。ＳＤ42・44・45・142と重複し，ＳＤ42より先行し，他の遺構との前後関係は不明である。出土遺物は，弥生土器細片のみだが，ＳＤ52と同じ時期であることから，様相４～５に相当し，弥生時代終末期と考えられる。

ＳＤ44は，幅約30cm・深さ約20cmで断面Ｕ字形を呈し，検出した長さは約6.9ｍを測る。ＳＤ42の途中から北東方向に蛇行しながらのび，再びＳＤ42と一体化している。埋土は１層のみである。ＳＤ43・45・46・142・147と重複し，ＳＤ147より後出するが，他の遺構との前後関係は不明である。壺（298）が出土しており，底部の丸底化が見られることから，様相４～５に相当し弥生時代終末期と考えられる。

ＳＤ46は，幅約40～60cm・深さ約40cmで断面Ｕ字形またはＶ字形を呈し，検出した長さは約13.8ｍを測る。ＳＤ42の途中から分岐して北東方向にわずかに湾曲しながらのび，ＳＤ53につながる。ＳＨ14・15の周溝を兼ねながら，排水をＳＤ53に流す目的で掘削されたものである。平面はＳＤ42から分岐しているが，断面観察ではＳＤ46はＳＤ42の下層に位置し，当初ＳＤ46があったものを再掘削してＳＤ42を設けたと考えられる。埋土は２層である。ＳＤ42・44・45・46・48・142・147と重複し，ＳＤ42より先行し，ＳＤ147

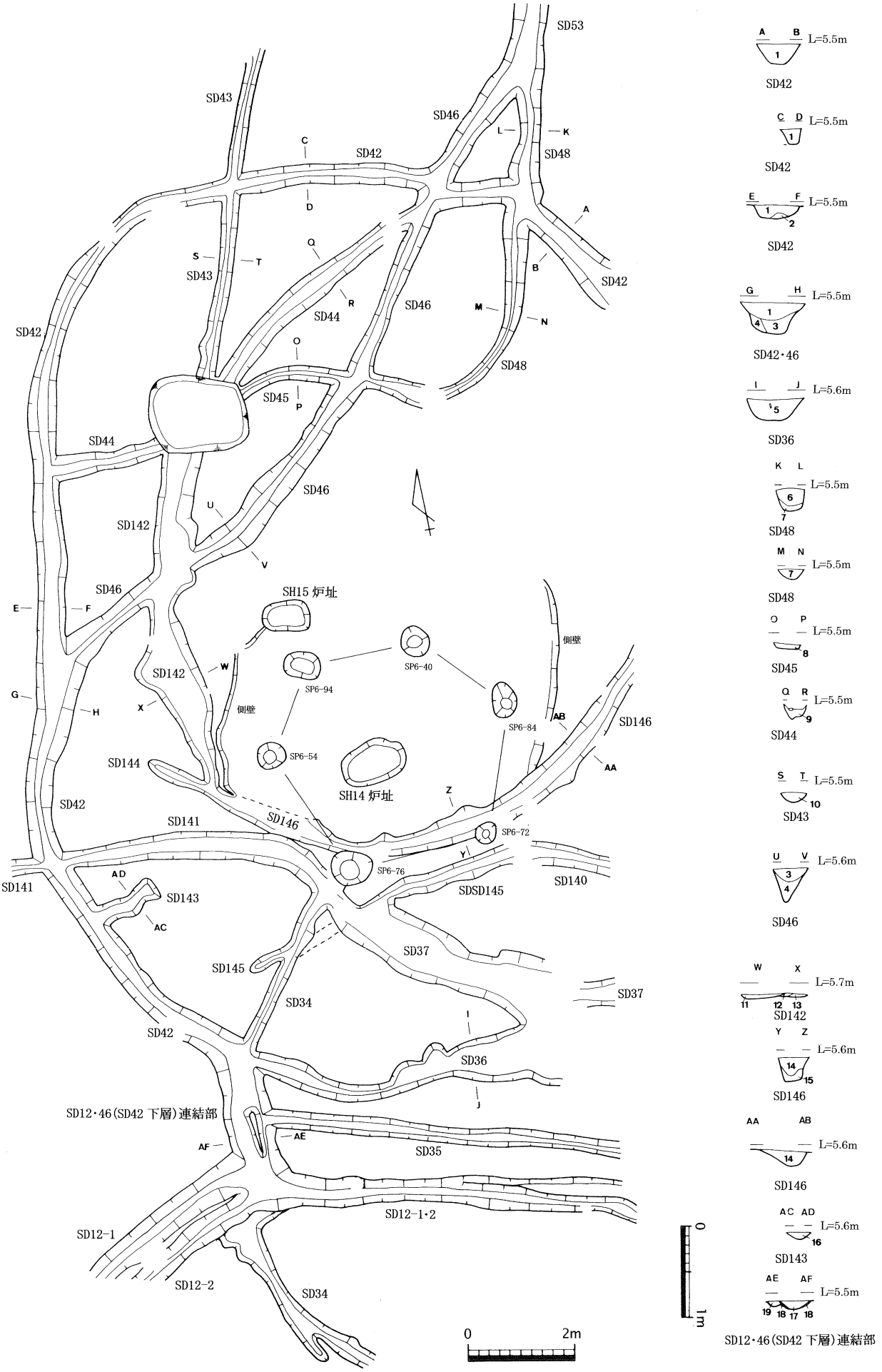


1 黒褐色シルト質極細砂（5YR3/1, 地山をブロック状に含む, SH14・15 下部埋土）
2 黒色シルト質極細砂（7.5YR2/1, 炭を含む, SH14 炉址）
3 黒色シルト質極細砂（7.5YR2/1, 炭を含む, SH15 炉址）
4 黒褐色シルト質極細砂（7.5YR3/1, SP6-44）
5 黒褐色シルト質極細砂（7.5YR3/1, SP6-63）
6 黒褐色シルト質極細砂（7.5YR3/1, SD141）



280・281 SH14 炉址　282～284 SH14・15 埋土

第53図　ＳＨ14・15平面・断面図（縮尺1/60）出土遺物実測図（縮尺1/4）



第54図－1　ＳＨ14・15周溝平面図(縮尺1/100)断面図(縮尺1/60)

より後出するが，他の遺構との前後関係は不明である。

ＳＤ46の出土遺物は，長頸壺（307～310）・甕（311～315）・高杯（316・317）などが出土している。長頸壺は，口縁部がやや直角近くに折れ，体部は球形化が見られることから，様相２前後に相当する。甕（313）や高杯（316）の口縁部も短いことから，長頸壺と同じ時期に相当すると考えられる。底部（320・321）も平底である。以上のことから，ＳＤ46は弥生時代後期後半と考えられる。なお，鉢底部（322）は，ハの字形に開く底部で灰白色を呈しており丸亀平野周辺からの搬入品である。また，甕（312）は，口縁端部に凹線文を施し後期前半に遡るものであり，混入品と考えられる。

ＳＤ48（ＳＤ45）は，幅約30～40cm・深さ約10cmで断面逆台形を呈し，検出した長さは約9.7mを測る。ＳＤ43・44・142交差地点から東方向にのびて途中強く湾曲しながら今度は北方向にのび，ＳＤ53とつながる。ＳＨ14・15の周溝を兼ねながら，排水をＳＤ53に流す目的で掘削されたものである。埋土は１層のみである。なお，調査の都合上，ＳＤ48の一部をＳＤ45と呼称したが，同一の溝である。ＳＤ43・44・46・142・147と重複し，ＳＤ147より後出するが，他の遺構との前後関係は不明である。

ＳＤ48の出土遺物は，長頸壺（302）・高杯（303～305）などが出土している。様相２まで続く長頸壺があり，高杯の口縁部も短いことから，ＳＤ48は様相１～２に相当し弥生時代後期後半と考えられる。なお，306は，壺の口縁端部に飾られていた円形付文が剥がれたものである。

ＳＤ142（ＳＤ37）は，幅約70cm～１m・深さ約10cmで断面Ｕ字形を呈し，検出した長さは約12.3mを測る。ＳＤ43・44・45交差地点から南方向にゆるやかに湾曲しながらのびる。ＳＤ146と交差するところで途切れているが，本来はＳＤ37につながるものと考えられる。埋土は３層確認しており，さらに溝幅もＳＤ37同様広いことから，再掘削を行っている可能性がある。ＳＤ43・44・45・46・146と重複するが，前後関係は不明である。

ＳＤ142の出土遺物は，底部（299）・広口壺（300）・鉢（301）などが出土している。底部は平底である。広口壺は，口縁部がゆるく湾曲し，口縁端部を窪ませる。出土土器は様相１～２に相当し，ＳＤ142は弥生時代後期後半と考えられる。

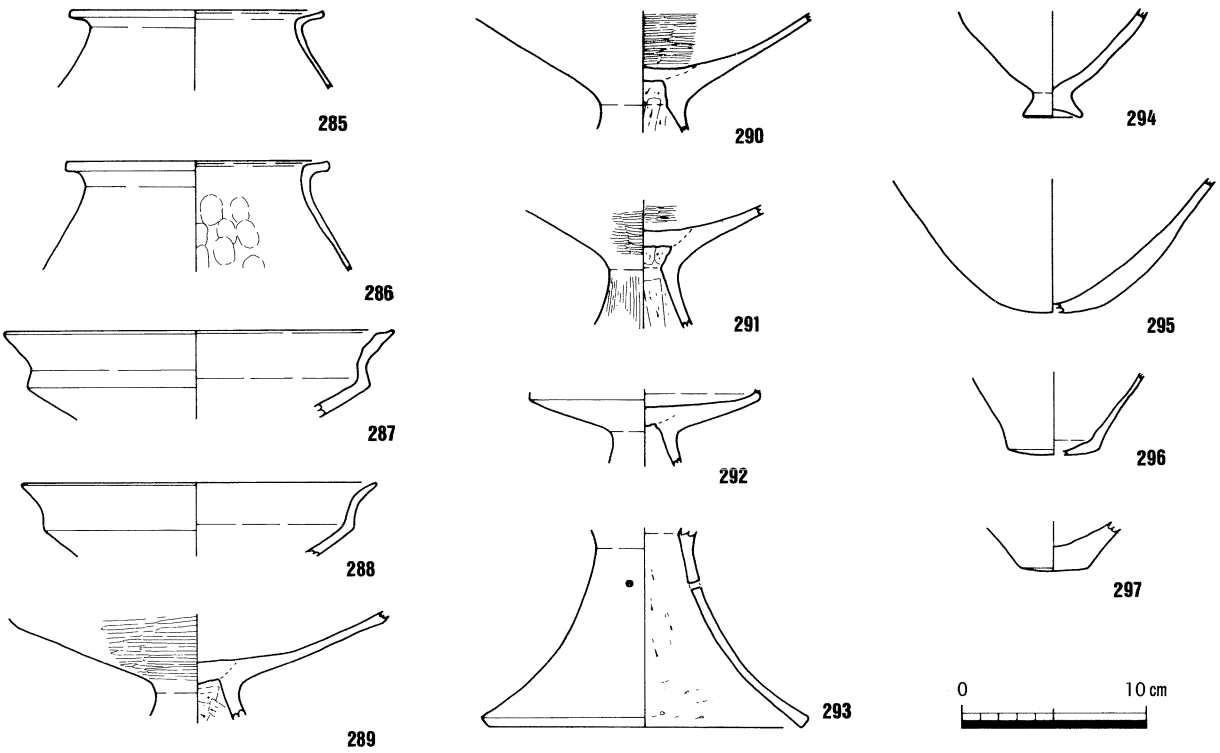
ＳＤ143は，幅約30cm・深さ約10cmで断面Ｕ字形を呈し，長さは約1.1mと短い。ＳＤ42が囲む居住域からＳＤ42に注いでいることから，ＳＤ143はＳＤ42への排水溝と考えられる。埋土は１層のみである。高杯（323）が出土しており，口縁部が長く強いヨコナデを施していることから様相４～５と考えられ，ＳＤ143はＳＤ42と同じ弥生時代終末期のものと考えられる。

ＳＤ146（ＳＤ144）は，幅約30～50cm・深さ約15cmで断面Ｕ字形を呈し，検出した長さは約11.0mを測る。調査区東端から西方向に弧を描きながらのび，後世の削平により途切れている。埋土は１層のみである。ＳＨ14およびＳＤ142・147と重複し，ＳＤ147より後出するが，他の遺構との前後関係は不明である。

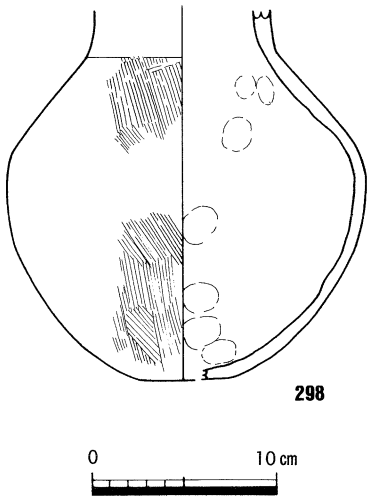
ＳＤ146の出土遺物は，長頸壺（324）・細頸壺（325）・高杯（326）が出土している。長頸壺が存在することから様相１～２に相当するが，細頸壺は体部上位に最大径をもち，高杯は口縁部が長くなり強いヨコナデが施され，様相３～４に相当する。混入の可能性があり，細かい時期決

1　黒褐色シルト質極細砂（５ＹＲ２／2，ＳＤ42上層）
2　第１層に地山をブロック状に含む（ＳＤ42下層）
3　黒色シルト質極細砂（7.5ＹＲ２／2，ＳＤ46上層）
4　第３層に地山をブロック状に含む（ＳＤ46下層）
5　黒褐色シルト質極細砂（10ＹＲ３／2，ＳＤ36）
6　暗褐色シルト質極細砂（7.5ＹＲ３／3，ＳＤ48上層）
7　黒褐色シルト質極細砂（５ＹＲ２／1，ＳＤ48下層）
8　黒褐色シルト質極細砂（7.5ＹＲ３／1，ＳＤ45）
9　黒褐色シルト質極細砂（7.5ＹＲ３／2，ＳＤ44）
10　暗褐色シルト質極細砂（7.5ＹＲ３／3，ＳＤ43）
11　黒褐色シルト質極細砂（10ＹＲ２／1，ＳＤ142上層）
12　褐灰色シルト質極細砂（10ＹＲ４／1，ＳＤ142中層）
13　黒褐色シルト質極細砂（10ＹＲ３／1，ＳＤ142下層）
14　黒褐色シルト質極細砂（10ＹＲ３／1，ＳＤ146上層）
15　褐灰色シルト質極細砂（10ＹＲ４／1，ＳＤ142下層）
16　暗赤褐色シルト質極細砂（５ＹＲ３／2，ＳＤ143）
17　黒褐色シルト質極細砂(7.5ＹＲ３／1，ＳＤ12－１上層）
18　第17層に地山をブロック状に含む（ＳＤ12－１下層）
19　黒褐色シルト質極細砂（10ＹＲ３／1，ＳＤ12－２）

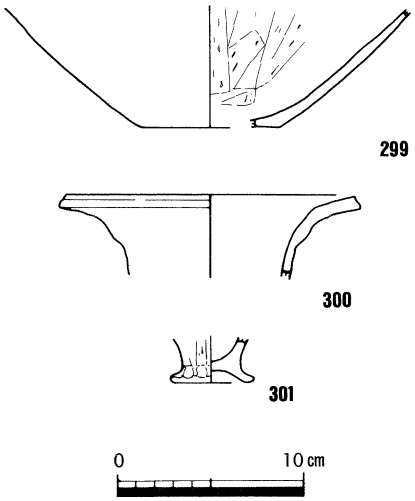
第54図－２　ＳＨ14・15周溝断面土層名



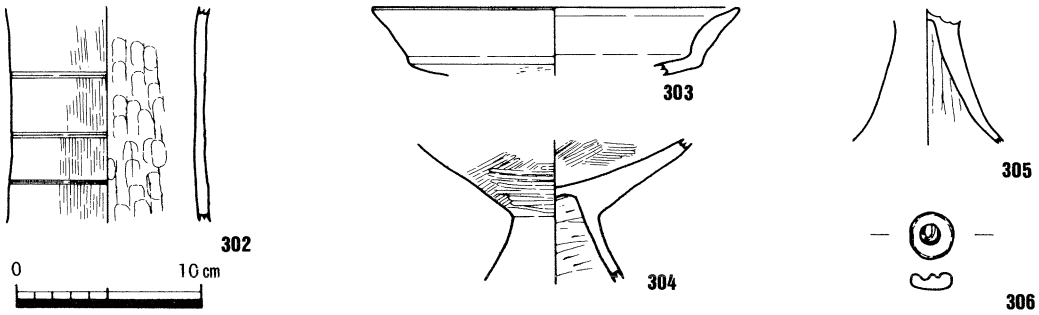
第55図　ＳＨ14・15周溝ＳＤ42出土遺物実測図(縮尺1/4)



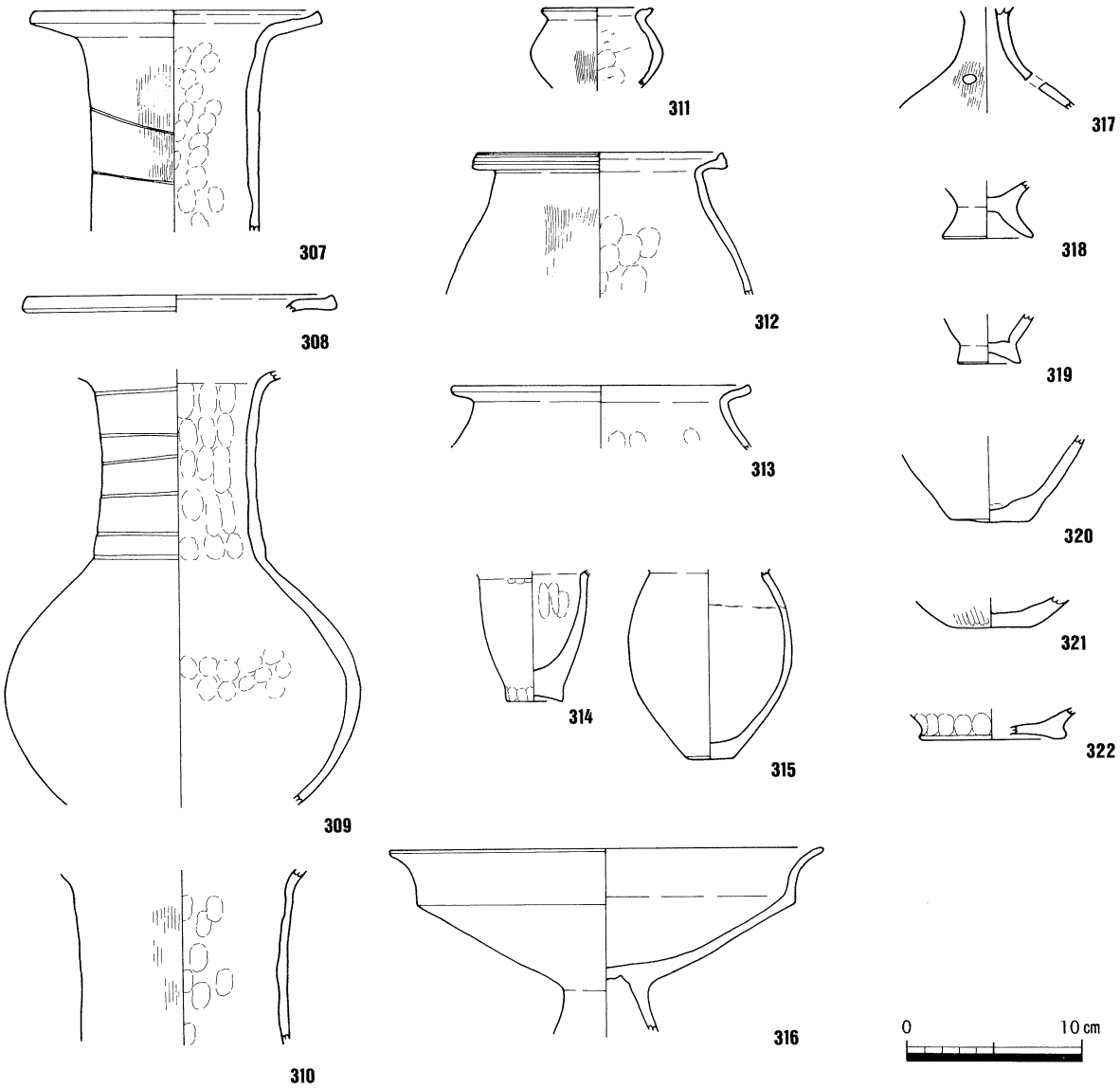
第56図　ＳＨ14・15周溝ＳＤ44
出土遺物実測図(縮尺1/4)



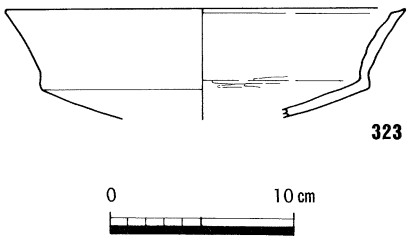
第57図　ＳＨ14・15周溝ＳＤ142
出土遺物実測図(縮尺1/4)



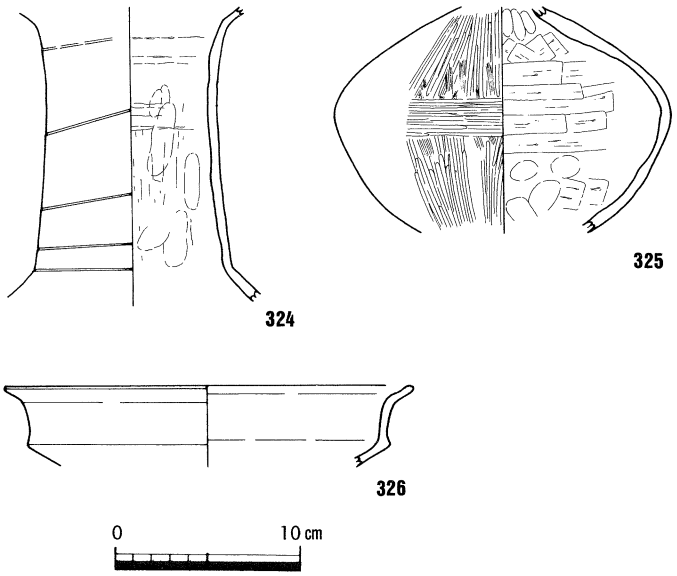
第58図　ＳＨ14・15周溝ＳＤ48出土遺物実測図(縮尺1/4)



第59図　ＳＨ14・15周溝ＳＤ46出土遺物実測図（縮尺1/4）



第60図　ＳＨ14・15周溝
ＳＤ143出土遺物
実測図（縮尺1/4）



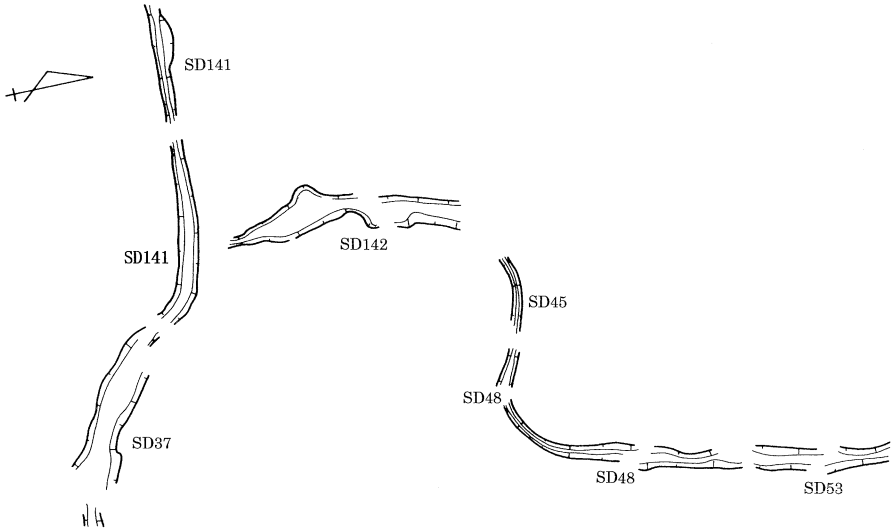
第61図　ＳＨ14・15周溝ＳＤ146出土遺物実測図（縮尺1/4）

定は不可能だが，ＳＤ146は弥生時代後期後半～終末期と考えられる。

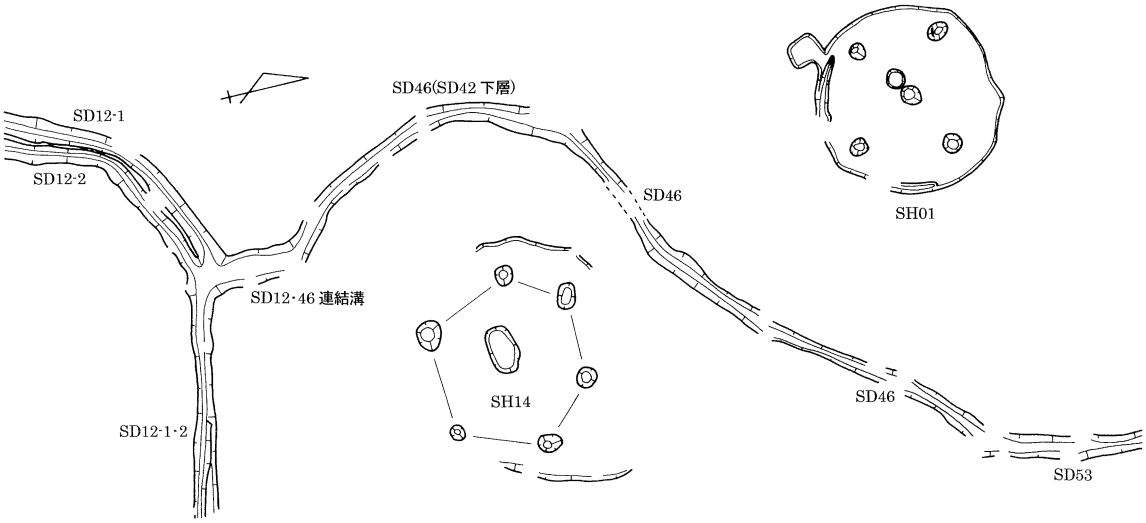
以上，ＳＨ14・15の周溝及び関連溝について報告したが，次はこれら遺構の変遷について検討する。各遺構は，おおむね様相２～５の限られた期間に入るが，遺構の重複が激しく出土遺物には混入が認められ，また遺構どうしの前後関係も調査時に充分検討できなかった。このことから，遺構の変遷を復元するのは困難を極めるが，周辺の遺構との関係を絡めて復元を試みたい。

出土遺物から時期別に分けると，様相１～２はＳＤ48・ＳＤ142，様相２前後はＳＤ46，様相３～４はＳＤ146，様相４～５はＳＤ43・ＳＤ44・ＳＤ143，様相５はＳＤ42となる。次に重複している遺構の前後関係を見ると，ＳＤ46→ＳＤ42となり，またＳＤ143はＳＤ42に注ぐ排水溝であることから，ＳＤ143とＳＤ42は同時期のものである。

周辺に所在する他の遺構で注目されるはＳＨ01である。ＳＤ44・ＳＤ46は，様相２前後に属するＳＨ01を避けて掘削されており，様相５の段階ではＳＤ42がＳＨ01を壊して掘削されている。このことは，当初ＳＨ14・15周溝を掘削するにあたり，ＳＨ01が所在していたためＳＨ01を避けて掘削していたが，ＳＨ01廃絶後はＳＨ14・15の居住範囲を拡張して周溝ＳＤ42を掘削したと考えられる。以上のことから，ＳＤ42・44・46は，一つの竪穴住居周溝の時期差を表し，出土遺物も考慮して，ＳＤ46→ＳＤ44→ＳＤ42の変遷が考えられる。



第62図　ＳＨ14・15周溝変遷図【第１段階】(縮尺1/200)



第63図　ＳＨ14・15周溝変遷図【第２段階】(縮尺1/200)

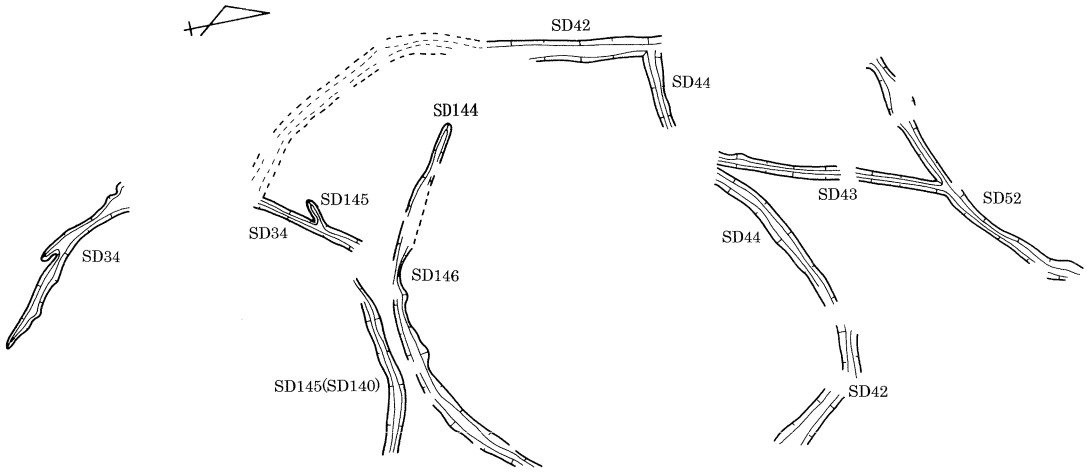
次に注目される周辺の遺構は，ＳＤ53である。ＳＤ46とＳＤ48が合流してＳＤ53となっているが，ＳＤ46とＳＤ48は途中で交差しており同時期のものではない。出土遺物から検討するとＳＤ48→ＳＤ46となり，同じＳＤ53を排水溝として利用していることから，近い時期が考えられる。

一方，ＳＨ17周溝であるＳＤ12はＳＤ46（ＳＤ42下層）と接しているだけでなく，途中に互いを繋ぐ連結溝を掘削しており，ＳＤ12つまりＳＨ17の排水をＳＤ46（ＳＤ42下層）つまりＳＨ14・15の周溝を経由して下方に流している。ＳＤ12の断面が深いＶ字形を呈する特徴は，ＳＤ46と共通している。

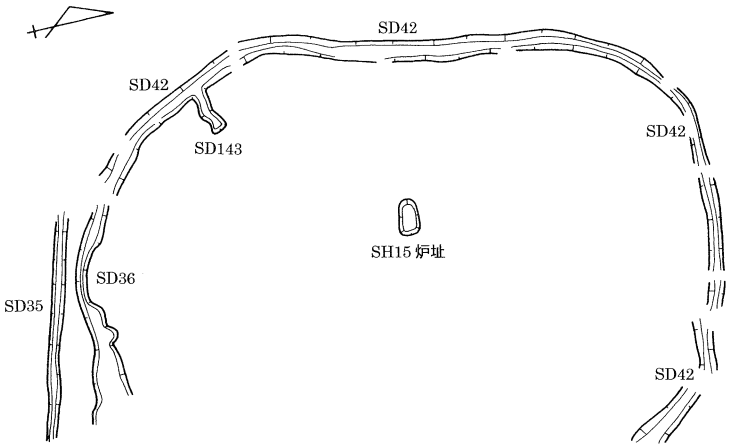
以上からＳＨ14・15周溝の変遷を復元すると，

【第１段階】ＳＤ37・45・48・142によって構成され，様相１～２に相当する。ＳＤ37・45・48・142によって囲まれる範囲に竪穴住居が想定されるが，ＳＨ14・15炉址とは位置がずれるため，ＳＨ14・15とは別の竪穴住居の存在が想定できる。ＳＤ141はＳＤ37に繋がるため同時期のものであり，ＳＤ141は別の竪穴住居の排水をＳＤ37に流していたものと推定される。この排水は，ＳＤ142・45・48と通ってＳＤ53へとつながり，最終的にはＳＲ01へ注ぐ。

【第２段階】ＳＤ46（ＳＤ42下層）によって構成され，様相２～３に相当する。ＳＨ14炉址がこの周溝と組み合う可能性がある。ＳＨ01が存在していたため，これを避けてＳＤ46が掘削されている。ＳＨ17周溝であるＳＤ12とは南端で繋がっており，ＳＤ12の排水を受けてＳＤ53へと流し，最終的にはＳＲ01へ注ぐものである。



第64図　ＳＨ14・15周溝変遷図【第３段階】(縮尺1/200)



第65図　ＳＨ14・15周溝変遷図【第４段階】(縮尺1/200)

【第３段階】ＳＤ42・43・44によって構成され，様相４前後に相当する。ＳＤ42・44によって囲まれる範囲に竪穴住居が存在し，ＳＤ43はＳＤ42・44の排水をＳＤ52（ＳＨ19周溝）に流す目的で掘削されている。なお，ＳＤ42・44が直角に折れて屈曲している理由については，ＳＨ01が存在していたためと考えるよりは，ＳＨ01を壊しているＳＤ52がすでに存在していることから，ＳＤ52と等間隔に距離をおくためと考えられよう。さらに，出土遺物を検討すると，ＳＤ144・146もこの段階に属する可能性がある。ＳＤ144・146を含めて考えると，ＳＨ15炉址またはもう少し東寄りにあった竪穴住居がこの周溝と組み合う可能性がある。また，ＳＤ144・146が存在していた場合，ＳＤ42の南側は機能しなくなっていたか，またはＳＤ42とＳＤ144・146の二重の周溝になっていたとも考えられる。さらに，ＳＤ144・146の南にあるＳＤ34・145（ＳＨ20周溝）は，同規模な周溝が隣接するというだけでなく，ＳＤ34がＳＤ146と繋がっている可能性があり，同じ第３段階に属する可能性がある。

【第４段階】ＳＤ36・42によって構成され，様相５に相当する。ＳＨ15炉址がこの周溝と組み合う可能性がある。ＳＤ143が竪穴住居の排水を周溝であるＳＤ42に流すために掘削された可能性がある。

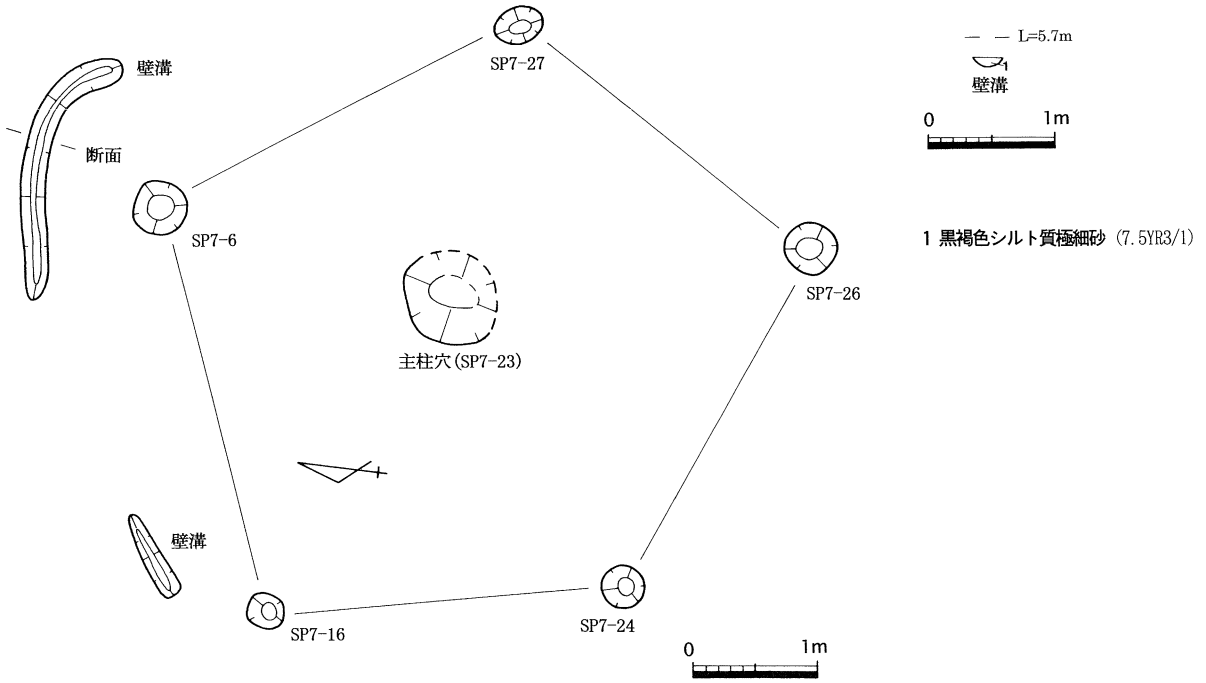
ＳＨ16（第66図）

７区北西で検出した直径6.8～7.2mを測る円形と推定される竪穴住居である。削平が著しく，主柱穴と柱穴，壁溝の一部が残っているのみである。側溝が北側の一部しか残っていないため，正確ではないが，床面積は約38㎡であろう。内部構造は，主柱穴を中心として５基の柱穴が配置されている。出土遺物がないため詳細な所属時期は不明だが，周辺に弥生時代後期後半～終末期の竪穴住居が密集し，構造も類似することから，同じ時期のものと考えられる。ＳＤ12（ＳＨ17周溝）と重複し，ＳＤ12より先行する。

ＳＨ17（第67～72図）

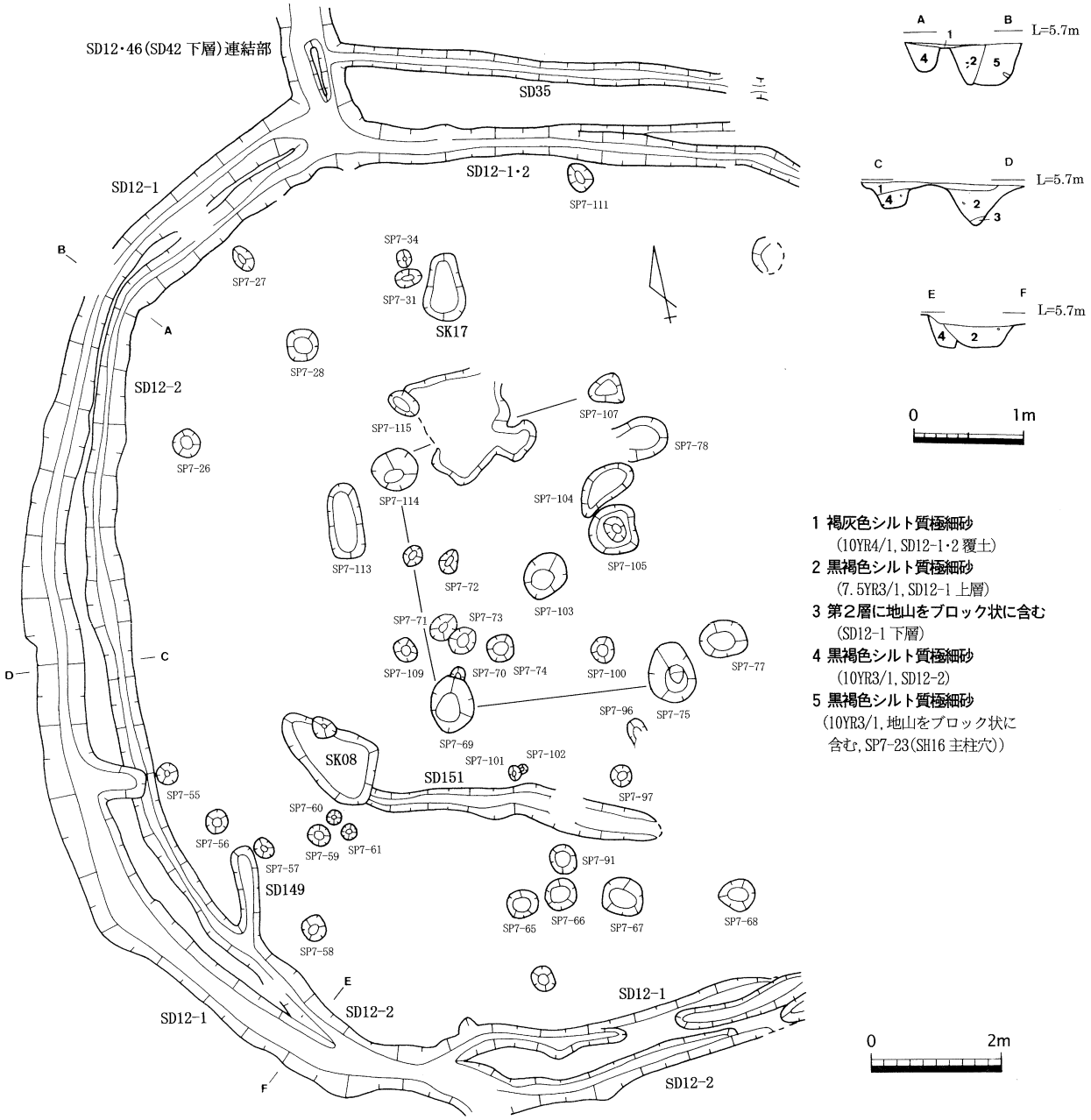
７区東で検出した。後世の削平が著しく，炉址や側壁も失われていたが，周溝であるＳＤ12から竪穴住居の存在が推定される。ＳＤ12に囲まれた範囲に柱穴が集中しており，図面上で主柱穴を中心に４基以上の柱穴の復元を試みた。柱穴からの出土遺物は，弥生土器細片のみである。

周溝ＳＤ12は，直径約15.0mの円を描いており，東端が調査区外に及ぶが，囲んだ範囲の面積は約177

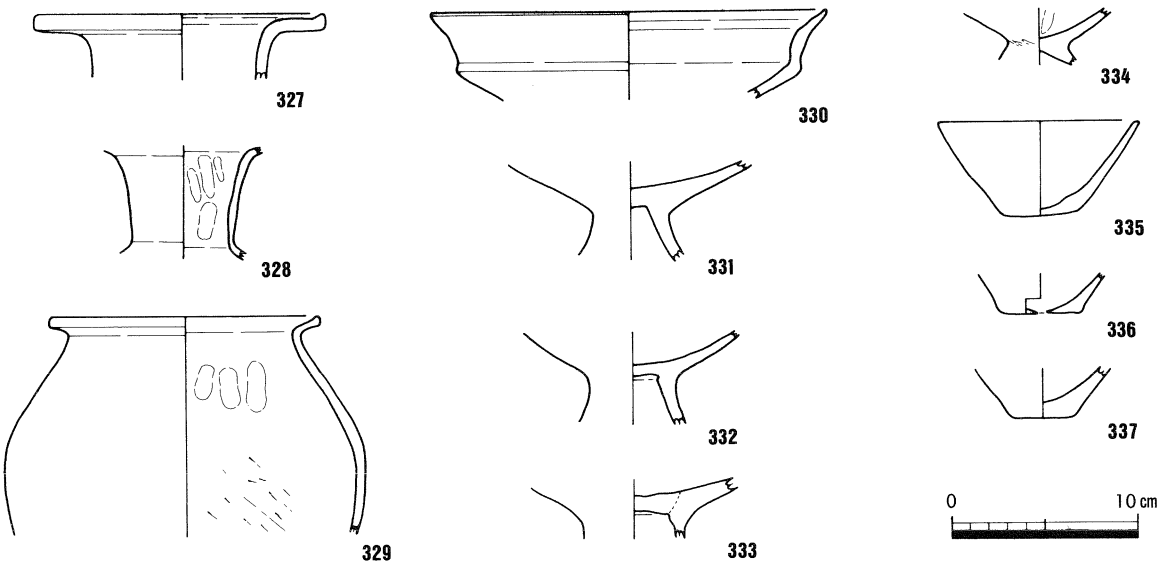


第66図　ＳＨ16平面・壁溝断面図(縮尺1/60)

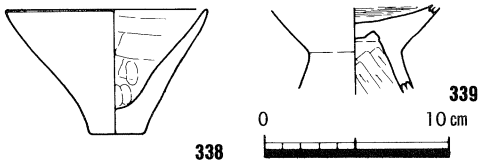
㎡と推定される。周溝は一部二重となっているが同時並存ではなく，途中で溝が交差することから再掘削されたためと考えられ，それぞれＳＤ12－１・２と呼称した。北側ではＳＤ12－１・２は１本だが，西側ではＳＤ12－１が外側となり，南側では反対にＳＤ12－２が外側となる。さらに，ＳＤ12－１・２は北側で分岐して，ＳＤ46（ＳＤ42下層溝，ＳＨ14・15周溝）に連結する溝を掘削しており，ＳＤ12－１・２の排水をＳＤ46に流していたと考えられる。ＳＤ12－１は，幅約40～70cm・深さ約20～40cmで，断面はＶ字形もしくは逆台形を呈し，埋土は２層である。ＳＤ12－２は，幅約40～50cm・深さ約30cmで，断面はＵ字形もしくは逆台形を呈し，埋土は１層のみである。なお，断面観察では，ＳＤ12－１がＳＤ12－２より後である。また，ＳＤ149は居住域からＳＤ12－２につながる短い溝で，おそらく排水用と考えられる。ＳＰ７－23（ＳＨ16主柱穴）およびＳＤ34・35と重複し，ＳＰ７－23より先行し，他の遺構との前後関係は不明である。



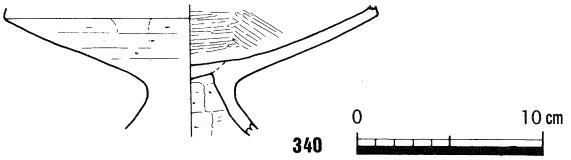
第67図　ＳＨ17周溝平面図（縮尺1/100）断面図（縮尺1/60）



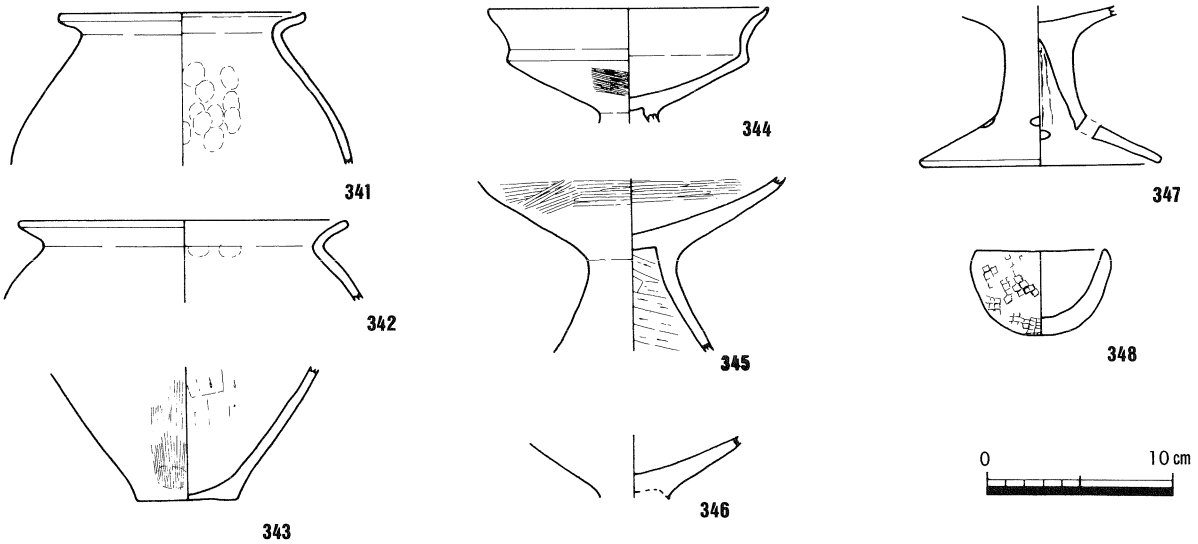
第68図　ＳＨ17周溝ＳＤ12－１出土遺物実測図(縮尺1/4)



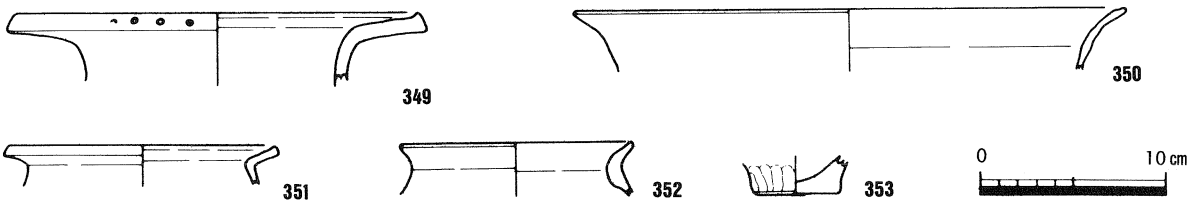
第69図　ＳＨ17周溝ＳＤ12－２
出土遺物実測図(縮尺1/4)



第70図　ＳＨ17周溝ＳＤ149
出土遺物実測図(縮尺1/4)



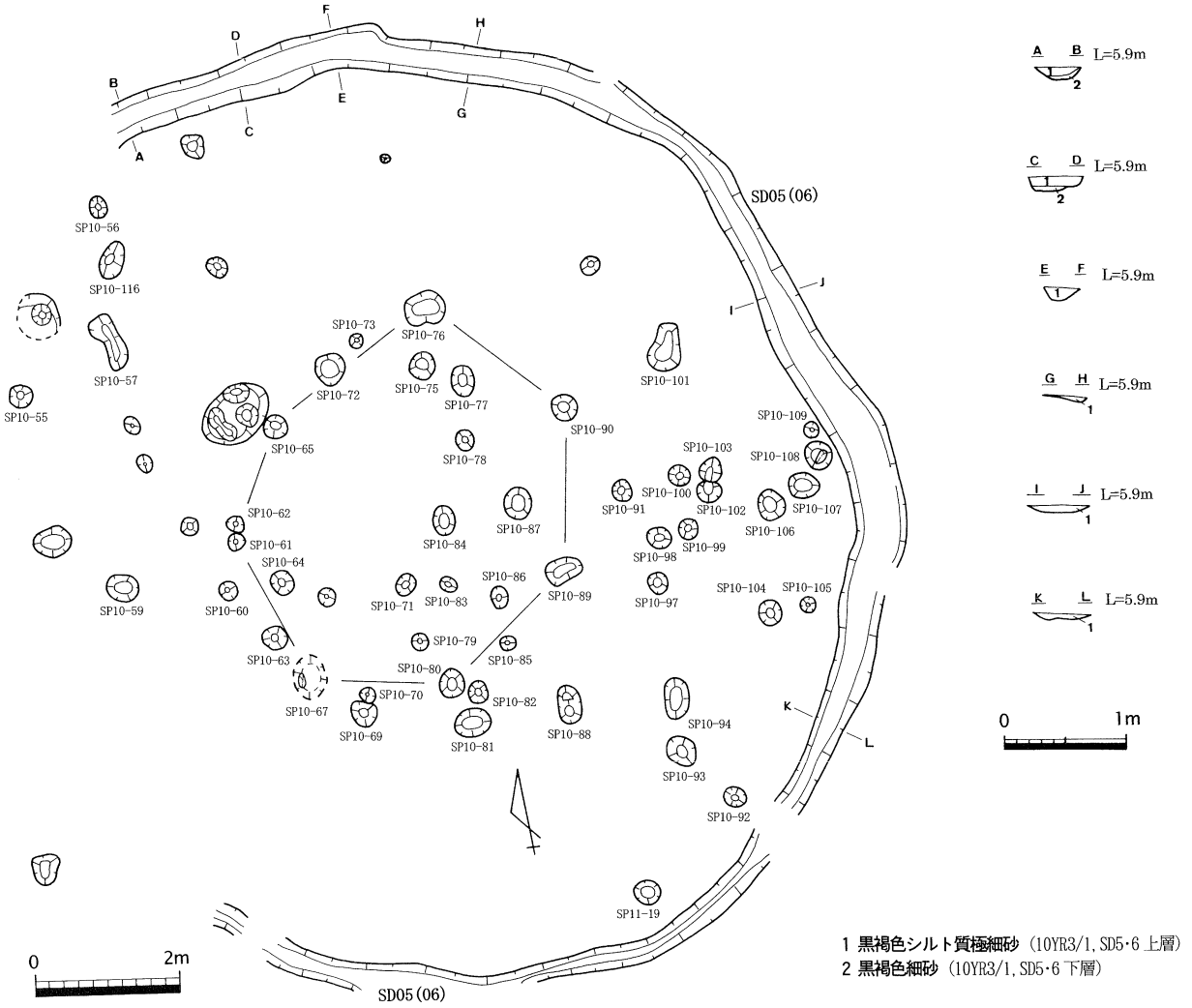
第71図　ＳＨ17周溝ＳＤ12南東側出土遺物実測図(縮尺1/4)

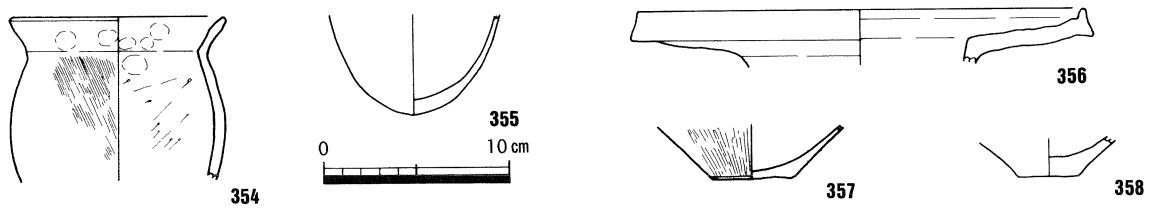


第72図　ＳＨ17周溝ＳＤ12南側(ＳＤ12－1・2交差付近)出土遺物実測図(縮尺1/4)

ＳＤ12－１の出土遺物は，広口壺（327・328）・甕（329）・高杯（330～334）・鉢（335）などが出土している。広口壺は，口縁部が直角近くに折れ端部をつまみあげ，短い頸部がつくもので，様相２～３に相当する。甕は，口縁部が短く端部を肥厚させ，様相２前後であろう。高杯は，口縁部がやや長くなり始め，強いヨコナデを施すことから，様相３前後であろう。鉢や底部（336・337）も平底であり，様相２～３に納まるものである。一方，ＳＤ12－２の出土遺物は，蓋（338）や高杯接合部（339）であり，細かい時期決定はできないが，ＳＤ12－１と同じ頃であろう。出土遺物から，ＳＤ12－１とＳＤ12－２両者の細かい時期差は判別できないが，ＳＤ12は様相２～３に相当し，弥生時代後期後半と考えられる。

ＳＤ12－１・２混在の出土遺物を概観すると，南東部分で出土した遺物は，甕（341～343）・高杯（344





第73図　ＳＨ18平面図（縮尺1/100）周溝断面図（縮尺1/60）出土遺物実測図（縮尺1/4）

～347）・鉢（348）が出土している。甕は，口縁部が短く底部は平底であり，様相２～３に相当する。高杯は，口縁部が短く様相２に相当する。鉢は，丸底だが表面にカゴ目が残るもので，特殊な使用方法が想定される。南部分で出土した遺物は，広口壺（349）・高杯（350）・甕（351・352）・底部（353）が出土している。広口壺は，口縁部が直角近くに折れ端部をつまみあげ，様相２前後であろう。甕も，口縁部が短く端部を肥厚させ，同じ頃であろう。高杯は，やや長い口縁部の破片で新しい様相が見られ，混入の可能性がある。

ＳＨ18（第73図）

10区南西で検出した。後世の削平が著しく，炉址や側壁も失われていたが，周溝であるＳＤ05（ＳＤ06）から竪穴住居の存在が推定される。ＳＤ05に囲まれた範囲に柱穴が集中しており，図面上で７～８基の柱穴による復元を試みた。柱穴からの出土遺物は，弥生土器細片のみである。

周溝ＳＤ05は，幅約40～70㎝・深さ約10～15㎝で，断面はＵ字形を呈する。埋土は２層である。周溝ＳＤ05が描く平面は，直径約13．0～13．2ｍの円であり，西端が調査区外に及ぶが，囲んだ範囲の面積は約135㎡となる。ＳＢ10・12とＳＤ04・07・41・154と重複し，ＳＤ07より後出し，ＳＤ04より先行し，他の遺構との前後関係は不明である。

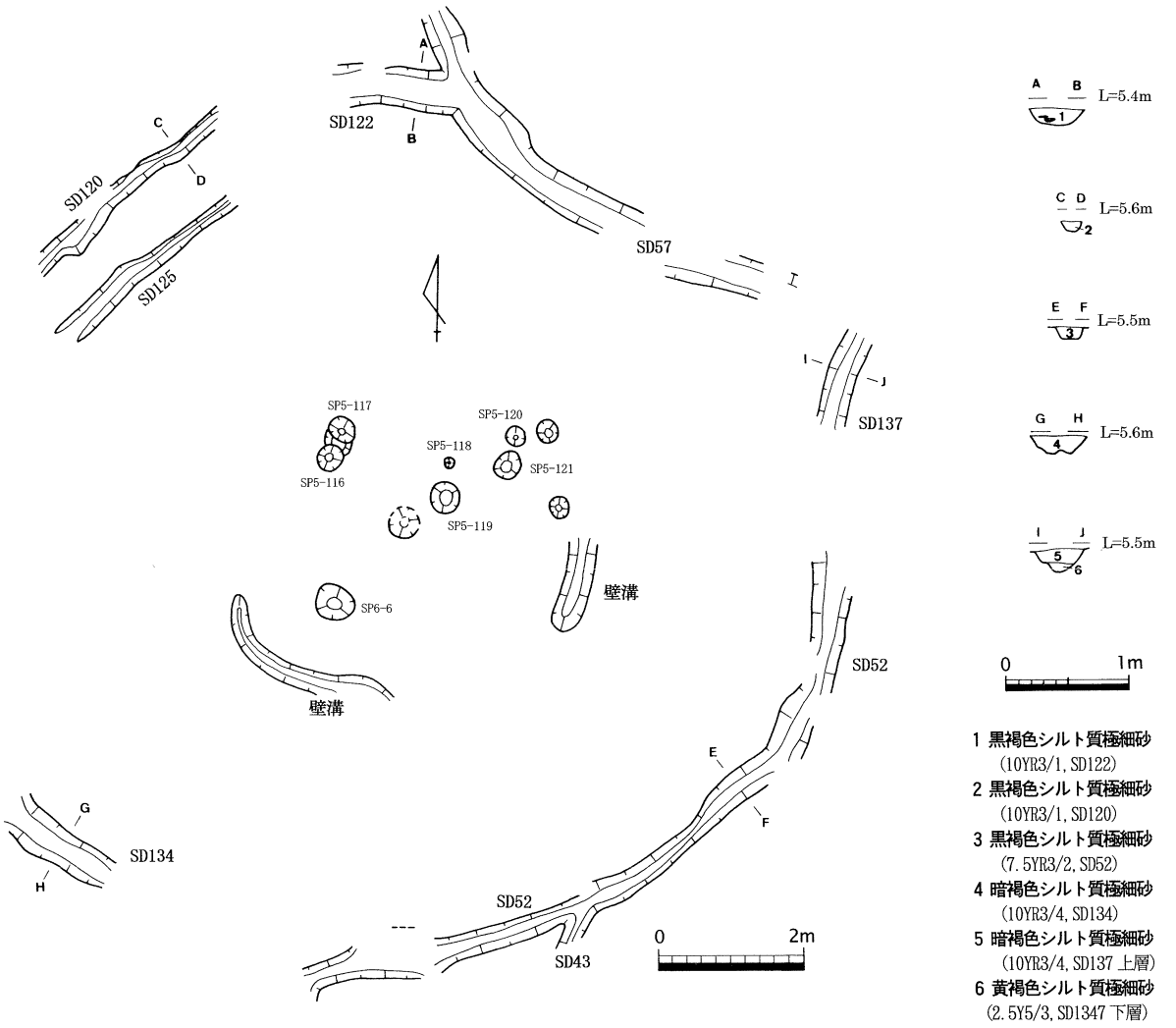
ＳＤ05の出土遺物は，甕（354・355）・広口壺（356）・底部（357・358）がある。甕は，口縁部径と体部最大径がほぼ同じもので，底部が完全に丸底となっており，様相６に相当する。広口壺は，口縁部が直角近くに折れ，しかも長いことから，様相５に相当する。底部は，平底で様相３前後と推定され，混入品と考えられる。以上のことから，ＳＤ05は様相５～６に相当し，弥生時代終末期の時期が考えられる。

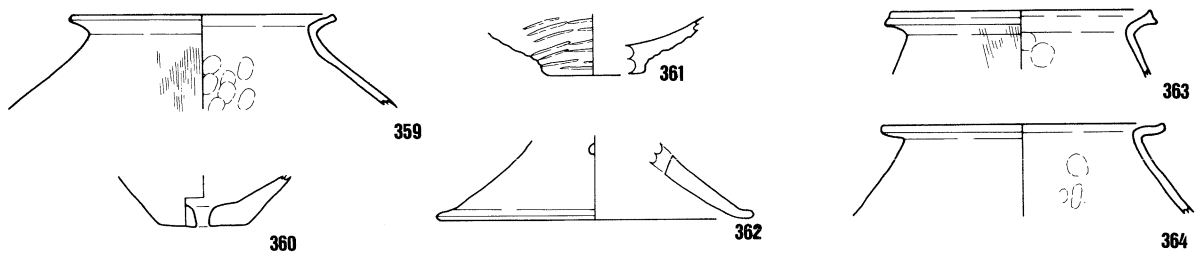
ＳＨ19（第74図）

５～６区西で検出した。後世の削平が著しく，炉址や側壁も失われていたが，壁溝の一部と考えられるものが残っていたこと，周溝であるＳＤ52・120・122・125・134・137から竪穴住居の存在が推定される。壁溝に囲まれた範囲にある柱穴から復元を試みたが，他の遺構との重複が激しく，またＳＤ55によって壊されているため，柱穴は並ばなかった。

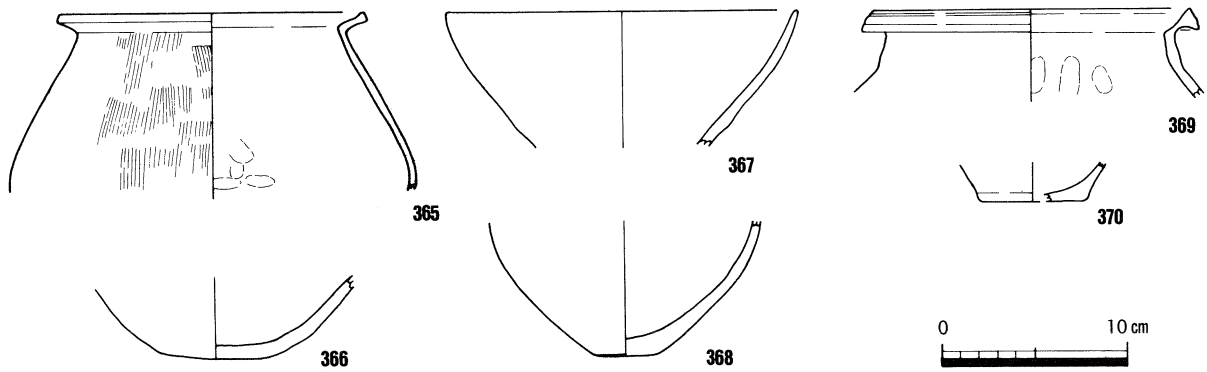
周溝は，幅約30～50㎝・深さ約10～20㎝で，断面はＵ字形または逆台形を呈する。埋土は１～２層である。周溝の遺構番号が違うのは，整理段階において周溝であることを確認したためである。ＳＤ120の内側にＳＤ125が存在するが，同じ弧を描いていることから周溝と関連する遺構と想定される。また，ＳＤ52の途中で，ＳＨ14・15の排水を流すＳＤ43が合流する。ＳＤ52はＳＤ137を経てＳＤ62（ＳＨ10・11周溝）へとつながっている。また，ＳＤ122はＳＤ57（ＳＨ10周溝）へとつながっている。これら周溝が描く平面は，直径約11.6～11.8ｍのやや不整な円であり，西端が調査区外に及ぶが，囲んだ範囲の面積は約104㎡となる。ＳＨ01・13やＳＤ54・55・109・138などと重複し，ＳＨ01より後出し，ＳＤ55より先行し，他の遺構との前後関係は不明である。

周溝ＳＤ52の出土遺物は，甕（359～361）・高杯（362）が出土している。甕（359）は，口縁部が短いが薄く，肩が張っており様相４～５に相当する。360は穿孔があり甑として利用されている。361は，外面に叩きが施され底部にくびれをもち平底のもので，東讃でよく見られ，様相４～５に並行すると考えられている。ＳＤ122の出土遺物は，甕（365）・鉢（367）・底部（366・368）が出土している。甕は，口縁部に強いヨコナデが施され，やや肩が張っており様相４に相当する。底部も，平底を残すが丸底化が進んでおり，様相４～５に相当する。ＳＤ134からは甕（363・364）が出土しており，363は口縁端部を上下に拡張し後期前半，364は口縁部が水平近くに折れ，やや肩が張っており様相４～５に相当する。ＳＤ137からは甕（369）と底部（370）が出土しており，甕は口縁端部を上下に拡張し後期前半，底部は厚さのうす





359～362 SD52　363～364 SD134　365～368 SD122　369～370 SD137



第74図　ＳＨ19平面図(縮尺1/100)周溝断面図(縮尺1/60)出土遺物実測図(縮尺1/4)

い平底で後期後半と推定される。以上，周溝からの出土遺物を検討すると，様相４～５に相当する遺物が多く出土しており，ＳＤ57を周溝として共有するＳＨ10が様相４～５に相当することから，ＳＨ19も様相４～５に相当し弥生時代終末期の時期が考えられる。

ＳＨ20（第75図）

７区北東で検出した。後世の削平が著しく，炉址や側壁も失われていたが，周溝であるＳＤ34・140・145から竪穴住居の存在が推定される。周溝に囲まれた範囲に柱穴が集中しており，図面上で４基以上の柱穴による復元を試みた。柱穴からの出土遺物は，弥生土器細片のみである。

周溝は，幅約30～40cm・深さ約10～30cmで，断面はＵ字形を呈し，埋土は１層のみである。周溝の遺構番号が違うのは，整理中において周溝であることを確認したためである。また，ＳＤ34とＳＤ145が交差しており，１度は再掘削が行われた可能性がある。これら周溝が描く平面は，直径約11.0mの円であり，東端が調査区外に及ぶが，囲んだ範囲の面積は約95㎡となる。ＳＤ12（ＳＨ17周溝）・36（ＳＨ14・15周溝）・37（ＳＨ14・15周溝）・147と重複し，ＳＤ147より先行し，他の遺構との前後関係は不明である。

出土遺物は弥生土器細片のみで時期決定はできないが，竪穴住居ＳＨ14・15の第３段階で述べたとおり，同規模の周溝（ＳＤ144・146）が隣接または接続する可能性があることから，同じ様相４に属する可能性があり，この場合ＳＨ20の所属時期は弥生時代終末期となる。

ＳＨ21（第76図）

10～11区西で検出した。竪穴住居相当部分は調査区外に及ぶが，周溝と推定されるＳＤ08・39・41から竪穴住居の存在を推定した。

周溝は，幅約30～90cm・深さ約10～30cmで，断面はＵ字形を呈する。埋土は１～２層である。周溝の遺構番号が違うのは，整理段階において周溝であることを確認したためである。周溝が描く平面は，直径約14.0mの円であり，東端の一部を検出したにすぎない。囲んだ範囲の面積を算出すると約154㎡となる。ＳＤ04・05（ＳＨ18周溝）・135と重複し，ＳＤ04より先行し，他の遺構との前後関係は不明である。

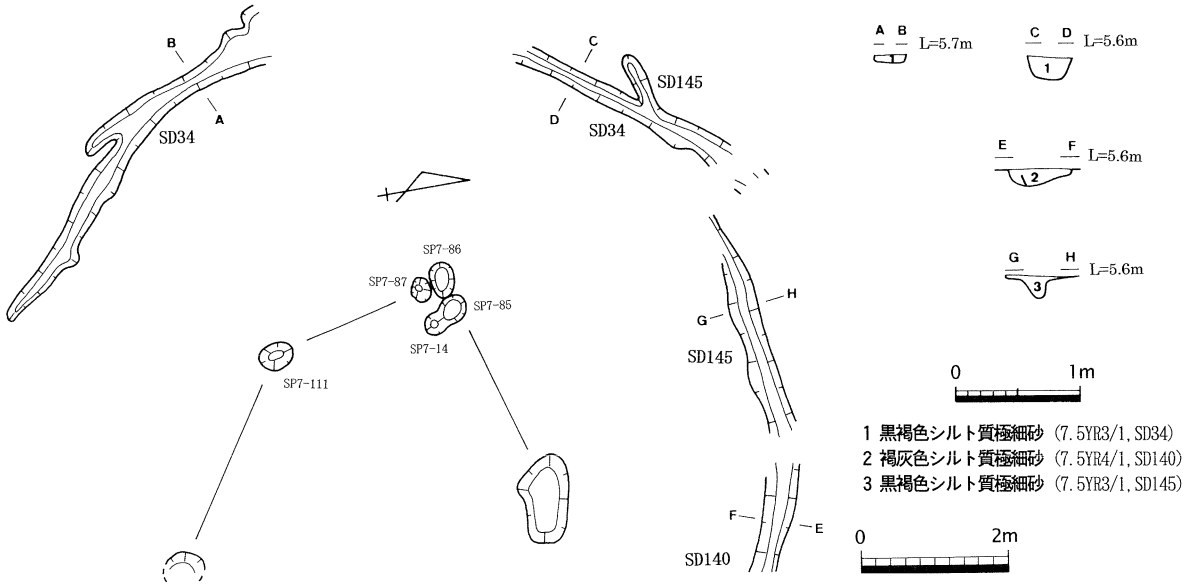
周溝ＳＤ08・41の出土遺物は，底部（371～374）・高杯（375）・用途不明石器（376）が出土している。底部は丸底化が認められるもまだ平底であり，高杯は口縁部が短いことから，様相３前後に相当し，弥生時代後期後半と考えられる。

ＳＨ22（第77図）

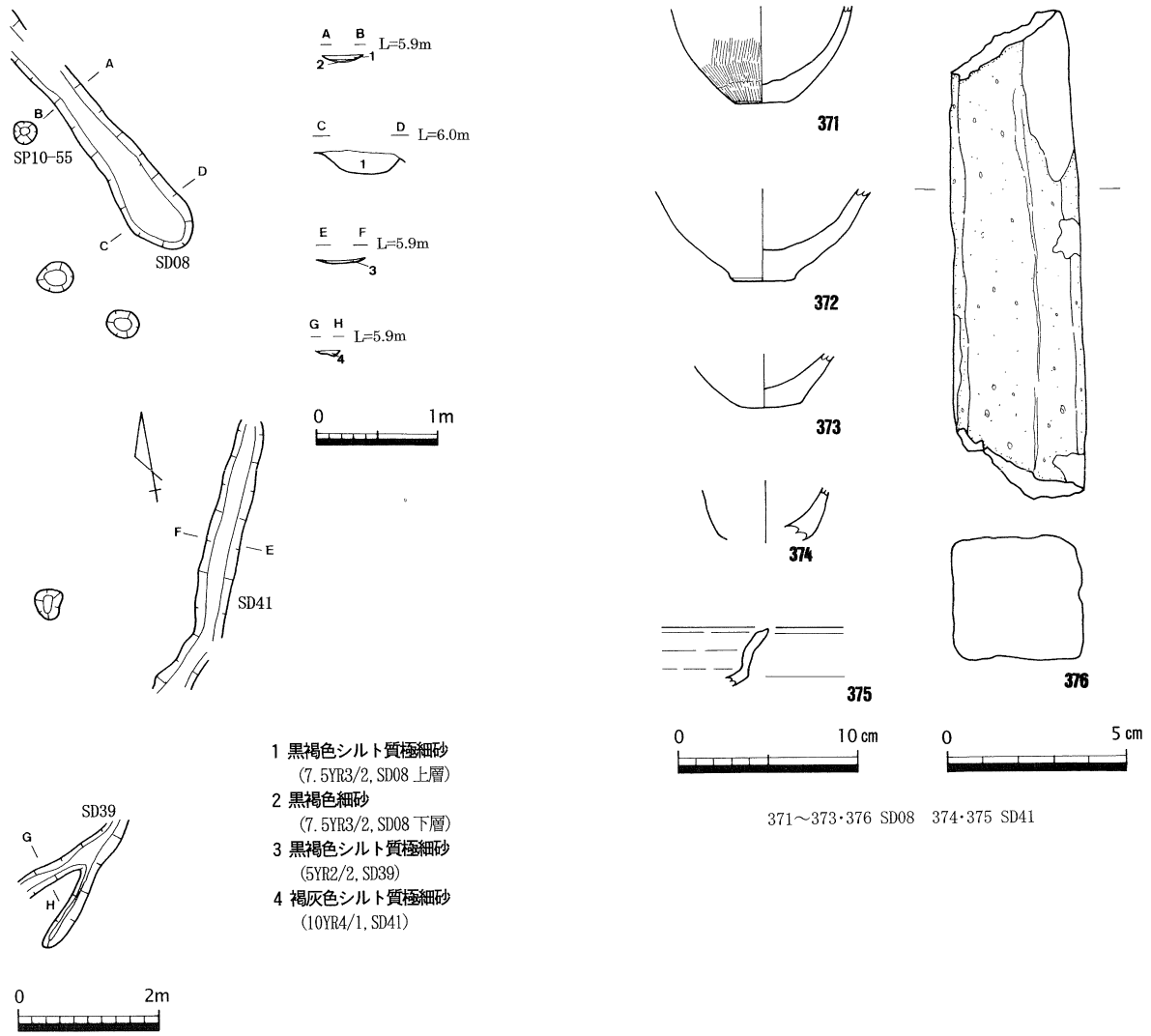
５区中央で検出した。遺構の重複や後世の削平が著しく，竪穴住居に伴う遺構は不明だが，周溝であるＳＤ83・109から竪穴住居の存在が推定される。

周溝は，幅約30～40cm・深さ約40cmで，断面はＵ字形を呈し，埋土は３層である。周溝の遺構番号が違うのは，整理中において周溝であることを確認したためである。これら周溝が描く平面は直径約13.0～13.2mの円であり，囲んだ範囲の面積は約135㎡となる。ＳＨ10～12とＳＤ55・57（ＳＨ10周溝）・59（ＳＨ11周溝）・62（ＳＨ10・11周溝）・63・104（ＳＨ23周溝）などと重複し，ＳＤ63より後出し，ＳＤ55より先行するが，他の遺構との前後関係は不明である。

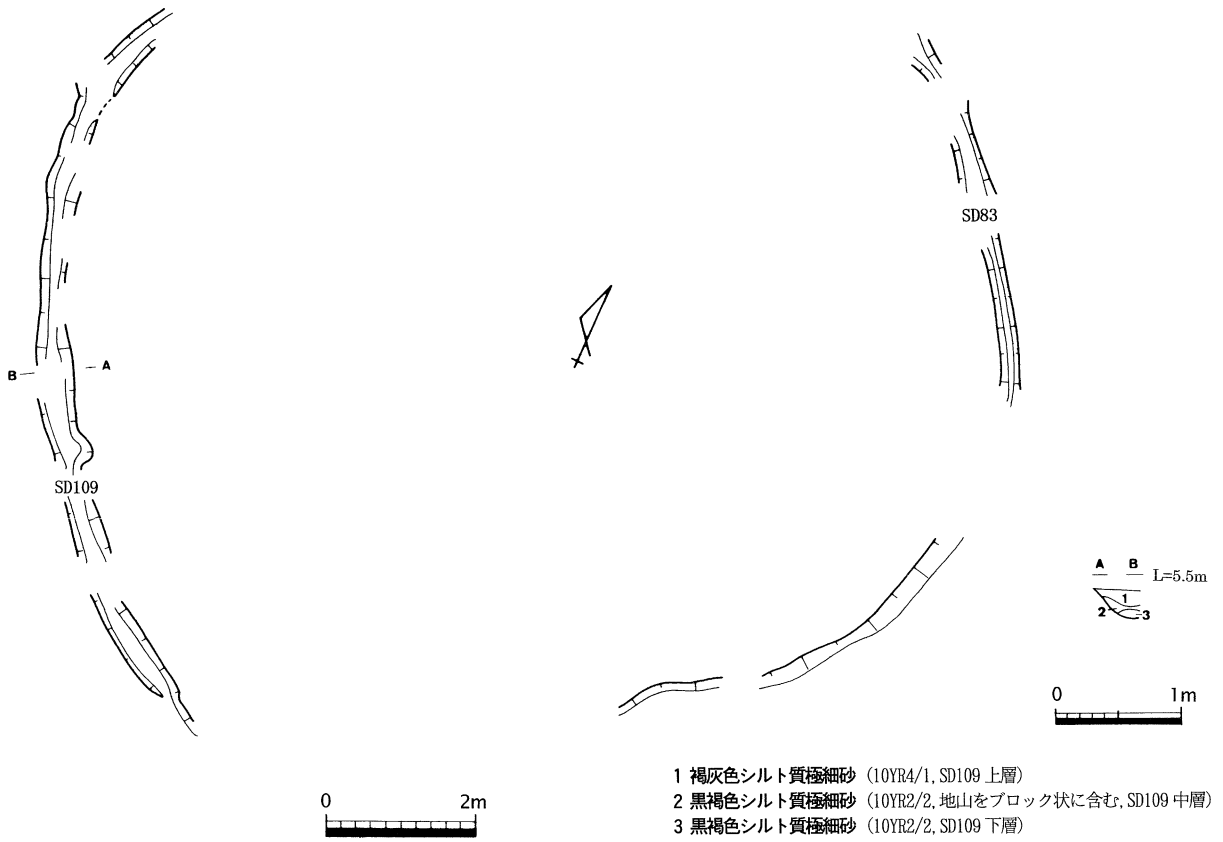
周溝ＳＤ83の出土遺物は，甕（377・378）のみが出土している。377は，口縁端部を上下に拡張し後期前半のもの，378は肩が張っているだけでなく体部の球形化が見られることから様相５～６に相当する。ＳＤ109からは，細頸壺（379）・広口壺（380）・甕（381）・高杯（382・383）・底部（384・385）が出土している。細頸壺は，口縁部がふくらまず様相１～２に相当する。広口壺は，口縁端部を下方に拡張し，退化した凹線を施し，後期前半に相当する。甕は，口縁部が短く端部のつまみあげをわずかに残し様相３前後に相当する。高杯は，脚部を大きく広げており，終末期に相当する。底部のうち，384は丸底化が進



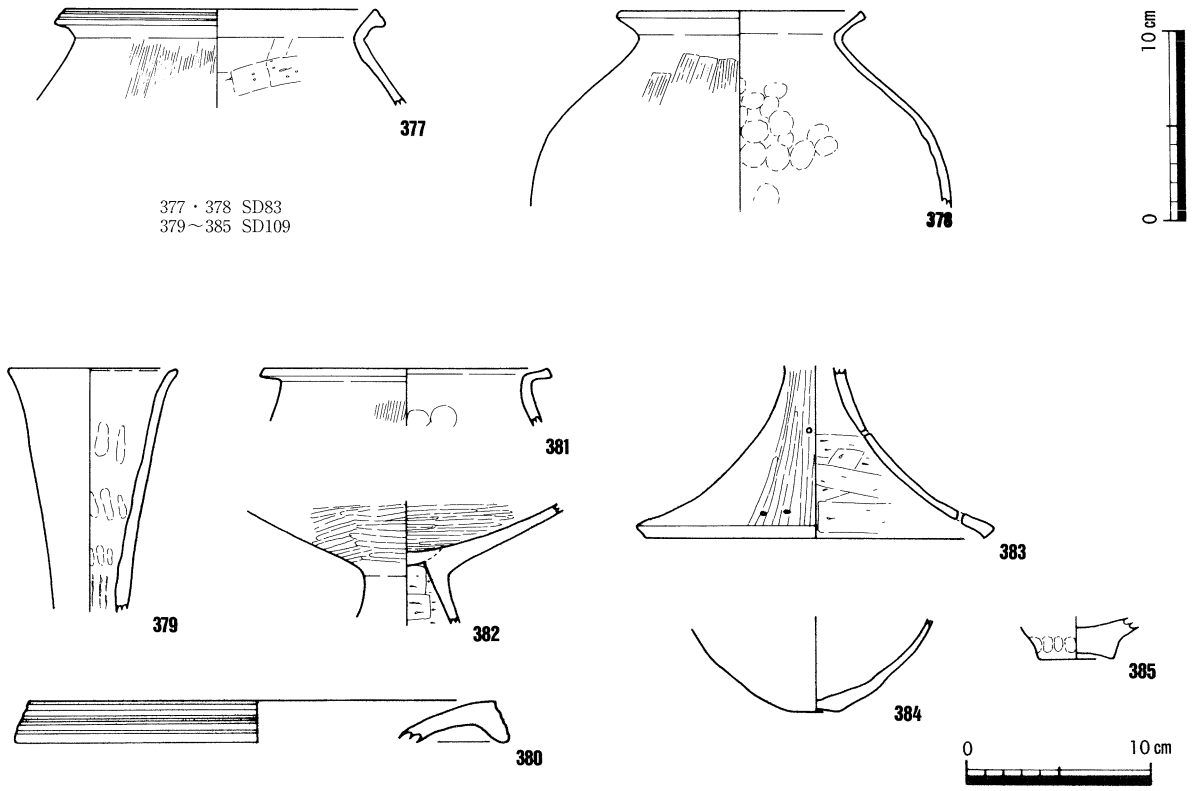
第75図　ＳＨ20平面図(縮尺1/100)周溝断面図(縮尺1/60)



第76図　ＳＨ21平面図(縮尺1/100)周溝断面図(縮尺1/60)周溝出土遺物実測図(縮尺1/4, 1/2)

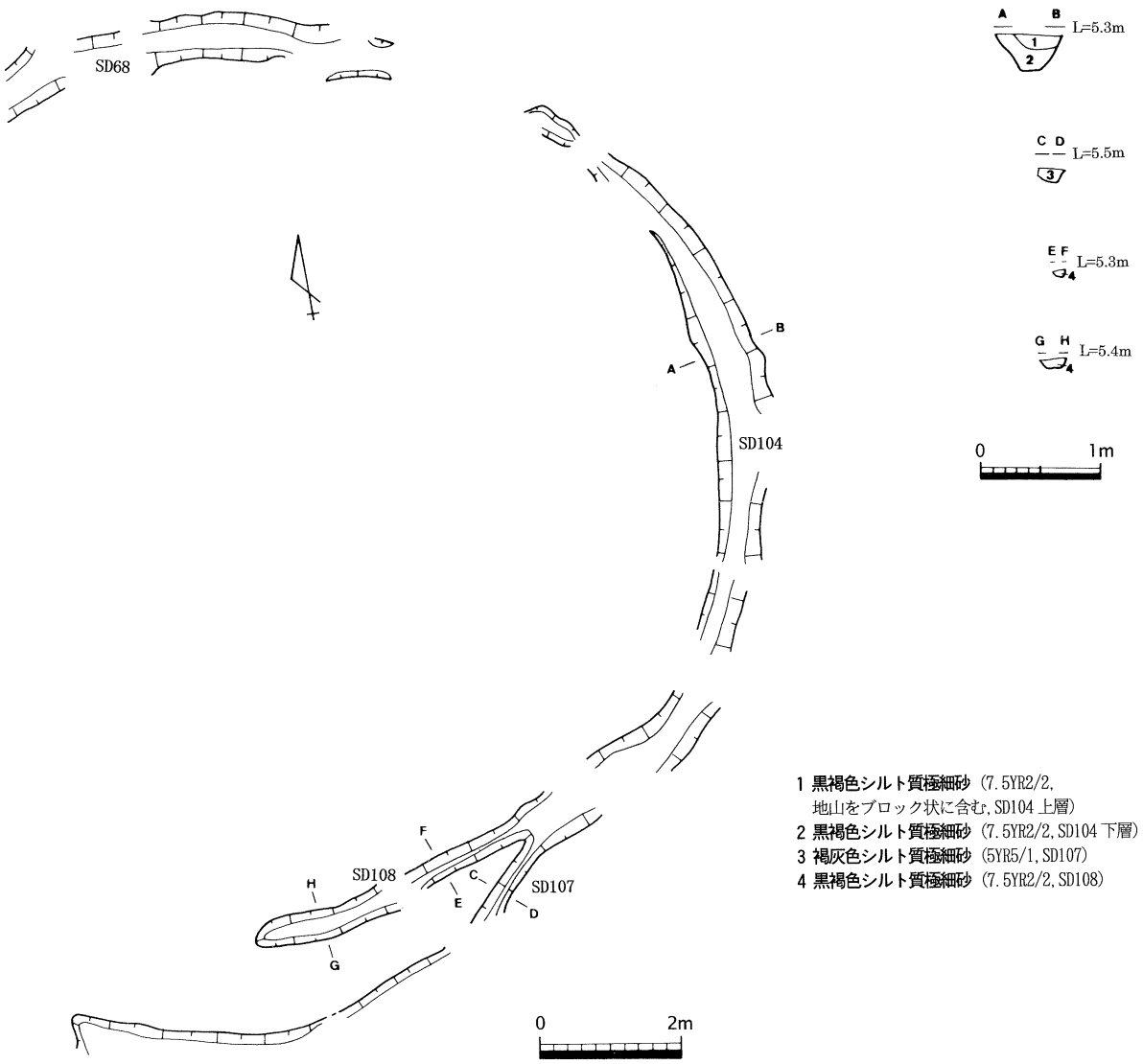


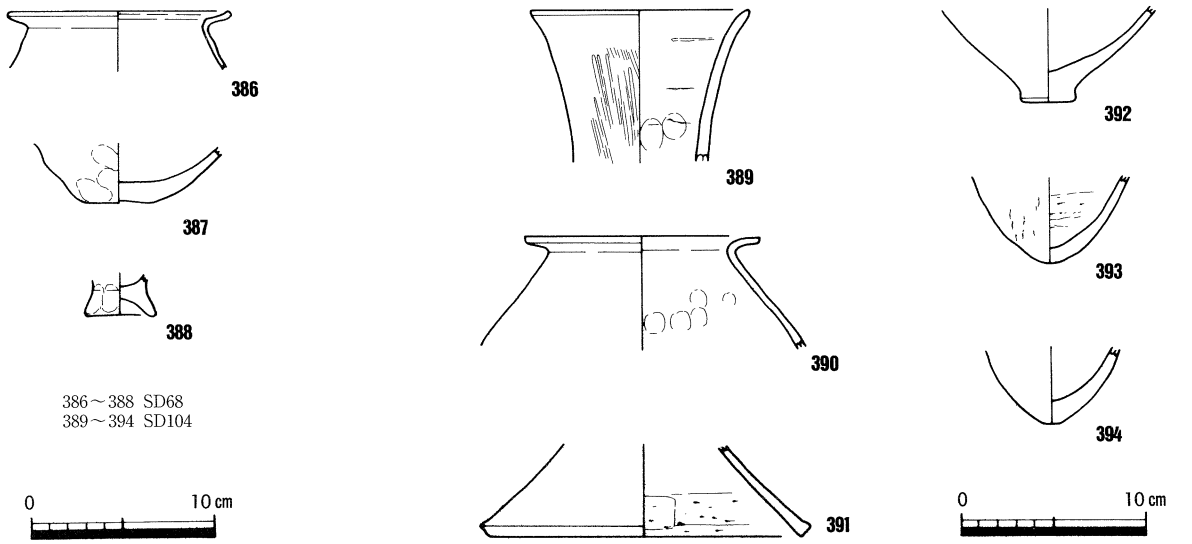
1 褐灰色シルト質極細砂（10YR4/1, SD109 上層）
2 黒褐色シルト質極細砂（10YR2/2, 地山をブロック状に含む, SD109 中層）
3 黒褐色シルト質極細砂（10YR2/2, SD109 下層）



377・378 SD83
379～385 SD109

第77図　ＳＨ22平面図（縮尺1/100）周溝断面図（縮尺1/60）周溝出土遺物実測図（縮尺1/4）





第78図　ＳＨ23平面図（縮尺1/100）周溝断面図（縮尺1/60）周溝出土遺物実測図（縮尺1/4）

んでおり様相５～６に，385はやや上げ底の平底で，様相３前後であろう。以上のように，出土遺物は後期前半から終末期のものが混じっているが，もっとも新しい時期を採用すれば，様相５～６に相当し弥生時代終末期と考えられる。

ＳＨ23（第78図）

５区西で検出した。遺構の重複や後世の削平が著しく，竪穴住居に伴う遺構は不明だが，周溝であるＳＤ68・104・108から竪穴住居の存在が推定される。

周溝は，幅約30～60㎝・深さ約10～50㎝で，断面は逆台形を呈し，埋土は１～２層である。周溝の遺構番号が違うのは，整理中において周溝であることを確認したためである。これら周溝が描く平面は直径約12.8ｍの円であり，西端が調査区に及ぶが，囲んだ範囲の面積は約129㎡となる。また，ＳＤ104から分岐してＳＤ107が弧を描きながらのびており，周溝を拡張している可能性がある。ＳＨ10・11とＳＤ55・57（ＳＨ10周溝）・59（ＳＨ11周溝）・56・63・99（ＳＨ03周溝）・109（ＳＨ22周溝）などと重複し，ＳＤ63より後出し，ＳＤ55より先行するが，他の遺構との前後関係は不明である。

周溝ＳＤ68からは，甕（386）・底部（387）・製塩土器（388）が出土している。甕は口縁部がうすく長く，底部はほぼ丸底であり，様相５～６に相当する。ＳＤ104からは，長頸壺（389）・甕（390）・高杯（391）・底部（392～394）が出土している。長頸壺は口縁部が折れ曲がらないもので様相１前後，甕は口縁部が水平近くに折れ曲がり様相５～6,底部も球形化しており様相６に相当する。以上のように，出土遺物は少し古いものが混じるが，ＳＨ23は様相６に相当し弥生時代終末期と考えられる。

(2) 掘立柱建物跡

弥生時代後期～古墳時代前期初頭に属すると推定される掘立柱建物跡は，計12棟確認している。このうち，調査時に確認していた掘立柱建物跡は８棟で，整理時に柱穴の位置から類推したのは４棟である。平面形態は，桁行２間以上，梁間１間の長方形を基調としている。桁行は３間のものが４棟と多いが，ＳＢ01のように４間のものも見られる。主軸は，すべて東西方向でＮ64°～89°ＷまたはＮ78°～89°Ｅを示し，遺跡付近に残る条里地割とはあまり一致しない。また，柱穴は円形のものだけで，方形のものは１基も存在しない。

このため，数少ない出土遺物からも考慮して，掘立柱建物跡の時期を弥生時代後期～古墳時代前期初頭とした。ただし，付近にわずかながら古代の溝が確認され，竪穴住居ＳＨ09のように弥生土器しか出土しないが，その構造から古代に属することが判明したものもあり，掘立柱建物跡の詳細な時期判定には，資料の増加が待たれる。

ＳＢ01（第79図）

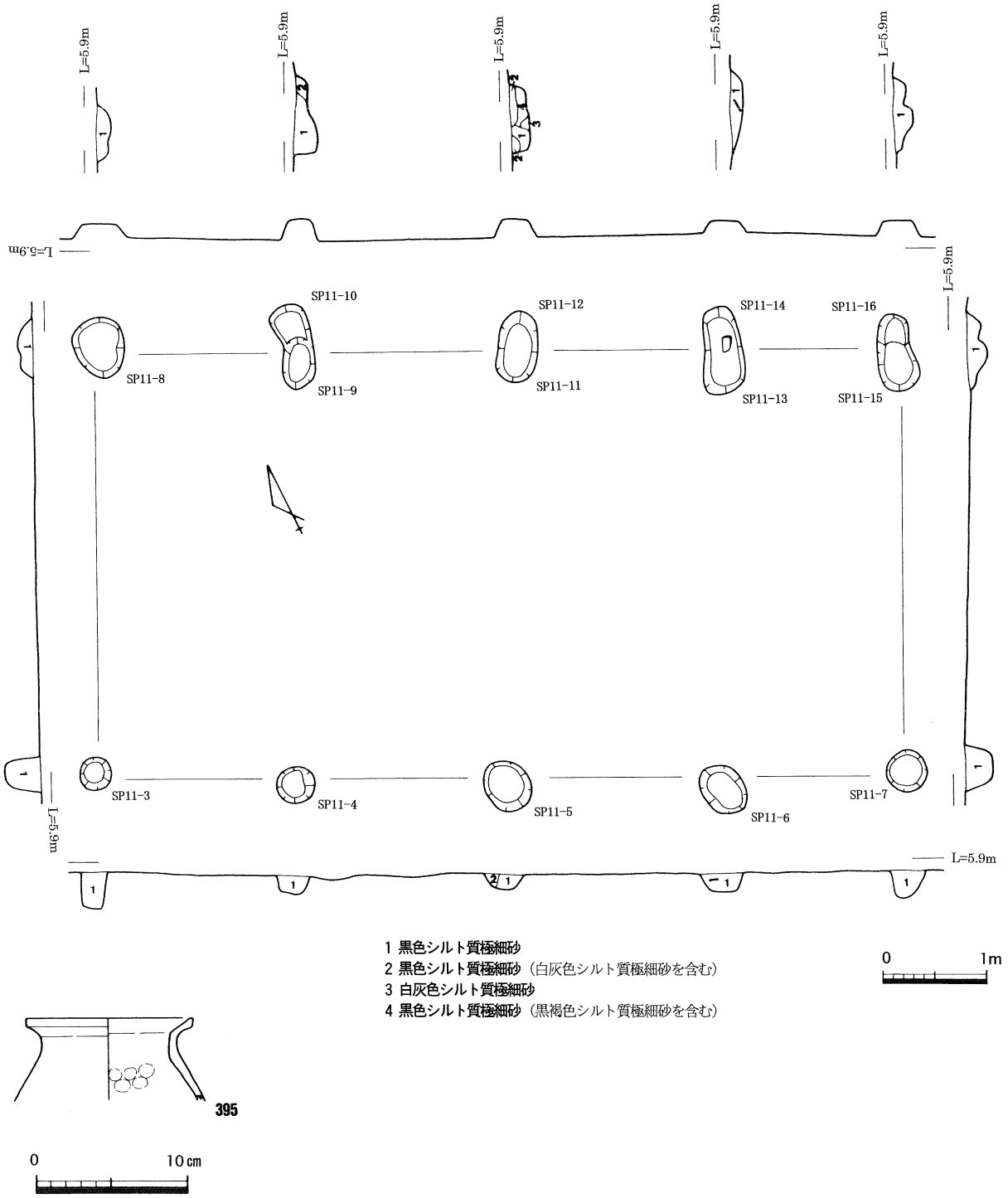
11区中央で検出した掘立柱建物跡である。主軸方位はＮ64°Ｗであり，桁行４間(7.9ｍ)，梁間１間(4.1ｍ）の規模をもつ長方形の棟で，床面積は約32㎡を測る。桁行の芯心間の距離は1.7～2.1ｍを測る。柱穴の平面は円形であり，その規模は直径30～40㎝，深さ15～30㎝を測る。柱穴の埋土は，黒色シルト質極細砂が主体を占める。北側桁行のすべての柱穴は，柱穴の平面が２基ずつ瓢箪形に重なっている。これは，建替えが行われたのか，または添え木をした可能性が考えられる。埋土の断面観察では，２基の柱穴の新旧は明らかにできなかった。

出土遺物は，弥生土器破片が見られる。図化できたＳＰ11－９・10出土の甕（395）から，ＳＢ01は弥生時代後期後半のものと考えられる。

ＳＢ02（第80図）

11区東で検出した掘立柱建物跡である。主軸方位はN77°Ｗであり，桁行３間（5.4m），梁間１間（3.0m）の規模をもつ長方形の棟で，床面積は約16㎡を測る。桁行の芯心間の距離は1.7～2.0mを測る。柱穴の平面は円形であり，その規模は直径40～60cm，深さ15～25cmを測る。柱穴の埋土は，黒褐色シルト質極細砂が主体を占める。ＳＰ11－40の底には，川原石を使った根石が残されていた。ＳＢ03・ＳＤ04と重複し，ＳＤ04より先行するが，ＳＢ03との前後関係は不明である。

出土遺物は，弥生土器破片が見られる。図化できたＳＰ11－30出土の広口壺（396）から，ＳＢ02は弥

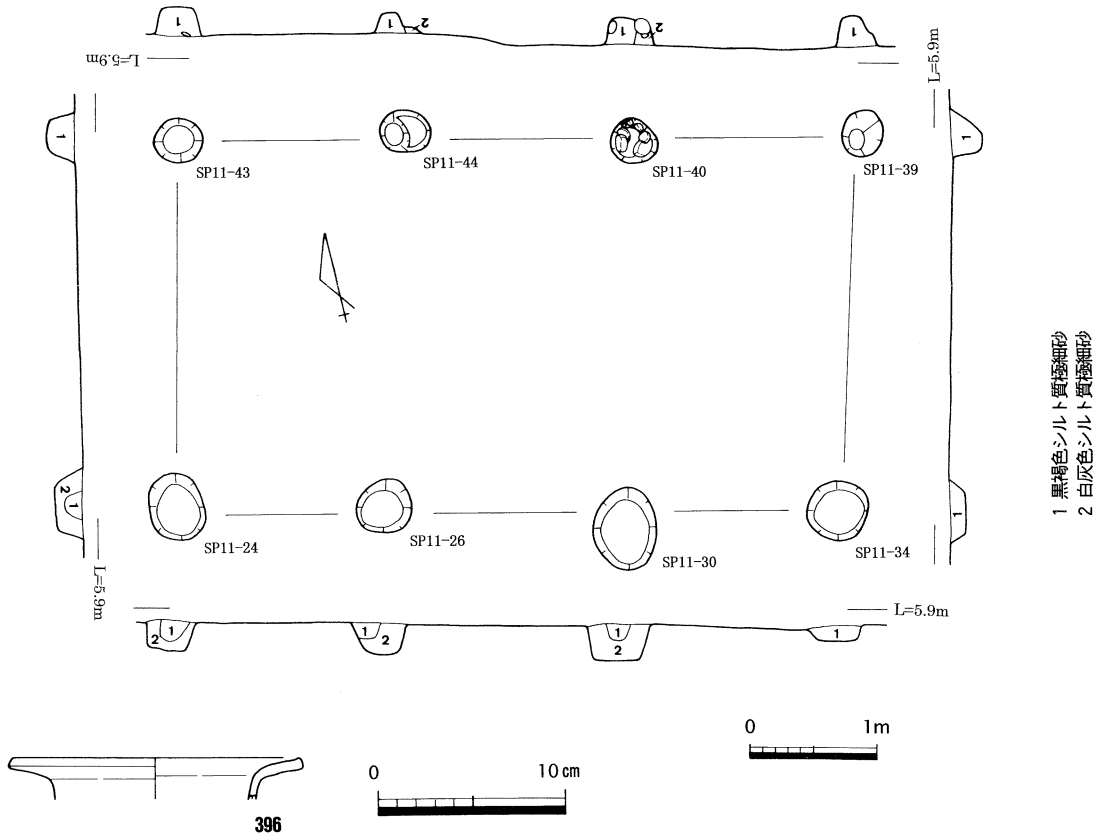


第79図　ＳＢ01平面・断面図（縮尺1/60）出土遺物実測図（縮尺1/4）

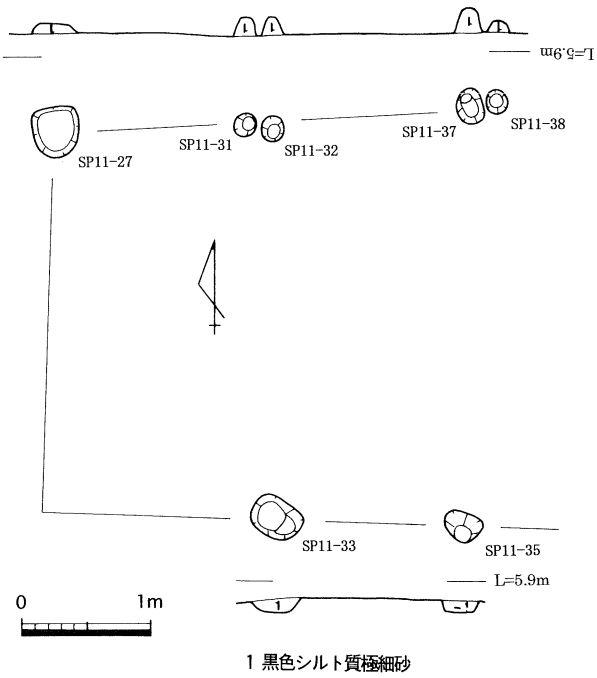
生時代後期後半のものと考えられる。

ＳＢ03（第81図）

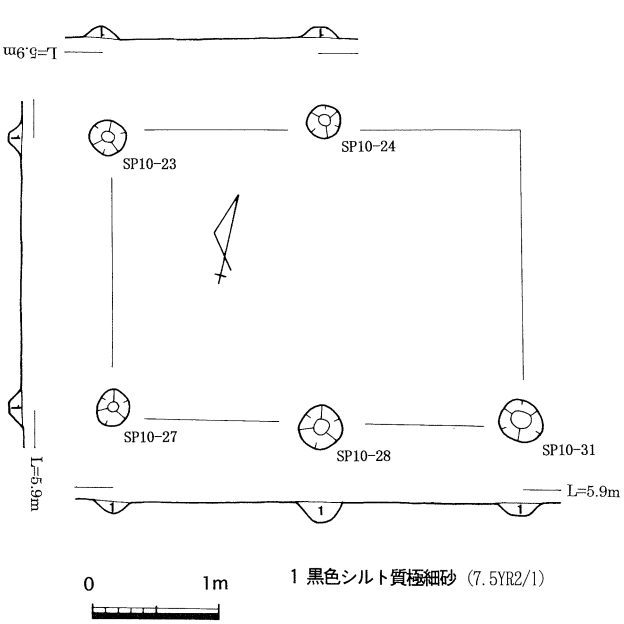
11区東で検出した掘立柱建物跡である。主軸方位はＮ89°Ｅであり，桁行２間以上（3.7m以上），梁間１間（3.2m）の規模をもつ長方形の棟で，床面積は約12㎡以上を測る。東側が調査区外に及ぶため，全



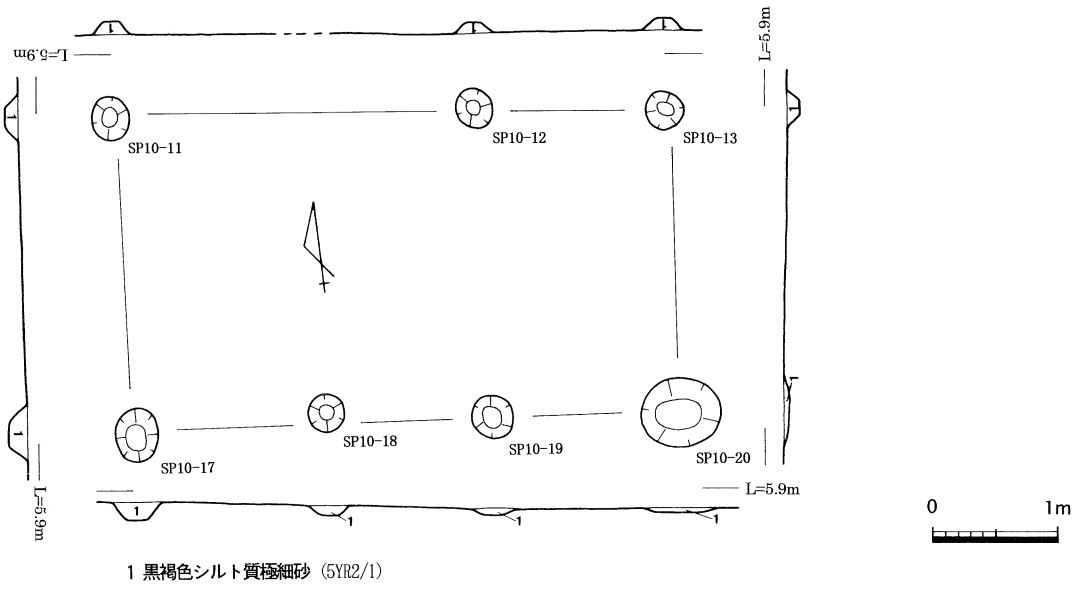
第80図　ＳＢ02平面・断面図（縮尺1/60）出土遺物実測図（縮尺1/4）



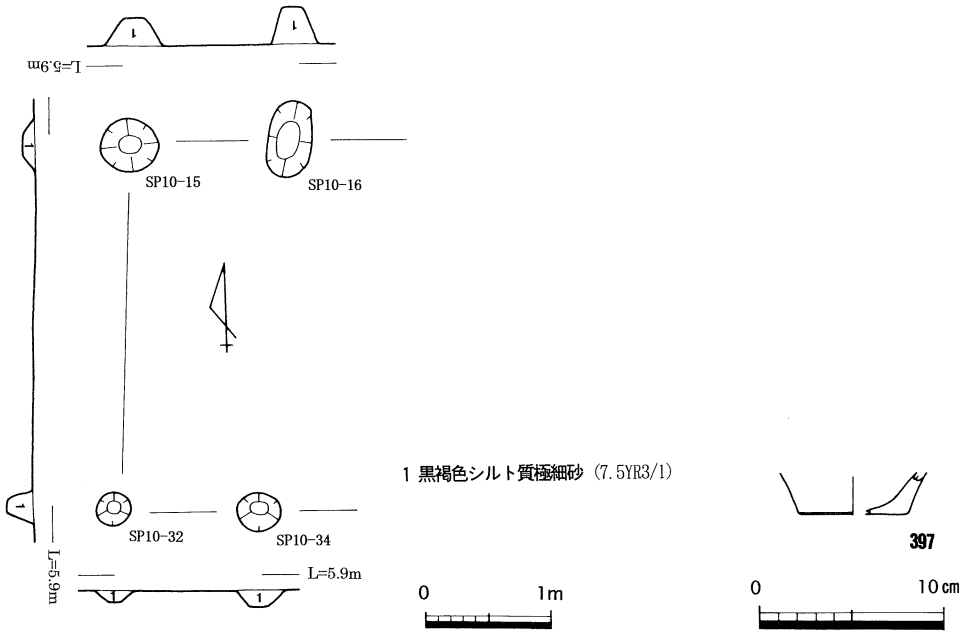
第81図　ＳＢ03平面・断面図（縮尺1/60）



第82図　ＳＢ04平面・断面図（縮尺1/60）



第83図　ＳＢ05平面・断面図(縮尺1/60)



第84図　ＳＢ06平面・断面図(縮尺1/60)出土遺物実測図(縮尺1/4)

体の規模は不明である。また，南西隅の柱穴は，後世の削平により失われている。桁行の芯心間の距離は1.5～1.8mを測る。柱穴の平面は円形であり，その規模は直径20～40cm，深さ10～20cmを測る。北側桁行の柱穴のうち，２基の柱穴に別の柱穴が隣接していることから，建替えが行われたのか，または添え木をした可能性が考えられる。柱穴の埋土は，黒色シルト質極細砂が主体を占める。ＳＢ02・ＳＤ02と重複するが，前後関係は不明である。

出土遺物は弥生土器細片のみで，図化できるものはなかった。他の掘立柱建物跡と類似する構造・規模をもつことから，ＳＢ03も弥生時代後期後半のものと考えられる。

ＳＢ04（第82図）

10区東で検出した掘立柱建物跡である。主軸方位はＮ78°Ｅであり，桁行２間（3.2m），梁間１間（2.3m）の規模をもつ長方形の棟で，床面積は約７㎡を測る。北東隅の柱穴は，後世の削平により失われてい

る。また，他の掘立柱建物跡が３間以上なのに対し，ＳＢ04のみが桁行２間である。桁行の芯心間の距離は1.6～1.7ｍを測る。柱穴の平面は円形であり，その規模は直径30～35㎝，深さ10～20㎝を測る。柱穴の埋土は，黒色シルト質極細砂が主体を占める。

出土遺物はないが，他の掘立柱建物跡と類似する構造・規模をもつことから，ＳＢ04も弥生時代後期後半のものと考えられる。

ＳＢ05（第83図）

10区東で検出した掘立柱建物跡である。主軸方位はＮ85°Ｗであり，桁行３間（4.5ｍ），梁間１間（2.5ｍ）の規模をもつ長方形の棟で，床面積は約11㎡を測る。北桁行の柱穴１基が，後世の削平により失われている。桁行の芯心間の距離は1.35～1.5ｍを測る。柱穴の平面は円形であり，その規模は直径30～60㎝，深さ10～15㎝を測る。柱穴の埋土は，黒褐色シルト質極細砂である。

出土遺物はないが，他の掘立柱建物跡と類似する構造・規模をもつことから，ＳＢ05も弥生時代後期後半のものと考えられる。

ＳＢ06（第84図）

10区東で検出した掘立柱建物跡である。主軸方位はＮ88°Ｗであり，桁行１間以上（1.3ｍ以上），梁間１間（2.9ｍ）の規模をもつ長方形の棟と推定され，床面積は４㎡以上を測る。東側が調査区外に及ぶため，全体の規模は不明である。桁行の芯心間の距離は1.2～1.3ｍを測る。柱穴の平面は円形であり，その規模は直径30～60㎝，深さ10～30㎝を測る。柱穴の埋土は，黒褐色シルト質極細砂である。

出土遺物は，弥生土器破片が見られる。図化できたＳＰ10－34出土の底部（397）から，ＳＢ06は弥生時代後期後半のものと考えられる。

ＳＢ07（第85図）

８区東で検出した掘立柱建物跡である。主軸方位はＮ89°Ｗであり，桁行２間以上（5.0ｍ以上），梁間１間（3.35ｍ）の規模をもつ長方形の棟で，床面積は17㎡以上を測る。東側が調査区外に及ぶため，全体の規模は不明である。桁行の芯心間の距離は2.5ｍを測る。柱穴の平面は円形であり，その規模は直径50～80㎝，深さ20～30㎝を測る。柱穴の埋土は，黒褐色シルト質極細砂である。ＳＤ11と重複し，ＳＤ11より後出する。

出土遺物は弥生土器細片のみで，図化できるものはなかった。他の掘立柱建物跡と類似する構造・規模をもつことから，ＳＢ07も弥生時代後期のものと考えられる。

ＳＢ08（第86図）

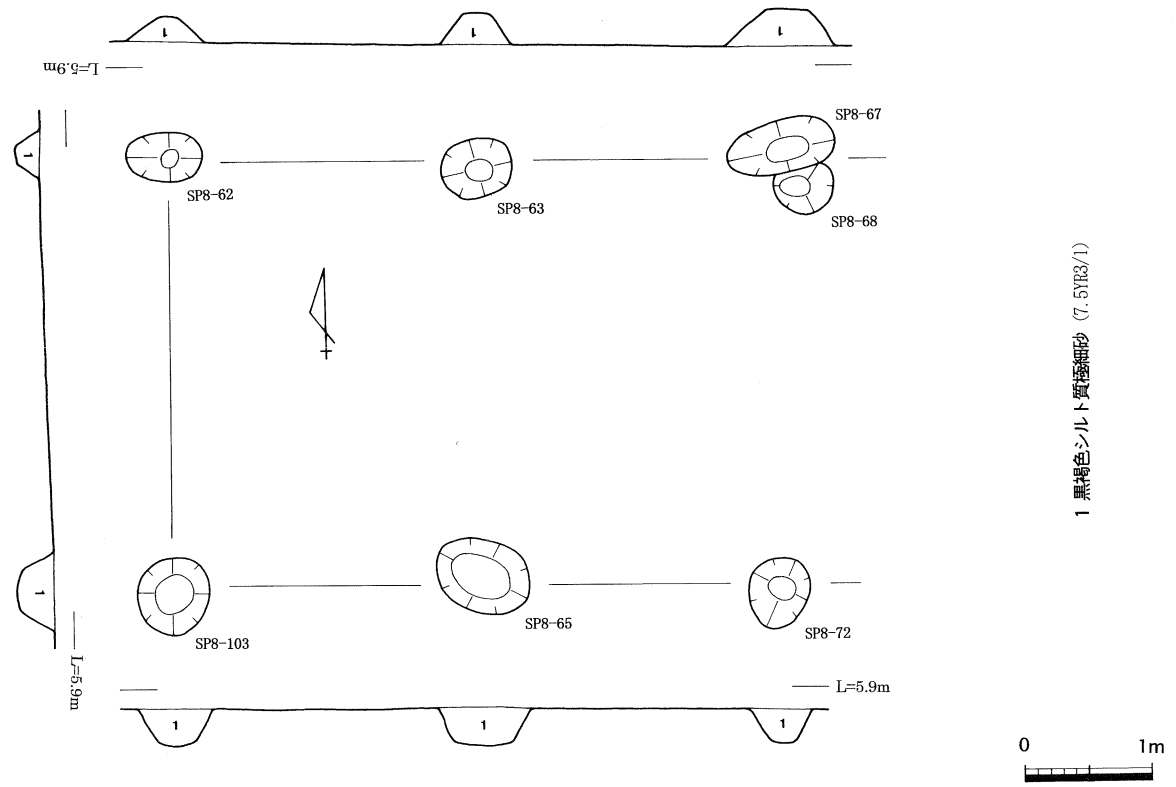
８区中央で検出した掘立柱建物跡である。主軸方位はＮ88°Ｗであり，桁行３間（5.4ｍ），梁間１間（3.7ｍ）の規模をもつ長方形の棟で，床面積は約20㎡を測る。桁行の芯心間の距離は1.8ｍを測る。柱穴の平面は円形であり，その規模は直径40～60㎝，深さ20～40㎝を測る。南北桁行の柱穴のうち，対の位置にある柱穴１基ずつに別の柱穴が隣接しており，建替えが行われたのか，または添え木をした可能性が考えられる。柱穴の埋土は，黒褐色シルト質極細砂である。ＳＫ03と重複するが，前後関係は不明である。

出土遺物は弥生土器細片のみで，図化できるものはなかった。他の掘立柱建物跡と類似する構造・規模をもつことから，ＳＢ08も弥生時代後期後半のものと考えられる。

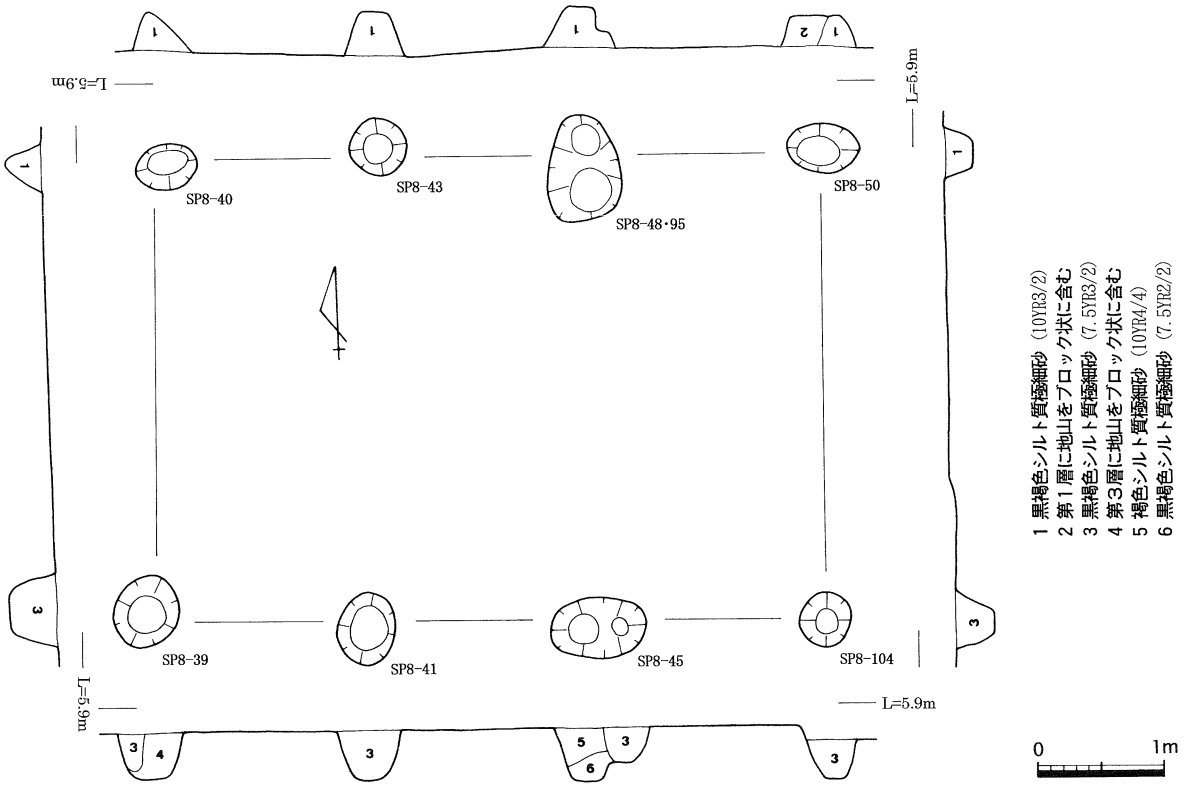
ＳＢ09（第87図）

８区西で検出した掘立柱建物跡である。主軸方位はＮ85°Ｅであり，桁行２間以上（3.8ｍ以上），梁間１間（3.0ｍ）の規模をもつ長方形の棟で，床面積は11㎡以上を測る。西側が調査区外に及ぶため，全体の規模は不明である。桁行の芯心間の距離は1.8～2.1ｍを測る。柱穴の平面は円形であり，その規模は直

径30～50cm，深さ20～30cmを測る。柱穴の埋土は，黒褐色シルト質極細砂である。ＳＫ13と重複するが，前後関係は不明である。



第85図　ＳＢ07平面・断面図(縮尺1/60)

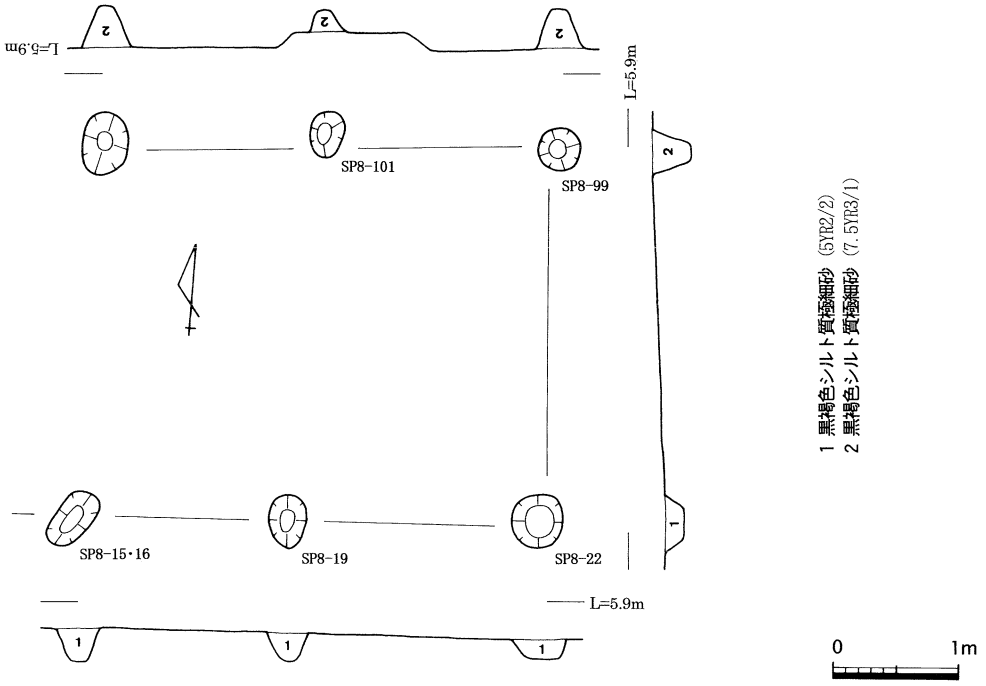


第86図　ＳＢ08平面・断面図(縮尺1/60)

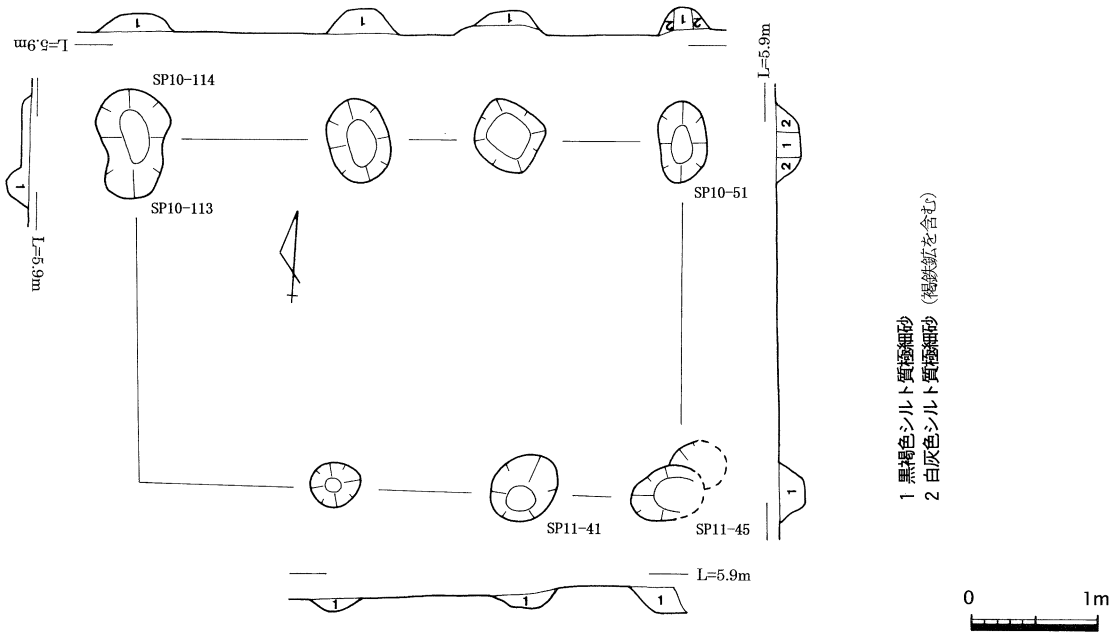
出土遺物はないが，他の掘立柱建物跡と類似する構造・規模をもつことから，ＳＢ09も弥生時代後期後半のものと考えられる。

ＳＢ10（第88図）

10～11区東で検出した掘立柱建物跡である。主軸方位はＮ86°Ｅであり，桁行３間（4.4m），梁間１間

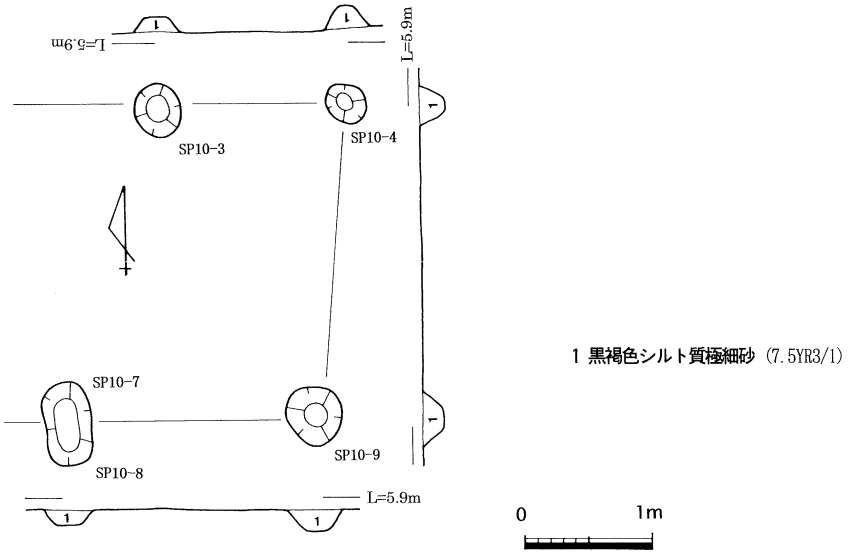


第87図　ＳＢ09平面・断面図（縮尺1/60）

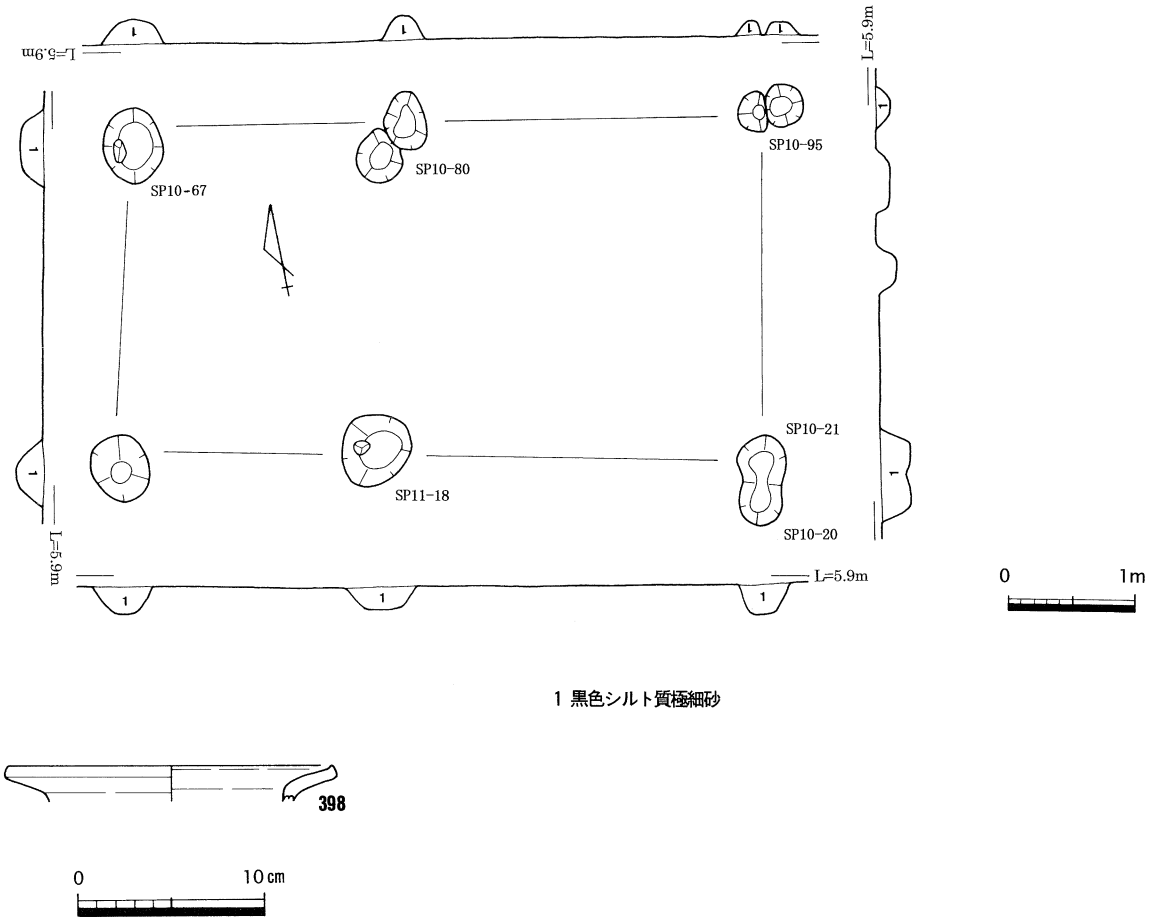


第88図　ＳＢ10平面・断面図（縮尺1/60）

（2.8m）の規模をもつ長方形の棟で，床面積は約12㎡を測る。桁行の芯心間の距離は1.2～1.8mを測る。柱穴の平面は円形であり，その規模は直径40～70cm，深さ10～20cmを測る。南西隅の柱穴は，後世の削平により失われている。柱穴の埋土は，黒褐色シルト質極細砂が主体を占める。ＳＤ04・ＳＤ05（ＳＨ18周溝）・ＳＤ09と重複し，ＳＤ04より先行するが，ＳＤ05・09との前後関係は不明である。



第89図　ＳＢ11平面・断面図（縮尺1/60）



第90図　ＳＢ12平面・断面図（縮尺1/60）出土遺物実測図（縮尺1/4）

出土遺物はないが，他の掘立柱建物跡と類似する構造・規模をもつことから，ＳＢ10も弥生時代後期後半のものと考えられる。

ＳＢ11（第89図）

10区西で検出した掘立柱建物跡である。主軸方位はＮ89°Ｗであり，桁行１間以上（2.0m以上），梁間１間（2.5m）の規模をもつ長方形の棟と推定され，床面積は５㎡以上を測る。西側が調査区外に及ぶため，全体の規模は不明である。桁行の芯心間の距離は1.5～2.0mを測る。柱穴の平面は円形であり，その規模は直径30～50cm，深さ10～20cmを測る。柱穴の埋土は，黒褐色シルト質極細砂が主体を占める。

出土遺物はないが，他の掘立柱建物跡と類似する構造・規模をもつことから，ＳＢ11も弥生時代後期後半のものと考えられる。

ＳＢ12（第90図）

10～11区中央で検出した掘立柱建物跡である。主軸方位はＮ78°Ｗであり，桁行２間（5.2m），梁間１間（2.7m）の規模をもつ長方形の棟で，床面積は約14㎡を測る。桁行の芯心間の距離は2.2～3.0mを測る。柱穴の平面は円形であり，その規模は直径30～60cm，深さ10～20cmを測る。桁行の芯心間距離が南北ともに長い個所があり，当初から柱穴がなかったのか，後世の削平により柱穴が失われたのか不明である。柱穴の埋土は，黒色シルト質極細砂が主体を占める。ＳＨ18と重複するが，前後関係は不明である。

出土遺物は，弥生土器破片が見られる。図化できたＳＰ10－67出土の壺口縁部（398）から，ＳＢ12は弥生時代後期後半のものと考えられる。

(3) 柵列

検出した柵列は，計６列である。すべて，整理時に柱穴の位置から復元したものである。柱穴４基から構成されるものが多い。主軸は，すべて東西方向でＮ73°～87°ＥまたはＮ59°Ｗを示し，遺跡付近に残る条里地割とは一致しない。また，柱穴は円形のものだけで，方形のものは１基も存在しない。

このため，数少ない出土遺物からも考慮して，柵列の時期を弥生時代後期～古墳時代前期初頭とした。ただし，付近にわずかながら古代の溝が存在しており，柵列の詳細な時期判定には資料の増加が待たれる。

ＳＡ01（第91図）

10区南西で検出した東西方向の柵列で，４基の柱穴で構成される。主軸方位はＮ73°Ｅである。柱穴の芯心間の距離は2.0mを測り，柵列の総長は6.0mとなる。柱穴はすべて２基の柱穴が隣接して並んでいることから，建替が行われたものと考えられる。柱穴は円形であり，その規模は直径40～50cm，深さ10～20cmを測る。ＳＨ18と重複するが，前後関係は不明である。

出土遺物は，弥生土器破片が見られる。図化できたＳＰ10－66出土の底部（399）から，ＳＡ01は弥生時代後期後半のものと考えられる。

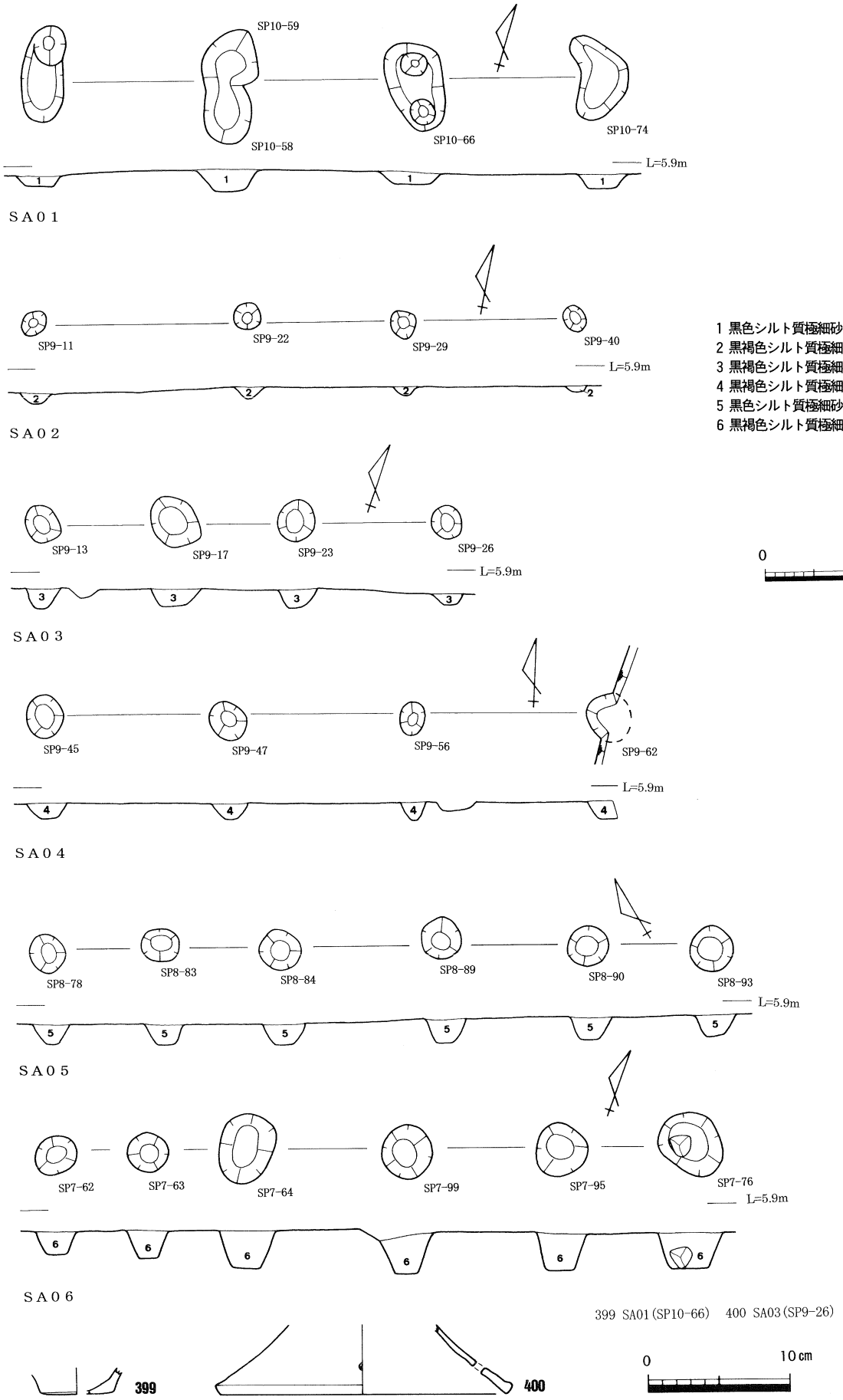
ＳＡ02（第91図）

９区中央で検出した東西方向の柵列で，４基の柱穴で構成される。主軸方位はＮ78°Ｅである。柱穴の芯心間の距離は1.8～2.2mを測り，柵列の総長は5.7mとなる。柱穴は円形であり，その規模は直径25cm，深さ10cmを測る。

出土遺物はないが，周辺に弥生時代後期の遺構が存在することから，ＳＡ02も同時期の可能性がある。

ＳＡ03（第91図）

９区中央で検出した東西方向の柵列で，４基の柱穴で構成される。主軸方位はＮ70°Ｅである。柱穴の芯心間の距離は1.3～1.6mを測り，柵列の総長は4.3mとなる。柱穴は円形であり，その規模は直径30～50cm，深さ10～20cmを測る。



1 黒色シルト質極細砂
2 黒褐色シルト質極細砂 (10YR2/2)
3 黒褐色シルト質極細砂 (7.5YR2/2)
4 黒褐色シルト質極細砂 (7.5YR3/1)
5 黒色シルト質極細砂 (7.5YR2/1)
6 黒褐色シルト質極細砂 (10YR3/1)

0 1m

第91図　ＳＡ01～06平面・断面図(縮尺1/60)出土遺物実測図(縮尺1/4)

出土遺物は，弥生土器破片が見られる。図化できたＳＰ９－26出土の高杯脚部（400）から，ＳＡ03は弥生時代後期後半のものと考えられる。

ＳＡ04（第91図）

９区東で検出した東西方向の柵列で，４基の柱穴で構成される。主軸方位はＮ87°Ｅである。柱穴の芯心間の距離は1.9～2.1ｍを測り，柵列の総長は6.0ｍとなる。東端の柱穴が，調査区の端に位置するため，さらに東へのびる可能性はある。柱穴は円形であり，その規模は直径30～50cm，深さ10～20cmを測る。

出土遺物はないが，周辺に弥生時代後期の遺構が存在することから，ＳＡ04も同時期の可能性がある。

ＳＡ05（第91図）

８区南で検出した東西方向の柵列で，６基の柱穴で構成される。主軸方位はＮ59°Ｗである。柱穴の芯心間の距離は1.2～1.7ｍを測り，柵列の総長は7.0ｍとなる。柱穴は円形であり，その規模は直径40～50cm，深さ20～25cmを測る。弥生時代前期の環濠ＳＤ11外側に並列するが，ＳＤ11がゆるやかに曲がっているのに対してＳＡ05は直線であること，ＳＡ05以外にＳＤ11と並列する柵列がないことから，ＳＤ11とは無関係と考えられる。

出土遺物は弥生土器細片のみで，図化できるものはなかった。周辺に弥生時代後期の遺構が存在することから，ＳＡ05も弥生時代後期の可能性がある。

ＳＡ06（第91図）

７区東で検出した東西方向の柵列で，６基の柱穴で構成される。主軸方位はＮ70°Ｅである。柱穴の芯心間の距離は1.0～1.7ｍを測り，柵列の総長は6.7ｍとなる。柱穴は円形であり，その規模は直径40～70cm，深さ30～40cmを測る。ＳＨ17と重複するが，前後関係は不明である。

出土遺物は弥生土器細片のみで，図化できるものはなかった。周辺に弥生時代後期の遺構が存在することから，ＳＡ06も弥生時代後期の可能性がある。

⑷　井戸

弥生時代後期～古墳時代前期初頭に属する井戸は，計２基確認した。２基とも簡易な素掘りの井戸である。ＳＥ02は本遺跡で主体を占める微高地上に存在するが，ＳＥ01は調査区北東隅で確認した別の微高地（別の集落）のものと考えられる。

ＳＥ01（第92～94図）

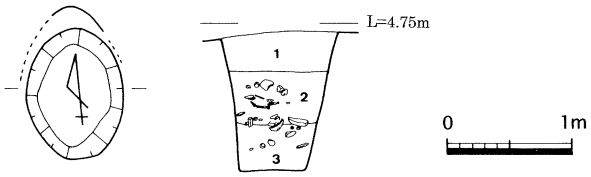
１区中央の旧河道ＳＲ01東岸で検出した。この井戸のみが，他の遺構と違って，別の微高地に立地する。南北1.1ｍ，東西0.8ｍ，深さ1.1ｍを測る素掘りの井戸である。埋土は３層確認している。第１・２層（上層）は黒色シルト質極細砂，第３層（下層）は暗灰色シルト質細砂である。ＳＲ01に注ぐ小河川ＳＲ02の底に位置し，雨期には水没したと推定される。

上下層から弥生土器が出土しているが，ＳＲ01に隣接し，ＳＲ02河底にあたるためか，出土遺物は下層においても時期幅が見られる。下層出土のうち，長頸壺（403）は様相２に相当するが，広口壺（401）はやや丸底であり，細頸壺体部（402）は算盤形を呈することから，様相４～５に相当し弥生時代終末期と考えられる。また，土器と一緒に袋状鉄斧の柄（406）が出土している。

ＳＥ02（第95～98図）

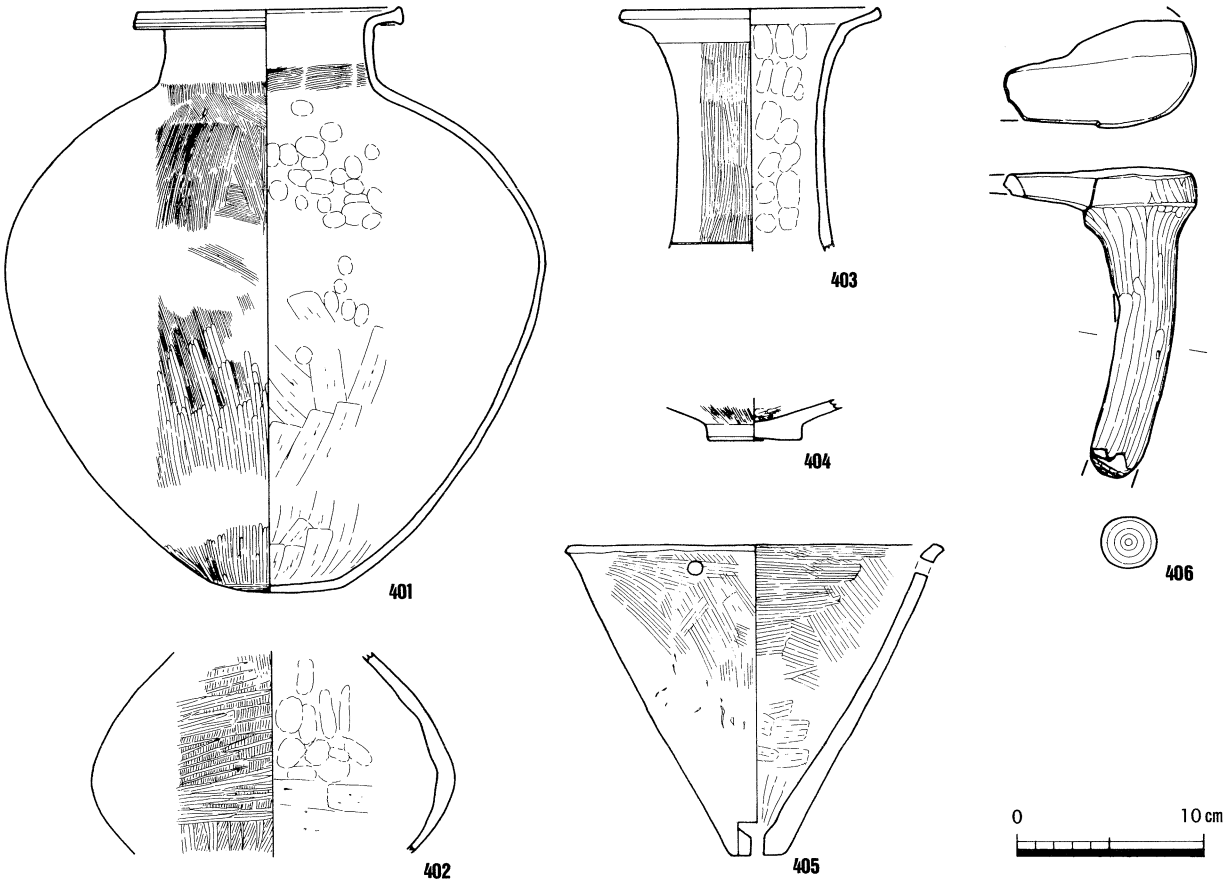
７区中央で検出した井戸で，南北1.1ｍ，東西1.1ｍ，深さ0.7ｍを測る素掘りの井戸である。埋土は３層確認しているが，第１・２層は暗褐色シルト質極細砂，第３層は黒褐色シルト質極細砂である。ＳＫ07と重複し，ＳＫ07より後出する。

第１・３層から弥生土器が出土している。下層である第３層出土遺物を概観すると，甕（416・417）の

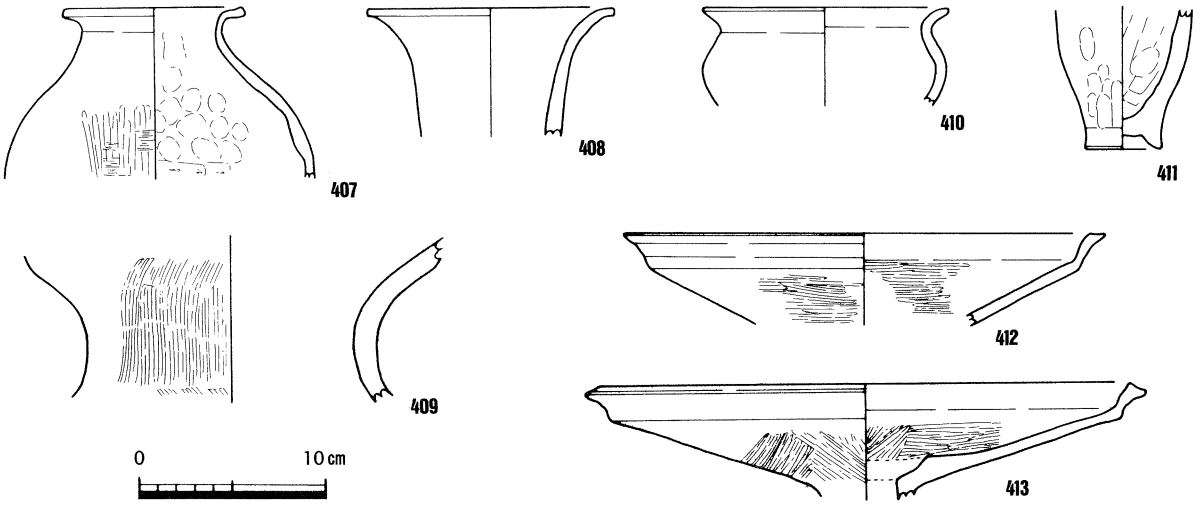


1 黒色シルト質極細砂（5Y2/1，小石粒を含む）
2 黒色シルト質極細砂（N2/）
3 暗灰色シルト質細砂（N3/）

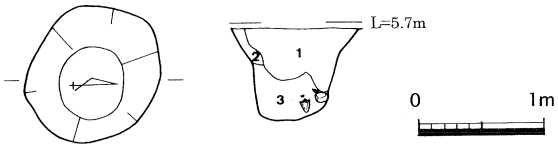
第92図　ＳＥ01平面・断面図（縮尺1/60）



第93図　ＳＥ01第３層出土遺物実測図（縮尺1/4）

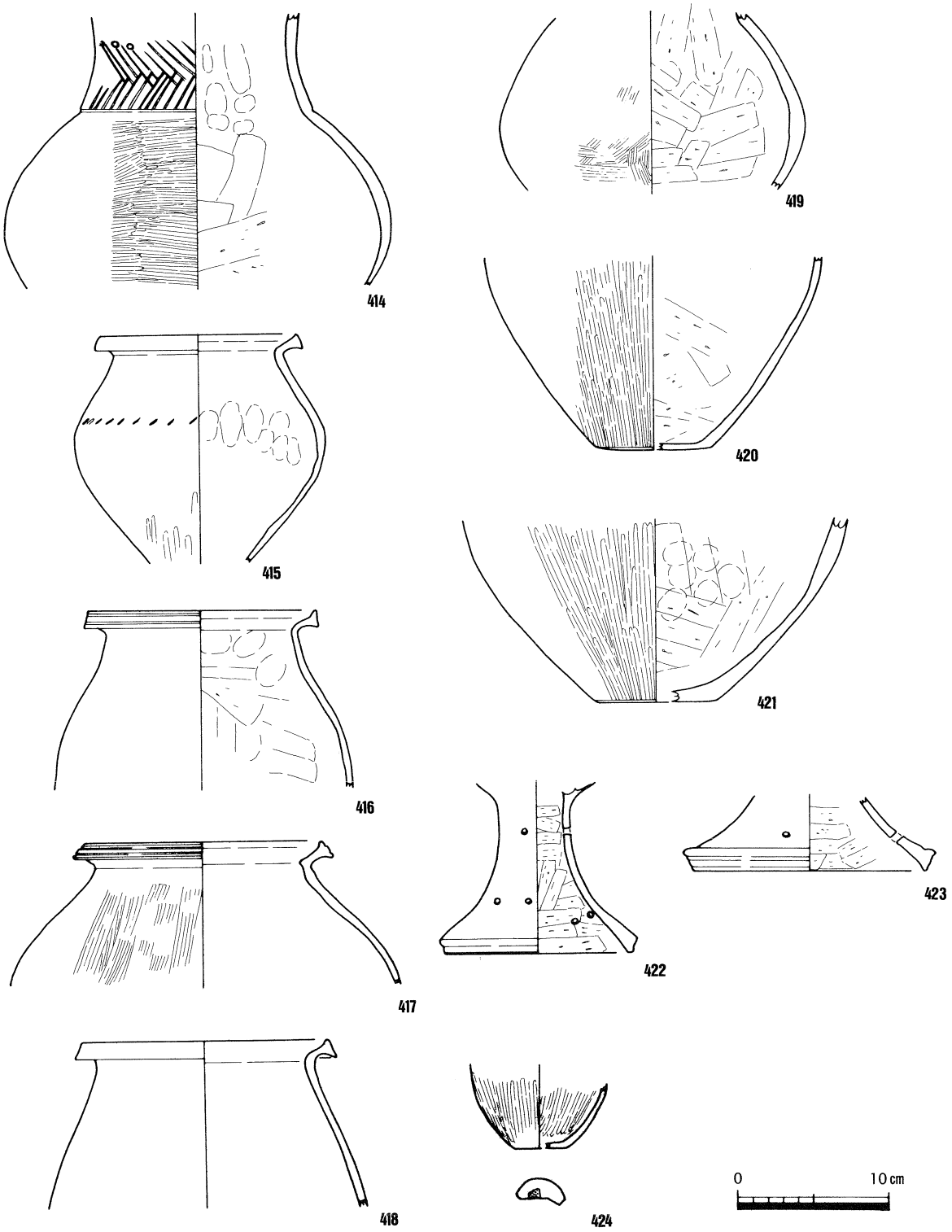


第94図　ＳＥ01第１・２層出土遺物実測図（縮尺1/4）

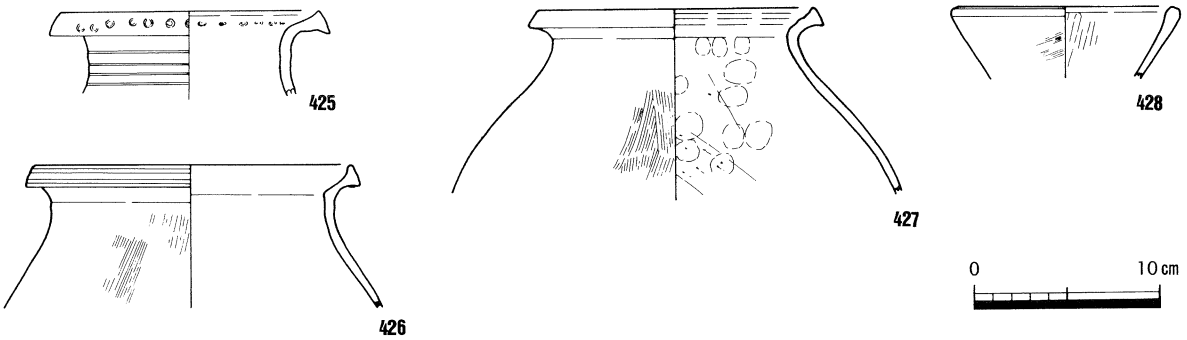


1 暗褐色シルト質極細砂（7.5YR3/3，地山をブロック状に含む）
2 第1層と同じだが地山を含まない
3 黒褐色シルト質極細砂（10YR2/2）

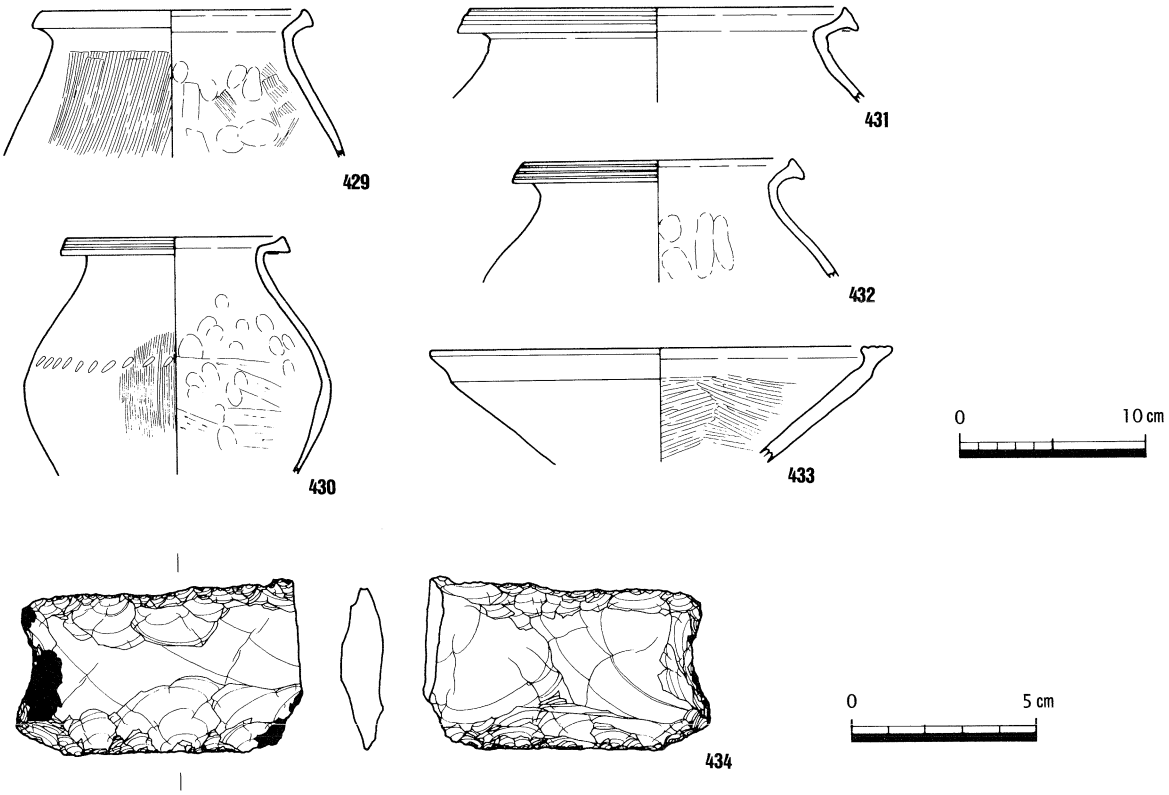
第95図　ＳＥ02平面・断面図（縮尺1/60）



第96図　ＳＥ02第３層出土遺物実測図（縮尺1/4）



第97図　ＳＥ02第１層下部出土遺物実測図（縮尺1/4）



第98図　ＳＥ02第１層上部出土遺物実測図（縮尺1/4, 1/2）

口縁端部や高杯（422・423）の脚端部には，凹線文または凹線文が退化した沈線を施している。底部（420・421）は平底である。小山南谷遺跡ＳＨ03出土資料に並行すると考えられ，弥生時代後期前半中葉と考えられる。なお，小形土器（424）の底部外面には，酸化鉄による赤色顔料が付着している。また，上層である第１層から出土した遺物も，下層と同じ特徴を示しており，同時期のものと考えられる。

(5) 土坑

弥生時代後期～古墳時代前期初頭に属する土坑は，計８基確認した。平面形態は，不整な円形のもの２基，細長い楕円形のもの５基，不明１基である。特にＳＫ11は，他の土坑と比べて溝状に細長い。このＳＫ11と平面形態が類似するのが溝ＳＤ24・25・27で，調査時は溝として分類したが，機能的には土坑に分類すべきものである。

ＳＫ01（第99図）

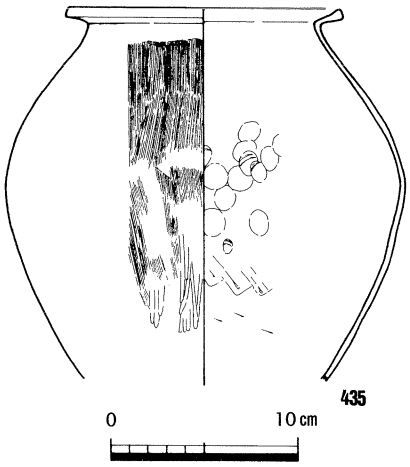
7区北東で検出した土坑で，調査のための排水用側溝を掘削中に検出したため，平面形態・規模は不明である。埋土は，黒褐色シルト質極細砂である。出土した弥生土器甕（435）は，口縁部が短く端部がやや肥厚することから様相2～3に相当し，弥生時代後期後半と考えられる。

ＳＫ03（第101図）

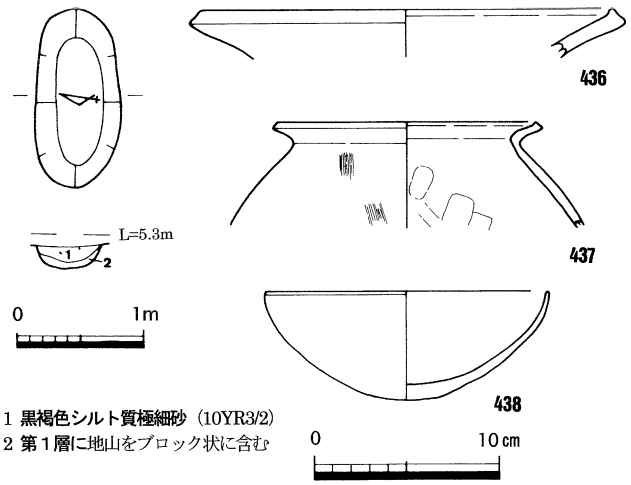
8区東で検出した土坑で，南北2.2m，東西2.2m，深さ0.2mを測る不整円形の土坑である。埋土は，黒褐色シルト質極細砂である。出土遺物は，弥生土器破片が見られる。図化できた大形鉢（439）は，口縁部にヨコナデを施すものの外反しないことから，様相4に相当し弥生時代終末期のものと考えられる。

ＳＫ05（第100図）

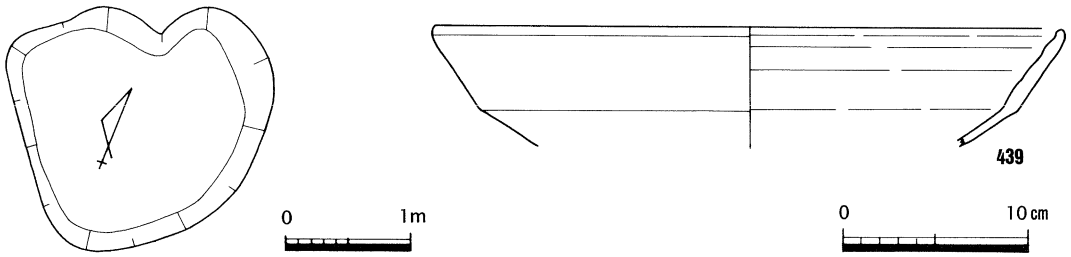
5区北西で検出した土坑で，南北0.7m，東西0.9m，深さ0.2mを測る楕円形の土坑である。埋土は，2



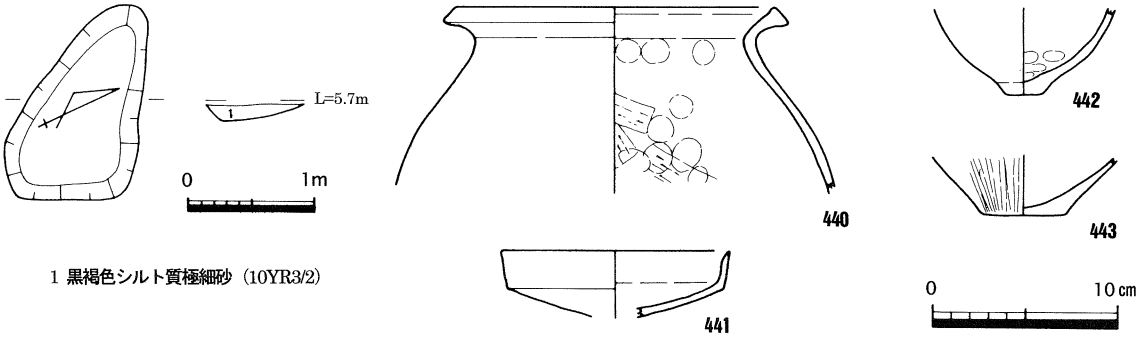
第99図　ＳＫ01出土遺物実測図（縮尺1/4）



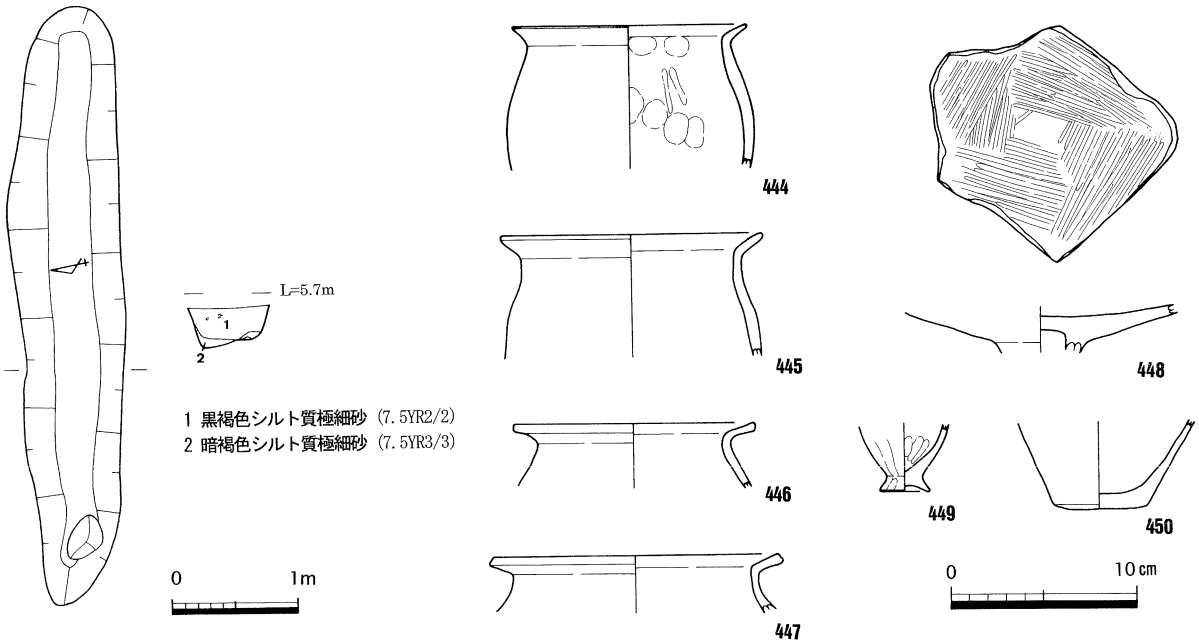
第100図　ＳＫ05平面・断面図（縮尺1/60）出土遺物実測図（縮尺1/4）



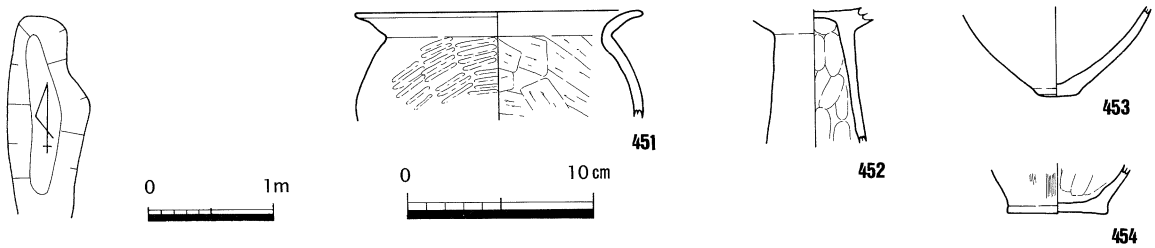
第101図　ＳＫ03平面図（縮尺1/60）出土遺物実測図（縮尺1/4）



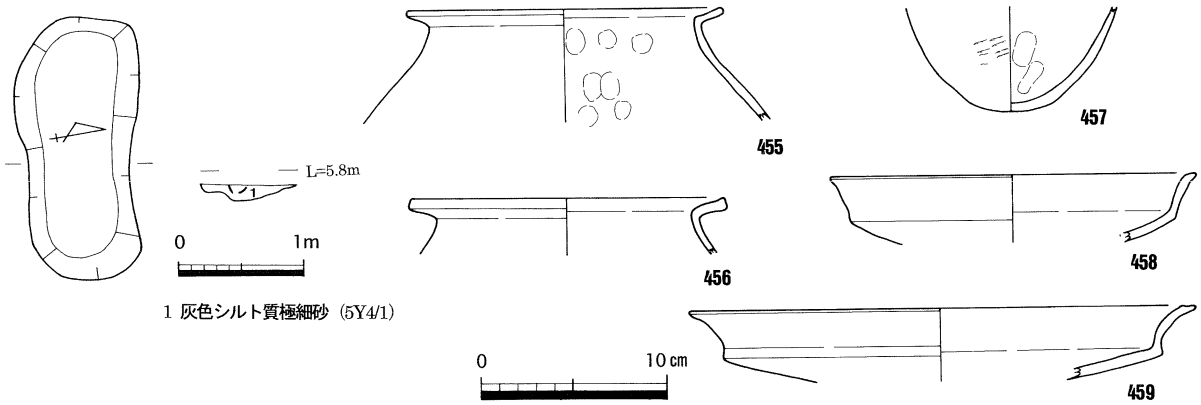
第102図　ＳＫ08平面・断面図（縮尺1/60）出土遺物実測図（縮尺1/4）



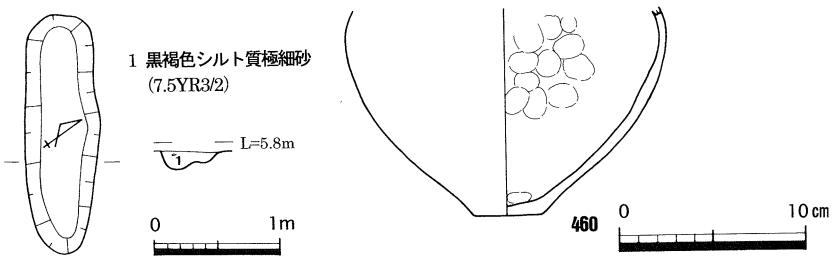
第103図　ＳＫ11平面・断面図(縮尺1/60)出土遺物実測図(縮尺1/4)



第104図　ＳＫ12平面図(縮尺1/60)出土遺物実測図(縮尺1/4)



第105図　ＳＫ14平面・断面図(縮尺1/60)出土遺物実測図(縮尺1/4)



第106図　ＳＫ15平面・断面図(縮尺1/60)出土遺物実測図(縮尺1/4)

層に分かれる。このＳＫ05は，竪穴住居ＳＨ03の内部に所在することから住居内に設けられた土坑の可能性もあり，出土遺物の時期も一致する。出土した弥生土器には，広口壺（436）が見られること，小形鉢（438）の底部が丸底となっていることから様相５～６に相当し，古墳時代前期初頭と考えられる。

ＳＫ08（第102図）

７区中央で検出した土坑で，南北1.1m，東西1.6m，深さ0.1mを測る不整円形の土坑である。埋土は１層のみである。出土した弥生土器を概観すると，時期幅が認められる。甕（440）は口縁端部を広く拡張し弥生時代後期前半にまで遡る可能性があり，底部（442～443）は平底から丸底への過渡期として捉えられ弥生時代後期後半と考えられる。新しい時期を採用して，弥生時代後期後半と推定したい。

ＳＫ11（第103図）

８区北で検出した土坑で，南北0.9m，東西4.7m，深さ0.3mを測る細長い楕円形の土坑である。埋土は２層に分かれる。出土した弥生土器甕（444～447）は口縁端部を厚くさせず，製塩土器（449）が小形化していることから，様相４～５に相当し，弥生時代終末期と考えられる。

ＳＫ12（第104図）

７～８区西で検出した土坑で，南北1.6m以上，東西0.7m，深さ0.3mを測る細長い楕円形の土坑である。埋土は，黒褐色シルト質極細砂である。出土した弥生土器甕（451）は，体部外面に叩きを施し，頸部を強く屈曲させ，口縁部は外反しながら上にのびる。底部（453）は平底を残すものの丸底化が進んでいる。これらの特徴から，弥生時代終末期と考えられる。ただし，底部（454）のみが，角を明瞭に残す平底で後期前半まで遡る可能性があるが，これ１点のみであることから混入と考えられる。

ＳＫ14（第105図）

８区北西で検出した土坑で，南北1.0m，東西2.1m，深さ0.1mを測る細長い楕円形の土坑である。埋土は１層のみである。出土した弥生土器甕（455）は口縁部がうすくのびるが，甕（456）は口縁端部がやや厚くなり古い様相を示す。底部（457）は，丸底となっている。高杯（458・459）は，口縁部にヨコナデが施され外反する。これらの特徴から，時期幅が存在するが，弥生時代終末期と考えられる。

ＳＫ15（第106図）

９区北で検出した土坑で，南北0.6m，東西1.9m，深さ0.15mを測る細長い楕円形の土坑である。埋土は１層のみである。出土した弥生土器壺（460）は，体部が丸みを帯びるが，底部は平底である。弥生時代後期後半と考えられる。

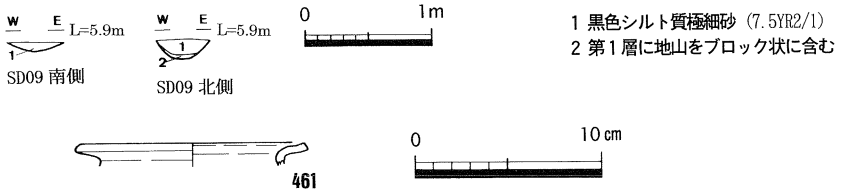
(6) 溝

弥生時代後期～古墳時代前期初頭に属する溝は，計48条確認している。この数字には，竪穴住居の周溝としたものは含まれていない。溝の多くは，竪穴住居や周溝からの排水を目的として掘削されたものが多く，排水先として旧河道ＳＲ01に注いでいる。一方，ＳＤ24・25・27のように溝とするより機能的には土坑に分類すべきものもあり，特にＳＤ24・27は大量の土器を棄てた廃棄土坑である。

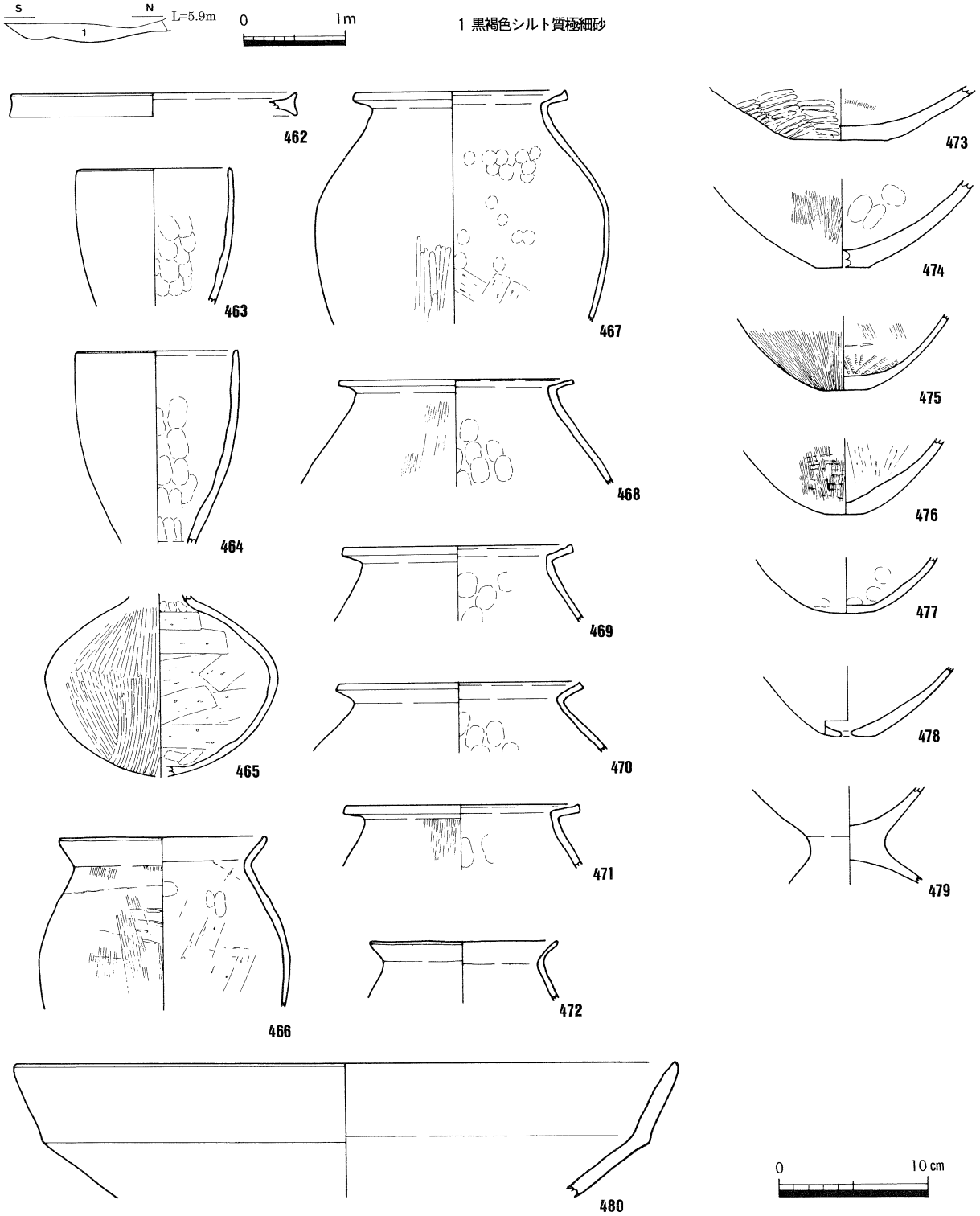
ＳＤ02・09（第107・158図）

10・11区東で検出した幅約40～50cm，深さ約10cmを測る断面Ｕ字形の溝で，調査区内で検出した長さは約22mを測る。11区南端より調査区内に入り，わずかに湾曲しながら北東方向に調査区を縦断し，10区東端で調査区外に出る。11区と10区での溝底の比高差はない。埋土は大きく２層に分かれる。後世の削平により途中が削平されて途切れていたため，調査時は別の遺構番号としたが，ＳＤ02・09は同じ溝である。

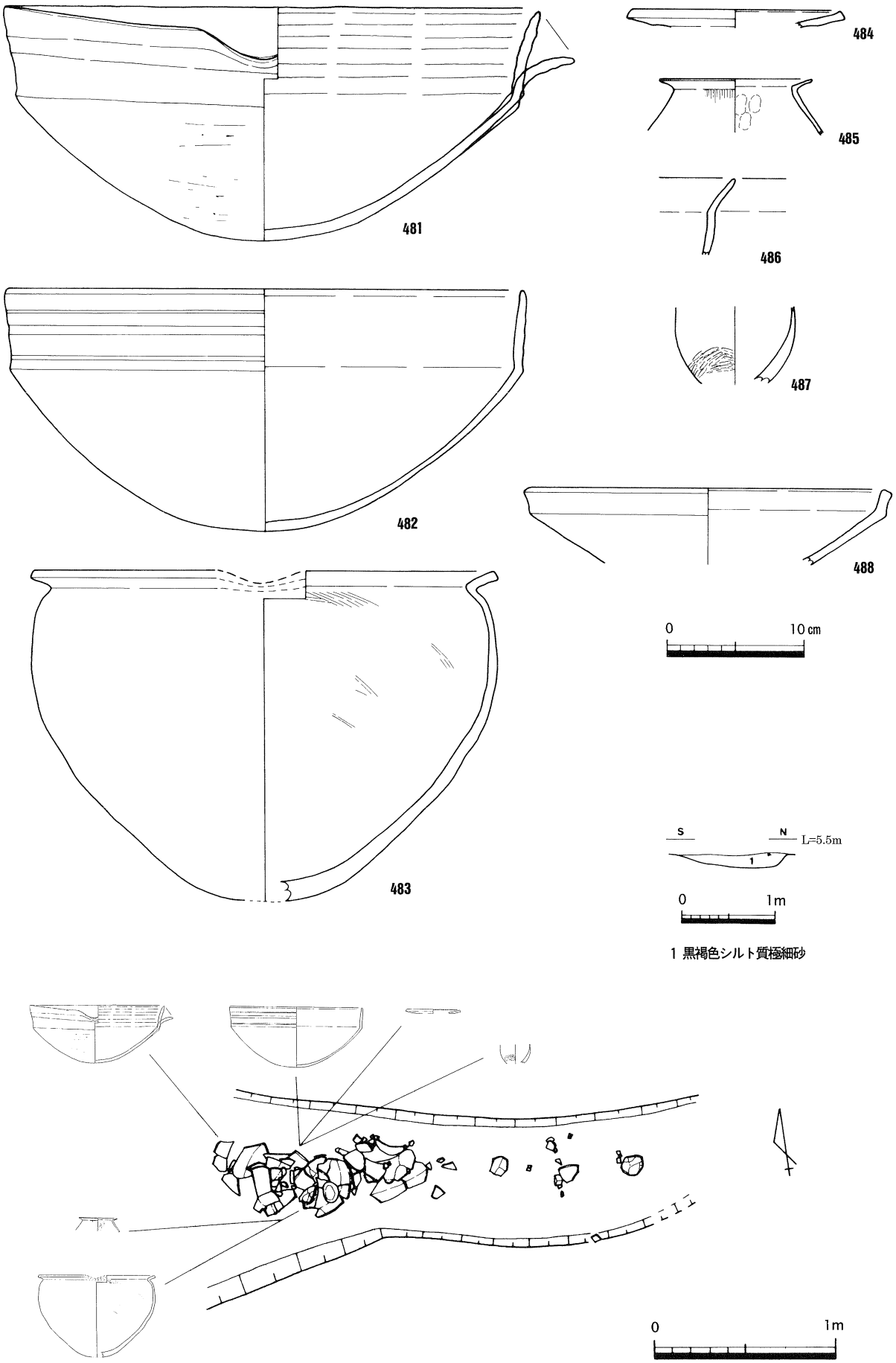
出土した弥生土器甕（461）は，口縁部がうすく伸びるもので，弥生時代終末期と考えられる。他に，打製石庖丁状の石器（682）が出土している。



第107図　ＳＤ02・09断面図(縮尺1/60)出土遺物実測図(縮尺1/4)



第108図　ＳＤ07断面図(縮尺1/60)出土遺物実測図(縮尺1/4)

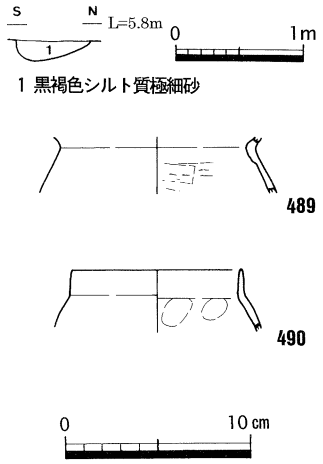


第109図　ＳＤ04下層溝断面図(縮尺1/60)遺物出土状況図(縮尺1/30)出土遺物実測図(縮尺1/4)

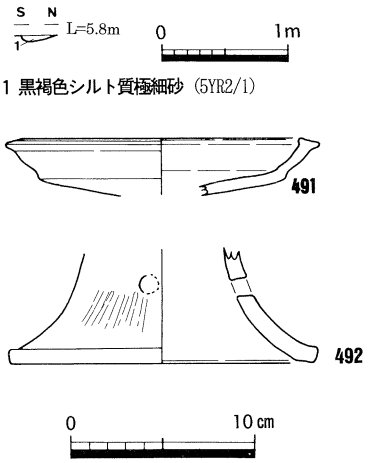
ＳＤ04下層溝（第109・158図）

11区で検出した東西方向の条里溝ＳＤ04の西端下部において検出した。ＳＤ04と埋土が酷似するため，調査時はＳＤ04に含めて掘削したが，整理中にＳＤ04と分離することが判明した。ＳＤ04によって上部が壊されているが，幅約70～110cm，深さ約15cmを測る断面Ｕ字形の遺構と推定され，調査区内で検出した長さは約３ｍを測る。遺構の西側は調査区外に及ぶため，全容は不明である。埋土は１層のみである。溝として分類したが，完形に近い大形片口鉢が一括投棄されていることから，廃棄土坑である可能性もある。

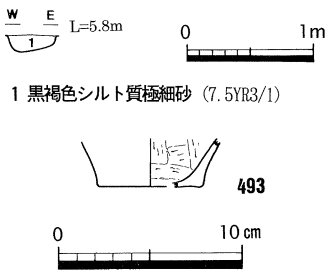
出土した弥生土器の器種構成は，完形に近い大形片口鉢（481～483）が３個体も見られ，他に壺（484），甕（485），鉢（486），高杯（488）の破片が認められる。大形鉢のうち481は口縁部に強いヨコナデが施されやや外反する口縁部をもつ。これに対して，482は口縁部が直線的にのび481より古相を呈する。483は，丸亀平野からの搬入品と考えられるもので，下川津Ⅲ～Ⅳ式に該当すると考えられる。大形片口鉢（481・482）にわずかながら型式差があるが様相４でも新しい時期と推定され，ＳＤ04下層溝は弥生時代終末



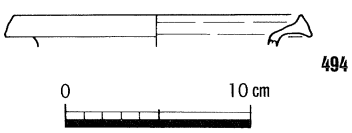
第110図　ＳＤ14断面図
（縮尺1/60）出土遺物
実測図（縮尺1/4）



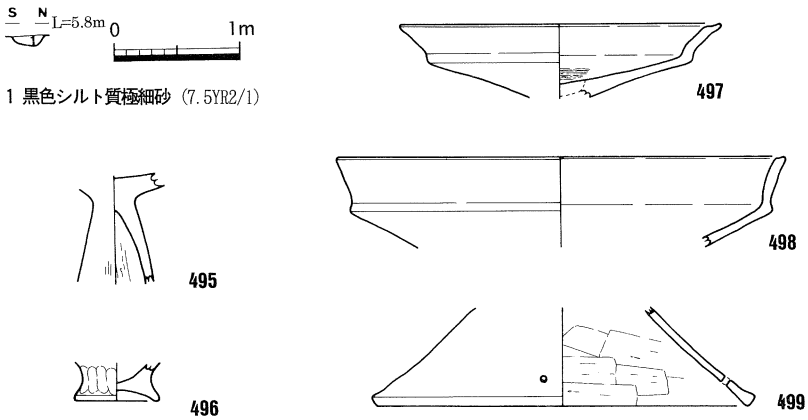
第111図　ＳＤ15断面図
（縮尺1/60）出土遺物
実測図（縮尺1/4）

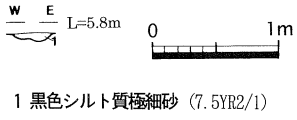


第112図　ＳＤ18断面図
（縮尺1/60）出土遺物
実測図（縮尺1/4）



第113図　ＳＤ20
出土遺物実測図
（縮尺1/4）





第114図　ＳＤ22断面図
（縮尺1/60）

第115図　ＳＤ21断面図
（縮尺1/60）出土遺物
実測図（縮尺1/4）

第116図　ＳＤ23出土遺物
実測図（縮尺1/4）

期と考えられる。壺・甕・鉢は大形鉢と同じ時期と考えられるが，高杯は後期前半と推定され混入品であろう。他に，打製刃器（681）が出土している。

ＳＤ07（第108図）

10区西で検出した幅約160cm，深さ約20cmを測る断面Ｕ字形の遺構で，調査区内で検出した長さは約２ｍを測る。遺構の西側は調査区外に及ぶため，全容は不明である。調査時は溝として分類したが，土器を大量に投棄した廃棄土坑と考えた方が適当である。埋土は１層のみである。ＳＤ05・06（ＳＨ18周溝）と重複し，ＳＤ05・06より先行する。

出土した弥生土器の器種構成は，甕（466～472）が多数を占め，次いで細頸壺（463～465），高杯（479），大形鉢（480）を見ることができる。甕は肩が張って口縁部がうすく伸びるもので，底部（473～478）は平底を残すものの丸みを帯びており，様相４～５と考えられる。細頸壺は内彎する口縁部をもって，体部は算盤形を呈し，様相４と考えられる。大形鉢は直線的な口縁部をもち，様相４と考えられる。以上のことから，甕に新しい特徴が見られるものの全体的には様相４でも新しい時期と推定され，弥生時代終末期と考えられる。なお，壺（462）は後期前半と推定される破片で混入品であろう。

ＳＤ14（第110図）

７区西端で検出した幅約60cm，深さ約20cmを測る断面Ｕ字形の溝で，調査区内で検出した長さは約１ｍを測る。遺構の大部分が調査区外に及ぶため，全容は不明である。埋土は１層のみである。

弥生土器甕（489・490）が出土しており，弥生時代後期後半～終末期と考えられる。

ＳＤ15（第111図）

９区北東で検出した幅約30cm，深さ約10cmを測る断面Ｕ字形の溝で，調査区内で検出した長さは約４ｍを測る。８区東端より調査区内に入り，まっすぐ西南西にのびる。調査区内での溝底の比高差はない。埋土は１層のみである。中世素掘溝と重複し，中世素掘溝より先行する。出土した弥生土器高杯(491・492)は，口縁端部を拡張させ脚端部も厚いことから，弥生時代後期前半と考えられる。

ＳＤ18（第112図）

９区西で検出した幅約40cm，深さ約10cmを測る断面Ｕ字形の溝で，調査区内で検出した長さは約６ｍを測る。湾曲しながら南北方向に長く，調査区内で完結している。埋土は１層のみである。ＳＤ19・中世素掘溝と重複し，中世素掘溝より先行するが，ＳＤ19との前後関係は不明である。出土した弥生土器底部（493）は，角が明瞭な平底ながら器壁が薄いことから，弥生時代後期と考えられる。

ＳＤ20（第113図）

９区西で検出した幅約50cm，深さ約10cm，長さ約３ｍを測る断面Ｕ字形の溝である。南北方向に長く，調査区内で完結しているが，後世の削平を受けており，本来はもっと長い可能性がある。埋土は１層のみである。中世素掘溝と重複し，中世素掘溝より先行する。出土した弥生土器壺（494）は，口縁端部を上下に拡張させるが紋様はなく，弥生時代後期と考えられる。

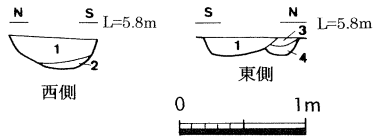
ＳＤ21（第115図）

８区東で検出した幅約40cm，深さ約10cmを測る断面Ｕ字形の溝で，調査区内で検出した長さは約７ｍを測る。８区東端より調査区内に入り，まっすぐ西北西にのび，ＳＤ22と交差して終了している。溝底の比高差はほとんどない。埋土は１層のみである。

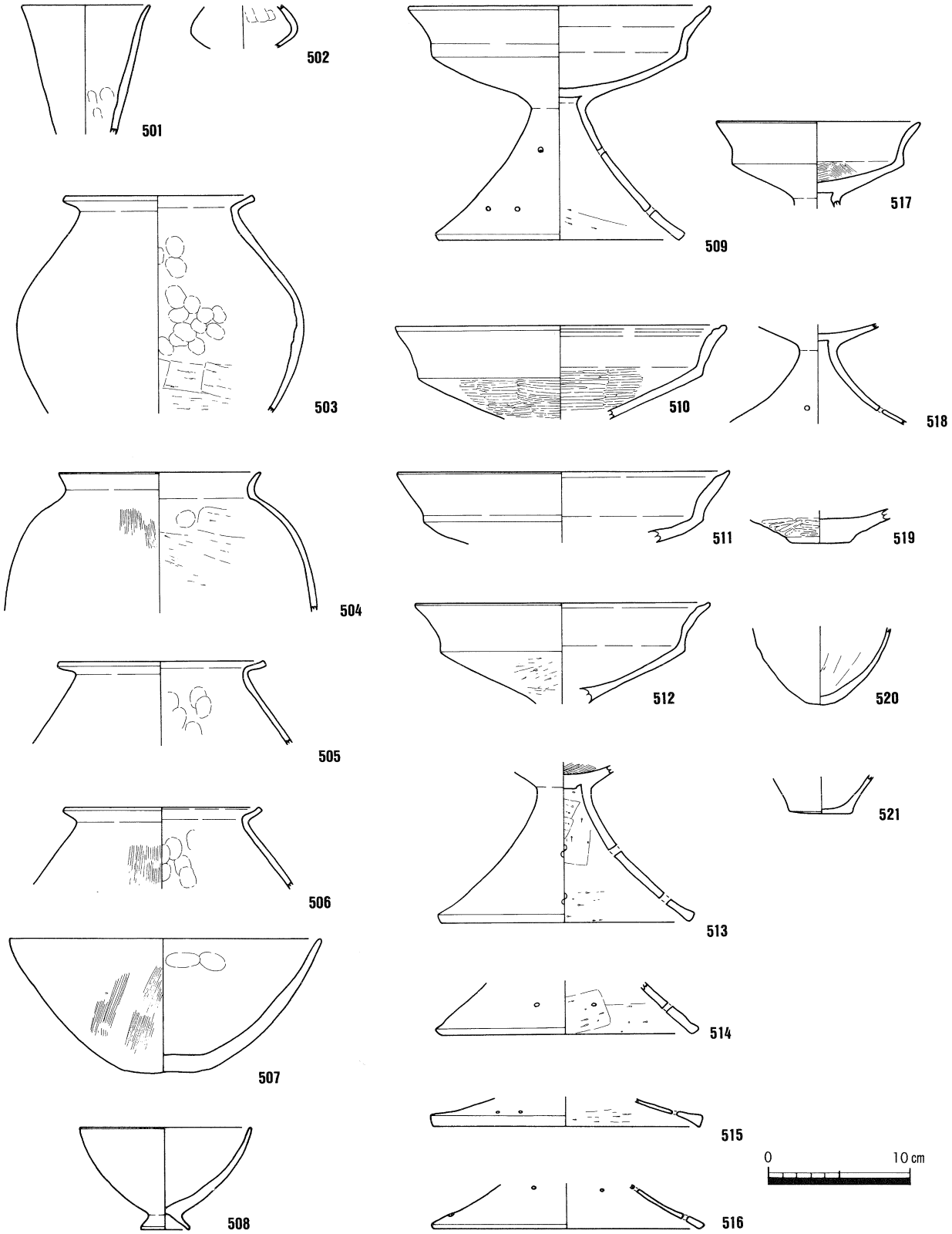
出土した弥生土器高杯（495）・底部（496）から，弥生時代後期と考えられる。

ＳＤ22（第114図）

８区中央で検出した幅約50cm，深さ約10cmを測る断面Ｕ字形の溝で，調査区内で検出した長さは約9.5



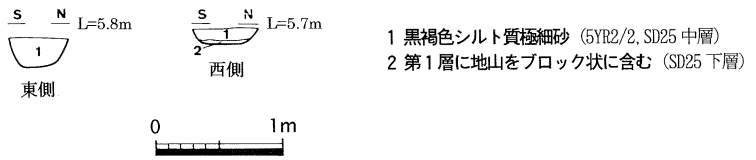
1 黒褐色シルト質極細砂（10YR2/2, SD24 上層）
2 第1層に地山をブロック状に含む（SD24 下層）
3 灰色シルト質極細砂（5Y4/1, SD25 上層）
4 黒褐色シルト質極細砂（5YR2/2, SD25 中層）



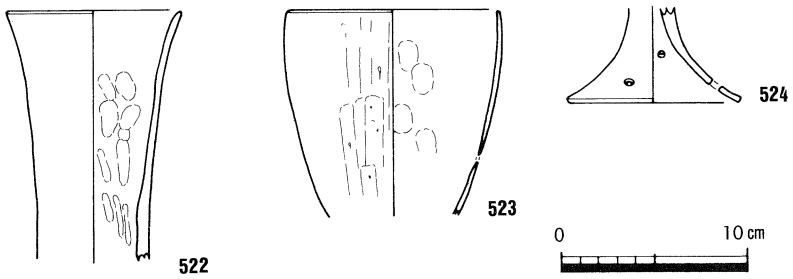
第117図　ＳＤ24断面図（縮尺1/60）出土遺物実測図（縮尺1/4）

530
550
549
548
528
539
555
531
547
534
SD27
SD25
SD24
517
509
501
0
1m

第118図　ＳＤ24・27遺物出土状況図(縮尺1/30)



1 黒褐色シルト質極細砂 (5YR2/2, SD25 中層)
2 第1層に地山をブロック状に含む (SD25 下層)



第119図　ＳＤ25断面図(縮尺1/60)出土遺物実測図(縮尺1/4)

mを測る。北北東～南南西にまっすぐにのびている。溝底の比高差はほとんどない。埋土は１層のみである。ＳＤ11と重複し，ＳＤ11より後出する。出土遺物は弥生土器細片のみで図化できるものはなかったが，ＳＤ21との関係が想定されることから，同じ弥生時代後期の可能性がある。

ＳＤ23（第116図）

８区東で検出した幅約30cm，深さ約10cmを測る断面Ｕ字形の溝で，調査区内で検出した長さは約3.5mを測る。８区東端より調査区内に入り，わずかに湾曲しながら西南西にのびる。埋土は１層のみである。

出土した弥生土器高杯（498・499）は，口縁部にヨコナデが顕著だが外反しないで立ち上がり，脚端部をやや肥厚させており，様相３～４に相当し，弥生時代後期後半と考えられる。底部（500）は，平底である。なお，高杯（497）は浅い杯部をもち498～500より古い時期のものであり，混入品と考えられる。

ＳＤ24（第117・118・158図）

８区東で検出した幅70～90cm，深さ15～30cmを測る断面Ｕ字形の遺構で，調査区内で検出した長さは約５ｍを測る。８区東端より調査区内に入り，まっすぐ西南西にのびる。調査時は溝として分類したが，ＳＤ27と共通した特徴をもち，土器が多く投棄されていることから，廃棄土坑と考えられる。埋土は２層に分かれる。ＳＤ25・27と重複し，これらより後出する。

出土した弥生土器の器種構成は，高杯（509～518）が多数を占め，次いで甕（503～506），中形鉢（507），小形鉢（508）などを見ることができる。甕は，肩が張って口縁部がうすく伸びるもので，様相５と考えられる。高杯は，杯部が深く口縁部は強いヨコナデで外反し，脚部も広がりを見せることから，様相５に相当する。中形鉢も，平底を残すものの丸底化が進んでおり，様相５の範囲に納まるものである。底部(519～521）は，平底および丸底のものが見られる。以上のことから，ＳＤ24は弥生時代終末期のものと考えられる。なお，細口壺（501）の破片は，直線的な口縁部をもち様相１～２に相当することから，混入品であろう。他に，砥石または叩き台と推定される石器（683）が出土している。

ＳＤ25（第119図）

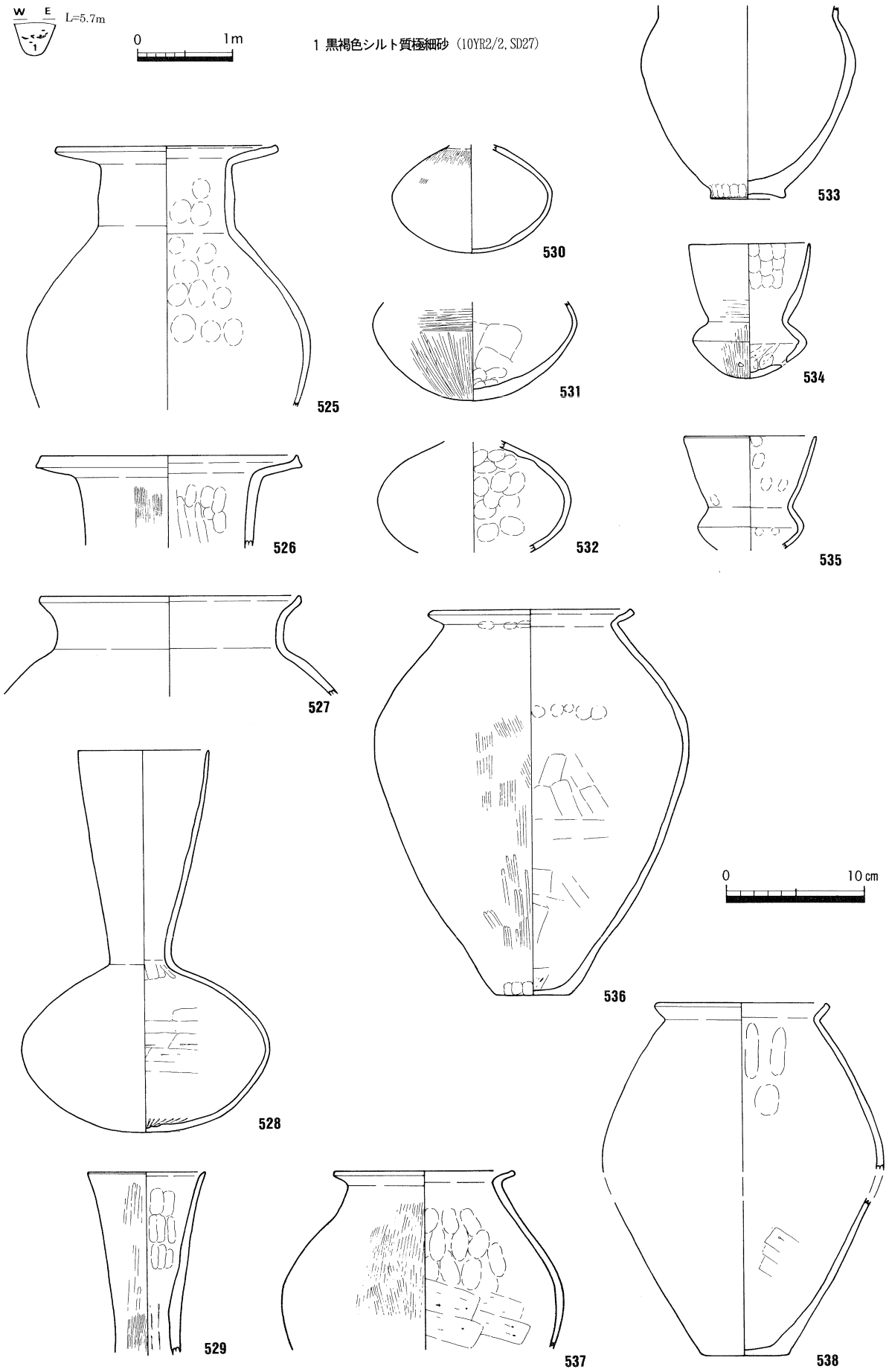
８区東で検出した幅約50cm，深さ約15～25cmを測る断面Ｕ字形の遺構で，調査区内で検出した長さは約７ｍを測る。８区東端より調査区内に入り，まっすぐ西南西にのびる。調査時は溝として分類したが，ＳＤ24・27と共通した特徴をもつことから，土坑の可能性がある。埋土は２層に分かれる。ＳＤ24・27と重複し，ＳＤ27より後出し，ＳＤ24より先行する。

弥生土器細頸壺（522・523）が出土しており，522は頸部が細長く外反することから様相１～２に，523は頸部が短く内彎することから様相４に相当する。高杯（524）は小形の脚部片で，端部はうすくなっている。ＳＤ27→ＳＤ25→ＳＤ24と遺構が重複し，ＳＤ24が様相5，ＳＤ27が様相３に相当していることを考慮すると，細頸壺の時期である様相４となり，弥生時代終末期と考えられる。

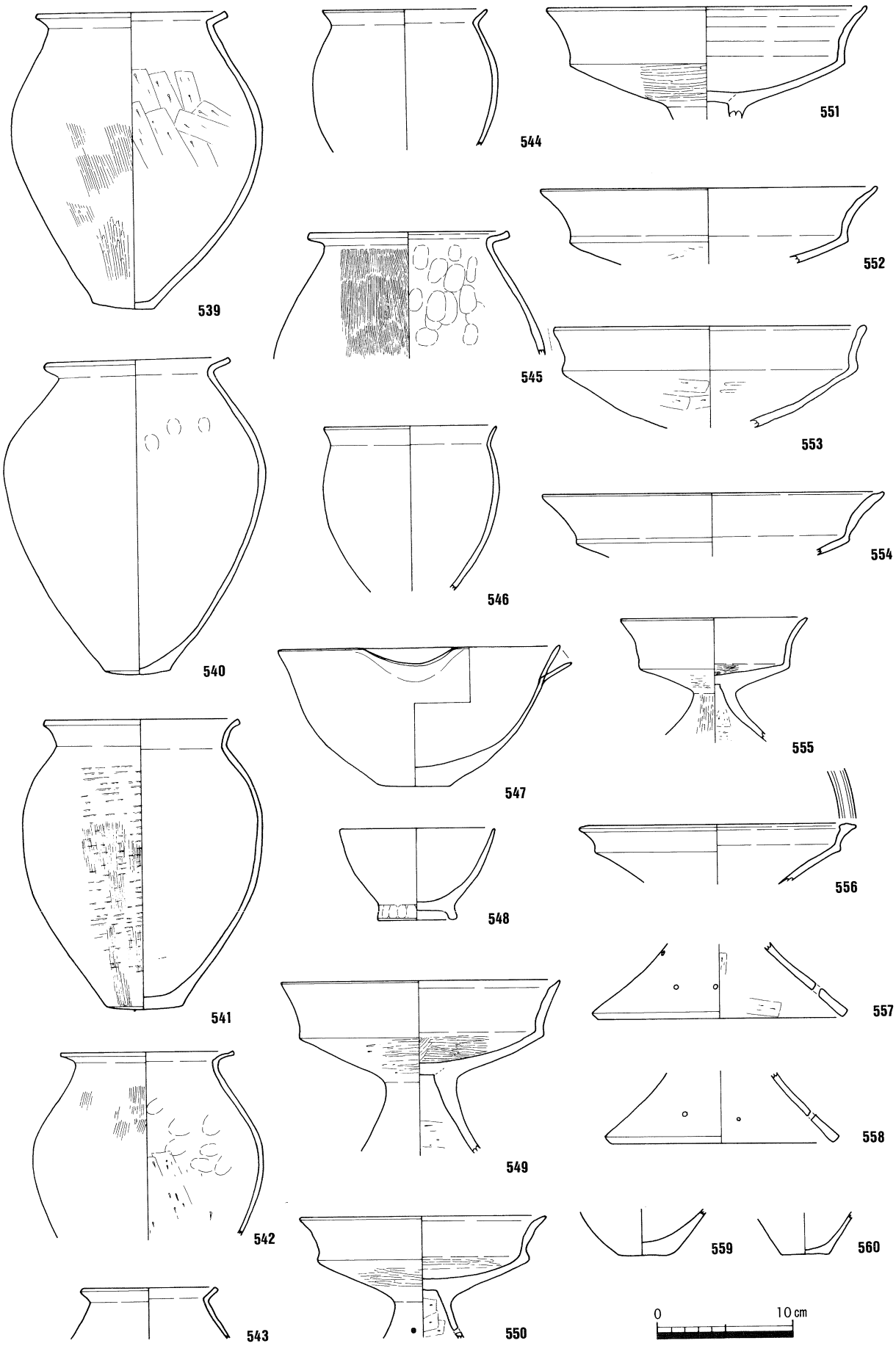
ＳＤ27（第118・120・121図）

７～８区東で検出した幅約50～60cm，深さ約35cm，長さ約６ｍ以上を測る断面Ｕ字形の遺構である。南北方向にまっすぐのびる。調査時は溝として分類したが，長さが短く，土器が多く投棄されていることから，廃棄土坑と考えられる。埋土は１層のみである。ＳＤ24・25と重複し，これらより先行する。

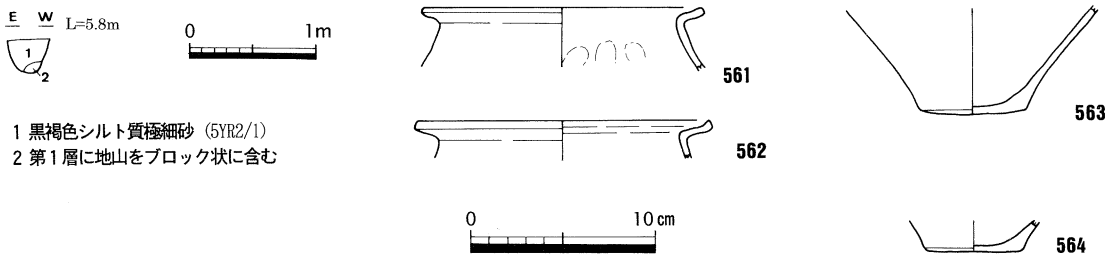
出土した弥生土器の器種構成は，広口壺（525～526），壺（527），細頸壺（528・530～532），小形丸底土器（534・535），甕（536～546），中形鉢（547），小形鉢（548），高杯（549～555・557・558）など各器種を幅広く見ることができる。大嶋編年案で様相３に例示されていたもので，弥生時代後期後半と考えられる。広口壺は，頸部がまっすぐ立ち上がり口縁部が折れ曲がる。526は口縁端部のつまみあげを残す。細頸壺は，口縁部がわずかに内彎ぎみにまっすぐのび，扁平な球体の体部をもつ。528の底部内面には，



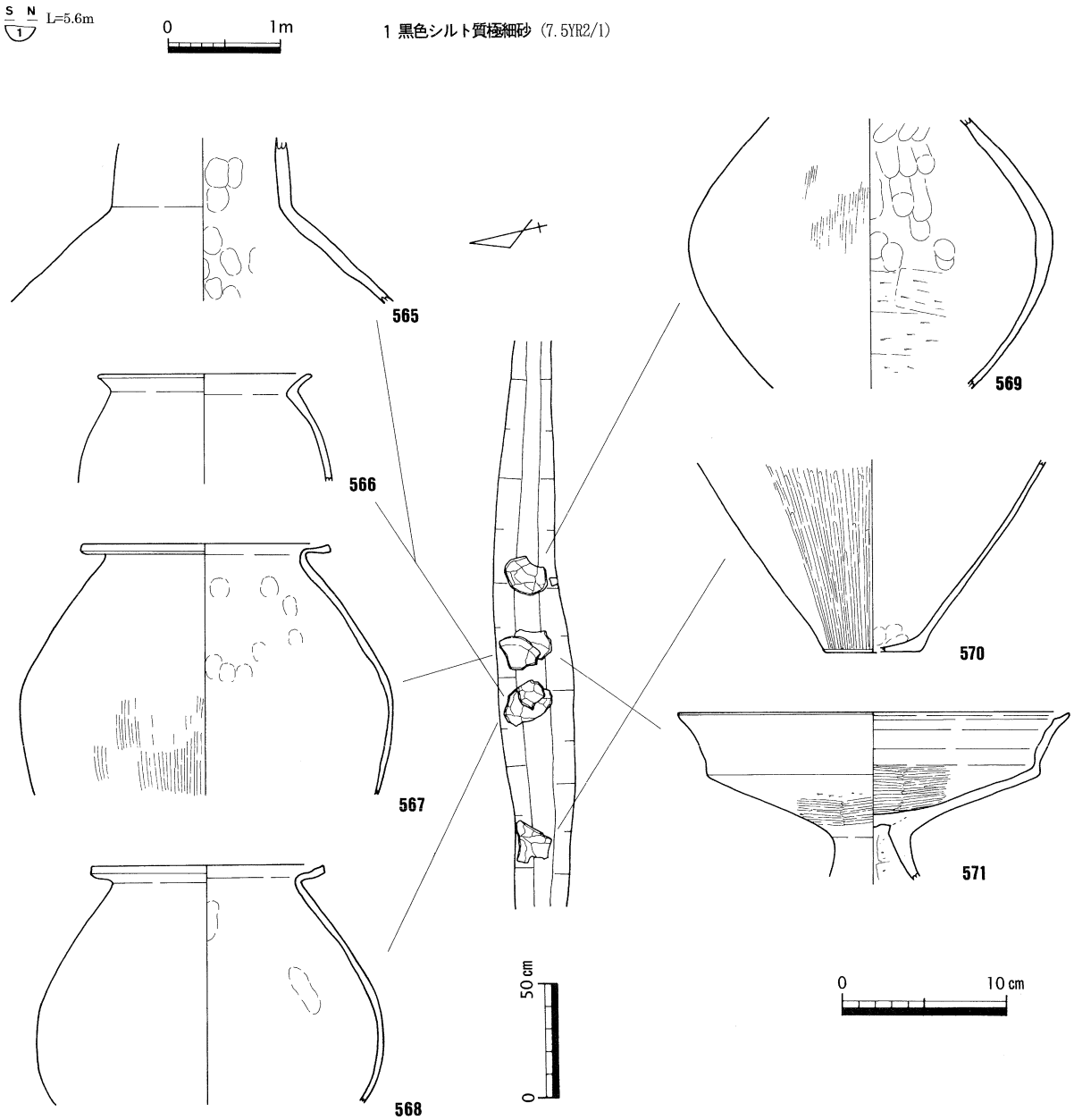
第120図　ＳＤ27断面図(縮尺1/60)出土遺物実測図①(縮尺1/4)



第121図　ＳＤ27出土遺物実測図②（縮尺1/4）



第122図　ＳＤ32断面図(縮尺1/60)出土遺物実測図(縮尺1/4)



第123図　ＳＤ35断面図(縮尺1/60)遺物出土状況図(縮尺1/30)出土遺物実測図(縮尺1/4)

棒状工具による刺突痕が残る。甕は，口縁部が太く短くのび，端部のつまみあげをわずかに残すものもある。底部は平底だが，少しふくらみが出ているものもある。高杯は，口縁部内面にヨコナデが施され，口縁部が斜めにまっすぐのびるもの外反するもの両者が見られる。555は，小形の高杯である。中形鉢は，

片口のもので，底部は角を残す平底である。小形鉢は，平底に高台がつくものである。なお，細口壺(529)の破片はわずかに外反する口頸部をもち様相１～２に相当し，高杯（556）は口縁端部に沈線化した凹線紋を施し後期前半に属することから，混入品であろう。

ＳＤ32（第122図）

７区南西で検出した幅約30～50cm，深さ約30cm，長さ約３ｍを測り，南北方向の断面Ｕ字形の溝である。埋土は２層に分かれる。ＳＰ７－112と重複するが，前後関係は不明である。

出土した弥生土器甕(561・562)は，口縁部がややうすくのび，端部のつまみあげを一部残す。底部(563・564）はややふくらむが平底である。破片であり細かい時期決定は難しいが，様相３～４に相当し弥生時代後期後半のものと考えられる。

ＳＤ35（第123図）

７区東で検出した幅約35cm，深さ約15cmを測る断面Ｕ字形の溝で，調査区内で検出した長さは約6.5ｍを測る。７区東端より調査区内に入り，まっすぐ西南西にのびる。埋土は２層に分かれる。溝底の比高差は約５cmであり，東に向かって緩やかな傾斜をもつ。この溝は，ＳＤ12・42連結溝にあたって終結し，ＳＤ12とＳＤ36（ＳＤ42の延長）と並行しているが，ＳＤ12が様相２～３に相当し，後述するようにＳＤ35が様相４～５に相当することから，同一時期のものではない。ただし，ＳＤ36・42が様相５の時期に再掘削されており，ＳＤ35とＳＤ36・42は同時期の可能性がある。

出土した弥生土器は，壺（565），甕（566～570），高杯（571）が見られる。壺は，口縁部が直角に折れる広口壺の頸部と考えられる破片であり，様相４～５に相当する。甕は，やや肩がはり，口縁部はヨコナデが施されて水平近くになるものもあるが，底部は平底であり，様相４～５に相当する。高杯は，口縁部のヨコナデが顕著で外反し，壺・甕と同時期と考えられる。以上のことから，ＳＤ35は弥生時代終末期のものと考えられる。

ＳＤ37（第124図）

７区北東で検出した幅約100cm，深さ約30cmを測る断面Ｕ字形の溝で，調査区内で検出した長さは約6.5ｍを測る。７区東端より調査区内に入り，湾曲しながら北西にのびる。埋土は３層に分かれる。この溝は，ＳＤ142と同一の可能性があり，さらに分岐してＳＤ141が西に向かっている可能性がある。竪穴住居の周溝と推定され，ＳＨ14・15の説明で周辺遺構との相互関係を述べている。ＳＤ145・147と重複し，ＳＤ147より後出し，出土した土器からＳＤ145より先行する。

出土した弥生土器は，高杯（572）が見られる。ＳＤ141・142は様相２～３であることから，ＳＤ35も同時期であり，弥生時代後期後半のものと考えられる。

ＳＤ38（第125図）

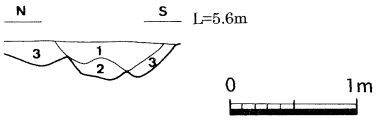
11区南西で検出した幅約40cm，深さ約15cmを測る断面Ｕ字形の溝で，調査区内で検出した長さは約３ｍを測る。11区南端より調査区内に入り，やや湾曲しながら西端より調査区外に出る。埋土は２層である。出土遺物は，弥生土器細片と石鏃（573）のみである。ＳＤ38は弥生時代後期のものと考えられる。

ＳＤ49（第126図）

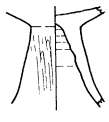
６区東で検出した幅約50cm，深さ約15cmを測る断面Ｕ字形の溝で，調査区内で検出した長さは約1.5ｍを測る。ＳＤ50・53と重複するが，前後関係は不明である。出土した弥生土器は，底部（574）と製塩土器（575）が見られ，弥生時代後期のものと考えられる。

ＳＤ53・82（第54・62・63・137・159図）

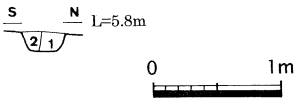
５～６区東端で検出した幅約50～60cm，深さ約40cmを測る断面Ｕ字形の溝で，調査区内で検出した長さ



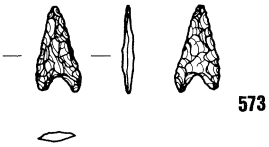
1 黒褐色シルト質極細砂（7.5YR2/2）
2 第1層に地山をブロック状に含む
3 黒褐色シルト質極細砂（7.5YR3/1）



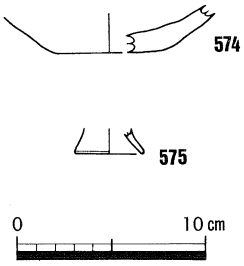
第124図　ＳＤ37断面図（縮尺1/60）出土遺物実測図（縮尺1/4）



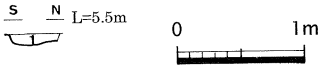
1 黒色シルト質極細砂
2 黒褐色シルト質極細砂



第125図　ＳＤ38断面図（縮尺1/60）出土遺物実測図（縮尺1/2）

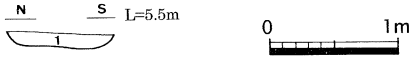


第126図　ＳＤ49出土遺物実測図（縮尺1/4）

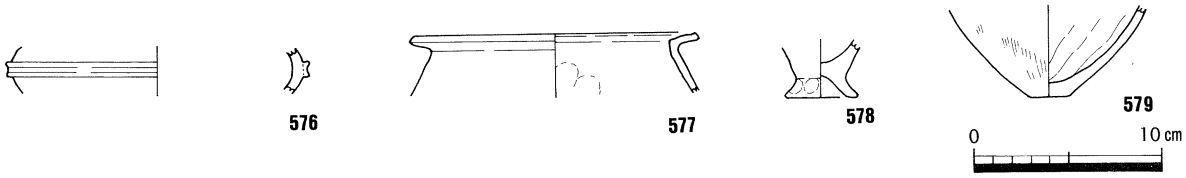


1 暗赤褐色シルト質極細砂（5YR3/2）

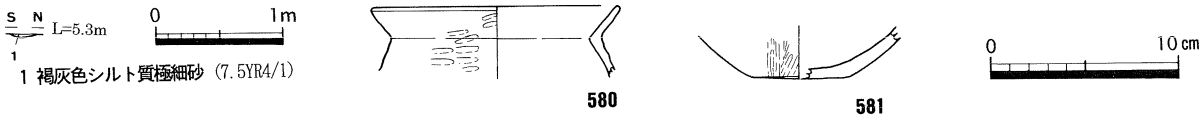
第127図　ＳＤ56断面図（縮尺1/60）



1 褐灰色シルト質極細砂（10YR5/1）

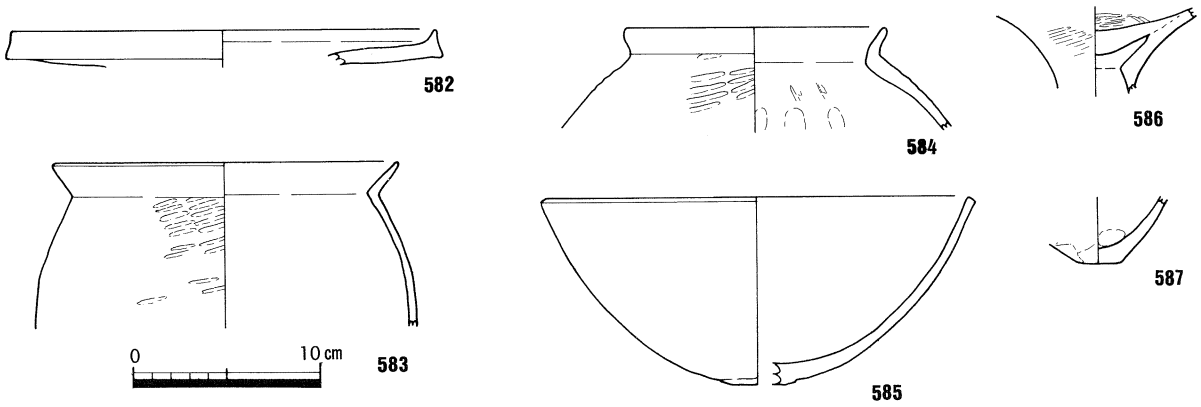


第128図　ＳＤ60断面図（縮尺1/60）出土遺物実測図（縮尺1/4）



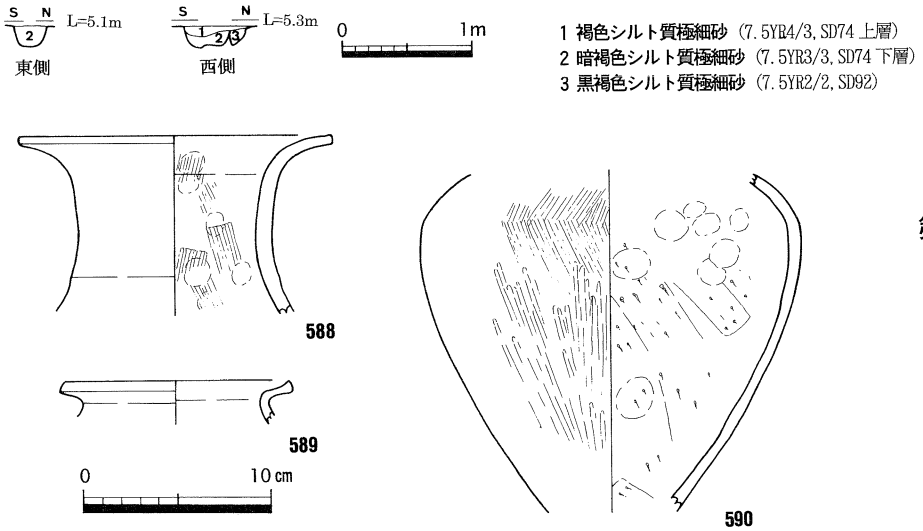
1 褐灰色シルト質極細砂（7.5YR4/1）

第129図　ＳＤ66断面図（縮尺1/60）出土遺物実測図（縮尺1/4）

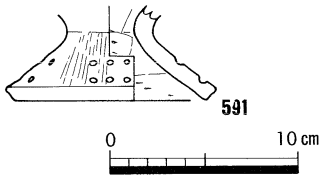


第130図　ＳＤ66・67・80・81付近出土遺物実測図（縮尺1/4）

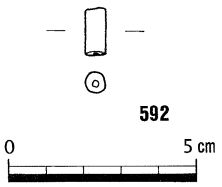
は約15mを測る。調査の都合上，ＳＤ55より南側をＳＤ53,北側をＳＤ82としたが，同一の溝である。ＳＤ46とＳＤ48が交わる地点から，北北東にまっすぐのび，５区東端で調査区外に出るかＳＤ79へと続く。このＳＤ53・82は，竪穴住居ＳＨ14・15の周溝ＳＤ46・48の排水を，旧河道ＳＲ01に導くための溝である。溝底の比高差は約20cmであり，北に向かって緩やかな傾斜をもつ。なお，ＳＤ46・48は時期差があり，ＳＨ14・15の項で述べたとおり，ＳＤ46は様相２～3,ＳＤ48は様相１～２に相当する。このことから，ＳＤ53・82も様相１～３に相当し，弥生時代後期後半と考えられる。埋土は，ＳＤ82の個所で２層に分かれる。なお，ＳＨ12とＳＤ49・50・55・62・63・79・109・138と重複し，ＳＤ63より後出し，ＳＨ12・ＳＤ55・62・79・109・138より先行し，ＳＤ49・50との前後関係は不明である。



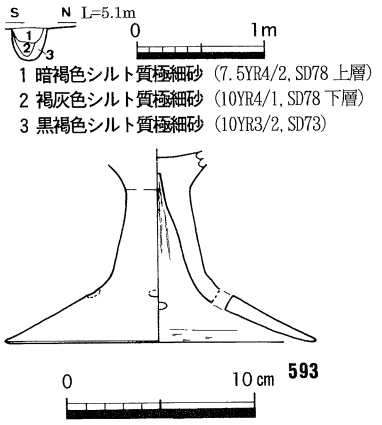
第131図　ＳＤ74断面図（縮尺1/60）出土遺物実測図（縮尺1/4）



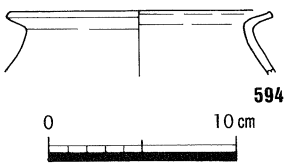
第132図　ＳＤ56・107出土遺物実測図（縮尺1/4）



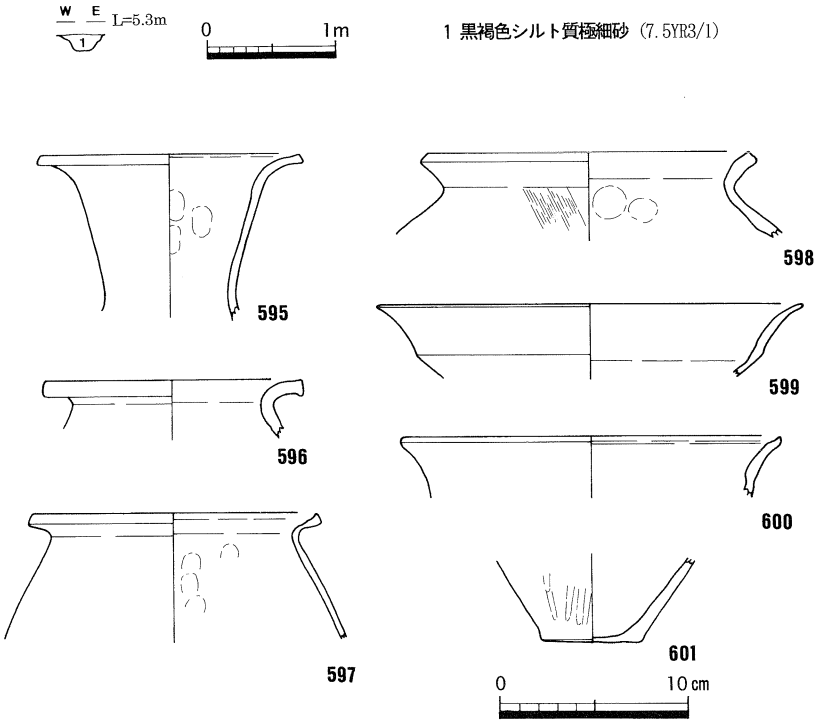
第133図　ＳＤ77出土遺物実測図（縮尺1/2）



第134図　ＳＤ78出土遺物実測図（縮尺1/4）



第135図　ＳＤ84出土遺物実測図（縮尺1/4）



第136図　ＳＤ79断面図（縮尺1/60）出土遺物実測図（縮尺1/4）

ＳＤ53より，弥生土器細片とともに，漁労用と考えられる石錘（684）が出土している。また，ＳＤ82において弥生土器（602～627）が出土したが，調査時はＳＤ82を明確に認識して掘削できなかったため，ＳＨ12・ＳＤ109など他の遺構出土の遺物が数多く混入している。

ＳＤ56（第127・132図）

５区中央で検出した幅約40cm，深さ約10cmを測る断面Ｕ字形の溝で，調査区内で検出した長さは約６ｍを測る。ＳＨ10・11周溝であるＳＤ62の延長でありＳＤ124に続くと考えられ，この場合，５区南西端より調査区内に入り，湾曲しながら北東にのび，５区東端で調査区外に出る。調査区内の総延長は，約23ｍである。埋土は１層のみである。ＳＤ36・55・107そしてＳＤ109（ＳＨ22周溝）と重複し，ＳＤ55より先行するが，他の遺構との前後関係は不明である。弥生土器細片しか出土していないが，ＳＤ62の延長であることから同じ様相５と想定され，弥生時代終末期のものと考えられる。

ＳＤ60（第25・128・159図）

５区西で検出した幅約90～100cm，深さ約15cmを測る断面Ｕ字形の溝で，調査区内で検出した長さは約13ｍを測る。５区西端より調査区内に入り，東に向かってまっすぐのびるが，途中で南に折れる。ＳＤ36へと続く可能性はあるが，断定できない。埋土は１層のみである。溝底の比高差はほとんどない。ＳＨ02，ＳＤ59（ＳＨ11周溝）・63・104（ＳＨ23周溝）・105・106・114・118と重複し，これらすべての遺構より後出する。

出土した弥生土器には，後期前半に属する細頸壺(576)，様相４～５に属する甕(577)，製塩土器(578)，底部（579）が見られるが，様相６に属するＳＨ02より後出することから，ＳＤ60は様相６より後のものである。なお，土器以外に漁労用と考えられる石錘（685）が出土している。

ＳＤ66（第129図）

５区北東で検出した幅約20cm，深さ約10cmを測る断面Ｕ字形の溝で，調査区内で検出した長さは約5.5ｍを測る。ＳＨ10周溝あたりから北東に向かってまっすぐのび，旧河道ＳＲ01に注いでおり，ＳＨ10周溝の排水溝の可能性がある。埋土は１層のみである。溝底の比高差はほとんどない。ＳＨ11・ＳＤ59（ＳＨ11周溝）・72と重複し，ＳＤ72より先行するが，他の遺構との前後関係は不明である。

出土した弥生土器のうち，甕（580）は外面に叩きを有するもので，口縁部の屈曲が鋭く，口縁部と体部最大径が近いことから様相５前後に相当する。底部（581）は丸底化が見られる平底であり様相４～５に相当する。以上のことから，ＳＤ66は弥生時代終末期と考えられる。

ＳＤ66・67・80・81付近出土遺物（第130図）

５区北東に所在するＳＤ66・67・80・81付近から弥生土器が多く出土したが，調査時は出土遺物がどの遺構に属するのか判断できなかったので，ここで一括して代表的なものを報告する。広口壺（582）は口縁部が水平近く長くのびるもので様相５に相当する。甕（583）は外面に叩きを有するもので，口縁部の屈曲が鋭く，口縁部と体部最大径が近いことから様相５に相当する。鉢（585）は丸底だがわずかに平底を残し様相４～５に相当する。これらの土器は，弥生時代終末期に属するものである。

ＳＤ74（第131図）

４区北西で検出した幅約40cm，深さ約15cmを測る断面逆台形の溝で，調査区内で検出した長さは約10.5ｍを測る。調査区西端から東に向かってまっすぐのび，旧河道ＳＲ01に注いでおり排水溝である。溝底の比高差は約20cmであり，東に向かって緩やかな傾斜をもつ。埋土は２層である。ＳＤ72・92と重複し，ＳＤ72より先行するが，他の遺構との前後関係は不明である。

出土した弥生土器のうち，広口壺（588）は頸部が筒状でさらに口縁部が外反しながら開くもので，後

期前半末～様相１の段階で見ることができる。甕（589）は口縁部が短く端部を上下にやや拡張させることから，広口壺と同じ頃と考えられる。一方，甕（590）は肩が張り体部下半にやや膨らみがあり様相５に相当する。出土遺物が少ない上に２時期に分かれるため時期決定は難しいが，後期前半末～後半初頭に属するＳＤ92を壊していることから，その時期の遺物が混入した可能性があり，この場合ＳＤ74は弥生時代終末期と推定される。

ＳＤ77（第133図）

３区南西で検出した幅約40cm，深さ約15cmを測る溝で，調査区内で検出した長さは約1.5mを測る。ＳＨ07周溝付近から東に向かってまっすぐのび，旧河道ＳＲ01に注いでいることから，ＳＨ07周溝の排水溝である可能性がある。ＳＤ72・73（ＳＨ06周溝）と重複し，ＳＤ73より後出し，ＳＤ72より先行する。出土遺物は，碧玉製管玉（592）のみである。

ＳＤ78（第134図）

３区南西で検出した幅約30cm，深さ約25cmを測る断面Ｕ字形の溝で，調査区内で検出した長さは約2.5mを測る。調査区西端近くから東北東に向かってまっすぐのび，旧河道ＳＲ01に注いでおり排水溝であろう。埋土は２層である。ＳＤ72・73（ＳＨ06周溝）と重複し，ＳＤ73より後出し，ＳＤ72より先行する。

出土した弥生土器のうち図化できたのは高杯（594）のみで，脚部が途中折れ曲がってラッパ状に開き，弥生時代終末期と考えられる。

ＳＤ79（第136図）

５区北東で検出した幅約40cm，深さ約15cmを測る溝で，調査区内で検出した長さは約６ｍを測る。後述するようにＳＤ82と時期が近いことから，ＳＤ82の延長にあたる可能性がある。ＳＤ63・80・81と重複し，ＳＤ63より後出するが，ＳＤ80・81との前後関係は不明である。

出土した弥生土器は，広口壺（595）・甕（596～598）・高杯（599・600）・底部（601）が見られる。広口壺は，口縁部がラッパ状に開くもので様相１～２に相当する。甕は口縁部が短く，高杯も口縁部があまり長くなく，底部も平底で角を明瞭に残すことから，広口壺と同じ頃と考えられる。以上のことから，ＳＤ79は弥生時代後期後半のものと考えられる。

ＳＤ84（第135図）

５区北東で検出した幅約40cm，深さ約10cmを測る溝で，調査区内で検出した長さは約1.5mを測る。ＳＤ72・79・83と重複し，ＳＤ72より先行するが，他の遺構との前後関係は不明である。

出土した弥生土器は甕（594）のみで，弥生時代後期後半～終末期と考えられる。

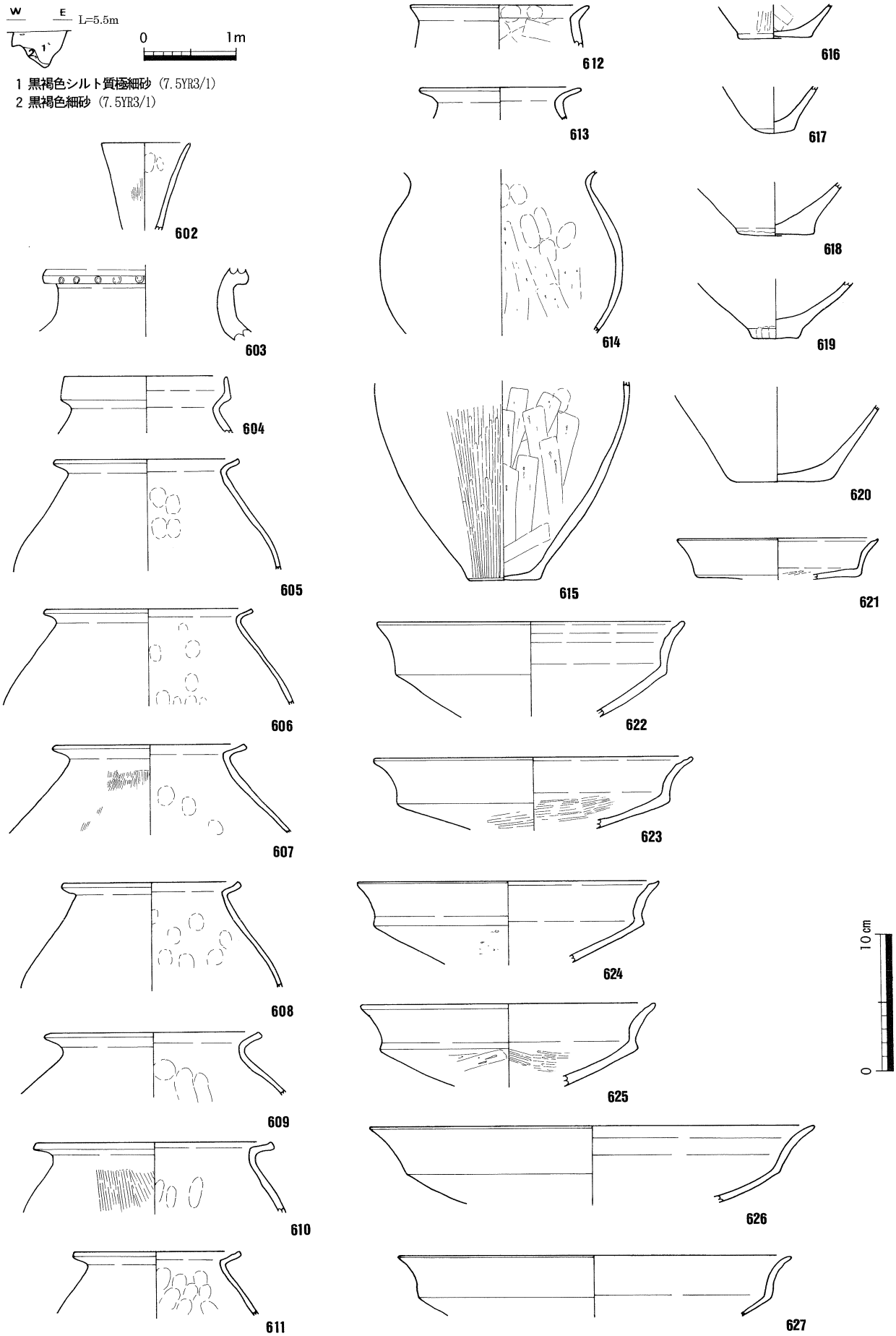
ＳＤ85（第138図）

５区北東で検出した幅約20cm，深さ約10cmを測る溝で，調査区内で検出した長さは約2.5mを測る。ＳＨ11側壁あたりから東に向かってまっすぐのびている。ＳＨ11・ＳＤ59（ＳＨ11周溝）・72・80・81・116と重複し，ＳＤ72より先行するが，他の遺構との前後関係は不明である。

出土した弥生土器は，甕（628・629）・紡錘車（630）である。甕は，口縁部が水平近くに折れ，やや肩が張って体部下半に膨らみが出始めるが，底部はまだ平底であり，様相４～５に相当する。紡錘車は土器の再利用品だが，中央の穿孔は貫通していない。以上のことから，ＳＤ85は様相４～５に相当し，弥生時代終末期と考えられる。

ＳＤ87（第139図）

３区南西で検出した幅約20cm，深さ約10cmを測る溝で，調査区内で検出した長さは約３ｍを測る。南西～北東にまっすぐのびる。ＳＸ02・ＳＤ72と重複するが，前後関係は不明である。



第137図　ＳＤ82断面図(縮尺1/60) ＳＤ82(ＳＨ12・ＳＤ109)付近出土遺物実測図(縮尺1/4)

出土した弥生土器は，製塩土器（631・632）・小形土器（633）で，弥生時代後期後半～終末期と考えられる。

ＳＤ88（第140図）

３区南西で検出した幅約30cm，深さ約10cmを測る溝で，調査区内で検出した長さは約４ｍを測る。南西～北東に蛇行しながらのびる。ＳＨ05～07と重複するが，前後関係は不明である。

出土した弥生土器は，高杯（634・635）・底部（636）で，弥生時代後期後半～終末期と考えられる。

ＳＤ92（第141図）

４区北西で検出した幅約30cm，深さ約20cmを測る溝で，調査区内で検出した長さは約６ｍを測る。調査区西端から北東に向かって弧を描きながらのびており，竪穴住居に伴う周溝の可能性もある。ＳＨ08・ＳＤ73（ＳＨ06周溝）・74・91・95と重複し，ＳＨ08・ＳＤ73（ＳＨ06周溝）・74より先行するが，他の遺構との前後関係は不明である。

出土した弥生土器は，広口壺（636）・甕（637）・底部（638）である。広口壺は，頸部が筒状でさらに口縁部が外反しながら開くもので，後期前半末～様相１の段階で見ることができる。甕は口縁部が短く端部を上下にやや拡張させ，広口壺と同じ頃と考えられる。底部も平底で，広口壺・甕と同じ頃である。以上のことから，ＳＤ92は弥生時代後期前半末～後半初頭と考えられる。

ＳＤ93（第142図）

４区南で検出した幅約30～60cm，深さ約30～40cmを測る断面Ｕ字形の溝で，調査区内で検出した長さは約9.5ｍを測る。調査区西端から東に向かってまっすぐのび，旧河道ＳＲ01に注いでおり排水溝である。溝底の比高差は約20cmであり，東に向かって緩やかな傾斜をもつ。埋土は２層である。ＳＨ04・09とＳＤ72と重複し，これらすべての遺構より先行する。

出土した弥生土器のうち，広口壺（639）は頸部が筒状でさらに口縁部が外反しながら開くもので，後期前半末～様相１の段階で見ることができる。甕（640）は口縁端部を上下に拡張させ退化した凹線文を施しており，後期前半である。甕（641）は外面に叩きが施されるもので，底部が平底であり，広口壺と同じ頃かやや新しいものと考えられる。製塩土器は底部のつくりが丁寧で体部外面にヘラケズリを施しており，他の遺物と同じ頃と考えられる。以上のことから，ＳＤ93は弥生時代後期前半末～後半初頭と推定される。

ＳＤ94（第143図）

４区北西で検出した幅約30cm，深さ約10cmを測る溝で，調査区内で検出した長さは約１ｍを測る。調査区西端から北東に向かってまっすぐのびている。ＳＤ73（ＳＨ06周溝）・95・96と重複するが，前後関係は不明である。

出土した弥生土器は，壺（643）・甕（644）である。甕は口縁部が短いことから，弥生時代後期後半に属すると考えられる。

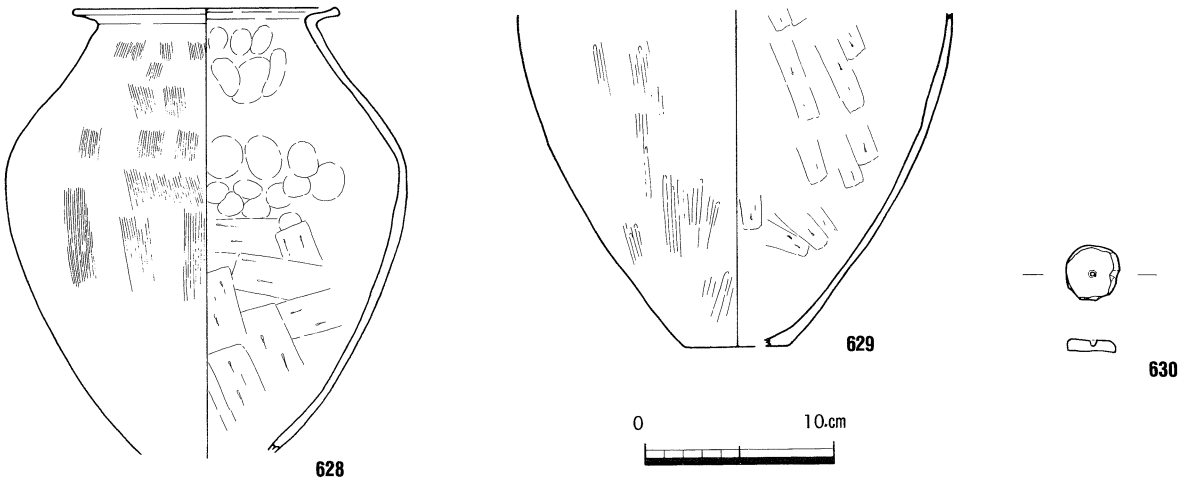
ＳＤ97（第144図）

４区北西で検出した幅約20～50cm，深さ約15cmを測る溝で，調査区内で検出した長さは約２ｍを測る。調査区西端から南東に向かってのびている。ＳＤ73（ＳＨ06周溝）と重複するが，前後関係は不明である。

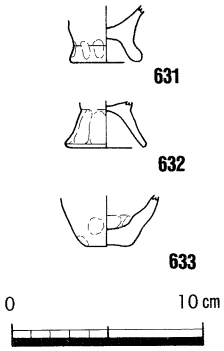
出土した弥生土器は底部（645）のみで，弥生時代後期後半～終末期に属すると考えられる。

ＳＤ100（第145図）

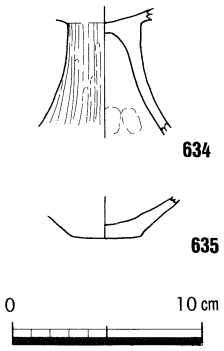
４区南で検出した幅約30～60cm，深さ約30～40cmを測る断面逆台形の溝で，調査区内で検出した長さは約14ｍを測る。調査区西端から東に向かってまっすぐのび，旧河道ＳＲ01に注いでおり排水溝である。溝



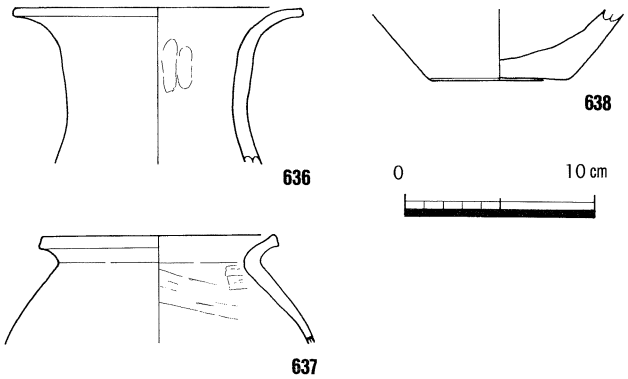
第138図　ＳＤ85出土遺物実測図(縮尺1/4)



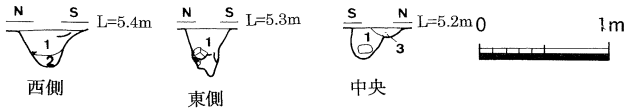
第139図　ＳＤ87出土遺物実測図(縮尺1/4)



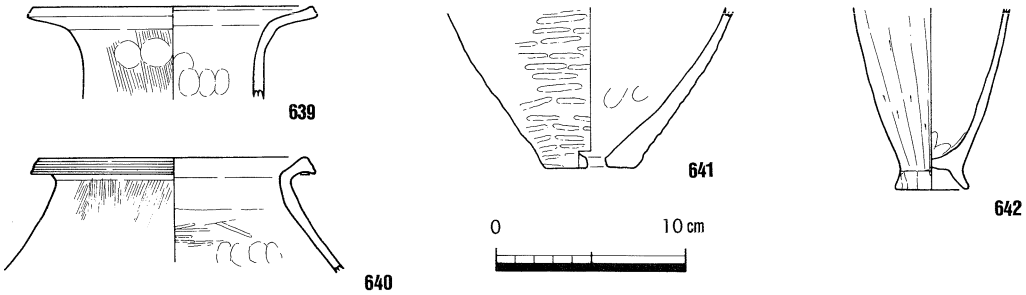
第140図　ＳＤ88出土遺物実測図(縮尺1/4)



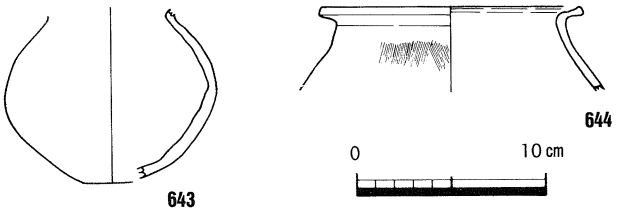
第141図　ＳＤ92出土遺物実測図(縮尺1/4)



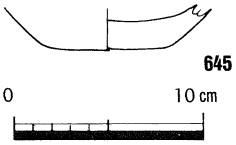
1 黒褐色シルト質極細砂 (5YR2/2, SD93 上層)
2 黒褐色細砂 (5YR2/2, SD93 下層)
3 黒褐色シルト質極細砂 (7.5YR3/2, SH04 壁溝)



第142図　ＳＤ93断面図(縮尺1/60)出土遺物実測図(縮尺1/4)



第143図　ＳＤ94出土遺物実測図(縮尺1/4)



第144図　ＳＤ97出土遺物実測図(縮尺1/4)

底の比高差は約20cmであり，東に向かって緩やかな傾斜をもつ。埋土は２層である。ＳＨ04とＳＤ72・99（ＳＨ03周溝）と重複し，これらすべての遺構より先行する。

出土した弥生土器は，広口壺（646・647）・甕（648～651）・底部（652）がある。広口壺（647）は口縁部が直角近くに折れ曲がるもので，様相４～５に相当する。甕（648～650）は，口縁部が強く折れ，様相４～５に相当する。底部は平底だが丸みを帯びており，様相４～５に相当する。以上のことから，ＳＤ100は弥生時代終末期と考えられる。

ＳＤ103（第146図）

５区中央で検出した幅約40cm，深さ約10cmを測る溝で，調査区内で検出した長さは約1.5mを測る。

出土した弥生土器は，中形鉢（653）・高杯（654）・底部（655・656）がある。中形鉢は，口縁端部の屈曲が弱く，様相５～６に相当する。底部は，平底だが丸底化が進んでおり，様相４～５に相当する。以上のことから，ＳＤ103は弥生時代終末期と考えられる。

ＳＤ113（第147図）

５区中央で検出した幅約20cm，深さ約10cmを測る溝で，調査区内で検出した長さは約0.7mを測る。

出土した弥生土器は，中形鉢（657）・底部（658・659）がある。この中形鉢は，大形鉢と形態が共通するもので，口縁部がうすく長くなっており，様相５～６に相当する。底部は，丸底だが平底が残っており，様相６に相当する。以上のことから，ＳＤ113は古墳時代前期初頭と考えられる。

ＳＤ114（第148・159図）

５区中央で検出した幅約15cm，深さ約10cmを測る溝で，調査区内で検出した長さは約1.4mを測る。

出土した弥生土器は，底部（660）のみで平底であり，弥生時代後期後半～終末期と考えられる。また，叩き石と推定される石器（687）も出土している。

ＳＤ119・120（第149図）

５区南西で検出した溝で，ＳＤ119は幅約25cm，深さ約10cm，長さ約４mを測る。ＳＤ120はＳＨ19周溝である。ＳＤ119とＳＤ120は重複しているが，前後関係は不明。

ＳＤ119・120重複地点より，弥生土器高杯（661）が出土しており，弥生時代終末期と考えられる。

ＳＤ121（第150図）

５区中央で検出した幅約20cm，深さ約10cmを測る溝で，調査区内で検出した長さは約１mを測る。ＳＤ59（ＳＨ11周溝）と重複するが，前後関係は不明である。ガラス玉（662）が出土しており，弥生時代後期～終末期に属すると考えられる。

ＳＤ124（第151図）

５区西で検出した幅約80cm以上，深さ約30cmを測る溝だが，後世のＳＤ55により大部分が破壊され，長さは不明である。ＳＤ55・131と重複し，これらより先行する。甕（663）が出土しており，弥生時代終末期～古墳時代前期初頭と考えられる。

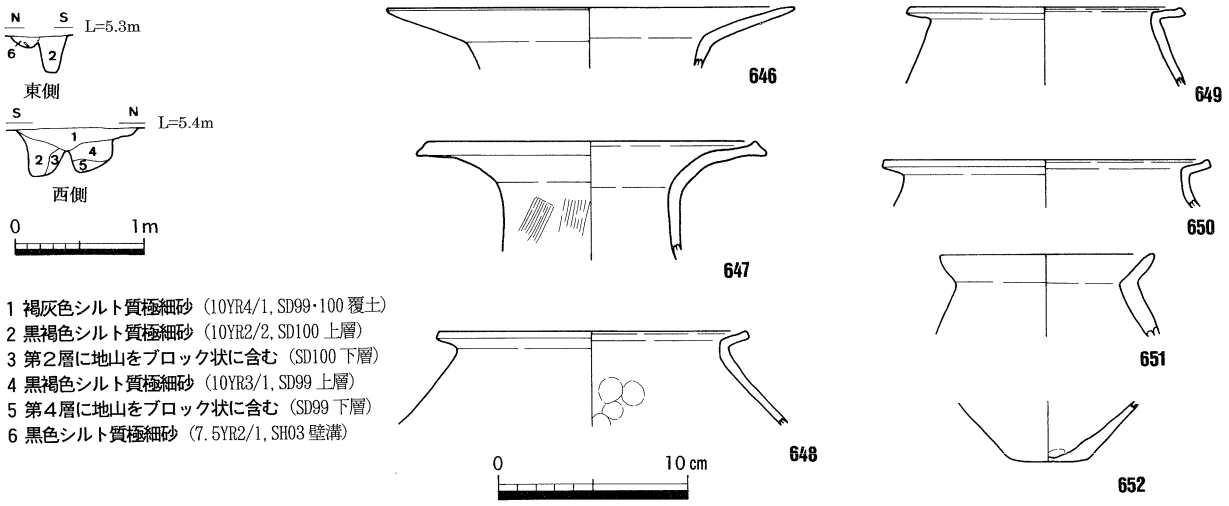
ＳＤ132（第152図）

６区北西で検出した幅約30cm，深さ約10cmを測る溝で，調査区内で検出した長さは約2.8mを測る。ＳＤ134と重複するが，前後関係は不明である。

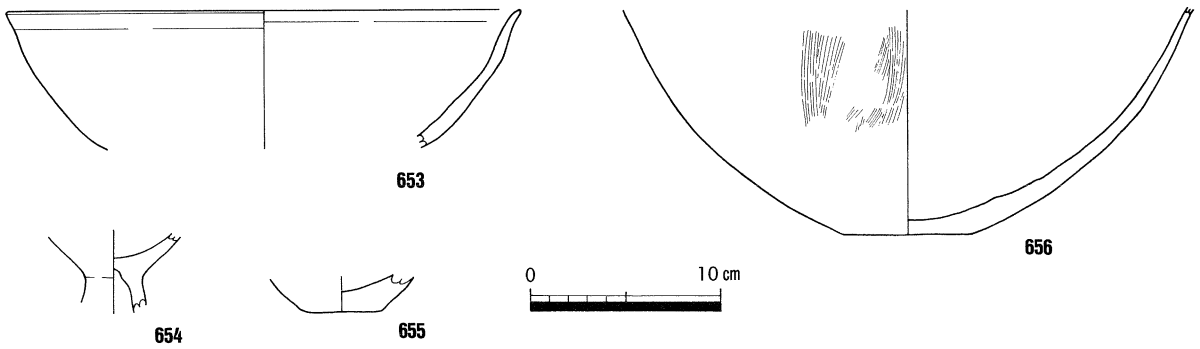
出土した弥生土器は，広口壺（664）・底部（665）がある。広口壺は，口縁端部に施される凹線文が省略化されており，底部は角がとれた平底であり，弥生時代後期後半と考えられる。

ＳＤ133（第153図）

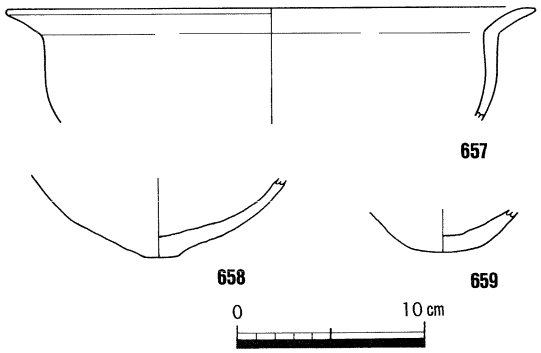
６区北西で検出した幅約20cm，深さ約10cmを測る溝で，調査区内で検出した長さは約3.3mを測る。



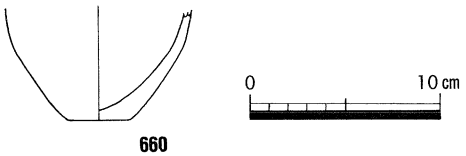
第145図　ＳＤ100断面図（縮尺1/60）出土遺物実測図（縮尺1/4）



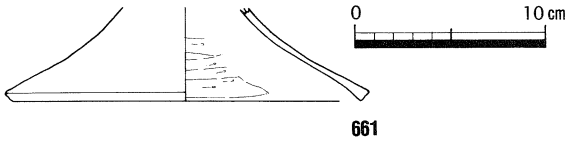
第146図　ＳＤ103出土遺物実測図（縮尺1/4）



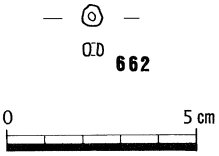
第147図　ＳＤ113出土遺物実測図（縮尺1/4）



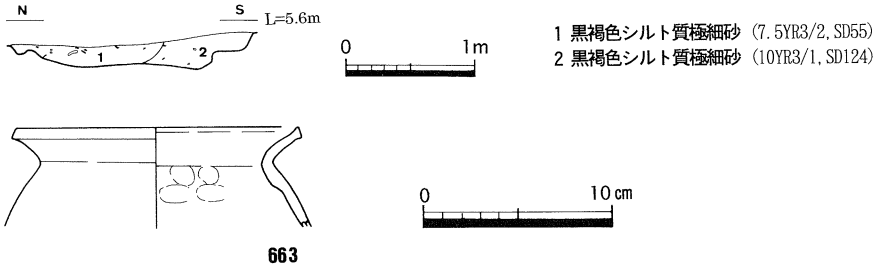
第148図　ＳＤ114出土遺物実測図（縮尺1/4）



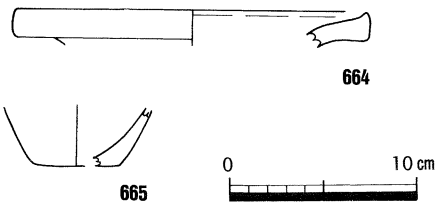
第149図　ＳＤ119・120出土遺物実測図（縮尺1/4）



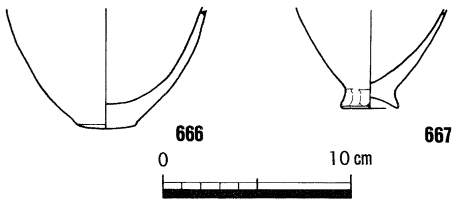
第150図　ＳＤ121
出土遺物実測図
（縮尺1/2）



第151図　ＳＤ124断面図（縮尺1/60）出土遺物実測図（縮尺1/4）

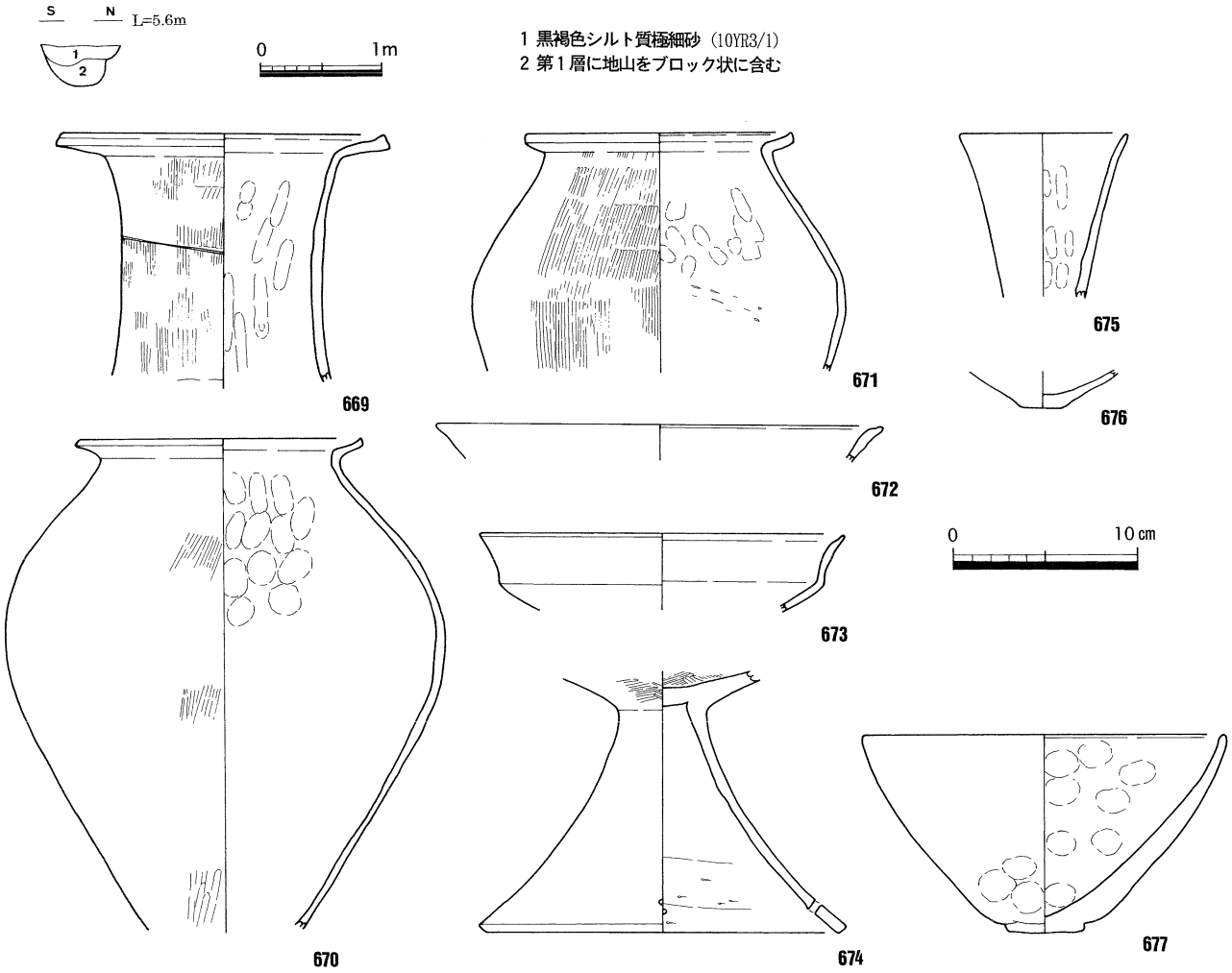


第152図　ＳＤ132出土遺物実測図（縮尺1/4）

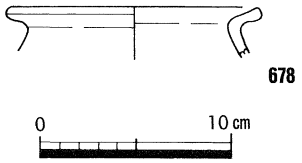


第153図　ＳＤ133出土遺物実測図（縮尺1/4）

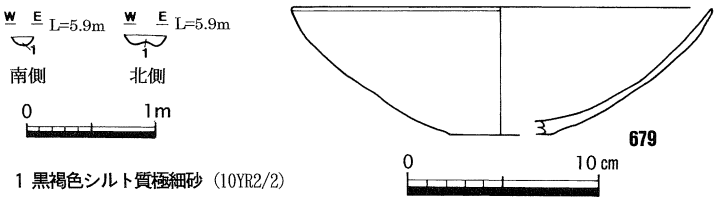
第154図　ＳＤ135・139断面図（縮尺1/60）出土遺物実測図（縮尺1/4）



第155図　ＳＤ141断面図（縮尺1/60）出土遺物実測図（縮尺1/4）



第156図　ＳＤ148出土遺物実測図（縮尺1/4）



第157図　ＳＤ154断面図（縮尺1/60）出土遺物実測図（縮尺1/4）

出土した弥生土器は，底部の破片（666・667）で，666は膨らみが出た平底であり，様相４～５に相当する。667は上げ底で鉢の底部と考えられ，様相３に相当する。出土遺物に時期差があり，弥生時代後期後半～終末期と考えられる。

ＳＤ135・139（第154図）

５～６区中央で検出した幅約25～30cm，深さ約10cmを測る断面Ｕ字形の溝で，調査区内で検出した長さは約3.5mを測る。ＳＤ55により南北に分断されており，そのため遺構番号が別々となった。出土した弥生土器は底部（668）のみで，弥生時代後期後半頃と考えられる。

ＳＤ141（第155図）

６区南西で検出した幅約50～60cm，深さ約30cmを測る断面Ｕ字形の溝で，調査区内で検出した長さは約8.5mを測る。調査区西端から東に向かってまっすぐのび，ＳＤ37（ＳＨ14・15周溝）につながる。ＳＨ14・15変遷の第１段階で説明したとおり，おそらく調査区外の西にある竪穴住居からＳＨ14・15周溝に排水を流す目的をもっている。溝底の比高差はほとんどない。埋土は２層である。ＳＤ42と重複し，ＳＤ42より先行する。

出土した弥生土器は，長頸壺（669）・甕（670・671）・高杯（672・674）・細頸壺（675）・底部（676）・鉢（677）がある。長頸壺は，口縁部が直角近くに折れ長いことから，様相２に相当する。甕は，口縁部が短く，肩の張りもないことから，様相２前後に相当する。高杯は，口縁部が短く，脚部の開きも少ないことから，様相２前後に相当する。細頸壺は，口頸部がわずかに外反することから，様相１～２に相当する。鉢は，高台状の出っ張りをもつ平底であり，様相１～２に相当する。以上のことから，ＳＤ141は様相２に相当し，弥生時代後期後半と考えられる。

ＳＤ148（第156図）

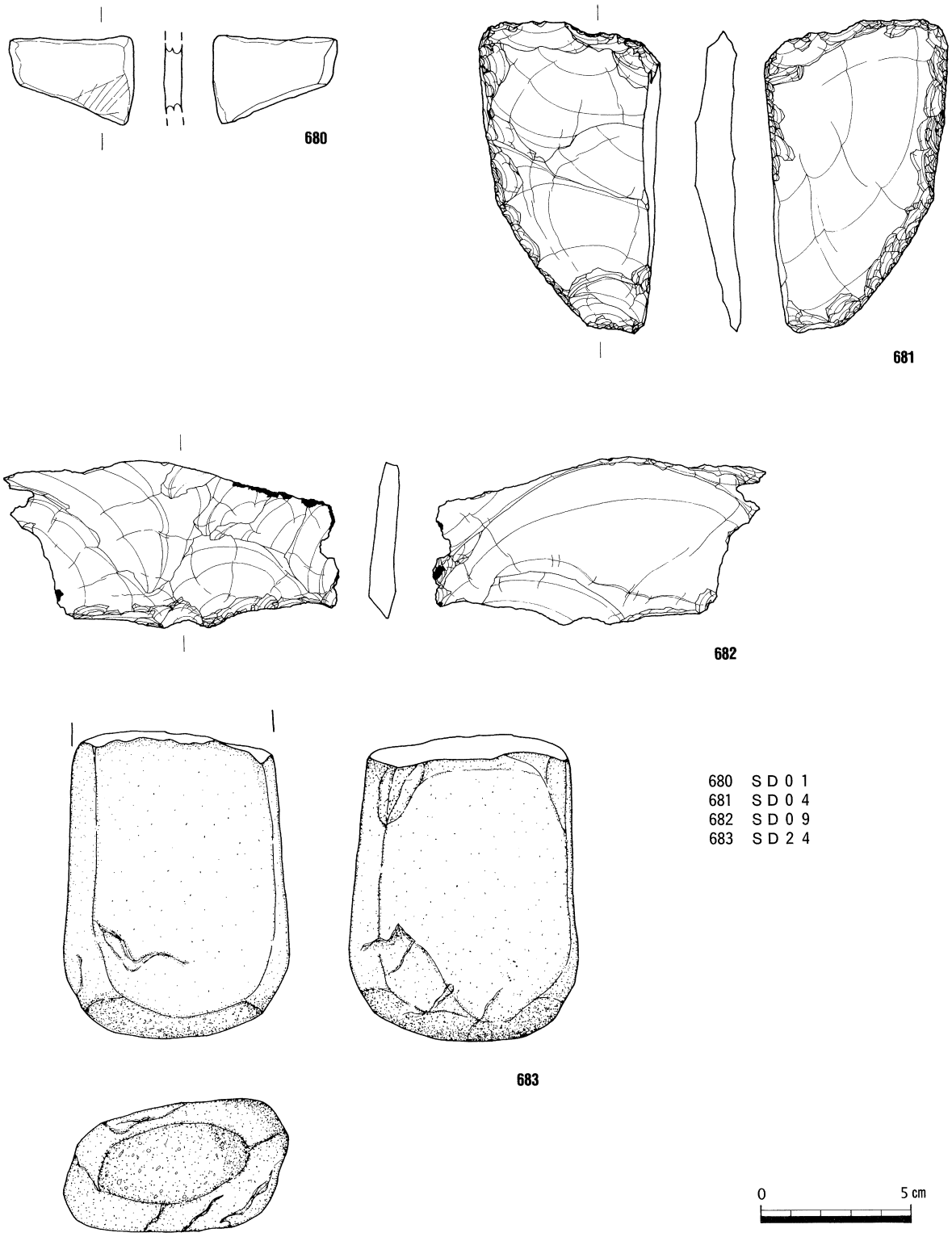
６区中央で検出した幅約30cm，深さ約10cmを測る溝で，調査区内で検出した長さは約2.5mを測る。ＳＤ42・44・142と重複し，前後関係は不明である。

出土した弥生土器は甕（678）のみで，口縁部が短く端部を肥厚させており，弥生時代後期後半と考えられる。

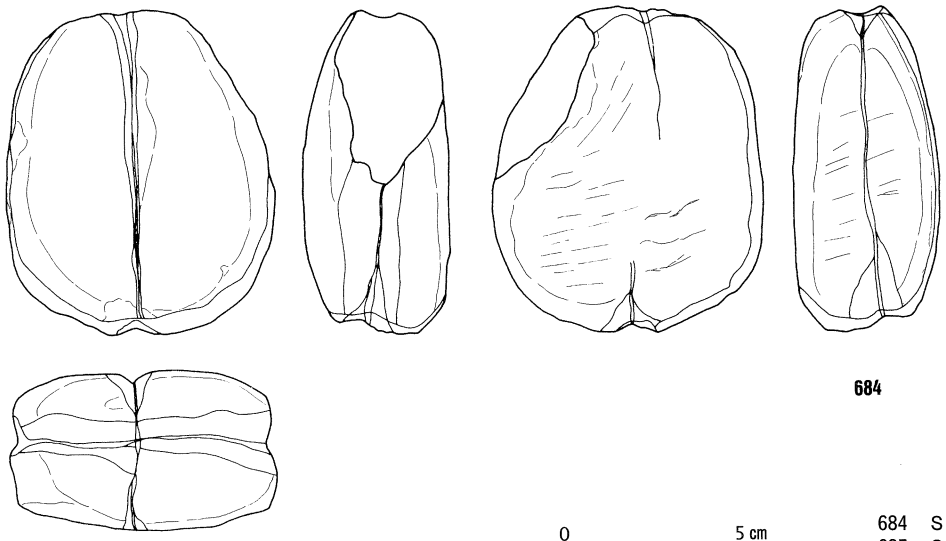
ＳＤ154（第157図）

11区北西で検出した幅約40cm，深さ約10cmを測る断面Ｕ字形の溝で，調査区内で検出した長さは約1.4mを測る。ＳＤ05・41・55と重複し，ＳＤ55より先行するが，他の遺構との前後関係は不明である。

出土した弥生土器は鉢（679）のみで，浅い器形に平底を残しており，様相４～５に相当し，弥生時代終末期と考えられる。

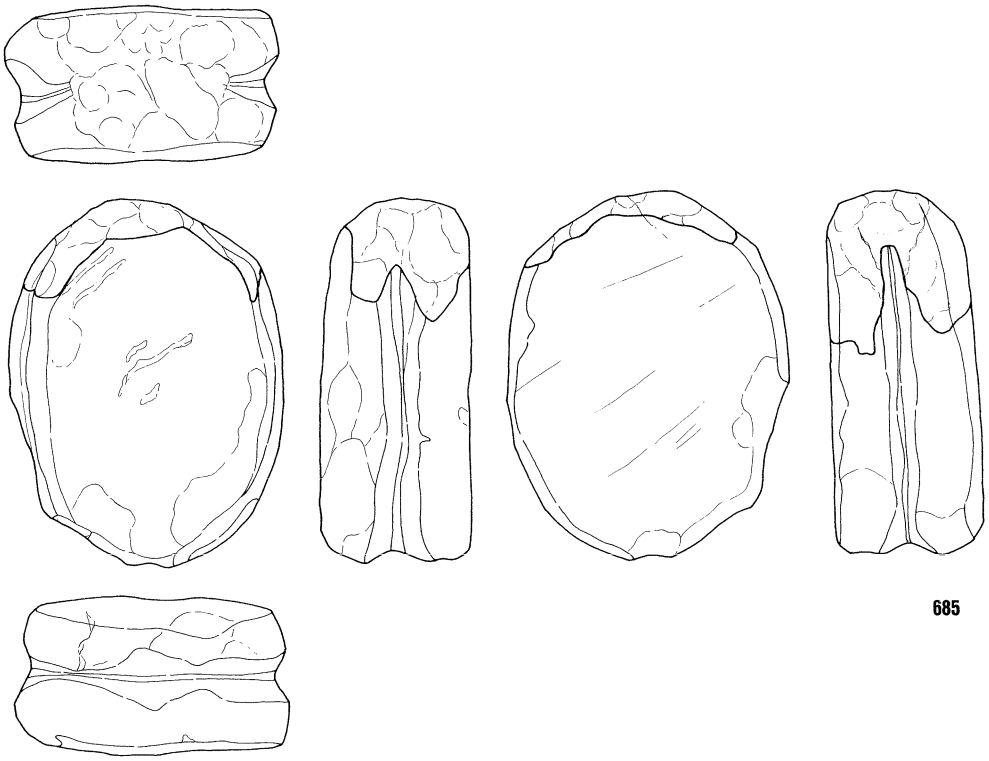


第158図　ＳＤ01・04下層溝・09・24出土絵画土器・石器実測図(縮尺1/2)

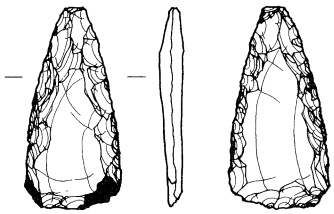


684

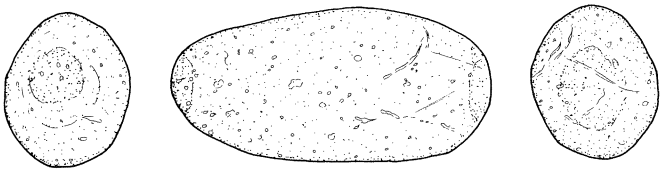
684　ＳＤ５３
685　ＳＤ６０
686　ＳＤ８１
687　ＳＤ１１４



685



686



687

第159図　ＳＤ53・60・81・114出土石器実測図（縮尺1/2）

(7) 柱穴

微高地上において，総計約900基の柱穴を確認している。そのうち，竪穴住居・掘立柱建物跡・柵列の柱穴が一部あったが，残りについては用途不明である。ただし，後述するＳＰ５－02のように土器埋納を目的としたものもある。柱穴の所属時期については，弥生時代～古代という広い範囲で捉えられるものであるが，ここでは柱穴から出土した弥生時代後期～古墳時代前期初頭の土器を中心に報告する。また，詳細な時期は不明だが，柱穴から出土した鉄器・石器についても合わせて報告する。

ＳＰ５－02（第160図）

５区中央で検出した土器埋納ピットである。柱穴の平面は，東に向かって尖る不整な円形である。埋土は２層に分かれ，下層において土器が集中して廃棄された状態で見つかった。ＳＨ03と重複し，出土土器はＳＰ５－02の方が新しいことから，ＳＨ03より後出する。

出土した弥生土器は，甕（688～691）を主体としており，これに製塩土器脚部（692）が混じる。甕は，口縁部が直立または斜めにまっすぐのび，体部は球形で，底部は完全な丸底である。なお，691の底には焼成前の穿孔が見られる。ＳＨ03様相６の次の段階，大久保編年によれば讃岐⑦段階に相当し，古墳時代前期と考えられる。

ＳＰ４－116（第161図）

４区南西で検出した。柱穴の平面は，東西に長い楕円形である。ＳＨ04・ＳＤ93と重複し，出土土器がＳＤ93よりＳＰ４－116の方が新しいことからＳＤ93より後出する。ＳＨ04との前後関係は不明である。

出土した弥生土器は，甕（699）・鉢（698）・底部（697・700）である。甕は，口縁端部のつまみあげがなく，やや肩が張っている。底部は，平底だが少しふくらみが出ている。これらの特徴から，様相４に相当し，ＳＰ４－116は弥生時代終末期と考えられる。

ＳＰ６－63（第162図）

６区南東で検出した。柱穴の平面は円形である。ＳＨ14・15と重複し，ＳＨ14炉址と近接するが，前後関係は不明である。

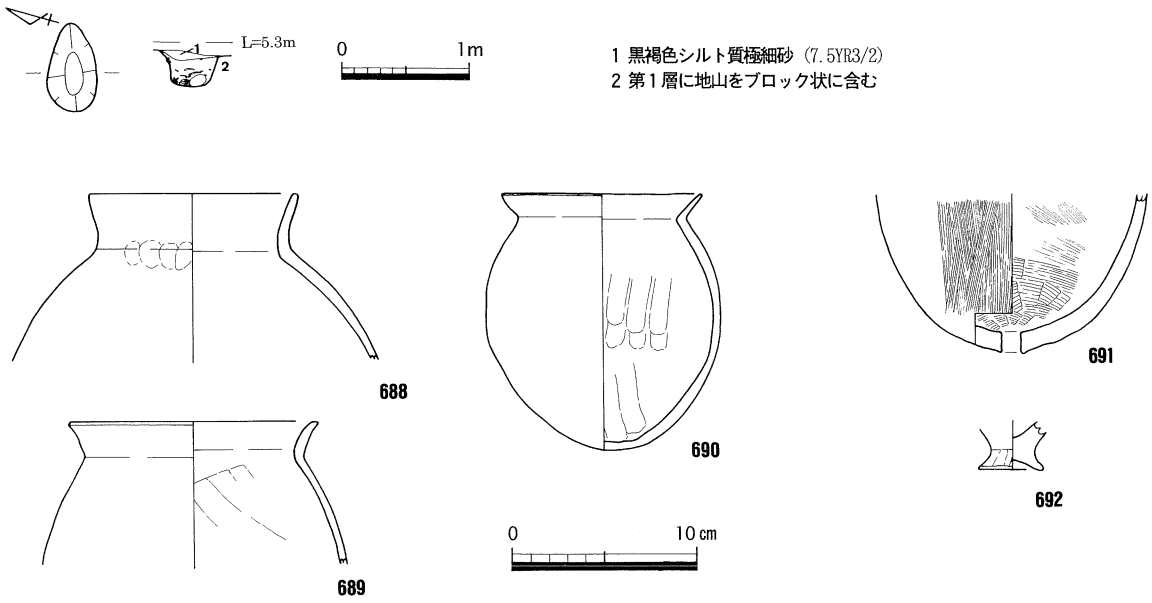
出土した弥生土器は，甕（712）・蓋（713）・大形鉢口縁部（716）である。このうち，甕と蓋は弥生時代前期中頃に属するものである。一方，大形鉢は，口縁部がほぼまっすぐ短く立ち上がるもので，様相４に相当し，弥生時代終末期と考えられる。時代の古い前期のものが混入している可能性もあるが，近くに前期の遺構がないため，前期・後期どちらの土器が混入品かは判断できない。

その他の柱穴（第161・162図）

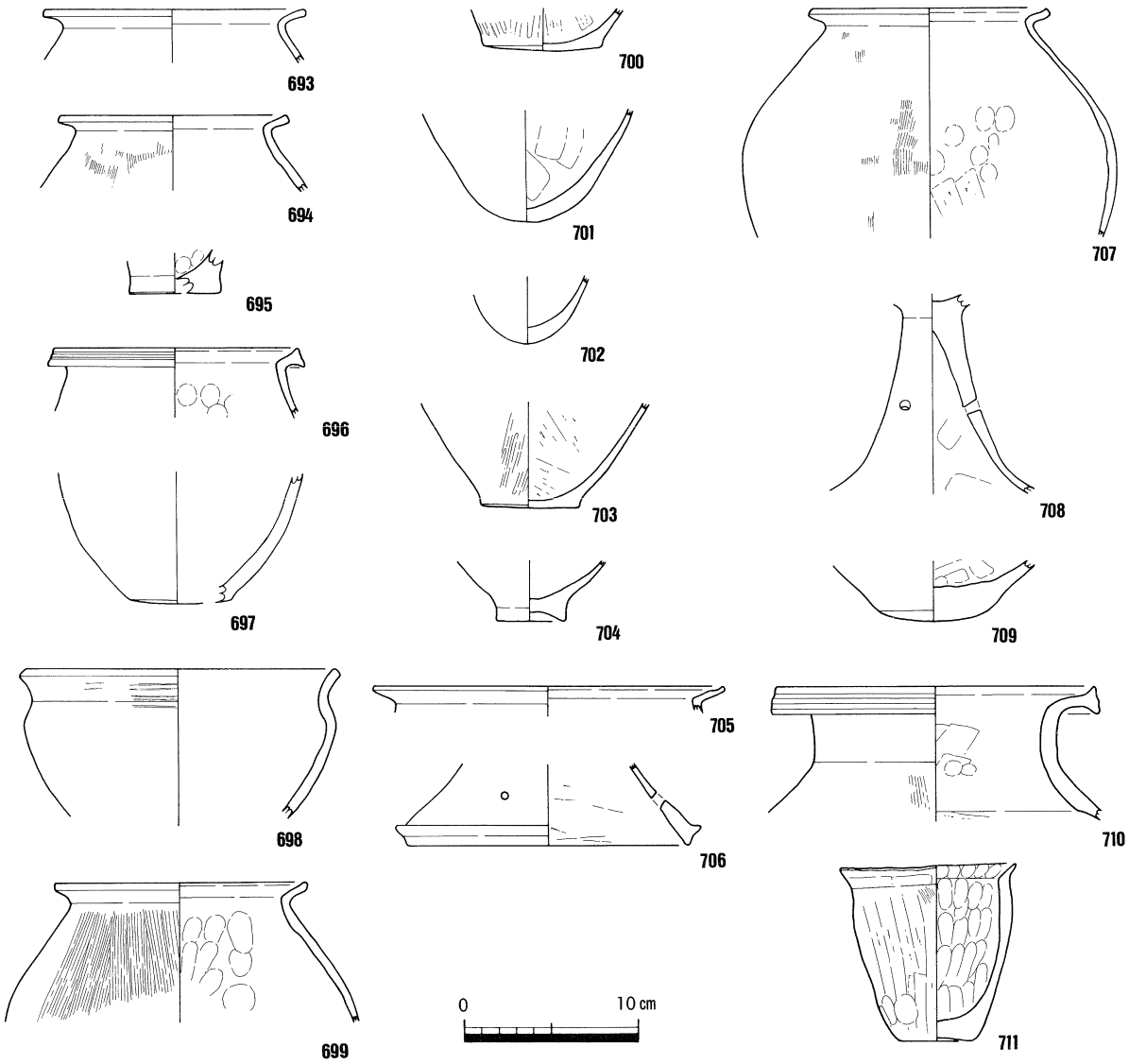
上記で報告した以外の柱穴と出土遺物の対比は次のとおりである。

693ＳＰ2-07　694ＳＰ4-03　695ＳＰ4-49　696ＳＰ4-88　701ＳＰ5-21　702ＳＰ5-23　703ＳＰ5-22
704ＳＰ5-24　705ＳＰ5-31　706ＳＰ5-40　707ＳＰ5-66　708ＳＰ5-93　709ＳＰ5-114　710ＳＰ5-146
711ＳＰ6-30　714ＳＰ7-109　715ＳＰ7-110　717ＳＰ7-50　718ＳＰ7-69　719ＳＰ7-78　720ＳＰ7-100
721ＳＰ8-17　722ＳＰ9-84　723ＳＰ4-06　724ＳＰ7-04

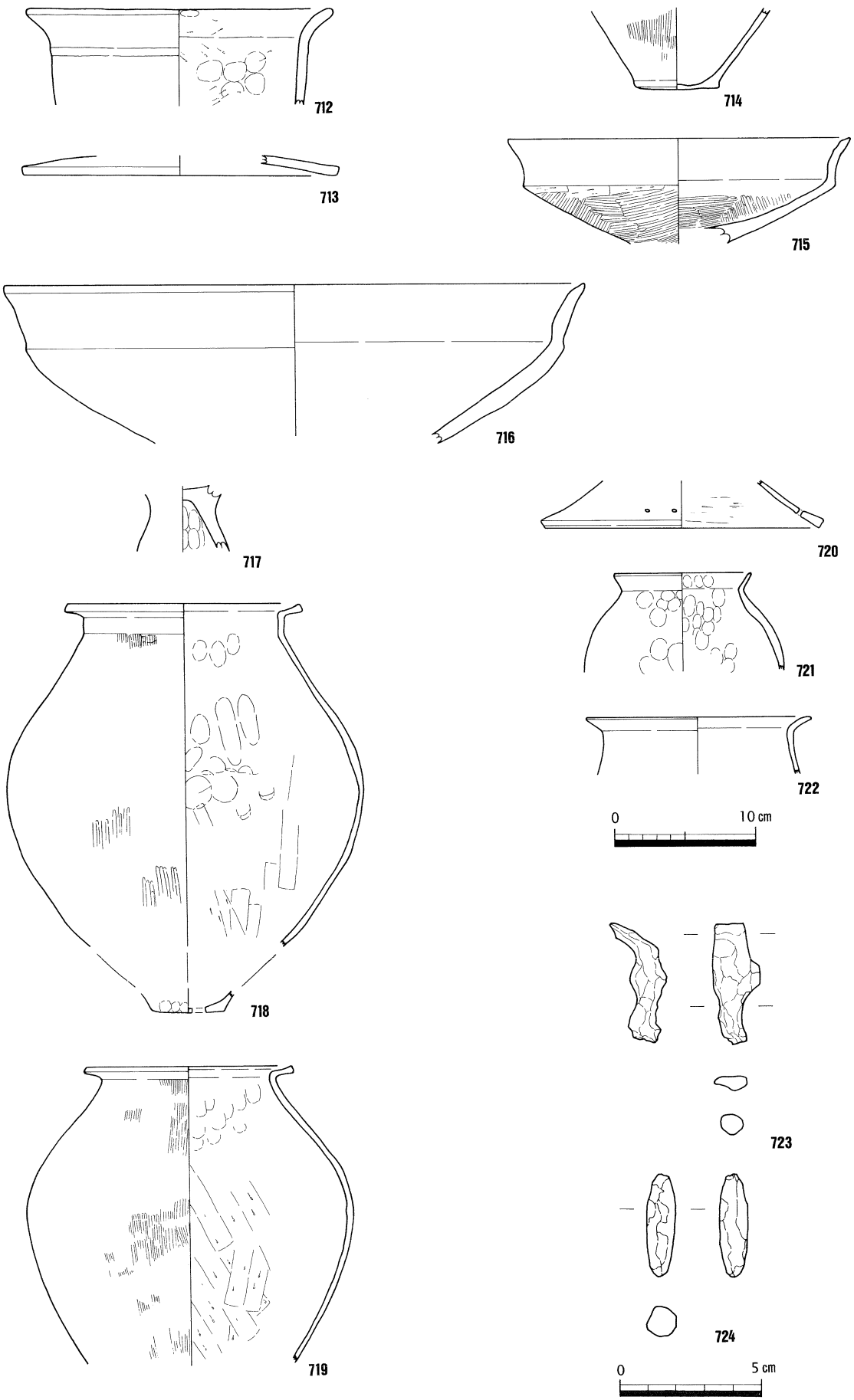
これらのうち，696甕・706高杯・710広口壺は，口縁端部や脚端部を拡張させ，退化した凹線文を施しており，弥生時代後期前半と考えられる。711ミニチュア土器は完形品である。718甕は，全体の約半分が残存していた破片で，図面上で復元している。723鉄器は，Ｓ字状の形状を呈し，厚さはやや薄く，用途不明品である。724石器は，全体に研磨を施していると思われるが，用途不明品である。



第160図　ＳＰ５－02平面・断面図（縮尺1/60）出土遺物実測図（縮尺1/4）



第161図　柱穴（ＳＰ）出土遺物実測図①（縮尺1/4）



第162図　柱穴（ＳＰ）出土遺物実測図②（縮尺1/4，1/2）

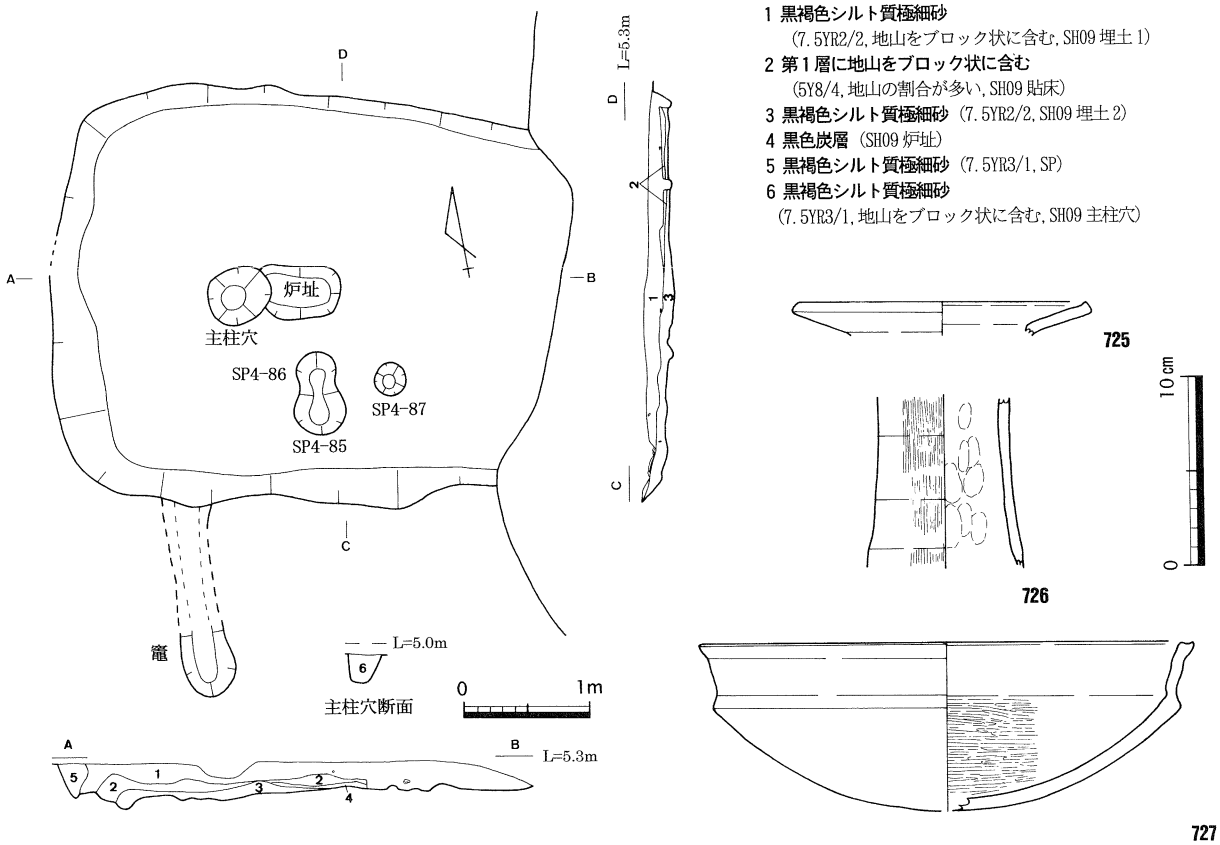
第５節　飛鳥時代～鎌倉時代の遺構と遺物

飛鳥時代（古墳時代後期末）～鎌倉時代と考えられる竪穴住居１棟・溝５条・土坑１基を微高地上で，水田１面を小谷で検出した。水田は，弥生時代後期の旧河道を埋めている土層直上に営まれたものである。また，調査区とは離れて，約140m西の地点において，鎌倉時代の土坑１基を不時発見している。

ＳＨ09（第163図）

４区中央で検出した南北3.3m，東西4.2m以上を測る方形の竪穴住居で，深さは約30cmを測る。旧河道ＳＲ01と接しており，東の側壁は旧河道埋没土との区別がつかず調査では検出できなかった。床面積は約14㎡以上である。床面は２面確認しており，少なくとも１回の建替えが想定できる。第１次面（下層）では，中央に楕円形の炉を設けている。床面では４基の柱穴を確認しているが，整然と並んでいない。第２次面（上層）では，炉・柱穴とも判然としなかった。南西隅で竈を確認している。竈の焚き口は壊されたのか確認できず，竪穴住居南西隅から南にまっすぐのびる煙道を確認した。煙道は，幅30cm，深さ20cm，長さ約1.5mを測る。埋土のうち，第１層が２次面の埋没土，第２層が第２次面貼床，第４層が第１次面の炉址である。ＳＤ93と重複し，ＳＤ93より後出する。

出土遺物は，弥生土器広口壺（725），長頸壺（726），中形鉢（727）が出土している。これら出土遺物の年代に従えば，ＳＨ09は弥生時代後期～終末期の竪穴住居となる。ただし，弥生時代にはまだ竈が出現しておらず，香川県内の類例からは古墳時代後期～飛鳥時代に竈を付設した竪穴住居を見ることができる。ＳＨ09に隣接する旧河道ＳＲ01が埋没した後には，後述する飛鳥時代～奈良時代初頭の水田が営まれており，ＳＨ09も同じ時期の遺構と判断される。出土した弥生土器は，付近にあった弥生時代の遺構からの混入品と考えられる。



第163図　ＳＨ09平面・断面図（縮尺1/60）出土遺物実測図（縮尺1/4）

ＳＤ01（第164図）

11区南西で検出した幅約50～60cm，深さ約20cmを測る断面Ｕ字形の溝で，調査区内で検出した長さは約８ｍを測る。調査区西端から南東に向かってやや蛇行しながらのび，ふたたび南端より調査区外に出る。埋土は黒褐色シルト質極細砂の１層のみである。

出土遺物を概観すると，土師器杯（728）は半球形のものである。土師器甕（729）は口縁部の破片で，球形の体部をもつものと推定される。須恵器壺（730）は底部の破片である。須恵器甕（731・732）は頸部と体部の破片で，同一個体と推定される。７世紀後半頃と推定され，飛鳥時代頃と考えられる。なお，混入品で弥生時代の絵画土器片（第158図680）も出土している。

ＳＤ04（第165・175・176図）

11区北で検出した幅約120cm，深さ約10cmを測る断面Ｕ字形の溝で，調査区内で検出した長さは約16ｍを測る。調査区西端から東端にかけて，Ｎ100°Ｅの方位をもってまっすぐのびており，付近に残る条里地割と方位がほぼ一致する。香川郡１条18里10坪と15坪の坪界線より，北に15ｍの位置にある。埋土は黒褐色シルト質極細砂で１～３層に分かれる。

出土遺物には，弥生土器細片がある。出土遺物に従えば，所属時期は弥生時代となるが，このＳＤ04が条里地割と方位を同じくすることから，古代以降のものと考えられる。弥生土器は付近にあった弥生時代の遺構からの混入品と推定される。さらに，ＳＤ04の所属時期を細かく検討すると，ＳＤ01や後述するＳＤ72は飛鳥時代～奈良時代初頭と推定される遺構だが，条里地割とは一致せず，この頃はまだ条里地割がこの地に及んでいなかったと考えられる。一方，ＳＤ04の埋土は土壌化が進んだ黒褐色シルト質極細砂であり，中世後半～近世の遺構に見られる灰色細砂などとは区別できる。以上のことから，ＳＤ04は平安～鎌倉時代頃と推定される。

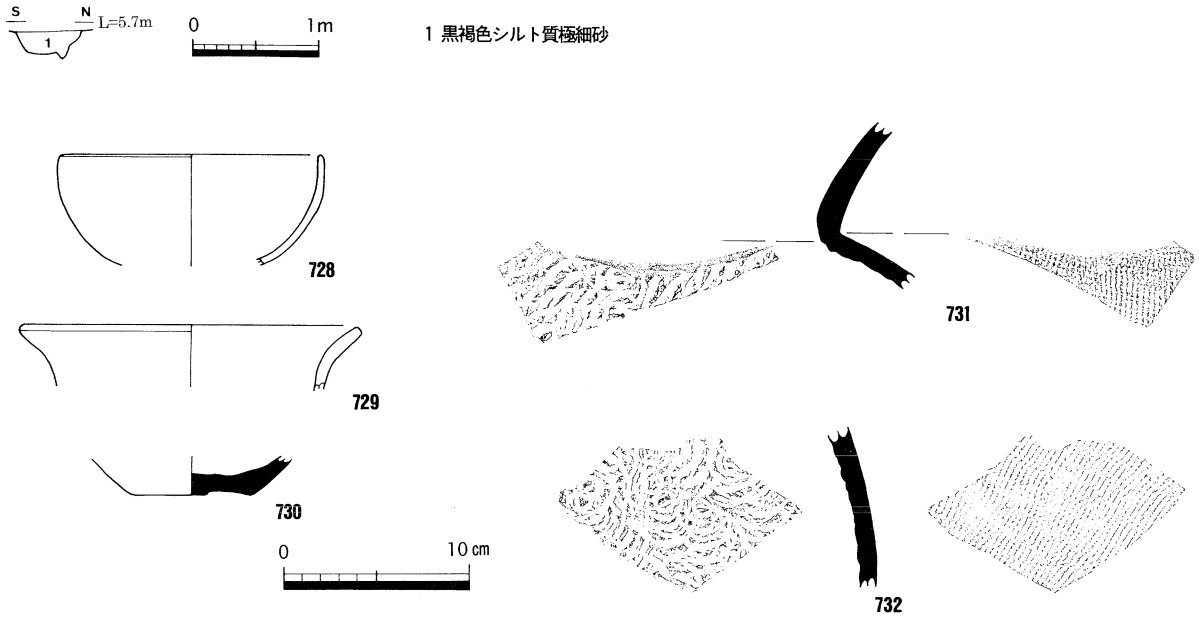
ＳＤ55（第167・175・176図）

５区南と６ｍ街路区で検出した幅約110～150cm，深さ約20～50cmを測る断面逆台形の溝で，調査区内で検出した長さは未発掘部分を合わせて約30ｍを測る。調査区西端から東端を通って６ｍ街路区に抜けてＮ104°Ｅの方位をもってのびており，付近に残る条里地割と方位がややずれるが，溝の場合は多少のぶれが出るのでほぼ一致する範疇であろう。香川郡１条18里18坪と22坪の坪界線より，北に13ｍの位置にある。埋土は黒褐色または灰褐色のシルト質極細砂で１～２層に分かれる。

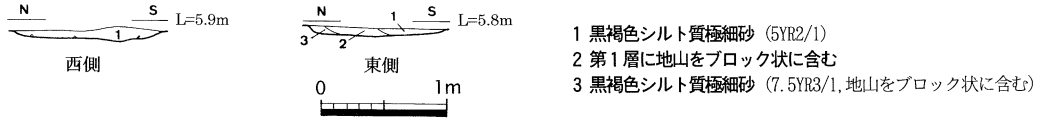
出土遺物には，弥生土器がある。弥生時代後期前半～終末期にかけての遺物が混在してあるが，終末期のものが主体を占める。出土遺物に従えば，所属時期は弥生時代終末期となるが，このＳＤ55が条里地割と方位を同じくすることから，古代以降のものと考えられる。また，付近に密集している弥生時代の溝は，幅が狭く平面が円形を描くことを基調としているのに対して，ＳＤ55は幅広でほぼ直線であることからも，弥生時代の溝と性格を異にする。弥生土器は付近に密集している弥生時代の遺構からの混入品と推定される。さらに，ＳＤ55の所属時期を細かく検討すると，ＳＤ04で述べたように飛鳥～奈良時代はまだ条里地割がこの地に及んでいなかったと考えられ，一方ＳＤ55の埋土は土壌化が進んだ黒褐色シルト質極細砂であり，中世後半～近世の遺構に見られる灰色細砂などとは区別できる。以上のことから，ＳＤ55は平安～鎌倉時代頃と推定される。

ＳＤ72（第166図）

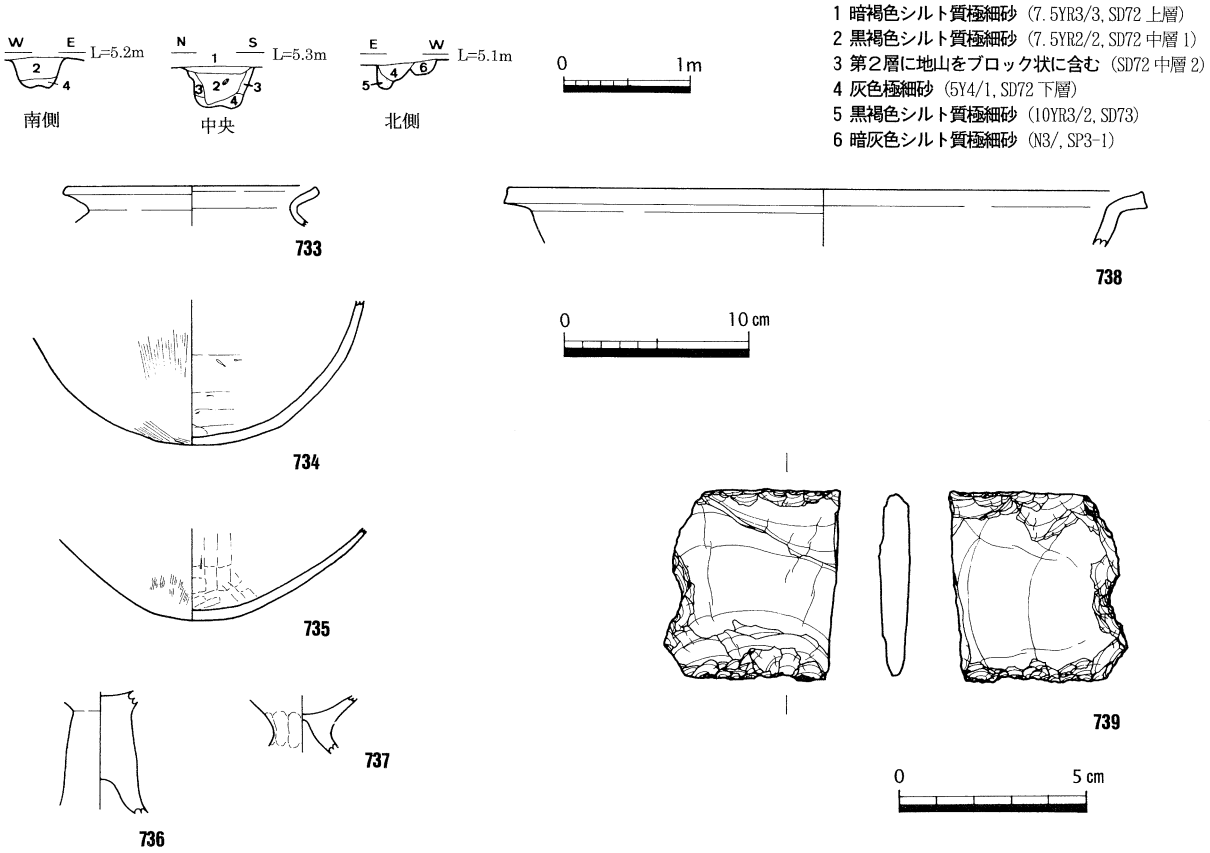
３～５区で検出した幅約50cm，深さ約30cmを測る断面逆台形の溝で，調査区内で検出した長さは約50ｍを測る。５区東端から微高地の縁辺に沿って蛇行しながら北北西にのび，途中ＳＨ09を避けて迂回し，３区西端で調査区外に及ぶ。溝底の比高差は約25cmで，南から北に向かって緩やかに傾斜している。埋土は



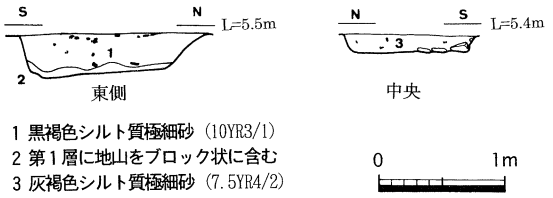
第164図　ＳＤ01断面図(縮尺1/60)出土遺物実測図(縮尺1/4)



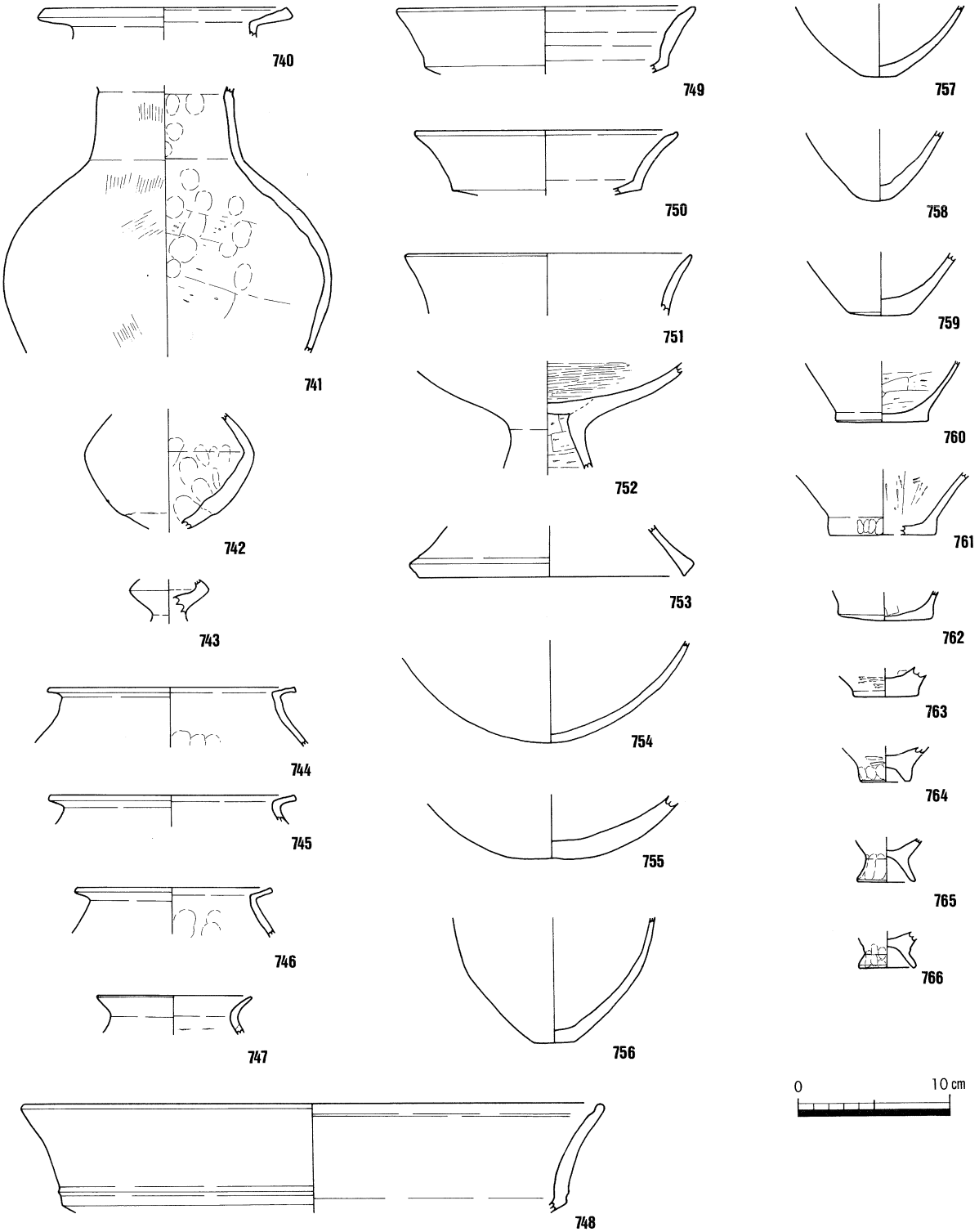
第165図　ＳＤ04断面図(縮尺1/60)



第166図　ＳＤ72断面図(縮尺1/60)出土遺物実測図(縮尺1/4, 1/2)



1 黒褐色シルト質極細砂（10YR3/1）
2 第1層に地山をブロック状に含む
3 灰褐色シルト質極細砂（7.5YR4/2）



第167図　ＳＤ55断面図（縮尺1/60）出土遺物実測図（縮尺1/4）

4層に分かれる。

出土遺物には，弥生土器と打製石庖丁がある。出土遺物に従えば，所属時期は弥生時代終末期となるが，このＳＤ72が飛鳥時代～奈良時代初頭に属するＳＨ09を避けて迂回していること，重複する弥生時代の各遺構より後出することを考えると，ＳＨ09と同じ飛鳥時代～奈良時代初頭と推定できる。

さらに，微高地に隣接して後述する水田があり，ＳＤ72が水田側の微高地縁辺に沿っていることを考慮すると，水田への配水を目的として掘削された可能性がある。

ＳＤ131（第168図）

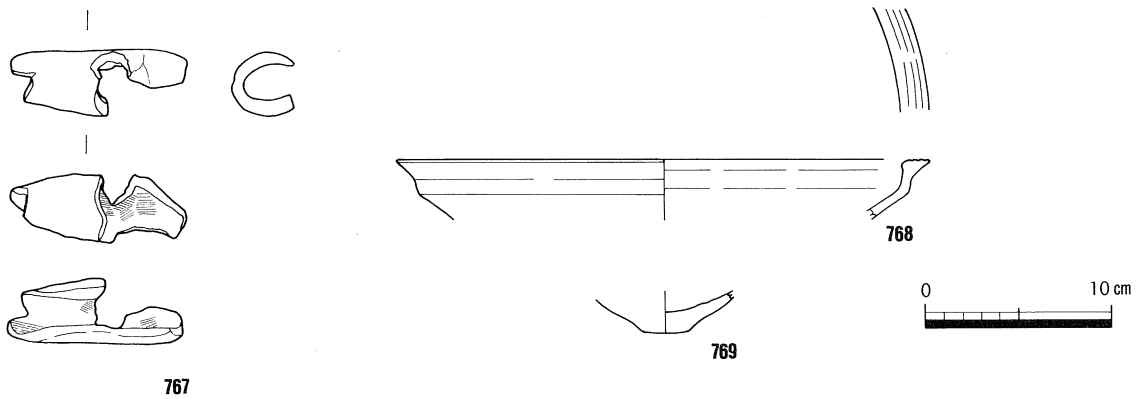
6区北西で検出した幅約40cm，深さ約10cmを測る溝で，調査区内で検出した長さは約2.7mを測る。ＳＤ55とほぼ直角に交わるが，同時に併存していたかは不明である。出土遺物には，弥生土器高杯（768）・底部（769）と不明土器（767）がある。高杯は弥生時代後期前半，底部は終末期に属する。不明土器は，中空のもので土馬の可能性があるため，ＳＤ131を古代の遺構と推測した。

ＳＫ04（第169図）

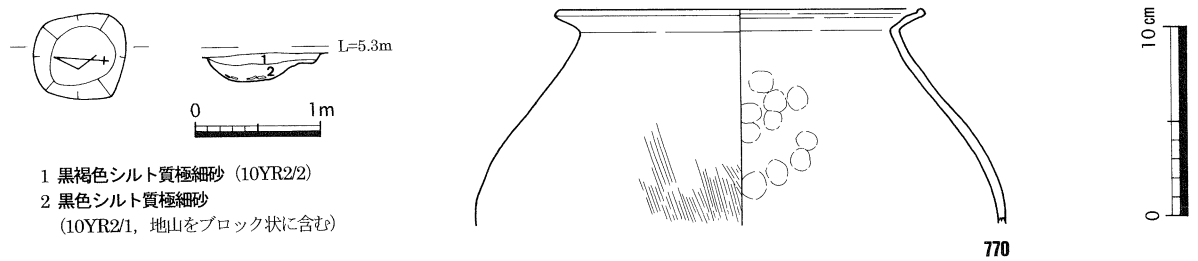
4区中央，ＳＨ09に隣接して検出した土坑で，南北0.7m，東西0.7m，深さ0.2mを測る円形である。埋土は，2層に分かれる。このＳＫ04から弥生土器甕（770）が出土しており，調査時は弥生時代後期のものと考えた。しかしながら，飛鳥時代～奈良時代初頭の竪穴住居ＳＨ09からのびる竈の煙道が，ＳＫ04の下を潜っていることから，ＳＨ09より後出するものと考えられる。

不定形小区画水田（第170～172図）

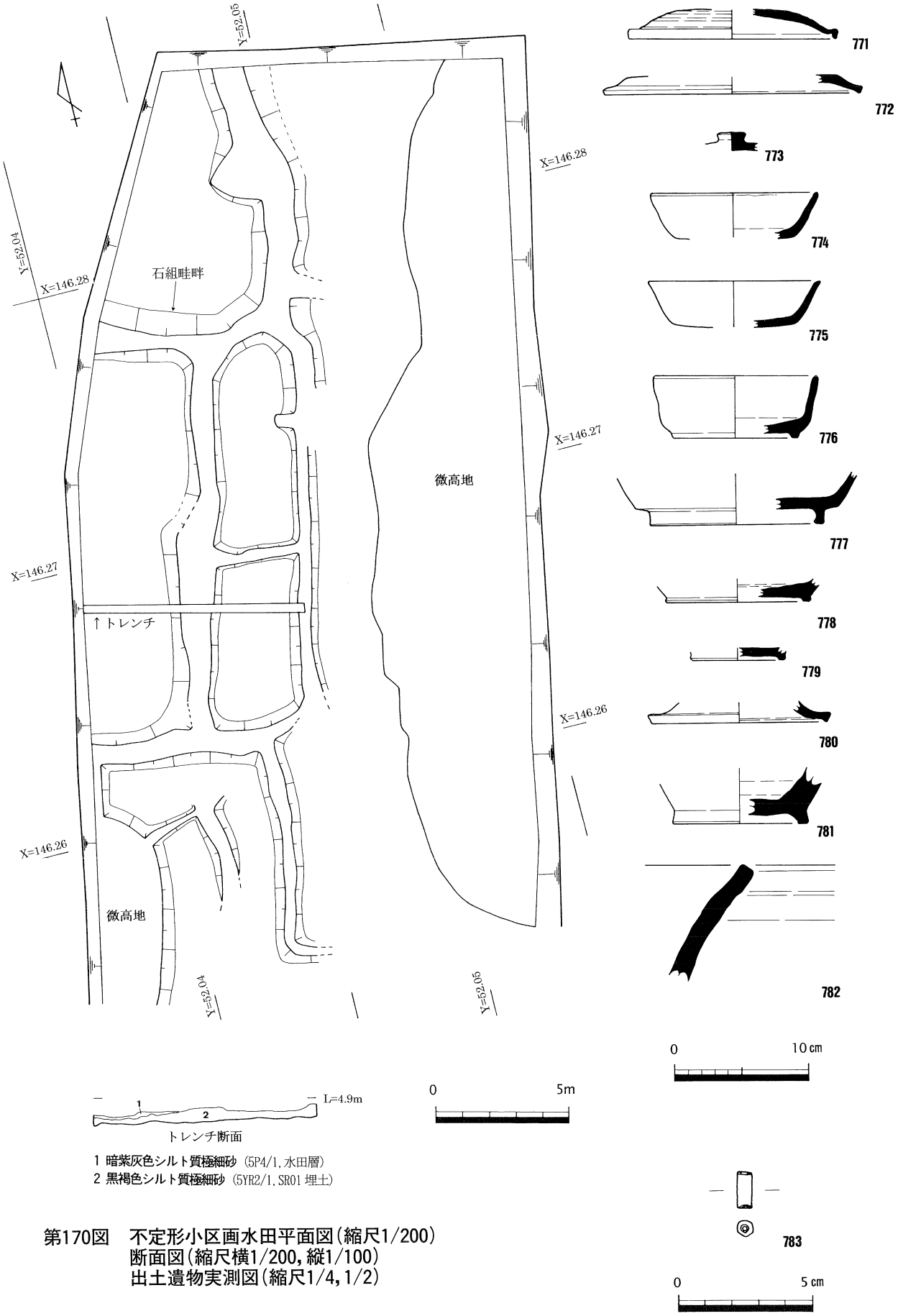
1～3区の小谷において検出した水田遺構である。水田は，東西を微高地に挟まれ，北西方向に向かって調査区外へと広がり，南では後世の削平を受けて途中で消失している。地形的には，南から北に向かって下る。小谷埋没土層での位置は，第8図に示すとおり，第6層上面において畦畔を確認した。なお，第6層より下には，弥生時代後期～古墳時代前期初頭の旧河道ＳＲ01が所在し，水田耕作が一部，旧河道埋没土まで達している。



第168図　ＳＤ131出土遺物実測図（縮尺1/4）



第169図　ＳＫ04平面・断面図（縮尺1/60）出土遺物実測図（縮尺1/4）

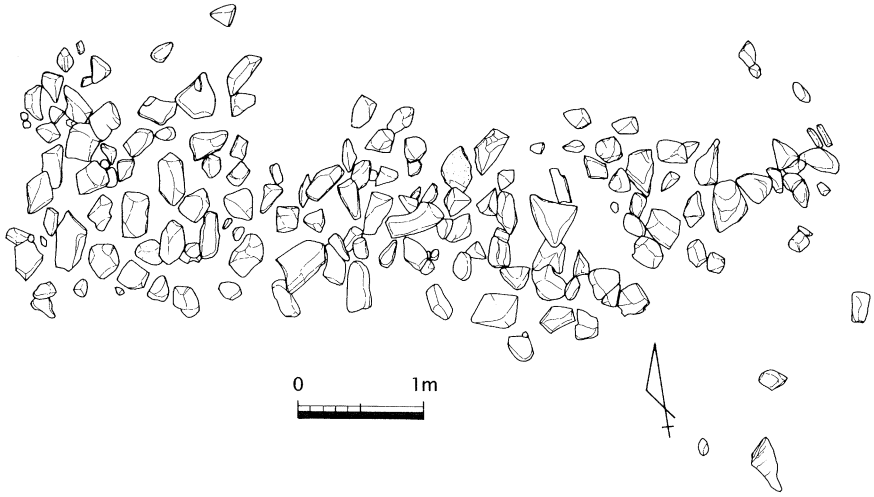


第170図　不定形小区画水田平面図（縮尺1/200）
断面図（縮尺横1/200, 縦1/100）
出土遺物実測図（縮尺1/4, 1/2）

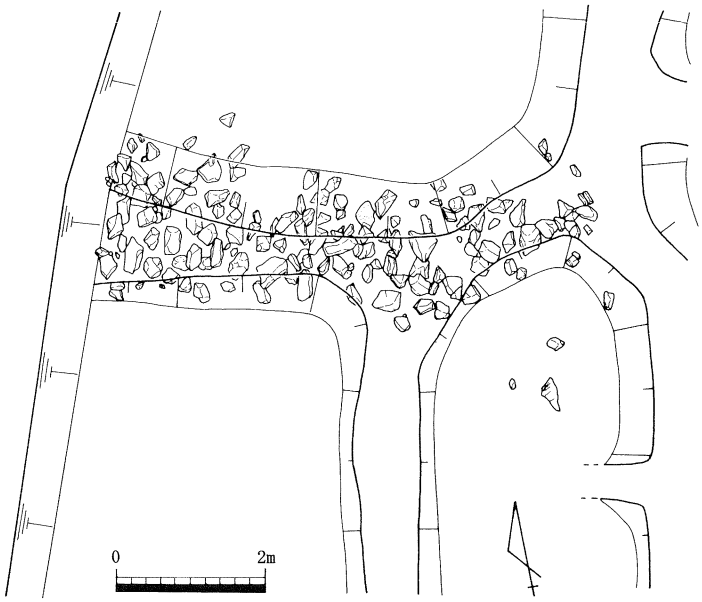
水田を区画する畦畔の南北方向は，小谷の地形に沿って設定されており，直線を維持しながらも地形に沿って蛇行している。南北方向の畦畔に直行して東西方向の畦畔が存在している。区画内の比高差は約3cm程度である。畦畔の規模は幅70～200cm，高さ6～8cmを測る。畦畔を途中で切る水口がないことから，給水方法は「畦越し」によると考えられる。

検出された水田の総区画数は5区画である。面積が最大のもので50㎡以上，最小のもので約18㎡である。各水田区画における平均標高をみてみると，最も高い標高が最南端のもので4.9m，最も低い標高が最北端のもので4.65mであり，距離にして約32mで比高差は25cmである。

さらに，水田畦畔の一部に，人頭大の石を多量に埋めこみ，地盤の安定を図った石組畦畔がある（第171



第171図　不定形小区画水田畦畔内の石組平面図（縮尺1/60）出土遺物実測図（縮尺1/4）



第172図　不定形小区画水田石組畦畔平面図（縮尺1/100）

・172図，第８図ＳＲ01断面①)。この石組畦畔が東西方向にのびることから，小谷の東西両側にある微高地どうしを結ぶあぜ道として機能していたと考えられる。

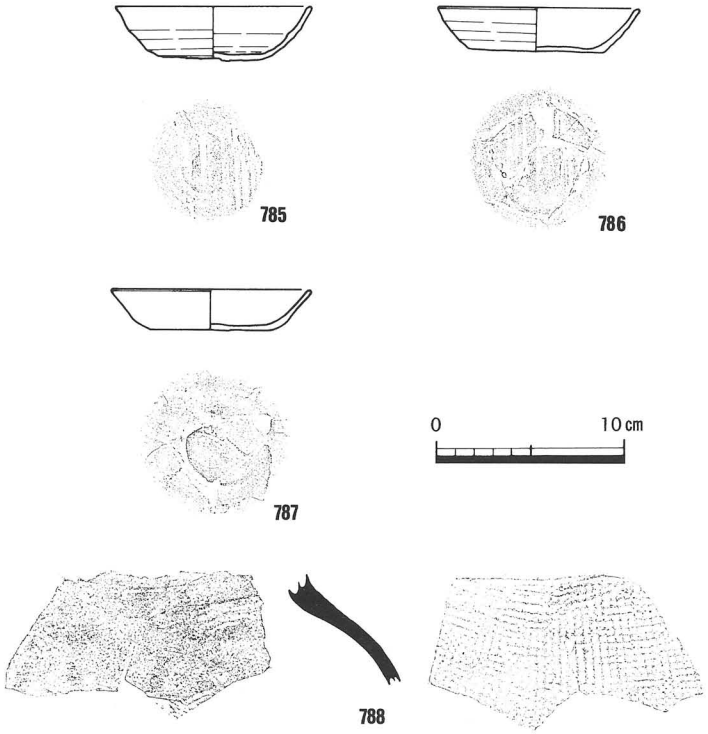
まず出土遺物としては，石組畦畔内から出土した須恵器杯（784）がもっとも古く，佐藤竜馬編年のＩ－１に相当し７世紀中葉である。次に水田土壌層（第６層）からは，須恵器蓋（771～773）・杯（774～775）・高台付杯（776～779）・高杯（780）・壺（781）・甕（782）が出土している。蓋や高杯に古相を呈するものがある一方，杯の体部が直線的になり始め，高台の貼付位置が底部外縁に近くなるなど新しい様相も呈している。佐藤編年のＩ－２～Ⅱ－１に相当し７世紀後葉～８世紀前葉となる。以上のことから，不定形小区画水田は，７世紀中葉（古墳時代後期末または飛鳥時代）につくられ８世紀前葉（奈良時代初頭）まで営まれていたと考えられる。なお，水田土壌層より混入品として弥生時代に属すると考えられる管玉（783）が出土している。

参考文献

佐藤竜馬1993「香川県十瓶山窯跡群における須恵器編年」『関西大学考古学研究室開設四十周年記念　考古学論叢』

調査区外検出土坑（第173図）

調査期間中に，調査区より約140m西に離れた地点において土坑１基を不時発見した。当時，この地域は区画整理事業による基盤整備が実施され，表土層の除去作業が行われていた。事業主体者である太田第２土地区画整理事務所と協議の結果，調査区西側には同様な遺構が存在する可能性が高いことから，必要最低限の表土層除去を行うことで合意した。一方，土坑については応急的処置として土坑内の出土遺物を取り上げた。なお，遺構の残存状況が悪く土坑の規模は確認できなかった。出土遺物は，土師器皿（785～787）・須恵器甕（788）で，13世紀中頃（鎌倉時代中葉）のものと考えられる。



第173図　調査区外検出土坑位置図（縮尺1/10,000）出土遺物実測図（縮尺1/4）

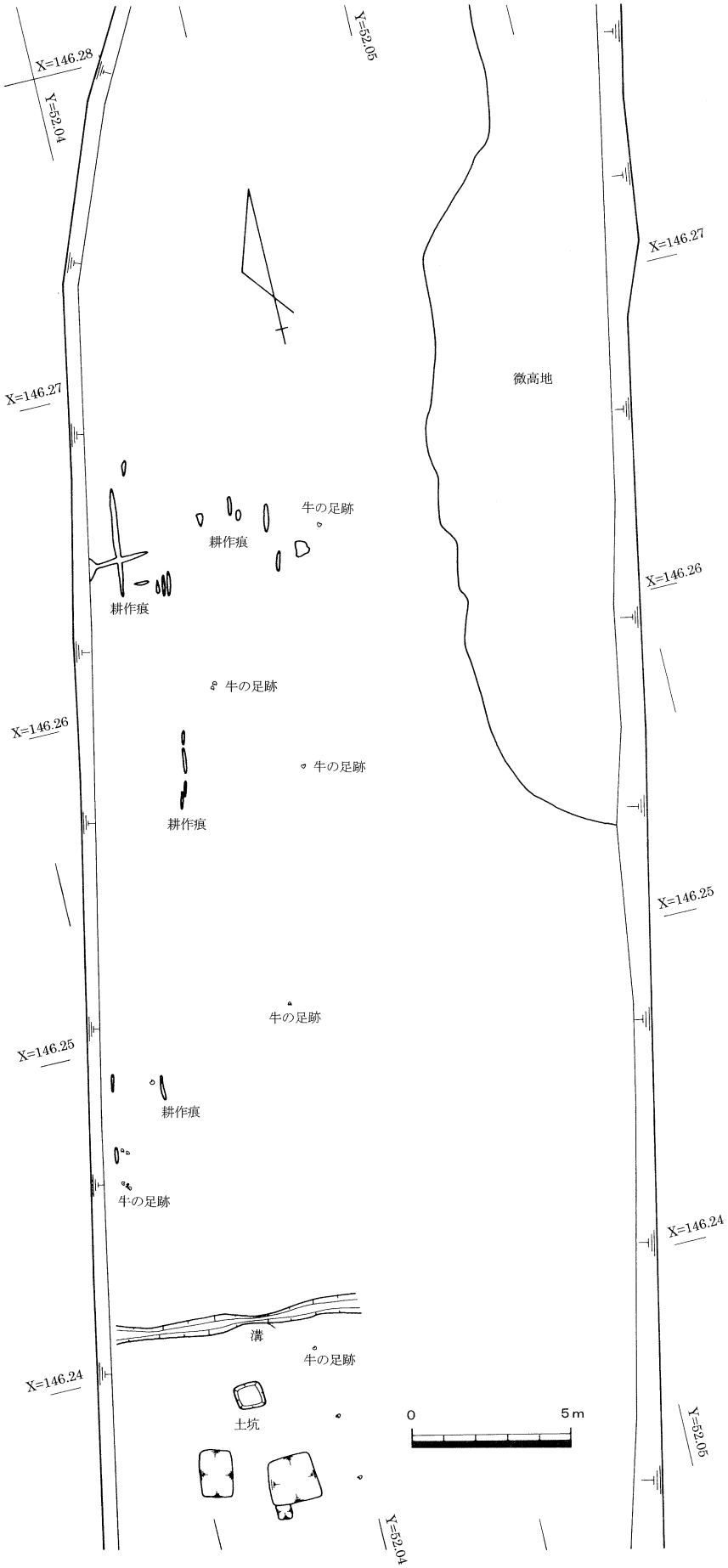
第６節　室町時代～江戸時代の遺構と遺物

室町～江戸時代と考えられる溝３条・土坑２基・水田１面を確認した。検出した遺構は，どれも時期が判明する出土遺物を伴っていなかったが，埋土は灰色細砂である。この埋土は高松平野で通例見られるもので，堆積してからの年月が短いため褐色や黒色のシルト質極細砂になるまで土壌化が進んでいない。江戸時代の陶磁器片を出土する場合が多く，江戸時代を中心とする時期のものとして扱った。

中近世水田（第174図）

１～３区の小谷において検出した水田遺構である。この水田面の存在は，機械掘削時に偶然気付いたため，調査区東半分はすでに機械掘削が終了しており西半分しか検出していない。古代の水田と比べて，小谷の埋没が進み，小谷と微高地の標高差はほとんどなくなっている。ただし，地形的には，南から北に向かって下る。検出した水田は標高5.03～5.24mに存在する。小谷埋没土層での位置は，第８図の第３層にあたる。

畦畔は確認しておらず，鋤跡などの耕作痕や牛の足跡を検出した。他に東西方向の溝，土坑も検出している。溝はN106°E，耕作痕はN９°E前後を示し，ほぼ条里地割と一致する。



第174図　中近世水田平面図（縮尺1/200）

第176図　調査区周辺の条里地割と古代～中近世の溝(縮尺1/2,500)

第175図　古代～中近世の溝及び土坑平面・断面図(縮尺1/500,1/60)

中近世溝（第175・176図）

6・8・10区で検出した東西方向を主体とする溝である。6区の溝は，幅約90cm，深さ約15cmを測り，調査区内で検出した長さは東西約16mを測る。8区の溝は，幅約30cm，深さ約10cmを測り，調査区内で検出した長さは南北約6m・東西約16.5mを測る。10区の溝は，幅約180cm，深さ約10cmを測り，調査区内で検出した長さは東西約16mを測る。埋土は，どれも灰色細砂である。8区溝からは，図化していないが土師質土器脚部や備前焼体部片が出土しており，6・10区溝の出土遺物はない。

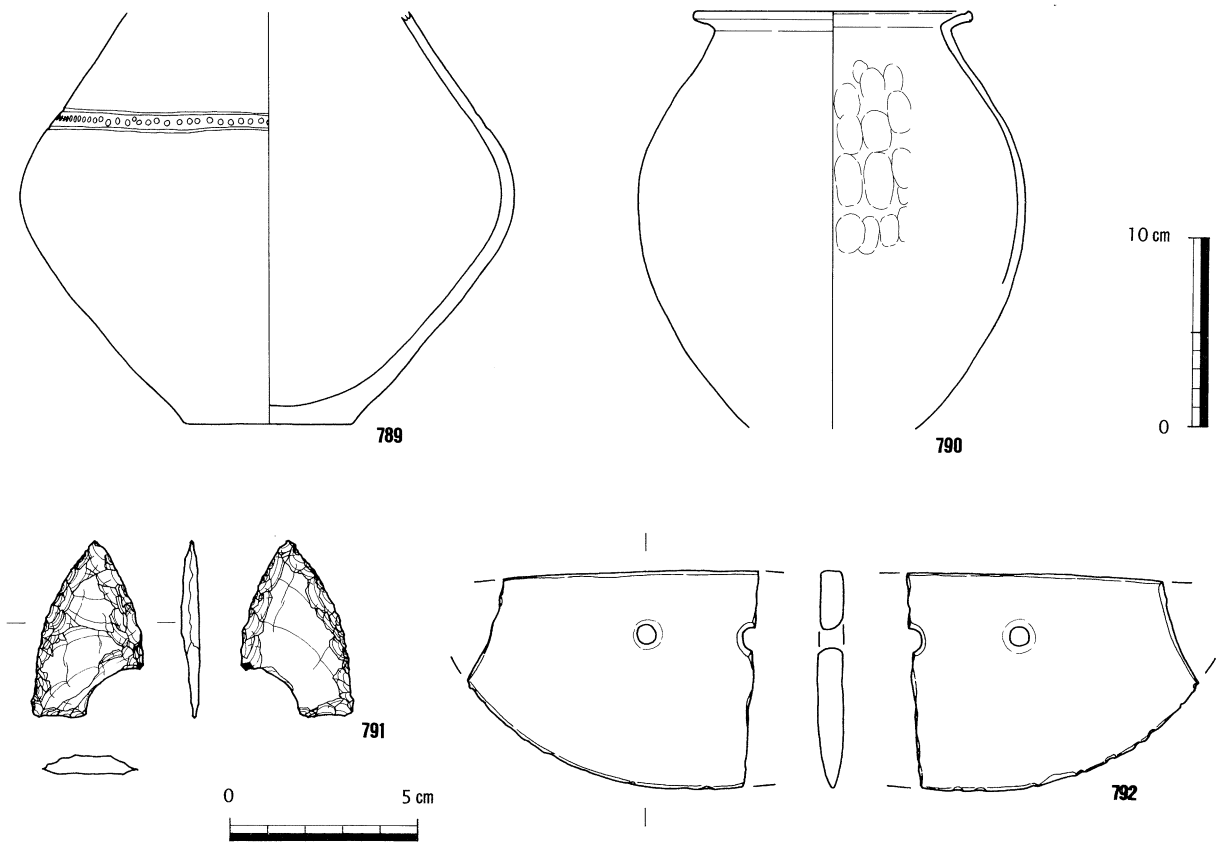
東西方位は，6区の溝はN92°Eを，8・10区の溝はN99°E示し，付近に残る条里地割とほぼ一致する。6区の溝がやや角度を異にするのは，第177図に示すとおり条里地割も細かく見ると若干のゆがみが認められるからである。さらに，条里地割と照合すると，6区の溝は香川郡1条18里15・22坪の里界線を一致し，8区の溝は香川郡1条18里15坪のほぼ中央に位置し，10区の溝は香川郡1条18里10・15坪の里界線より北35mに位置する。なお，溝のほかに，6区と11区において，土坑を検出している。

第7節　その他の遺物

工事立会及び遺構検出時出土遺物（第177図）

昭和63年度の道路側溝工事に伴う立会中において出土した遺物のうち，完形に近いもの2点を図示した。789は，弥生土器壺で，肩部の2条の沈線間に列点文を施しており，弥生時代前期中頃のものである。790は，弥生土器甕で，口縁部はやや長くなりかけているが，体部は肩が張っておらず，弥生時代後期後半のものである。

調査中の遺構検出時に出土した遺物のうち，代表的な石器2点を図示した。791は打製の石鏃で，サヌカイト製，平基無茎式で，弥生時代のものである。792は磨製石庖丁で，石材は粘板岩系のものである。調査区内に弥生時代前期の環濠・土坑があることから，本来はこれらに伴うものである。



第177図　工事立会及び遺構検出時出土遺物実測図（縮尺1/4，1/2）

第４章　まとめ

第１節　遺構の変遷

天満・宮西遺跡は，大きく５時期に分かれる。ここでは，簡単に遺構の変遷を報告し，遺跡の最盛期である弥生時代後期～古墳時代前期初頭については第３節で詳細に報告する。

第Ⅰ期【弥生時代前期前半後葉～後半前葉】（第９図）

天満・宮西遺跡に初めて人が住み始める。微高地上に環濠ＳＤ11・63と土坑ＳＫ06・07・10が見られ，環濠集落が営まれる。微高地北側には小谷が存在する。

第Ⅱ期【弥生時代後期～古墳時代前期初頭】

もっとも多くの遺構・遺物を確認した時期である。微高地上に，竪穴住居24棟・掘立柱建物跡12棟・柵列６列・井戸２基・溝48条・土坑８基が掘削され，大規模な集落が存在する。微高地北側の小谷には旧河道ＳＲ01が存在するが，この時期に埋没していく。

第Ⅲ期【飛鳥時代～奈良時代初頭】

微高地上に竪穴住居ＳＨ09・溝ＳＤ01・72が，微高地北側の小谷に不定形小区画水田が存在する。小規模な集落と水田が営まれていた。

第Ⅳ期【平安～鎌倉時代頃】

微高地上に，条里地割に沿った溝ＳＤ04・55が掘削される。この時期には，遺跡付近は農地になっていた可能性がある。

第Ⅴ期【室町～江戸時代頃】

微高地上に，条里地割に沿った溝３条と土坑２基が掘削され，ほぼ完全に埋没した小谷にも鋤跡などの耕作痕や牛の足跡が見られる。この時期には，完全に農地として利用されていた。なお，調査区東隣にある松縄城跡（室町～安土桃山時代）に関係する遺構は認められなかった。

第２節　弥生時代前期の土器と集落の位置付け

弥生時代前期の遺構から出土した土器について検討し，時期的位置付けを明らかにするとともに，旧地形と集落について報告する。

弥生時代前期の土器

弥生時代前期の土器は，環濠ＳＤ11・63と土坑ＳＫ10から良好な形で出土している。ＳＤ11・63は上層・下層に分かれ，上層出土土器に下層のものが若干混じるが，２時期に分けることができる。また，ＳＫ10はＳＤ11・63上層出土のものに近い様相を示す。各遺構・土層の代表的なものを列挙したのが第178図である。

【壺】全体の器形がわかるものが一部しかないが，下層と上層では次のような違いを指摘できる。

①器形は，下層のものは扁平だが，上層のものは器高が高くなっている。

②下層では45のように段をもつものがあり古相を呈するが，上層では52・55のように削り出し突帯が出現している。なお，層位不明で６ｍ街路区ＳＤ63より貼付凸帯をもつもの（第16図75）が１点出土している。

③沈線の数が，下層では１～２条だったが，上層では３～４条と沈線の多条化が見られる。

【甕】甕は，器形によって次のように分類が可能である。

ａ．体部がふくれ，紋様を施すもの（12・14・15・60・57）。大きさは様々である。

b．体部がふくれないもの。紋様を施すもの（10・13・29）と施さないものがある（第12図30）。

c．体部がふくれるが，無紋のもの（16・62）。底部に穿孔があり，甑である。

次に口縁部の形態から見た場合，いわゆる如意状口縁をもつものが圧倒的に主体を占め，一部に段甕（第12図31・第15図59）が存在する。一方，縄文時代の凸帯文土器の系譜を引く，凸帯文系・縄文系と呼ばれる一群は全く存在せず，逆Ｌ字状口縁のものも存在しない。凸帯文系土器の欠如は，同じ高松平野に所在する鬼無藤井遺跡（川部浩司2001）と共通する。

次に，下層と上層では次のような違いを指摘できる。

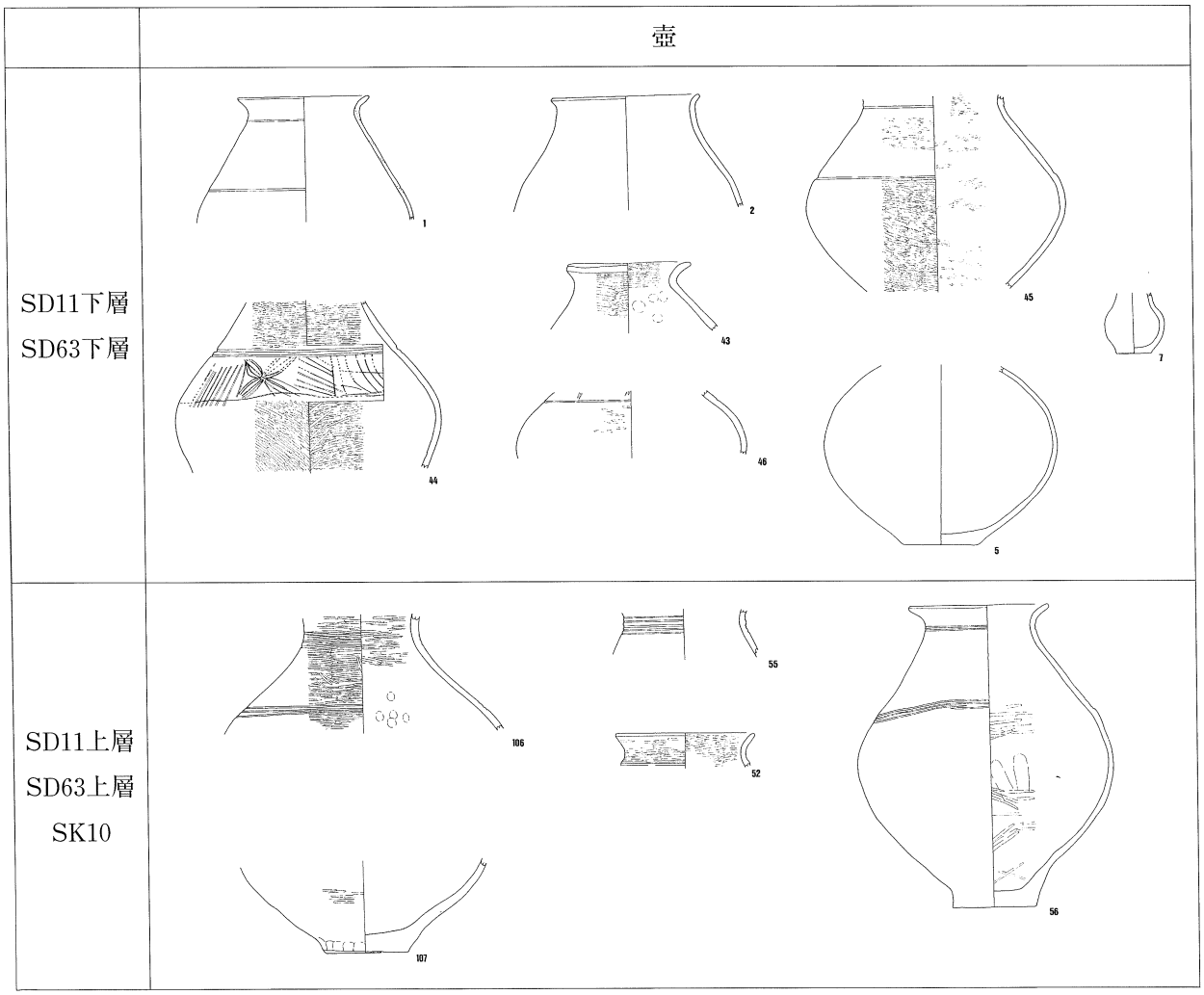
①下層では見られなかったが，上層では29のように削り出し突帯が出現している。

②沈線の数が，下層では１～２条だったが，上層では３条と沈線の多条化が見られる。

壺と同様な変化を指摘できる。なお，甕の体部外面の調整は箆磨きであるが，上層ではほぼ完形品１点のみだが刷毛を施した甕（57）が出現している。

【その他】壺・甕以外に，高杯（17）・蓋（90）・鉢（33）といった器種が少量見られる。

さて，香川県内の弥生前期土器の編年は，宮崎編年（宮崎哲治1995），森下編年（森下英治1998），真鍋編年（真鍋昌宏2000）など最近幾つか示されている。このうち，天満・宮西遺跡出土土器が所属する時期がもっとも細密に区分されている森下編年によれば，環濠ＳＤ11・63下層出土土器はＩｃ期に相当し，環

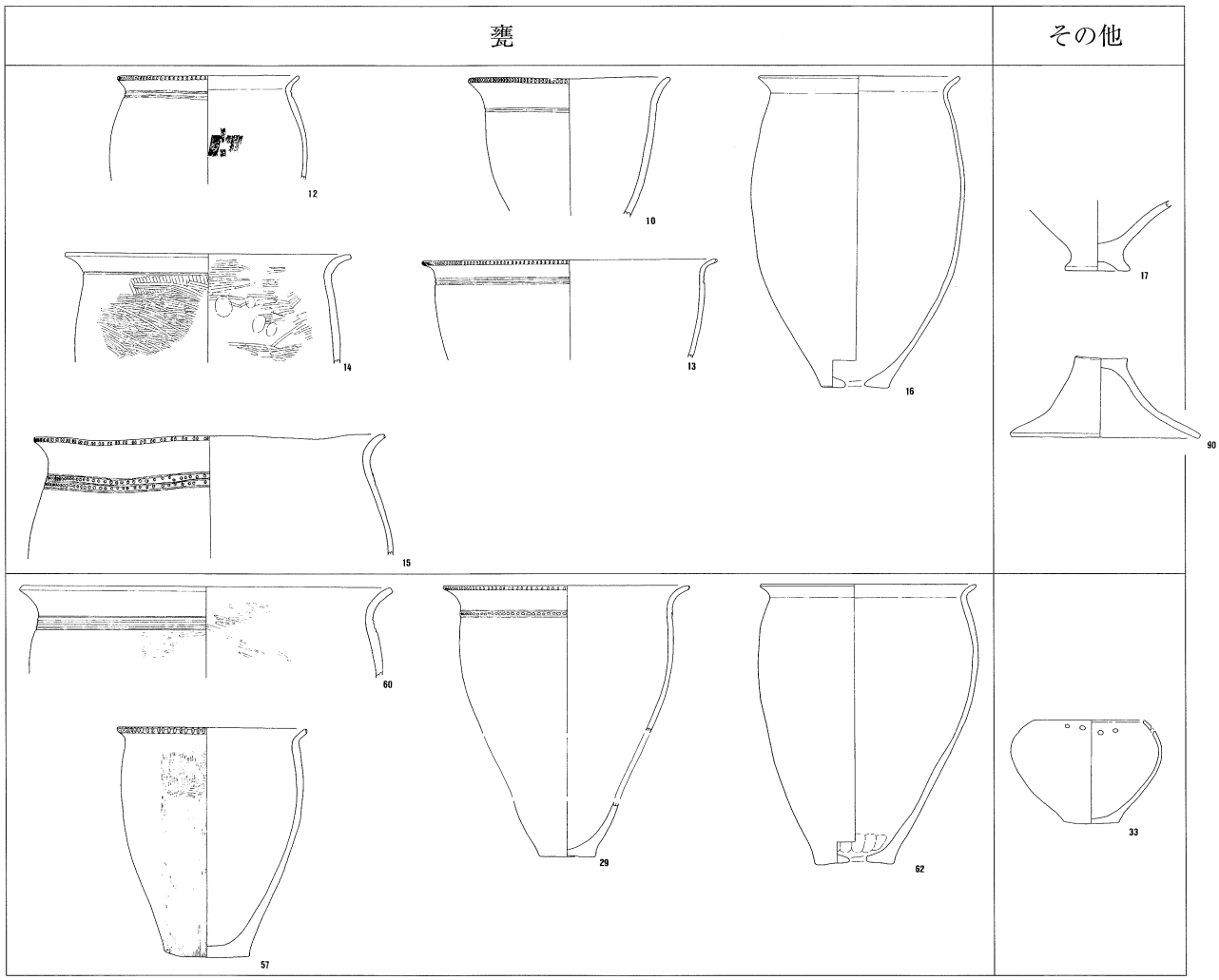


第178図　天満・宮西遺跡における

濠の掘削は弥生時代前期前半後葉と考えられる。環濠ＳＤ11・63上層および土坑ＳＫ10出土土器も，下層とほぼ同じ時期に含まれるが，一部に新しい様相が看取でき，Ⅱａ期にかかると考えられる。遅くとも前期後半前葉には環濠が埋没し，天満・宮西遺跡の前期弥生集落は廃絶したと考えられる。

弥生時代前期の環濠集落

天満・宮西遺跡の弥生時代前期を特徴付けるものは，環濠集落である。環濠は一重で，直径約65ｍを測る平面円形の規模をもつ。環濠内側からは，後世の削平によるためか土坑以外の遺構は確認できなかったが，内部に集落が存在したことは容易に想定できよう。現在，高松平野で確認されている弥生前期の環濠集落は，鬼無藤井遺跡（二重環濠・鬼無町藤井），汲仏遺跡（二重環濠・多肥下町）であり，可能性があるものは，松並・中所遺跡（一重環濠・松並町），凹原遺跡（一重環濠・多肥下町），諏訪神社遺跡（一重環濠・東山崎町），光専寺山遺跡（一重環濠・池田町）がある。これらを時期別に見れば，鬼無藤井遺跡はⅡａ期，汲仏遺跡はⅠｃ～Ⅱａ期，松並・中所遺跡はⅠｃ期，凹原遺跡はⅡｃ期，諏訪神社遺跡はⅡａ期，光専寺山遺跡はⅡｃ期である。現時点における高松平野での環濠の掘削開始はⅠｃ期であり，天満・宮西遺跡も環濠集落出現期のものと考えられる。一方，地形別に見れば，諏訪神社遺跡と光専寺山遺跡が丘陵部に位置し，他は平野部に位置する。Ⅰｃ期に平野に出現した環濠集落は，Ⅱａ期には丘陵部にも出現している可能性がある。



弥生時代前期の土器変遷図（縮尺1/8）

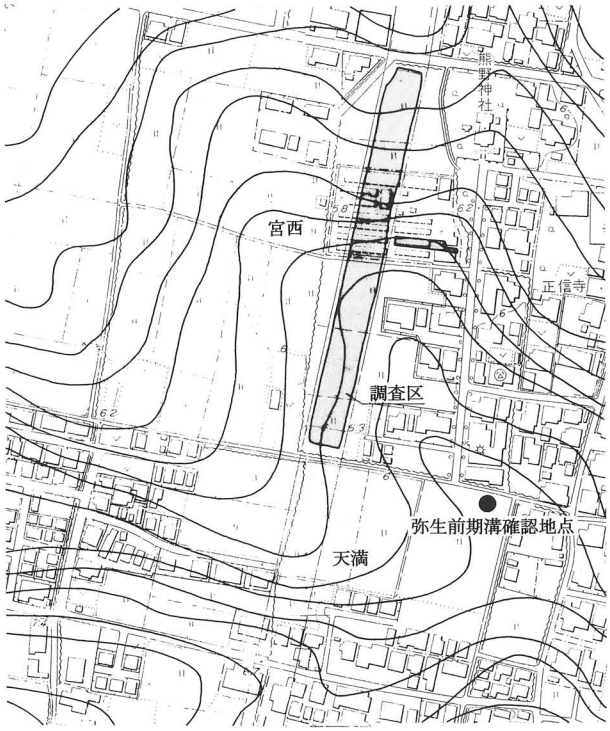
弥生時代前期における遺跡の周辺

天満・宮西遺跡の環濠集落を微地形分析で復元した旧地形から見れば，第179・180図のとおり南北約250ｍ・東西約100ｍの規模をもつ微高地の南東部分を占める。微高地北側に隣接して幅約５ｍの小さな旧河道ＳＲ01が所在する。微高地南側にも隣接して大きな旧河道が存在するが，調査範囲外のため詳細は不明である。

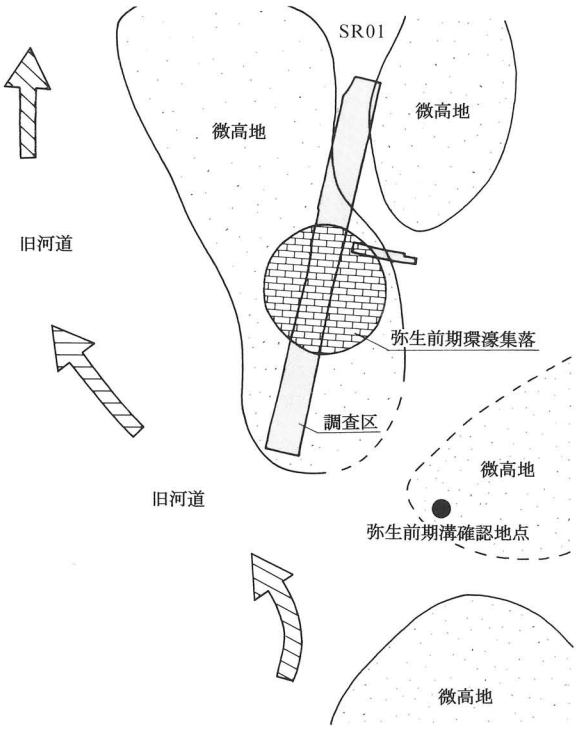
さて，第１章第２節で紹介したとおり，昭和40年に細渓・六車両氏によって報告された天満遺跡（弥生時代前期）は，調査地が属する宮西地区の南側にある天満地区と考えられる。詳細な出土地点は今となっては不明だが，天満・宮西遺跡調査中において，天満遺跡と関連する可能性のある遺構を確認している。調査範囲南端より東へのびる６ｍ街路側溝工事において，調査地より東へ約100ｍの地点で，弥生時代前期の溝を確認した。遺構上面のみの確認だが，幅約１ｍで円弧を描いており，環濠の可能性もある。宮西と天満地区の境に位置し，溝は南の天満地区に向けてのびている。出土遺物は，弥生土器底部の破片が中心で詳細な時期決定はできないが，弥生時代前期に属するものである。細渓・六車両氏の報告文に紹介されている出土遺物を概観すると，多条沈線が見られるものの，逆Ｌ字口縁は出現しておらず，森下編年のⅡａ～ｂ期に相当すると考えられる。天満・宮西遺跡の環濠集落がⅠｃ～Ⅱａ期であることを考えると，天満遺跡は天満・宮西遺跡の直後にあたることから，天満・宮西遺跡から天満遺跡に集落が移動した可能性を指摘できる。

参考文献

川部浩司2001「鬼無藤井遺跡の前期弥生土器と環濠集落」『鬼無藤井遺跡』高松市教育委員会
細渓福太郎・六車恵一1965「高松市天満弥生式遺跡」『文化財協会報　特別号７』香川県文化財保護協会
真鍋昌宏2000「讃岐地域」『弥生土器の様式と編年　四国編』木耳社
宮崎哲治1995「香川における弥生前期土器の様相」『財団法人香川県埋蔵文化財調査センター研究紀要Ⅲ』
森下英治1998「龍川五条遺跡出土前期弥生土器の編年」『龍川五条遺跡Ⅱ飯野東分山崎南遺跡』香川県教育委員会ほか



第179図　天満・宮西遺跡周辺の等高線（縮尺1/4,000）



第180図　天満・宮西遺跡周辺の旧地形と前期弥生集落（縮尺1/4,000）

第３節　弥生時代後期～古墳時代前期初頭における集落の変遷

弥生時代後期～古墳時代前期初頭における遺構の変遷について，出土土器及び遺構の重複関係などから検討すると第181・182図のとおりとなる。なお，出土土器についても，弥生時代前期と同様に変遷を試みたが，混入が著しく変遷図を作成するには至らなかった。

第Ⅱ－１期【弥生時代後期前半】

弥生時代前期からしばらくの空白期間をおいて，再び天満・宮西遺跡に人が住み始める。まだ遺構数は少なく，確実なものは井戸ＳＥ02のみで，後期前半中葉の標式となっている小山南谷遺跡ＳＨ03出土資料に並行する時期と考えられる。溝ＳＤ15も後期前半に属する可能性があるが，出土土器が少なく断定できない。ＳＥ02に続く時期の遺構は明確でないが，土器は後期後半～終末期の遺構に混入して出土している。微高地北側の小谷には旧河道ＳＲ01があり，古墳時代前期初頭まで続く。

第Ⅱ－２期【弥生時代後期後半①】

遺構数がしだいに増加している。大嶋編年の様相１にあたり，一部様相２を含む。周溝ＳＤ37・142・45・48に囲まれた範囲に竪穴住居の存在が想定でき，周溝から溝ＳＤ53・82・79を通して旧河道ＳＲ01に排水を流している。溝ＳＤ141は周溝ＳＤ37に接続しており，調査区外（西）に所在が予想される竪穴住居からの排水をＳＤ37に流していた可能性がある。溝ＳＤ93も調査区外（西）に所在が予想される竪穴住居からの排水をＳＲ01に流していたと考えられる。溝ＳＤ92も，この時期に属する。

調査区南側で掘立柱建物跡群が検出されているが，出土遺物が少ないため細かい時期決定はできなく，掘立柱建物跡の変遷も不明である。ただし，弥生時代終末期まで下る土器は見られないこと，終末期には調査区南側に竪穴住居が出現することから，弥生時代後期の範疇におさまるものと考えられる。

第Ⅱ－３期【弥生時代後期後半②】

様相２にあたり，一部様相３を含む。竪穴住居ＳＨ01・14・17が営まれる。ＳＨ14は周溝ＳＤ46を，ＳＨ17は周溝ＳＤ12をもっており，さらに両周溝の間に連結溝を掘削して繋げている。つまり，ＳＨ17周溝ＳＤ12の排水を，ＳＨ14周溝ＳＤ46を経由して，溝ＳＤ53・82・79を通して旧河道ＳＲ01に流している。竪穴住居ＳＨ01は周溝をもたないが，ＳＨ14周溝ＳＤ46はＳＨ01を迂回して掘削されている。なお，ＳＨ17の周溝ＳＤ12は，ＳＤ12－１・２というように２時期が認められる。

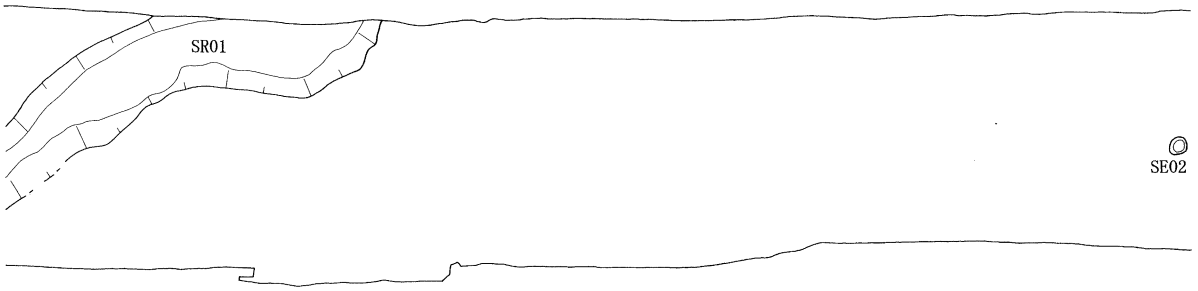
第Ⅱ－４期【弥生時代後期後半③】

様相３にあたり，一部様相４を含む。竪穴住居ＳＨ04・06・13・21が営まれる。竪穴住居ＳＨ06は周溝ＳＤ73を，ＳＨ21は周溝ＳＤ08・39・41をもつが，ＳＨ04・13は周溝をもたない。また，第Ⅱ－３期で報告した竪穴住居ＳＨ01・14・17もこの時期まで続いている可能性がある。廃棄土坑と考えられるＳＤ27は，ＳＨ17廃絶直後に掘削されたと考えられる。溝ＳＤ23もこの時期にあたる。

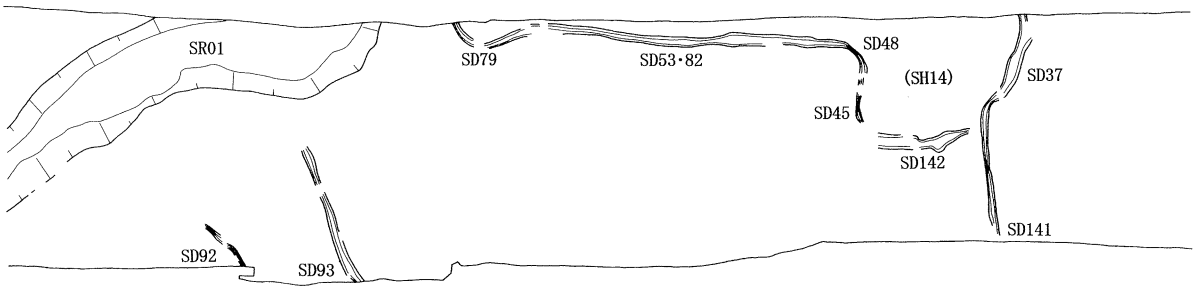
第Ⅱ－５期【弥生時代終末期①】

遺構がもっとも密集しており，この５期から次の６期にかけて，集落は最盛期を迎える。様相４にあたり，一部様相５を含む。

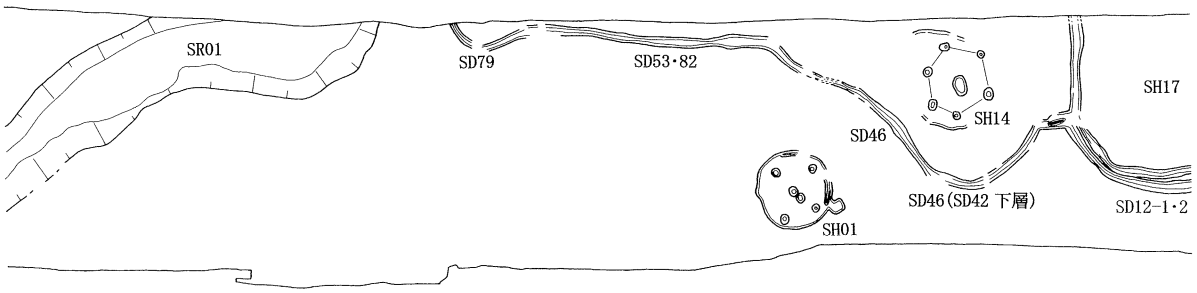
竪穴住居ＳＨ05・10・19・（14）・20が営まれ，これら竪穴住居は全て周溝を有している。竪穴住居ＳＨ05はＳＤ91・96を周溝として，４期のＳＨ06廃絶後に続いて営まれたものである。竪穴住居ＳＨ10はＳＤ62・57・106・116・80を，ＳＨ19はＳＤ137・52・57・134・120・122を周溝としており，ＳＨ10とＳＨ19はＳＤ57部分を周溝として共有している。竪穴住居ＳＨ（14）はＳＤ42・44・146を，ＳＨ20はＳＤ34・145・140を周溝としている。竪穴住居ＳＨ20は２時期認められ，このうち周溝ＳＤ34がＳＨ（14）周溝



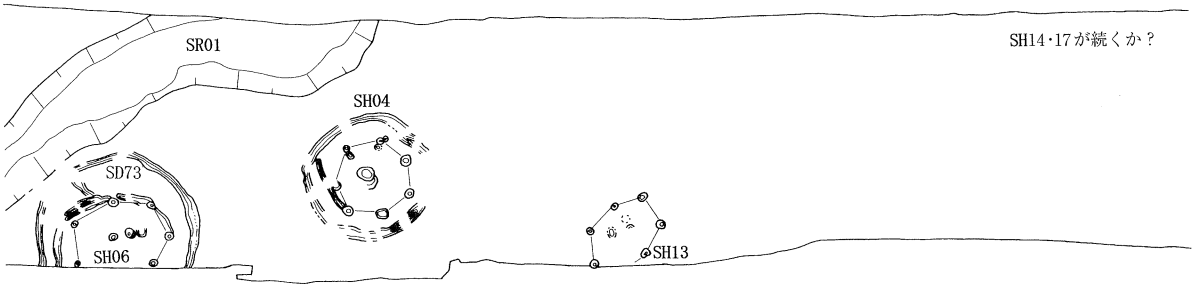
第Ⅱ－１期



第Ⅱ－２期

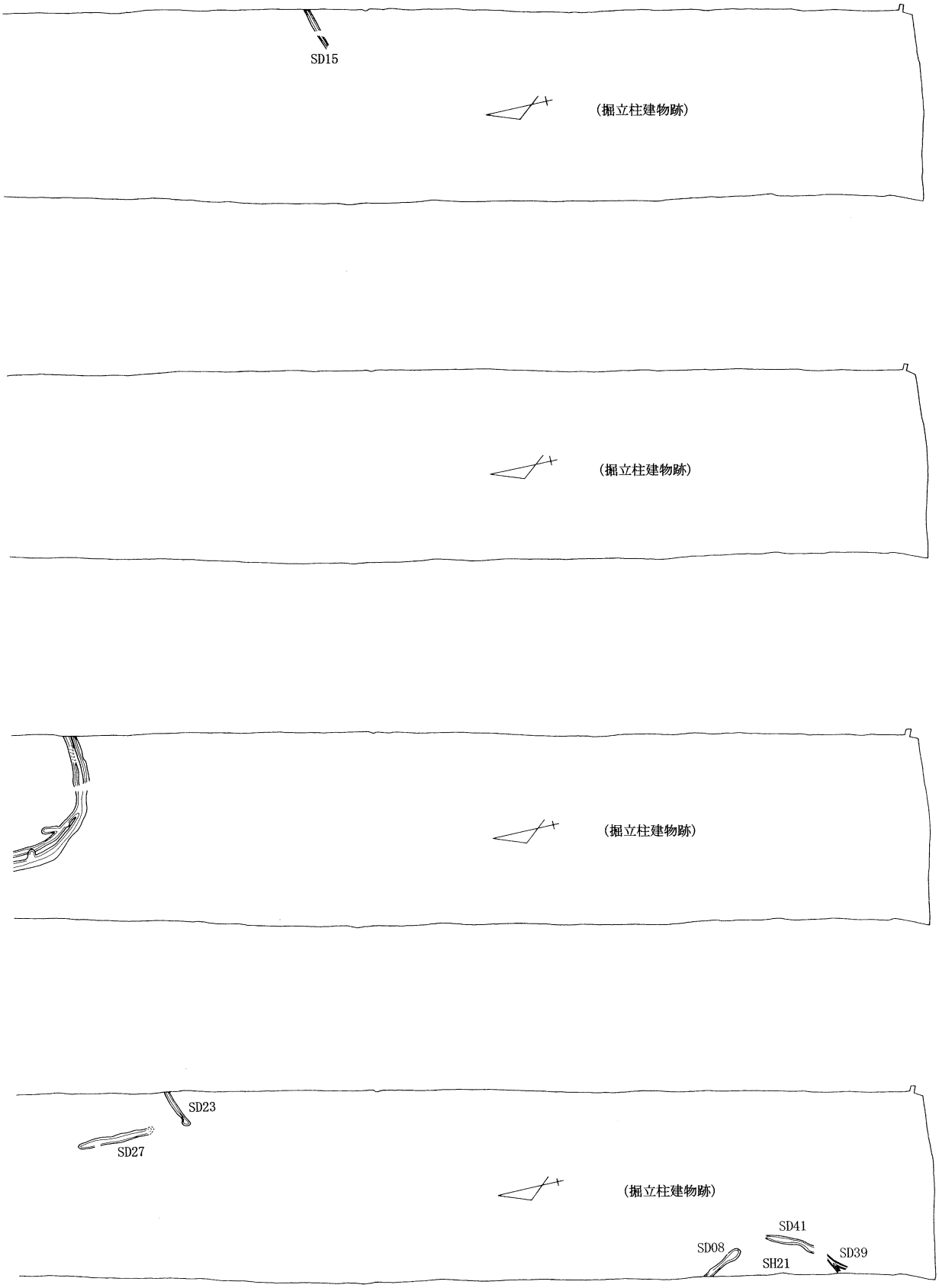


第Ⅱ－３期

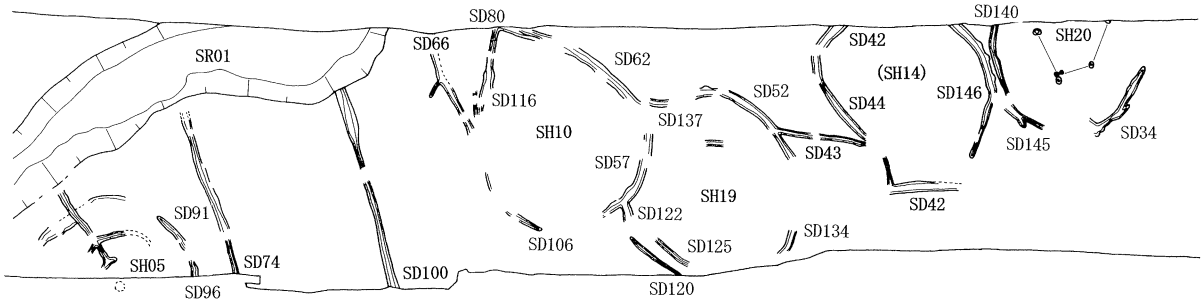


第Ⅱ－４期

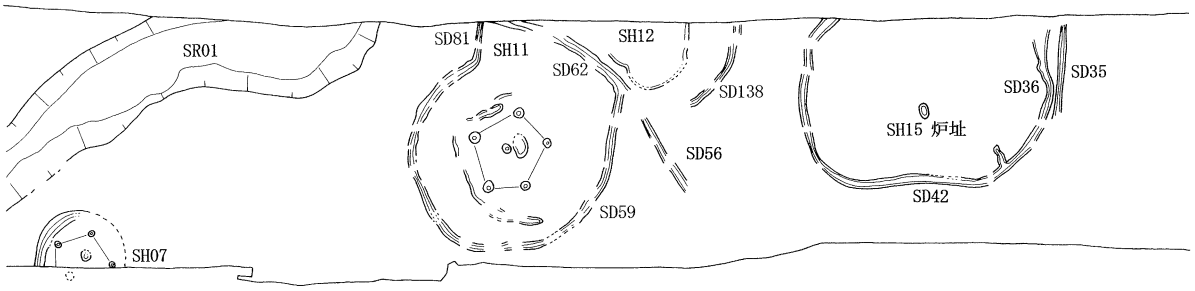
第181図　天満・宮西遺跡における弥生時代後期



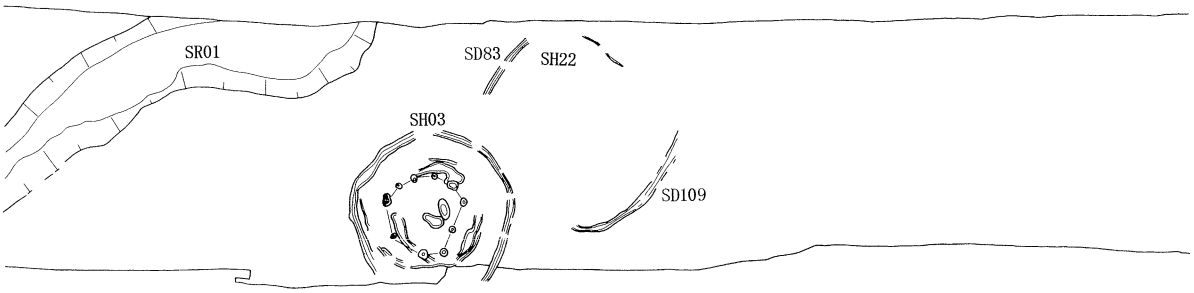
～古墳時代前期初頭の遺構変遷図①(縮尺1/500)



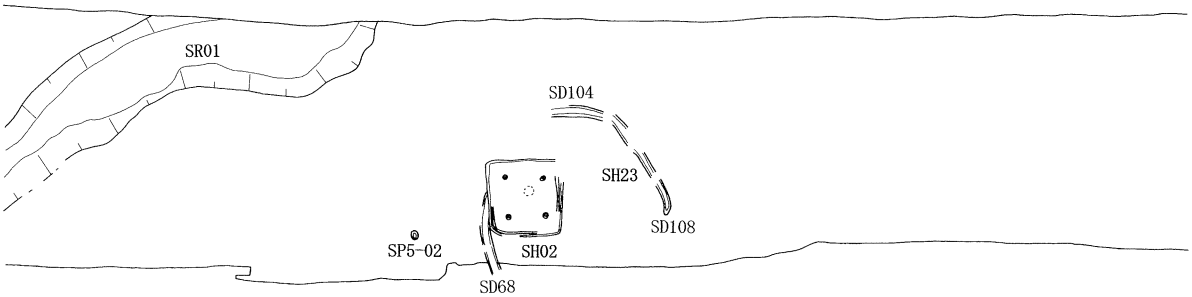
第Ⅱ－５期



第Ⅱ－６期

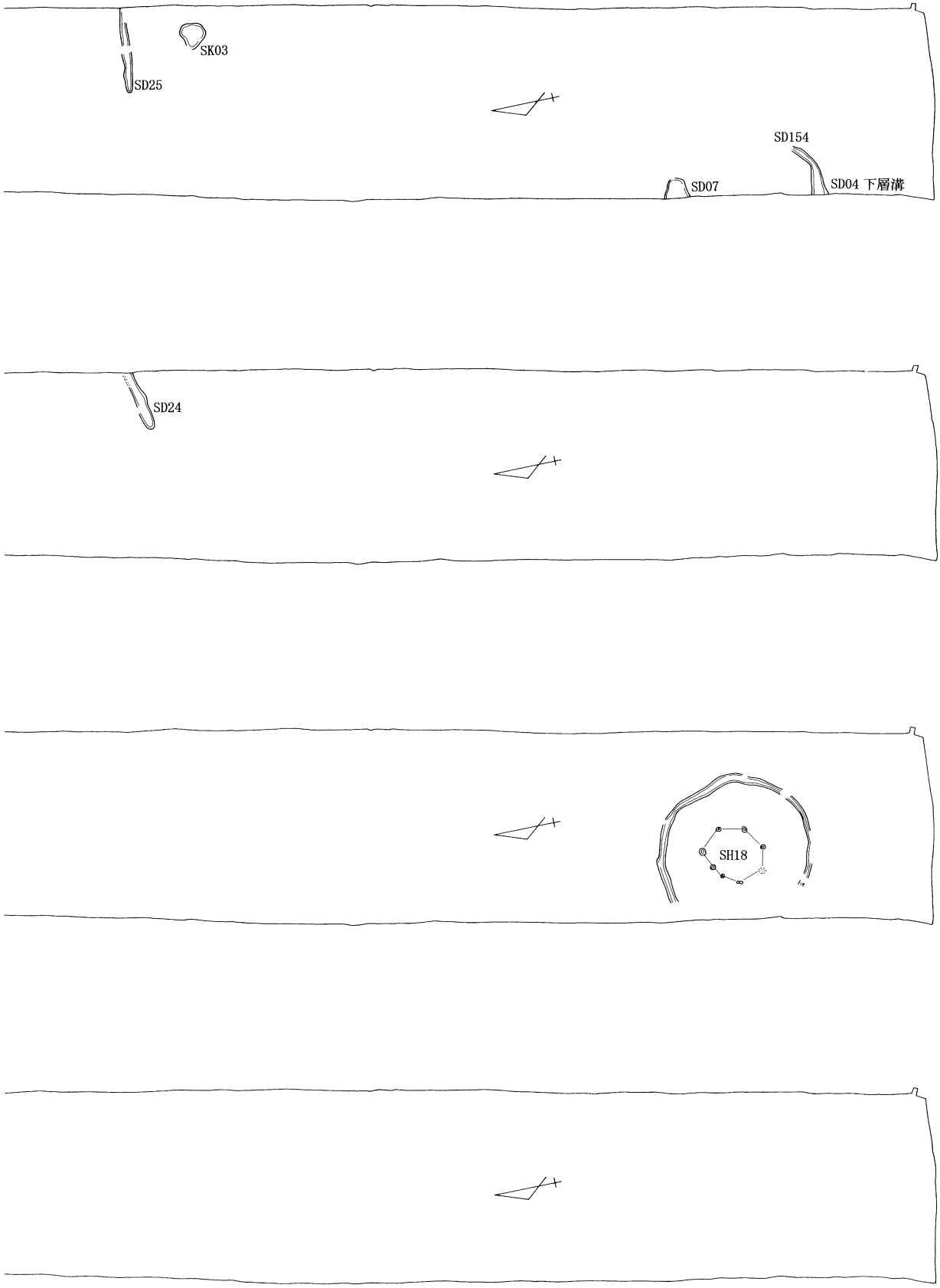


第Ⅱ－７期

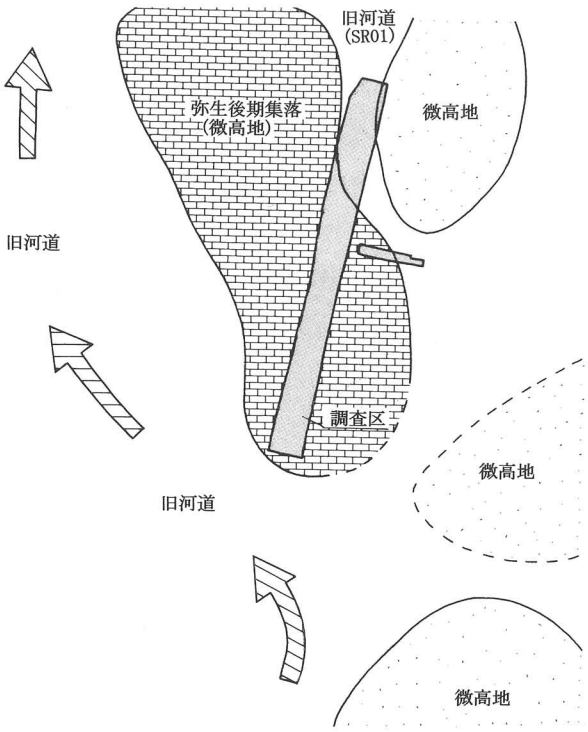


第Ⅱ－８期

第182図　天満・宮西遺跡における弥生時代後期



～古墳時代前期初頭の遺構変遷図②（縮尺1/500）



第183図　天満・宮西遺跡周辺の旧地形と弥生後期集落(縮尺1/4,000)

ＳＤ146と繋がっており，ＳＨ（14）とＳＨ20も周溝を共有している。さらに，ＳＨ（14）周溝ＳＤ44から分岐するＳＤ43は，ＳＨ19周溝ＳＤ52へと繋がっており，ＳＨ（14）・20周溝の排水をＳＨ19周溝からＳＨ10周溝を経由して，旧河道ＳＲ01に流していると考えられる。

溝ＳＤ74・100は，調査区外（西）からまっすぐ旧河道ＳＲ01に注いでおり，調査区外に想定される竪穴住居の排水を流す目的で掘削されたものである。溝ＳＤ154とＳＤ04下層溝は同一の溝である可能性があり，円弧を描いていることから，さらに竪穴住居の周溝の可能性もある。溝ＳＤ07は，土器が大量に出土しており，廃棄土坑と考えられる。

第Ⅱ－６期【弥生時代終末期②】

５期から続いて遺構が密集しており，集落の最盛期が続いている。様相５にあたる。様相５は，他の様相と比べて期間が長く，幾つかに細分が可能である。

竪穴住居ＳＨ07・11・12・15が営まれ，これら竪穴住居はＳＨ07以外すべて周溝を有している。ＳＨ07は時期が分かる出土遺物もないことから，第Ⅱ－７・８期に下がる可能性もある。竪穴住居ＳＨ07は５期のＳＨ05廃絶後に営まれたものである。竪穴住居ＳＨ11はＳＤ59・62を周溝としており，５期のＳＨ10廃絶後に続いて営まれたもので，ＳＨ10周溝ＳＤ62を引き続いて使用している。竪穴住居ＳＨ12はＳＤ138を周溝として，さらにＳＨ11周溝ＳＤ62をも周溝として共有している可能性がある。また，ＳＤ62の延長としてＳＤ56が続いており，別の竪穴住居の存在も予想される。５期のＳＨ（14）に続いて，竪穴住居ＳＨ15が営まれ，ＳＤ42・36を周溝としている。ＳＤ36に接して溝ＳＤ35がある。溝ＳＤ24は，まとまって土器が出土しており，廃棄土坑と考えられる。

第Ⅱ－７期【弥生時代終末期③～古墳時代前期初頭】

５・６期に比べて遺構の密集度は減っている。様相５～６にあたる。

竪穴住居ＳＨ03・22・18が営まれ，これら竪穴住居はすべて周溝を有している。竪穴住居ＳＨ03はＳＤ99を周溝としている。竪穴住居ＳＨ22はＳＤ109・83を周溝として，さらにＳＨ03周溝ＳＤ99をも周溝として共有している可能性がある。竪穴住居ＳＨ18はＳＤ05を周溝としている。

第Ⅱ－８期【古墳時代前期初頭】

遺構は希薄になり，集落は終焉を迎える。様相６以降にあたる。

竪穴住居ＳＨ02・23が営まれるが，重複しており，時期差がある。竪穴住居ＳＨ02は平面方形プランで，ＳＨ23より後出する。竪穴住居ＳＨ23はＳＤ68・104・108を周溝としている。

土器がまとまって出土した柱穴ＳＰ５－02は，様相６の次の時期に属するものであり，弥生時代後期～古墳時代前期初頭においてもっとも新しい時期の遺構である。

以上，弥生時代後期～古墳時代前期初頭における遺構の変遷について復元を試みた。ただし，遺構の重複が激しく，遺物の混入も著しい本遺跡の場合，今後ある程度の補正が必要になるであろう。

また，集落が立地する微高地と調査区の関係は，第183図のとおりである。微高地全体に集落が広がっ

ていたと想定した場合，集落南側の一部に縦断する形で調査区を設定したことになる。この集落(微高地)の南から西にかけては大きな旧河道があり，北東にある別の微高地との間（小谷）には小さな旧河道（ＳＲ01）が流れている。

竪穴住居の周溝について

天満・宮西遺跡における弥生時代後期～古墳時代前期初頭の竪穴住居は，平面形態は円形を基調としており，新しい時期において方形のものが出現している。さらに，本遺跡の竪穴住居で特徴的なことは，竪穴住居の周りに周溝をめぐらせるのものが圧倒的に多いことである。これは，本遺跡の立地が，標高が約5.0～5.8mと低く，旧河道に面していることを考慮すると，排水をする上で必要不可欠であったのかもしれない。しかしながら，周溝をもたないものも少数ながら各時期に存在し，これが立地条件や社会的制約などを反映するものなのかは判断できない。

掘立柱建物跡について

調査区南半分でのみ検出できた掘立柱建物跡は，少ない出土遺物からではあるが，弥生時代後期のものと推測した。ただし，竪穴住居ＳＨ09のように出土遺物からだけでは判断できない例もあるので，すべての掘立柱建物跡が弥生時代に属するものかは現況では即断できない。

集落全体から掘立柱建物跡を見た場合，集落（微高地）南側に掘立柱建物があり，北側に竪穴住居が営まれており，弥生時代中期の例だが日暮・松林遺跡（多肥上町）においても類例を見ることができる。この集落構造が，高松平野において普遍的であったのかどうかは，各遺跡の全容解明が必要である。

一方，掘立柱建物を個別に見た場合，平面形態は桁行３間，梁間１間の長方形を基調としており，桁行２間（ＳＢ04）または４間（ＳＢ01）のものも見られる。主軸は，すべて東西方向でＮ64°～89°ＷまたはＮ78°～89°Ｅを示し，遺跡付近に残る条里地割とはあまり一致しない。また，柱穴は円形のものだけである。床面積は，11～20㎡がもっとも多く，ＳＢ04が約７㎡と最小で，ＳＢ01が約32㎡と最大である。ＳＢ01の床面積規模は，県内の弥生時代では羽間遺跡（仲多度郡満濃町）・成重遺跡（大川郡白鳥町）で検出された掘立柱建物跡に次ぐ大きさである。

弥生時代後期～古墳時代前期初頭における天満・宮西遺跡の位置付け

最後に，天満・宮西遺跡でもっとも遺構数が多い弥生時代後期～古墳時代前期初頭の集落であるが，高松平野においてもこの時期の遺跡数は多く，平野の各所に集落が営まれたと考えられている。これらの集落は，微高地上に立地し，隣接する旧河道などに土器を大量に廃棄しており，本遺跡も例外ではない。しかしながら，本遺跡の竪穴住居を中心とした遺構密度の高さは，他の遺跡と比べても圧倒的であり，人口密度の高い集落であったと推測される。そうした状況にあって，この時期出現してくるのが古墳である。本遺跡からも望むことができる石清尾山塊にも数多くの積石塚古墳が築造され，出現期の古墳として鶴尾神社４号墳が著名である。古墳築造にあたっては，平野に所在した各集落の協力が不可欠だったことは容易に推測できるが，鶴尾神社４号墳から直線距離にして約３kmと比較的近い距離にある本遺跡の集落も一定の役割を担ったと考えられる。この後，石清尾山古墳群の築造は古墳時代中期まで継続的に営まれるが，本遺跡を含め高松平野の集落は古墳時代前期初頭を過ぎると多くは終焉を迎える。新たに出現する集落もあるが，集落数は確実に少なく，そうした中にあっても古墳の築造は維持されている。このように，天満・宮西遺跡の集落も，歴史の流れの中で，平野に所在した他の集落と同じ消長を辿ったのである。

参考文献

大久保徹也2002「四国北東部における地域的首長埋葬儀礼様式の成立時期をめぐって」『論集徳島の考古学』徳島考古学論集刊行会
大嶋和則2001「高松平野における庄内並行期の土器様相」『庄内式土器研究ＸＸⅣ』庄内式土器研究会
信里芳紀2000「讃岐地方の掘立柱建物の地域差」『羽間遺跡現地説明会資料』財団法人香川県埋蔵文化財調査センター

天満・宮西遺跡出土遺物観察表

※法量の（　）は，残存値を表す。

報告番号	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴	色調	胎土	備考
1	弥生土器 壺	14.5		(13.6)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：橙2.5Y R6/8 内面：橙2.5Y R6/6	4㎜以下の石英・長石を含む	体部：沈線１条
2	弥生土器 壺	16.4		(17.5)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：淡黄橙10Y R8/4 内面：淡黄橙10Y R8/4	2㎜以下の石英・長石を含む	
3	弥生土器 壺	20.0		(3.6)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：灰白7.5Y R8/2 内面：灰白7.5Y R8/2	2㎜以下の石英・長石を含む	
4	弥生土器 壺		8.3	(14.7)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：にぶい橙7.5Y R6/4 内面：にぶい橙7.5Y R6/4	6㎜以下の石英・長石を含む	体部中部外面：黒斑
5	弥生土器 壺		8.2	(19.4)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：にぶい橙5Y R7/4 内面：灰白5Y R8/1	5㎜以下の石英・長石等を含む	
6	弥生土器 壺		6.4	12.1	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：明褐7.5Y R5/6 内面：明褐7.5Y R5/8	7㎜以下の石英・長石を含む	底部外面：黒斑
7	弥生土器 壺		3.9	(6.6)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：灰黄2.5Y 6/2 内面：灰黄2.5Y 6/2	4㎜以下の石英・長石を含む	
8	弥生土器 壺		4.1	(1.5)	外面：なで 内面：なで	外面：灰白10Y R8/2 内面：灰白10Y R8/2	2㎜以下の石英・長石を含む	体部，底部：黒斑
9	弥生土器 甕			(6.2)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：にぶい褐7.5Y R5/4 内面：にぶい褐7.5Y R5/4	4㎜以下の石英・長石を含む	口縁端部：刻目文 頸部：沈線２条
10	弥生土器 甕	22.4		(16.0)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：赤褐5Y R4/8 内面：赤褐5Y R4/8	4㎜以下の石英・長石を含む	口縁端部：刻目文 頸部：沈線１条
11	弥生土器 甕	21.8		(11.9)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：黄橙10Y R8/6 内面：浅黄橙10Y R8/3	4㎜以下の石英・長石を含む	口縁端部：刻目文 頸部：沈線２条体部外面：黒斑
12	弥生土器 甕	20.2		(12.6)	外面：摩滅のため調整不明 内面：刷毛目，板なで，篦磨き	外面：黄灰2.5Y 6/1 内面：黄灰2.5Y 6/1	5㎜以下の石英・長石を含む	口縁端部：刻目文頸部：沈線２条 内面：黒斑
13	弥生土器 甕	32.8		(11.0)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：にぶい赤褐5Y R5/4 内面：灰白5Y R8/2	2㎜以下の石英・長石を含む	口縁端部：刻目文 頸部：沈線２条
14	弥生土器 甕	32.0		(12.1)	口縁部外面：なで 体部外面：縦篦磨き後，横篦磨き 口縁部内面：なで 体部：指頭圧痕，横篦磨き	外面：にぶい橙7.5Y R5/4 内面：浅黄橙10Y R7/4	2㎜以下の石英・長石を含む	外面：黒斑
15	弥生土器 甕	39.0		(19.1)	外面：なで 内面：なで	外面：明褐7.5Y R5/6 内面：明褐7.5Y R5/6	4㎜以下の石英・長石を含む	口縁端部：刻目文 頸部：沈線３条の間２列に竹管文
16	弥生土器 甕(甑)	21.8	7.6	34.7	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：にぶい橙7.5Y R7/3 内面：にぶい橙7.5Y R7/3	5㎜以下の石英・長石を含む	
17	弥生土器 高杯		7.2	(8.0)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：浅黄2.5Y 7/3 内面：浅黄2.5Y 7/3	6㎜以下の石英・長石を含む	
18	弥生土器 底部		8.0	(10.7)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：にぶい橙5Y R7/3 内面：にぶい橙7.5Y R7/4	6㎜以下の石英・長石を含む	
19	弥生土器 底部		13.2	(4.9)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：にぶい橙5Y R6/4 内面：灰褐5Y R5/2	7㎜以下の石英・長石を含む	
20	弥生土器 底部		7.5	(4.4)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：灰白10Y R7/1 内面：灰白10Y R7/1	3㎜以下の石英・長石を含む	底部外面：黒斑
21	弥生土器 底部		7.8	(3.3)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：にぶい橙5Y R7/4 内面：灰褐7.5Y R6/2	5㎜以下の石英・長石を含む	
22	弥生土器 底部		7.6	(5.8)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：灰白7.5Y R8/1 内面：灰白7.5Y R8/1	3㎜以下の石英・長石を含む	外面：黒斑
23	弥生土器 底部		7.2	(6.0)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：にぶい黄橙10Y R7/3 内面：にぶい褐7.5Y R6/3	2㎜以下の石英・長石を含む	
24	弥生土器 底部		8.6	(5.4)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：橙5Y R7/8 内面：褐灰7.5Y R6/1	4㎜以下の石英・長石を含む	
25	弥生土器 底部		8.7	(5.8)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：橙2.5Y R6/8 内面：褐灰5Y R5/1	5㎜以下の石英・長石を含む	
26	弥生土器 底部		7.5	(5.8)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：橙5Y R7/6 内面：褐灰7.5Y R4/1	5㎜以下の石英・長石を含む	
27	弥生土器 底部		8.1	(7.3)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：明褐灰5Y R7/1 内面：灰白5Y R8/1	3㎜以下の石英・長石を含む	
28	弥生土器 底部		7.0	(5.4)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：灰赤2.5Y R5/2 内面：褐灰7.5Y R5/1	5㎜以下の石英・長石を含む	
29	弥生土器 甕	27.6	6.3	(22.4)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：灰黄2.5Y7/2 内面：にぶい赤褐5Y R5/3	4㎜以下の石英・長石を含む	口縁端部：刻目文 頸部：削出突帯上に刺突文
30	弥生土器 甕	14.4		(17.0)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：橙5Y R7/6 内面：にぶい橙5Y R7/3	1～5㎜の石英・長石を含む	
31	弥生土器 甕	20.0		(9.4)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：にぶい橙5Y R7/4 内面：にぶい橙5Y R6/4	4㎜以下の石英・長石を含む	体部上位：段１段
32	弥生土器 甕	25.2		(7.5)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：浅黄2.5Y 7/3 内面：浅黄2.5Y 7/4	3㎜以下の石英・長石を含む	口縁端部：刻目文 頸部：沈線２条
33	弥生土器 鉢	11.9		11.5	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：灰白10Y R8/1 内面：灰白10Y R8/1	5㎜以下の石英・長石を含む	口縁部：穿孔２穴 体部下部外面：黒斑
34	弥生土器 鉢		4.0	(5.8)	外面：篦磨き 内面：摩滅のため調整不明	外面：にぶい黄橙10Y R6/3 内面：にぶい黄橙10Y R6/3	7㎜以下の石英・長石を含む	体部から底面外面：黒斑
35	弥生土器 底部		8.6	(10.4)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：灰白10Y R7/1 内面：灰白10Y R7/1	3㎜以下の石英・長石を含む	外面：黒斑
36	弥生土器 底部		8.0	(7.8)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：にぶい赤褐5Y R5/3 内面：にぶい赤褐5Y R5/3	5㎜以下の石英・長石を含む	
37	弥生土器 底部		10.0	(8.7)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：褐灰5Y R4/1 内面：にぶい褐7.5Y R6/3	4㎜以下の石英・長石を含む	体部下半外面：黒斑
38	弥生土器 底部		8.9	(7.6)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：橙2.5Y R6/8 内面：明褐灰5Y R7/1	5㎜以下の石英・長石を含む	
39	弥生土器 底部		6.8	(9.7)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：赤褐5Y R4/6 内面：灰黄2.5Y 6/2	3㎜以下の石英・長石を含む	
40	弥生土器 底部		9.2	(5.0)	底部外面：板なで 底面外面：篦磨き 内面：摩滅のため調整不明	外面：灰褐5Y R5/2 内面：明褐灰5Y R7/1	5㎜以下の石英・長石を含む	
41	弥生土器 底部		8.2	(4.4)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：淡黄2.5Y 8/4 内面：淡黄2.5Y 8/4	3㎜以下の石英・長石を含む	
42	弥生土器		8.5	(4.8)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：淡黄2.5Y 8/4 内面：淡黄2.5Y 8/4	5㎜以下の石英・長石を含む	
43	弥生土器 壺	13.6		(7.4)	口縁部外面：なで 体部上部外面：横篦磨き 口縁部内面：篦磨き 体部上部内面：なで，指頭圧痕	外面：にぶい黄橙10Y R7/2 内面：にぶい黄橙10Y R7/2	3㎜以下の石英・長石を含む	口縁部：黒斑
44	弥生土器 壺			(18.5)	胴部外面：篦磨き 胴部内面：篦磨き	外面：灰白5Y R8/1 内面：褐灰5Y R5/1	3㎜以下の石英・長石を含む	胴部：篦描沈線２条，木葉文，孤状の文様，黒斑
45	弥生土器 壺			(24.9)	体部外面：篦磨き 内面：篦磨き	外面：灰白10Y R7/1 内面：灰白10Y R7/1	3㎜以下の石英・長石を含む	頸部：篦描沈線１条 胴部：篦状工具痕

報告番号	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴	色調	胎土	備考
46	弥生土器 壺			(7.1)	胴部外面：横篦磨き 内面：摩滅のため調整不明	外面：灰褐5Y R6/1 内面：灰褐5Y R6/1	2㎜以下の石英・長石を含む	胴部：篦描沈線1条，2本の区画線
47	弥生土器 壺		7.7	(13.0)	体部外面：密な篦磨き 体部内面：密な篦磨き	外面：にぶい橙5Y R7/4 内面：明褐灰7.5Y R7/2	3㎜以下の石英・長石を含む	
48	弥生土器 甕	22.6		(5.6)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：にぶい橙5Y R7/4 内面：灰白5Y R8/2	7㎜以下の石英・長石を含む	口縁部：刻目文 頸部：篦描沈線2条
49	弥生土器 甕		7.0	(11.5)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：明褐灰5Y R7/2 内面：明褐灰5Y R7/2	3㎜以下の石英・長石を含む	
50	弥生土器 甕		7.7	(7.1)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：橙5Y R6/6 内面：にぶい橙7.5Y R7/4	4㎜以下の石英・長石を含む	
51	弥生土器 壺	14.8		(6.6)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：にぶい橙5Y R7/4 内面：明褐灰5Y R7/1	4㎜以下の石英・長石を含む	
52	弥生土器 壺	15.2		(3.7)	口縁部外面：篦磨き 口縁部内面：篦磨き	外面：にぶい褐7.5Y R6/3 内面：灰褐7.5Y R6/2	3㎜以下の石英・長石を含む	頸部：削出突帯
53	弥生土器 壺	13.6		(2.9)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面： 内面：	3㎜以下の石英・長石を含む	
54	弥生土器 壺	25.0		(9.0)	外面：篦磨き 内面：篦磨き	外面： 内面：	2㎜以下の石英・長石を含む	頸部：篦描沈線1条
55	弥生土器 壺			(5.4)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面： 内面：	4㎜以下の石英・長石を含む	頸部：篦描沈線4条
56	弥生土器 壺	15.7	9.5	32.7	外面：摩滅のため調整不明 体部内面：なで，篦磨き 底部内面：なで，篦磨き	外面：灰白10Y R8/1 内面：灰白10Y R8/1	5㎜以下の石英・長石を含む	頸部：篦描沈線2条 胴部：篦描沈線3条，黒斑
57	弥生土器 甕	21.1	9.5	25.6	口縁部外面：なで 体部外面：刷毛目 内面：摩滅のため調整不明	外面：にぶい黄橙10Y R7/2 内面：にぶい黄橙10Y R7/2	5㎜以下の石英・長石を含む	口縁部：刻目文
58	弥生土器 甕	23.6		(5.4)	口縁部外面：なで 内面：摩滅のため調整不明	外面：灰褐7.5Y R5/2 内面：灰黄褐10Y R6/2	3㎜以下の石英・長石を含む	口縁部：刻目文 頸部：篦描沈線2条間に刺突文
59	弥生土器 甕	22.0		(6.0)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：褐灰5Y R5/1 内面：灰褐5Y R6/2	3㎜以下の石英・長石を含む	
60	弥生土器 甕	41.4		(9.7)	口縁部外面：なで 体部上部外面：横篦磨き 口縁部内面：なで 体部上部内面：篦磨き	外面：橙5Y R6/6 内面：橙5Y R6/6	2㎜以下の石英・長石を含む	頸部：篦描沈線4条
61	弥生土器 甕	21.8		(4.7)	外面：なで 内面：なで	外面：橙5Y R7/6 内面：橙5Y R7/6	2㎜以下の石英・長石を含む	
62	弥生土器 甕	23.6	8.5	31.7	口縁部外面：なで 体部外面：なで 底部内面：指頭圧痕	外面：灰白10Y R8/1 内面：灰白10Y R8/1	2～3㎜の石英・長石を含む	
63	弥生土器 高杯	20.0		(5.0)	外面：篦磨き 内面：摩滅のため調整不明	外面：にぶい褐7.5Y R6/3 内面：にぶい褐7.5Y R6/3	2㎜以下の石英・長石を含む	
64	弥生土器 底部		12.6	(5.6)	底部外面：板なで 底部内面：篦磨き	外面： 内面：	6㎜以下の石英・長石を含む	
65	弥生土器 底部		9.0	(3.8)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：にぶい橙7.5Y R7/3 内面：褐灰7.5Y R6/1	3㎜以下の石英・長石を含む	
66	弥生土器 底部		7.1	(5.2)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：褐灰5Y R6/1 内面：褐灰5Y R6/1	1㎜以下の石英・長石を含む	
67	弥生土器 底部		6.9	(5.0)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：橙5Y R6/8 内面：橙5Y R6/8	2㎜以下の石英・長石を含む	
68	弥生土器 底部		6.2	(4.4)	外面：指頭圧痕 内面：なで	外面：褐灰10Y R6/1 内面：褐灰10Y R6/1	3㎜以下の石英・長石を含む	
69	弥生土器 高杯		6.6	(7.6)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：にぶい橙5Y R7/4 内面：明褐灰5Y R7/1	3㎜以下の石英・長石を含む	
70	弥生土器 紡錘車	(長さ) 4.5	(幅) 4.5	(厚さ) 1.1	外面：なで	外面：明褐灰7.5Y R7/2 内面：明褐灰7.5Y R7/2	1㎜以下の長石を含む	
71	弥生土器 紡錘車	(長さ) 5.1	(幅) 5.0	(厚さ) 1.4	外面：なで	外面：灰褐7.5Y R6/2 内面：灰褐7.5Y R6/2	4㎜以下の石英・長石を含む	孔径：0.6cm
72	弥生土器 紡錘車	(長さ) 5.0	(幅) 5.5	(厚さ) 1.3	外面：なで	外面：橙Hue5Y R7/6 内面：橙Hue7.5Y R7/6	3㎜以下の長石・石英を含む	重さ：31.8g
73	弥生土器 壺	14.2		(7.5)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：にぶい橙7.5Y R7/4 内面：褐灰7.5Y R7/3	5㎜以下の長石・石英・雲母を含む	頸部：沈線3条，沈線下に篦描円孤文
74	弥生土器 壺	13.0		(7.7)	口縁部から頸部外面：なで 体部外面：篦磨き 口縁部から頸部内面：なで 体部内面：篦磨き	外面：灰白2.5Y 8/2 内面：灰白2.5Y 8/2	1～2㎜以下の石英・長石を含む	
75	弥生土器 壺	15.2		(4.6)	口縁部外面：なで 口縁部内面：なで 頸部内面：指頭圧痕	外面：灰白2.5Y 8/2 内面：灰黄2.5Y 7/2	2㎜以下の石英・長石を含む	頸部：突帯
76	弥生土器 壺			(8.4)	体部外面：篦磨き 体部内面：指頭圧痕，なで	外面：灰白2.5Y 8/1 内面：灰白2.5Y 8/2	2㎜以下の石英・長石を含む	体部上半：沈線2条，黒斑
77	弥生土器 壺		10.2		外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：灰白10Y R8/2 内面：灰白10Y R8/2	1㎜以下の長石を含む	体部上部：沈線2条
78	弥生土器 壺			(8.7)	内面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：灰白2.5Y 8/2 内面：にぶい黄橙10Y R7/3	1～3㎜の石英・長石を含む	外面：黒斑
79	弥生土器 壺			(5.9)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：にぶい橙7.5Y R7/4 内面：褐灰7.5Y R4/1	3㎜以下の長石・石英を含む	外面：沈線上が4条以上と下が1条間に木葉文
80	弥生土器 壺			(4.0)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：にぶい橙7.5Y R7/4 内面：褐灰7.5Y R4/1	4㎜以下の長石・石英を含む	外面：沈線3条以上と木葉文
81	弥生土器 壺			(4.5)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：にぶい橙7.5Y R7/4 内面：にぶい黄橙10Y R7/3	3㎜以下の長石・石英を含む	沈線3条，木葉文？
82	弥生土器 壺			(3.5)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：にぶい橙5Y R7/4 内面：にぶい橙5Y R7/4	1㎜以下の長石・石英を含む	木葉文？
83	弥生土器 壺		4.4	(4.6)	体部外面：篦磨き 底部外面：なで 内面：なで	外面：灰黄2.5Y 7/2 内面：灰黄褐10Y R6/2	4㎜以下の石英を含む	
84	弥生土器 壺		4.6	(3.7)	底部外面：指頭圧痕 体部外面：篦磨き 体部内面：なで	外面：浅黄2.5Y 7/3 内面：褐灰10Y R6/1	1～3㎜の石英・長石を含む	体部中位：羽状文2段，羽状文に朱
85	弥生土器 甕	25.4		(7.6)	口縁部外面：なで 体部外面：篦磨き 口縁部内面：なで 体部内面：なで	外面：灰黄褐10Y R4/2 内面：にぶい黄橙10Y R7/2	3㎜以下の長石・角閃石を含む	口縁端部：刻目文 頸部：沈線2条
86	弥生土器 甕	27.6		(9.4)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：にぶい黄橙10Y R6/3 内面：灰黄褐10Y R5/2	2㎜以下の長石・石英を含む	口縁端部：刻目文 体部上部：沈線2条
87	弥生土器 甕	42.0		(10.1)	口縁部外面：なで 頸部外面：指頭圧痕 体部外面：摩滅のため調整不明 内面：なで	外面：灰白2.5Y 8/2 内面：灰白2.5Y 8/2	6㎜以下の長石・石英を含む	口縁端部：沈線2条 口縁部：黒斑 頸部：沈線2条間に刻目文
88	弥生土器 甕	22.2		(5.2)	外面：なで 内面：なで	外面：にぶい黄橙10Y R7/3 内面：灰黄褐10Y R6/2	2㎜以下の石英を含む	頸部：沈線2条
89	弥生土器 甕	14.9		4.8	外面：なで 体部内面：なで，指頭圧痕	外面：浅黄2.5Y 8/3 内面：にぶい黄橙10Y R7/3	3㎜以下の石英・長石を含む	口縁端部：刻目文

報告番号	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴	色調	胎土	備考
90	弥生土器 蓋	21.0	(頭径) 5.8	9.0	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：褐灰10Y R4/1 内面：褐灰10Y R4/1	3㎜以下の石英・長石を含む	外面：黒斑
91	弥生土器 鉢		4.9	(4.0)	体部外面：指頭圧痕 底部外面：なで 内面：篦磨き	外面：浅黄橙10Y R8/3 内面：にぶい黄橙10Y R6/3	1～5㎜の石英・長石を含む	
92	弥生土器 底部(甑)		9.2	(5.2)	底部外面：なで，指頭圧痕 底部内面：なで	外面：灰白7.5Y R8/2 内面：灰白10Y R7/1	1～5㎜以下の石英・長石を含む	底部：穿孔1穴
93	弥生土器 底部		7.5	(5.5)	底部外面：指頭圧痕，なで 底部内面：指頭圧痕，なで	外面：明褐灰7.5Y R7/2 内面：にぶい黄橙10Y R7/3	1～5㎜以下の石英・長石を含む	体部から底面：黒斑
94	弥生土器 底部		8.0	(5.6)	底部外面：なで 底部内面：なで	外面：灰白10Y R8/1 内面：灰白10Y R8/1	1～2㎜以下の石英・長石を含む	
95	弥生土器 底部		12.6	(12.3)	体部外面：篦磨き，指頭圧痕 底部外面：なで 内面：なで	外面：灰白2.5Y8/1 内面：灰白10Y R8/2	1～5㎜以下の石英・長石を含む	
96	弥生土器 底部		8.6	(16.5)	体部外面：なで 底部外面：指頭圧痕，なで 内面：なで	外面：灰白7.5Y R8/2 内面：灰白7.5Y R8/1	1～4㎜以下の石英・長石を含む	
97	打製石器 刃器	(長さ) 10.9	(幅) 7.6	(厚さ) 1.4		外面：灰N5/		重さ：124.8g サヌカイト
98	打製石器 刃器	(長さ) 5.9	(幅) 3.8	(厚さ) 0.8		外面：灰N6/		重さ：12.2g サヌカイト
99	打製石器 刃器	(長さ) 3.0	(幅) 5.5	(厚さ) 1.0		外面：灰N6/		重さ：19.9g サヌカイト
100	磨製石器 石庖丁	(長さ) 6.1	(幅) 7.5	(厚さ) 0.7		外面：灰N6/		重さ：34.9g
101	磨製石器 石鏃	(長さ) 4.6	(幅) 11.2	(厚さ) 1.4		外面：黄灰2.5Y6/1		重さ：129.0g
102	弥生土器 底部		9.0	(3.7)	底部外面：指頭圧痕 内面：摩滅のため調整不明	外面：にぶい赤褐5Y R5/4 内面：褐灰10Y R5/1	1～3㎜の石英・長石を含む	
103	弥生土器 底部		7.7	(6.5)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：灰白10Y R7/1 内面：灰白10Y R7/1	3㎜以下の石英・長石を含む	外面：黒斑
104	弥生土器 底部		9.8	(1.7)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：赤橙10R6/6 内面：灰白：2.5Y8/1	1～4㎜の石英・長石を含む	
105	弥生土器 底部		8.8	(6.2)	底部外面：なで，指頭圧痕 底部内面：なで	外面：にぶい黄橙10Y R7/3 内面：にぶい黄橙10Y R7/3	1～2㎜の石英・長石を含む	
106	弥生土器 壺			(13.2)	頸部外面：横篦磨き 体部外面：横篦磨き 頸部内面：篦磨き 体部内面：指頭圧痕	外面：にぶい黄橙10Y R6/3 内面：にぶい橙7.5Y R7/4	5㎜以下の石英・長石を含む	頸部：沈線3条 体部：沈線3条
107	弥生土器 底部		9.4	(10.1)	体部下部外面：篦磨き 底部外面：指頭圧痕 内面：摩滅のため調整不明	外面：にぶい黄橙10Y R7/2 内面：灰白10Y R7/1	7㎜以下の石英・長石を含む	
108	弥生土器 甕	14.4		(3.0)	口縁部外面：なで 口縁部内面：なで	外面：明褐7.5Y R5/6 内面：明褐7.5Y R5/6	1㎜以下の石英・長石・雲母・角閃石を含む	
109	弥生土器 高杯	14.0		(2.6)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：橙5Y R6/6 内面：橙7.5Y R6/8	1㎜以下の石英・長石・角閃石を含む	
110	弥生土器 高杯			(2.1)	杯部外面：なで 杯部内面：なで	外面：橙5Y R6/6 内面：橙5Y R6/6	2㎜以下の石英・長石・角閃石を含む	
111	打製石器 石鏃	(長さ) 2.5	(幅) 1.5	(厚さ) 0.3		外面：褐灰10Y R5/1		重さ：0.7g
112	弥生土器 甕			(14.5)	体部外面：叩き 体部上半内面：なで，指頭圧痕 体部下半内面：篦削り	外面：にぶい黄橙10Y R7/3 内面：にぶい黄橙10Y R7/2	2㎜以下の石英・長石を多量に含む	
113	弥生土器 甕	15.4		(2.5)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：橙5Y R6/6 内面：橙7.5Y R7/6	1～2㎜の石英・長石・角閃石を含む	
114	弥生土器 広口壺	15.6		(2.3)	口縁部外面：なで 口縁部内面：なで	外面：にぶい橙7.5Y R6/4 内面：にぶい橙7.5Y R6/4	1㎜以下の長石・角閃石を含む	
115	弥生土器 壺	7.9		(3.2)	口縁部外面：なで 体部外面：刷毛目 口縁部内面：なで 体部内面：指頭圧痕	外面：橙7.5Y R6/6 内面：橙7.5Y R6/8	1㎜以下の石英・角閃石を含む	
116	弥生土器 底部		10.2	(1.8)	底部外面：なで 底部内面：なで，指頭圧痕	外面：にぶい橙7.5Y R7/4 内面：橙7.5Y R6/6	1～3㎜の石英・長石・角閃石を含む	外面：黒斑
117	弥生土器 鉢	19.4		(3.0)	外面：摩滅のため調整不明 口縁部内面：刷毛目	外面：橙2.5Y R6/8 内面：橙2.5Y R6/8	1㎜以下の石英・長石を含む	
118	弥生土器 小形鉢	10.6		4.1	体部外面：なで 口縁部内面：なで，指頭圧痕 体部内面：なで	外面：橙7.5Y R7/6 内面：橙7.5Y R6/6	1㎜以下の石英・長石・角閃石を含む	
119	弥生土器 小型丸底土器			(4.1)	体部外面：なで 体部内面：なで，指頭圧痕	外面：にぶい黄橙10Y R7/3 内面：にぶい褐7.5Y R6/3	4㎜以下の長石・角閃石を含む	
120	弥生土器 高杯	18.8		(4.7)	杯部外面：なで 杯部内面：なで	外面：橙7.5Y R6/6 内面：橙7.5Y R6/6	1㎜以下の石英・長石・雲母を含む	
121	弥生土器 小形甕			(7.1)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：にぶい橙5Y R7/4 内面：灰白7.5Y R8/2	1㎜以下の石英・長石・角閃石を含む	外面：黒斑
122	弥生土器 高杯		16.4	(1.6)	裾部外面：なで 裾部内面：なで	外面：にぶい褐7.5Y R5/4 内面：にぶい褐7.5Y R5/4	1㎜以下の長石を含む	裾部：円形透かし(貫通せず)
123	弥生土器 小形鉢	10.0		5.4	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：橙5Y R6/6 内面：にぶい褐7.5Y R6/3	4㎜以下の石英・長石・角閃石を含む	
124	弥生土器 甕	17.0		(1.7)	口縁部外面：なで 口縁部内面：なで	外面：にぶい橙5Y R7/4 内面：にぶい橙5Y R7/4	2㎜以下の石英・長石・角閃石を含む	
125	弥生土器 甕	21.6		(2.5)	口縁部外面：なで 口縁部内面：なで	外面：橙5Y R6/6 内面：にぶい橙5Y R6/4	1㎜以下の長石を含む	
126	弥生土器 甕			(9.3)	口縁部外面：なで 体部上半外面：なで 体部下半外面：刷毛目 口縁部内面：なで 体部上半内面：指頭圧痕 体部下半内面：篦削り	外面：にぶい橙5Y R6/4 内面：にぶい橙7.5Y R6/4	1㎜以下の石英・長石・角閃石を含む	
127	弥生土器 甕			(19.6)	体部外面：摩滅のため調整不明 体部上半内面：指頭圧痕 体部下半内面：篦削り	外面：にぶい橙7.5Y R7/4 内面：褐灰10Y R5/1	2㎜以下の石英・長石・角閃石を含む	
128	弥生土器 壺			(6.4)	口縁部外面：なで 口縁部内面：なで 体部内面：指頭圧痕	外面：明褐灰7.5Y R7/1 内面：灰白7.5Y R8/2	1～2㎜の石英・長石を含む	
129	弥生土器 甕			(4.6)	口縁部外面：なで 体部外面：粗い刷毛目 口縁部内面：なで 体部内面：細かい刷毛目	外面：にぶい黄橙10Y R7/4 内面：にぶい橙7.5Y R6/4	3㎜以下の長石・石英・角閃石を含む	
130	弥生土器 甕			(2.4)	口縁部外面：なで 口縁部内面：なで	外面：にぶい褐7.5Y R6/3 内面：にぶい橙7.5Y R7/3	1㎜以下の長石・角閃石を含む	

報告番号	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴	色調	胎土	備考
131	弥生土器 鉢			(5.6)	口縁部外面：なで 体部外面：なで 口縁部内面：なで 体部内面：篦磨き	外面：にぶい橙7.5Y R7/3 内面：にぶい橙7.5Y R7/4	1㎜以下の長石・角閃石を含む	外面：黒斑
132	弥生土器 底部		4.8	(2.6)	底部外面：なで 底部内面：なで	外面：灰黄褐10Y R6/2 内面：褐灰10Y R4/1	2㎜以下の石英・角閃石を含む	
133	弥生土器 底部		3.6	(2.8)	底部外面：叩き 内面：摩滅のため調整不明	外面：灰白10Y R8/2 内面：灰白10Y R8/2	3㎜以下の長石・角閃石を含む	
134	磨製石器 砥石		(幅) 3.3	(厚さ) 2.7		外面：灰N/6		
135	磨製石器 砥石		(幅) 2.8	(厚さ) 2.1		外面：灰白10Y R8/1 内面：灰白10Y R8/1		重さ：32.2g
136	弥生土器 甕			(3.2)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：橙5Y R6/6 内面：橙5Y R6/6	1㎜以下の石英・長石・雲母を含む	
137	弥生土器 底部		6.6	(2.9)	体部外面：なで，刷毛目 体部内面：摩滅のため調整不明	外面：にぶい橙7.5Y R6/4 内面：黄灰2.5Y5/1	1～5㎜以下の石英・長石・角閃石を含む	
138	弥生土器 紡錘車		(幅) 3.8	(厚さ) 0.5	外面：刷毛目	外面：橙5Y R6/8	0.4㎜以下の石英・長石・雲母を含む	重さ：4.6g
139	弥生土器 広口壺			(2.1)	口縁部外面：なで 口縁部内面：なで	外面：にぶい黄橙10Y R7/3 内面：にぶい黄橙10Y R7/3	1㎜以下の石英・長石・角閃石を含む	
140	弥生土器 甕底部		1.7	(2.2)	底部外面：叩き 底部内面：なで	外面：黒褐10Y R3/1 内面：褐灰10Y R5/1	1㎜以下の石英を含む	
141	弥生土器 製塩土器		3.6	(3.7)	体部外面：なで 体部内面：なで，指頭圧痕	外面：浅黄橙10Y R8/3 内面：褐灰10Y R4/1	1㎜以下の長石を含む	
142	弥生土器 高杯			(2.8)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：にぶい橙7.5Y R6/4 内面：橙7.5Y R6/6	3㎜以下の石英・長石・雲母・角閃石を含む	
143	弥生土器 壺			(1.8)	口縁部外面：なで 口縁部内面：なで	外面：橙7.5Y R6/6 内面：橙7.5Y R6/6	1㎜以下の角閃石を含む	口縁端部：凹線2条
144	弥生土器 甕			(5.4)	口縁部外面：なで 体部外面：刷毛目 口縁部内面：なで 体部内面：指頭圧痕	外面：橙5Y R6/6 内面：橙5Y R6/6	1㎜以下の石英・長石・角閃石を含む	
145	弥生土器 底部			(3.8)	外面：摩滅のため調整不明 内面：なで	外面：にぶい橙7.5Y R6/4 内面：にぶい橙7.5Y R6/4	2㎜以下の石英・角閃石，1㎜以下の雲母を含む	
146	弥生土器 高杯脚部		14.6	(3.6)	脚部外面：なで 脚部内面：なで	外面：明褐7.5Y R5/6 内面：明褐7.5Y R5/6	1～2㎜以下の石英・長石・角閃石を含む	裾端部：凹線2条 脚部：円孔
147	弥生土器 甕			(3.4)	口縁部外面：なで 口縁部内面：なで	外面：にぶい橙7.5Y R6/4 内面：にぶい橙7.5Y R6/4	1㎜以下の石英・長石・角閃石を含む	口縁端部：沈線状の凹線1条
148	弥生土器 鉢			(3.3)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：浅黄橙10Y R8/3 内面：にぶい黄橙10Y R7/3	1～3㎜の石英・長石を含む	体部外面：黒斑
149	磨製石器 石庖丁		(幅) 3.4	(厚さ) 0.7		外面：褐灰10Y R5/1		重さ：11.0g
150	磨製石器 石庖丁		(幅) 10.3	(厚さ) 1.3		外面：灰白10Y R7/1		重さ：108.4g
151	磨製石器 投弾		(幅) 4.5	(厚さ) 4.0		外面：褐灰10Y R6/1		
152	弥生土器 広口壺			(4.7)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：橙2.5Y R6/6 内面：橙5Y R6/6	1～3㎜以下の石英・長石・雲母を含む	口縁端部：沈線化した凹線2条
153	弥生土器 甕			(2.0)	口縁部外面：なで 口縁部内面：なで	外面：にぶい黄橙10Y R7/4 内面：にぶい黄橙10Y R7/2	4㎜以下の石英を含む	
154	弥生土器 甕			(6.0)	口縁部外面：なで 体部上半外面：刷毛目 口縁部内面：なで 体部上半内面：指頭圧痕	外面：にぶい橙7.5Y R7/4 内面：にぶい橙7.5Y R6/4	2㎜以下の石英・長石・雲母・角閃石を含む	
155	弥生土器 底部			(3.5)	外面：なで 内面：篦磨き	外面：にぶい褐7.5Y R6/3 内面：橙7.5Y R6/6	1㎜以下の石英・長石・角閃石を含む	内面：赤色顔料付着
156	弥生土器 底部		4.6	(4.4)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：橙5Y R7/6 内面：灰白5Y R8/1	1㎜以下の石英・長石を含む	
157	弥生土器 底部		2.3	(5.0)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：灰白10Y R8/1 内面：灰白10Y R8/2	2㎜以下の石英・長石を含む	底部外面：黒斑
158	弥生土器 甕		3.4	(4.9)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：灰白7.5Y R8/1 内面：灰白7.5Y R8/2	2㎜以下の長石を含む	
159	弥生土器 ミニチュア土器		3.1	(4.2)	底部外面：指頭圧痕 底部内面：板なで	外面：灰白2.5Y8/1 内面：灰白2.5Y8/1	1㎜以下の石英・長石を含む	底部から底面：黒斑
160	弥生土器 高杯		20.3	14.1	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：灰白10Y R8/2 内面：灰白10Y R8/1	3㎜以下の石英・長石を含む	底部：黒斑 脚部中位：円孔1×4箇所
161	弥生土器 高杯			(8.5)	外面：篦磨き 内面：絞り目，指頭圧痕	外面：灰白10Y R8/2 内面：橙5Y R6/6	1～2㎜の石英・長石・雲母を含む	円孔4穴
162	弥生土器 鉢			6.3	外面：板なで，指頭圧痕 内面：刷毛目	外面：灰白7.5Y8/1 内面：にぶい黄橙10Y R7/4	1㎜以下の石英・長石，3㎜以下の砂粒を含む	内外面：黒斑
163	弥生土器 細頸壺			(5.9)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：橙7.5Y R7/6 内面：にぶい橙7.5Y R7/4	2㎜以下の石英・長石を含む	
164	弥生土器 甕			(4.6)	口縁部外面：横なで 頸部外面：刷毛目 口縁部内面：横なで 頸部内面：なで	外面：にぶい褐7.5Y R6/3 内面：灰黄褐10Y R6/2	1㎜以下の石英・長石・角閃石を含む	口縁部外面：凹線3条 口縁部内外面：黒斑
165	弥生土器 甕	13.0		(3.6)	口縁部外面：なで 口縁部内面：なで	外面：淡橙5Y R8/3 内面：にぶい橙5Y R7/3	1㎜以下の石英・長石・角閃石を含む	口縁端部：竹管文
166	弥生土器 甕	15.2		(2.1)	口縁部外面：なで 頸部外面：指頭圧痕 口縁部内面：なで	外面：にぶい橙7.5Y R6/4 内面：黒褐7.5Y R3/2	1㎜以下の長石・角閃石を含む	口縁部内外面：黒斑
167	弥生土器 製塩土器		3.0	(2.5)	外面：なで 内面：なで	外面：にぶい黄橙10Y R6/3 内面：にぶい黄橙10Y R6/3	1㎜以下の長石・角閃石を含む	
168	弥生土器 製塩土器		3.6	(1.6)	外面：なで 内面：なで	外面：にぶい黄橙10Y R5/3 内面：褐灰10Y R4/1	1㎜以下の長石・角閃石を含む	
169	弥生土器 小形甕	10.5		9.4	口縁部外面：なで 底部外面：篦削り 頸部内面：指頭圧痕 体部内面：篦削り 底部内面：篦削り	外面：にぶい赤褐5Y R5/4 内面：にぶい赤褐5Y R5/4	1㎜以下の石英・長石を含む	底部外面：黒斑
170	弥生土器 甕	13.6		(3.4)	口縁部外面：なで 体部外面：刷毛目 口縁部内面：なで 体部内面：板なで	外面：橙2.5Y R6/6 内面：橙2.5Y R6/6	1㎜以下の石英・長石を含む	
171	弥生土器 甕	15.0		(2.2)	口縁部外面：なで 口縁部内面：なで	外面：橙7.5Y R6/6 内面：橙7.5Y R6/6	1㎜以下の石英・長石・角閃石・雲母を含む	
172	弥生土器 甕	14.0		(2.2)	口縁部外面：なで 口縁部内面：なで	外面：にぶい橙7.5Y R6/4 内面：にぶい橙7.5Y R6/4	1㎜以下の石英・長石・角閃石・雲母を含む	
173	弥生土器 甕	12.4		(3.6)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：にぶい橙7.5Y R6/4 内面：橙7.5Y R6/6	1㎜以下の長石・雲母・角閃石を含む	

報告番号	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴	色調	胎土	備考
174	弥生土器 甕	12.6		(4.0)	口縁部外面：なで 口縁部内面：なで	外面：にぶい橙7.5Y R6/4 内面：橙7.5Y R6/6	1㎜以下の長石・角閃石を含む	
175	弥生土器 高杯	21.8		(6.2)	口縁部外面：なで 体部外面：篦削り 口縁部内面：なで 体部内面：篦磨き	外面：橙2.5Y R6/6 内面：橙2.5Y R6/6	2㎜以下の石英・長石・角閃石を含む	
176	弥生土器 高杯	20.8		(3.5)	口縁部外面：なで 口縁部内面：なで	外面：にぶい褐7.5Y R6/3 内面：にぶい褐7.5Y R6/3	1㎜以下の長石・雲母・角閃石を含む	
177	打製石器 石鏃	(長さ) 2.0	(幅) 2.1	(厚さ) 0.7		外面：褐灰10Y R4/1 内面：褐灰10Y R4/1		重さ：3.5g
178	磨製石器 砥石	(長さ) 14.1	(幅) 3.9	(厚さ) 1.6		外面：灰白10Y R7/1		重さ：142.3g
179	弥生土器 甕	12.6		(4.1)	口縁部外面：なで 体部外面：指頭圧痕 口縁部内面：なで，指頭圧痕 体部内面：篦削り，指頭圧痕	外面：灰黄褐10Y R5/2 内面：褐灰：10Y R4/1	2㎜以下の石英・長石・角閃石・雲母を含む	
180	弥生土器 甕	12.8		(1.4)	口縁部外面：なで 口縁部内面：なで	外面：橙5Y R6/6 内面：橙5Y R6/6	1㎜以下の長石・石英を含む	
181	弥生土器 高杯	24.6		(2.2)	口縁部外面：なで 口縁部内面：なで	外面：橙5Y R6/8 内面：橙5Y R6/6	1㎜以下の長石を含む	
182	弥生土器 鉢底部		5.8	(2.9)	体部外面：篦磨き 底部外面：指頭圧痕 体部内面：篦磨き 底部内面：指頭圧痕	外面：灰白7.5Y R8/1 内面：灰白7.5Y R8/1	2㎜以下の石英・長石を含む	
183	弥生土器 高杯			(5.7)	外面：摩滅のため調整不明 脚部内面：篦削り	外面：にぶい褐7.5Y R5/4 内面：明褐7.5Y R5/6	4㎜以下の石英・長石・雲母・角閃石を含む	
184	弥生土器 底部		4.2	(4.3)	外面：篦磨き 内面：板なで	外面：淡黄2.5Y 8/3 内面：黄灰2.5Y 6/1	6㎜以下の石英，1㎜以下の雲母・角閃石を含む	
185	弥生土器 小形鉢	13.6	3.3	6.3	外面：指頭圧痕，なで 内面：指頭圧痕，なで	外面：橙2.5Y R6/6 内面：にぶい橙2.5Y R6/4	1～2㎜以下の石英・長石を含む	
186	弥生土器 甕		5.2	(5.3)	外面：篦磨き 内面：摩滅のため調整不明	外面：黒10Y R2/1 内面：にぶい黄橙10Y R6/4	1㎜以下の石英・角閃石・雲母を含む	
187	弥生土器 甕	13.4		(2.8)	口縁部外面：なで 口縁部内面：なで	外面：にぶい橙7.5Y R6/4 内面：明褐7.5Y R5/6	1㎜以下の長石を含む	
188	弥生土器 広口壺	16.6		(4.8)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：橙7.5Y R6/6 内面：橙7.5Y R6/6	1㎜以下の石英・長石・雲母を含む	
189	弥生土器 広口壺	19.8		(1.5)	口縁部外面：なで 口縁部内面：なで	外面：にぶい橙7.5Y R6/4 内面：にぶい褐7.5Y R6/3	2㎜以下の長石・角閃石・雲母を含む	
190	弥生土器 甕			(8.2)	口縁部外面：なで 体部外面：刷毛目 口縁部内面：なで 体部内面：指頭圧痕	外面：にぶい褐7.5Y R5/4 内面：にぶい褐7.5Y R5/4	1㎜以下の石英・長石・角閃石を含む	
191	弥生土器 高杯	19.2		(4.3)	口縁部外面：なで 口縁部内面：なで	外面：にぶい黄橙10Y R6/4 内面：にぶい黄橙10Y R6/4	1㎜以下の石英・長石・角閃石を含む	
192	弥生土器 小型丸底土器	10.4		(6.6)	外面：なで，刷毛目 口縁部内面：なで，粗い刷毛目 体部内面：篦削り	外面：明褐灰7.5Y R7/2 内面：灰黄褐10Y R5/2	1～2㎜以下の石英・長石を含む	
193	弥生土器 高杯	9.8		(2.6)	口縁部外面：なで 口縁部内面：なで	外面：にぶい橙7.5Y R7/4 内面：にぶい橙7.5Y R7/4	1㎜以下の石英・長石・角閃石・雲母を含む	
194	弥生土器 底部		3.5	(4.1)	外面：刷毛目 内面：摩滅のため調整不明	外面：灰白2.5Y 8/2 内面：灰白2.5Y 7/1	1～3㎜以下の石英・長石を含む	底面外面：粗い刷毛目
195	弥生土器 底部		1.8	(4.0)	体部外面：なで 体部内面：なで	外面：灰白7.5Y R8/1 内面：灰白7.5Y R8/1	0.5㎜以下の長石を含む	
196	弥生土器 底部		3.6	(2.9)	口縁部外面：なで 口縁部内面：なで	外面：灰白7.5Y 8/1 内面：灰白7.5Y 8/1	1～2㎜以下の石英・長石を含む	
197	弥生土器 底部		3.6	(1.9)	外面：なで 内面：摩滅のため調整不明	外面：にぶい黄橙10Y R7/3 内面：にぶい黄橙10Y R7/4	4㎜以下の石英・長石を含む	
198	弥生土器		3.2	(1.9)	外面：なで 底部内面：摩滅のため調整不明	外面：明褐灰5Y R7/1 内面：灰白5Y R8/1	3㎜以下の石英・長石を含む	
199	弥生土器 底部		3.9	(2.2)	外面：指頭圧痕 内面：なで	外面：浅黄橙10Y R8/3 内面：灰白10Y R8/2	2㎜以下の長石・角閃石を含む	
200	弥生土器 広口壺	17.8		(2.7)	口縁部外面：刷毛目，篦磨き 口縁部内面：なで	外面：にぶい橙7.5Y R6/4 内面：にぶい黄橙10Y R6/4	1㎜以下の長石を含む	
201	弥生土器 高杯	22.8		(5.3)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：明褐灰7.5Y R7/2 内面：にぶい橙7.5Y R6/4	3㎜以下の石英・長石を含む	
202	弥生土器 高杯		17.4	(3.4)	外面：摩滅のため調整不明 脚部内面：篦削り	外面：橙7.5Y R6/6 内面：橙7.5Y R6/6	2㎜以下の石英・長石・角閃石を含む	円孔1穴
203	弥生土器 高杯			(4.9)	脚部外面：指頭圧痕，板なで 杯部内面：指頭圧痕 杯部内面：板なで	外面：にぶい橙5Y R6/4 内面：にぶい橙5Y R6/4	1～3㎜以下の石英・長石・角閃石・雲母を含む	
204	弥生土器 底部		4.5	(5.7)	外面：摩滅のため調整不明 内面：板なで	外面：灰白10Y R8/2 内面：橙5Y R6/6	1～2㎜以下の石英・長石・雲母を含む	
205	弥生土器 底部		3.6	(4.2)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：橙5Y R7/6 内面：灰白10Y R8/2	3㎜以下の石英を含む	
206	弥生土器 小形甕	9.0		(6.0)	口縁部外面：なで 体部外面：叩き，指頭圧痕 口縁部内面：なで 体部内面：板なで，指頭圧痕	外面：黒褐10Y R3/2 内面：灰黄褐10Y R4/2	1～2㎜以下の石英・長石・雲母を含む	
207	弥生土器 台付鉢		4.4	(2.8)	脚部外面：指頭圧痕 体部上半外面：篦磨き 脚部内面：指頭圧痕	外面：にぶい黄橙10Y R7/2 内面：灰白7.5Y R8/2	3㎜以下の石英・長石を含む	
208	弥生土器 大形片口鉢	31.0		(5.6)	底部外面：篦削り 底部内面：篦磨き	外面：黒褐7.5Y R3/1 内面：にぶい褐7.5Y R6/3	4㎜以下の長石・石英・雲母・角閃石を含む	底部外面：黒斑
209	弥生土器 鉢	22.4		(7.9)	口縁部外面：指頭圧痕，なで 体部上半外面：粗い刷毛目，指頭圧痕 口縁部内面：なで 体部上半内面：指頭圧痕，刷毛目	外面：灰白2.5Y 8/2 内面：灰白2.5Y 8/2	2㎜以下の長石・石英を含む	
210	弥生土器 甕	13.2		(2.0)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：橙5Y R6/6 内面：橙5Y R6/6	2㎜以下の長石・石英を含む	
211	弥生土器 鉢	12.0		(6.8)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：橙5Y R7/6 内面：橙5Y R7/8	3㎜以下の長石・石英を含む	
212	弥生土器 甕	16.2	5.2	27.0	口縁部外面：なで 体部下半外面：篦磨き 口縁部内面：なで 体部上半内面：指頭圧痕 体部下半内面：刷毛目，篦磨き	外面：にぶい橙5Y R6/3 内面：明褐灰5Y R7/2	1～3㎜以下の石英・長石・角閃石を含む	体部・底部から底面：黒斑
213	弥生土器 高杯	19.6		(8.2)	口縁部外面：刷毛目 接合部外面：刷毛目 口縁部内面：摩滅のため調整不明 接合部内面：刷毛目	外面：淡橙5Y R8/3 内面：灰白2.5Y 8/2	1～2㎜以下の石英・長石を含む	

報告番号	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴	色調	胎土	備考
214	弥生土器 小型鉢	13.2		5.3	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：浅黄橙7.5YR8/3 内面：灰白7.5YR8/2	1㎜以下の石英・長石を含む	外面：黒斑
215	弥生土器 底部		3.2	(2.7)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：橙5YR6/6 内面：橙5YR6/6	2㎜以下の石英，1㎜以下の雲母を含む	
216	弥生土器 高杯	22.2		(3.7)	口縁部外面：なで 体部外面：篦削り 口縁部内面：なで	外面：にぶい橙7.5YR6/4 内面：橙7.5YR6/6	1㎜以下の石英・長石・角閃石・雲母を含む	
217	弥生土器 大型片口鉢			(5.2)	口縁部外面：なで 口縁部内面：なで	外面：にぶい橙7.5YR6/4 内面：にぶい橙7.5YR6/4	1㎜以下の石英・長石・角閃石・雲母を含む	
218	弥生土器 甕	16.8		(1.3)	口縁部外面：なで 口縁部内面：なで	外面：にぶい橙7.5YR6/4 内面：にぶい橙7.5YR6/4	1㎜以下の長石・雲母を含む	
219	弥生土器 甕	14.8		(2.9)	口縁部外面：なで 口縁部内面：なで	外面：にぶい橙7.5YR7/3 内面：にぶい橙7.5YR7/3	1～2㎜以下の石英・長石を含む	
220	弥生土器 高杯	16.0		(4.1)	杯部外面：摩滅のため調整不明 杯部内面：摩滅のため調整不明	外面：浅黄橙7.5YR8/3 内面：浅黄橙10YR8/3	1㎜以下の長石を含む	
221	弥生土器 高杯		15.2	(2.5)	脚部外面：なで 脚部内面：なで，刷毛目	外面：浅黄橙7.5YR8/3 内面：淡橙5YR8/4	1㎜以下の砂粒を含む	脚部：円孔
222	弥生土器 小型鉢	17.4		(4.1)	体部外面：なで 体部内面：なで	外面：にぶい橙7.5YR7/4 内面：浅黄橙10YR8/3	1～5㎜以下の石英・長石を含む	
223	弥生土器 底部		3.5	(2.6)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：灰白10YR8/1 内面：灰白10YR8/1	1～2㎜以下の石英・長石を含む	
224	弥生土器 底部		3.8	(2.6)	外面：なで，指頭圧痕 内面：なで	外面：にぶい黄橙10YR5/3 内面：にぶい褐7.5YR6/3	1～2㎜以下の石英・長石・角閃石を含む	
226	弥生土器 底部		2.9	(3.4)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：灰白10YR7/1 内面：にぶい橙5YR6/4	1㎜以下の石英・長石を含む	
227	弥生土器 底部		5.0	(1.6)	外面：なで 内面：なで	外面：黒褐7.5YR3/1 内面：にぶい橙7.5YR6/4	0.2㎜以下の石英・長石を含む	外面：煤付着
225	弥生土器 製塩土器		3.6	(1.6)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：赤7.5YR4/6 内面：にぶい褐7.5YR6/3	1～2㎜以下の石英・長石・角閃石を含む	
228	弥生土器 小型鉢	10.3	2.8	6.7	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：灰白7.5YR8/1 内面：灰白7.5YR8/2	微砂粒を含む	
229	弥生土器 広口壺			(5.9)	外面：なで 口縁部内面：なで 頸部内面：指頭圧痕 体部上半内面：指頭圧痕	外面：にぶい橙7.5YR7/4 内面：にぶい橙7.5YR7/4	2㎜以下の長石・雲母を含む	
230	弥生土器 甕	14.2		(7.2)	口縁部外面：なで 体部上半外面：摩滅のため調整不明 口縁部内面：なで 体部上半内面：指頭圧痕	外面：にぶい橙7.5YR7/4 内面：にぶい橙7.5YR7/3	3㎜以下の石英・長石を含む	
231	弥生土器 甕	13.6		(12.0)	口縁部外面：なで 体部外面：摩滅のため調整不明 口縁部内面：なで 体部内面：指頭圧痕	外面：にぶい赤褐5YR5/3 内面：にぶい橙5YR6/3	1㎜以下の石英・長石を含む	
232	弥生土器 甕	14.4		(11.6)	口縁部外面：なで 体部外面：摩滅のため調整不明 口縁部内面：なで 体部上半内面：指頭圧痕 体部下半内面：篦削り	外面：にぶい橙7.5YR7/3 内面：にぶい黄橙10YR7/3	3㎜以下の石英・長石・雲母を含む	
233	弥生土器 広口壺	15.4		(1.3)	口縁部外面：なで 口縁部内面：なで	外面：にぶい橙7.5YR7/3 内面：にぶい褐7.5YR6/3	1㎜以下の石英・長石・雲母を含む	口縁部内面：凹線2条
234	弥生土器 甕	14.0		(19.0)	口縁部外面：なで 体部外面：篦磨き 口縁部内面：なで 体部内面：指頭圧痕，篦削り	外面：灰黄2.5Y7/2 内面：にぶい黄橙10YR7/2	1～2㎜以下の石英・長石を含む	
235	弥生土器 甕	15.2		(4.0)	口縁部外面：摩滅のため調整不明 口縁部内面：なで 体部内面：指頭圧痕	外面：にぶい橙7.5YR6/4 内面：にぶい橙7.5YR6/4	1㎜以下の石英・長石・角閃石・雲母を含む	
236	弥生土器 甕	15.8		(4.1)	口縁部外面：なで 体部外面：篦磨き 口縁部内面：なで 体部内面：指頭圧痕，篦削り	外面：にぶい橙7.5YR6/4 内面：にぶい橙7.5YR6/4	1㎜以下の石英・長石・角閃石・雲母を含む	
237	弥生土器 甕	12.0		(10.5)	口縁部なで 体部外面：叩き後刷毛目 口縁部内面：なで 体部内面：刷毛目，指頭圧痕	外面：にぶい赤褐5YR5/3 内面：にぶい褐7.5YR5/3	1㎜以下の長石・角閃石を含む	
238	弥生土器 甕	16.4		(2.4)	口縁部外面：なで 体部外面：叩き 内面：摩滅のため調整不明	外面：にぶい黄橙10YR7/4 内面：にぶい黄橙10YR7/3	2㎜以下の石英・長石を含む	
239	弥生土器 甕	13.4		(7.4)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：浅黄橙10YR8/4 内面：浅黄橙10YR8/3	2㎜以下の石英・長石を含む	
240	弥生土器 高杯			(4.2)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：にぶい褐7.5YR5/4 内面：にぶい褐7.5YR5/4	1㎜以下の石英・長石・角閃石を含む	
241	弥生土器 高杯脚部		13.0	(5.4)	外面：摩滅のため調整不明 脚部内面：刷毛目	外面：にぶい橙7.5YR7/3 内面：にぶい橙5YR6/4	1㎜以下の長石・石英を含む	脚部：円孔1×4箇所
242	弥生土器 小型鉢	14.2		7.5	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：灰白10YR8/1 内面：にぶい黄橙10YR7/4	1㎜以下の長石を少量含む	外面底部：黒斑
243	弥生土器 小型鉢	11.2	3.8	5.9	外面：摩滅のため調整不明 内面：なで	外面：にぶい橙7.5YR7/4 内面：にぶい橙7.5YR7/3	2㎜以下の石英・長石を含む	
244	弥生土器 小形鉢		2.8	(6.6)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：橙7.5YR7/6 内面：橙7.5YR7/6	3㎜以下の石英1㎜以下の雲母を含む	
245	弥生土器 製塩土器			(4.0)	外面：篦削り，指頭圧痕 内面：指頭圧痕	外面：橙5YR6/6 内面：橙5YR6/6	1㎜以下の石英・長石・角閃石を含む	
246	弥生土器 小形台付鉢		3.9	(4.2)	外面：指頭圧痕 内面：なで	外面：淡橙5YR8/4 内面：橙5YR6/6	2㎜以下の石英・長石・角閃石を含む	
247	弥生土器 底部		3.8	(5.5)	外面：指頭圧痕 内面：摩滅のため調整不明	外面：灰白10YR8/1 内面：褐灰10YR4/1	2㎜以下の石英1㎜以下の角閃石を含む	
248	弥生土器 底部		4.0	(3.2)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：浅黄橙10YR8/3 内面：灰白10YR8/1	1㎜以下の長石・石英を含む	
249	弥生土器 底部		2.2	(2.6)	外面：指頭圧痕後刷毛目 内面：刷毛目後なで	外面：浅黄橙10YR8/3 内面：灰白2.5Y8/2	3㎜以下の石英・雲母を含む	
250	弥生土器 甕	14.0		(11.3)	口縁部外面：なで 体部下半外面：篦磨き 口縁部内面：なで 体部上半内面：指頭圧痕 体部下半内面：篦削り	外面：にぶい褐7.5YR5/4 内面：にぶい褐7.5YR5/4	2㎜以下の石英・長石・角閃石を含む	
251	弥生土器 甕	15.0		(11.4)	口縁部外面：なで 体部外面：篦磨き 口縁部内面：なで 体部上半内面：指頭圧痕 体部下半内面：篦削り	外面：にぶい橙7.5YR6/4 内面：にぶい橙7.5YR6/4	1㎜以下の石英・長石・角閃石・雲母を含む	
252	弥生土器 高杯			(4.6)	杯部外面：篦磨き 杯部内面：篦磨き	外面：にぶい橙7.5YR6/4 内面：にぶい橙7.5YR6/4	3㎜以下の石英・長石・雲母を含む	

報告番号	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴	色調	胎土	備考
253	弥生土器 小形鉢		4.5	(4.5)	底部外面：摩滅のため調整不明 底部内面：指頭圧痕，なで	外面：黄灰2.5Y4/1 内面：灰白2.5Y8/1	0.5㎜以下の長石等を含む	
254	弥生土器 底部		3.7	(3.5)	外面：なで，刷毛目 内面：摩滅のため調整不明	外面：黒褐7.5YR3/1 内面：にぶい褐7.5YR5/4	1～3㎜の石英・長石を含む	底部：黒斑
255	弥生土器 底部		3.2	(3.8)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：灰白2.5Y8/2 内面：橙5YR7/6	5㎜以下の石英・長石を含む	
256	弥生土器 底部		3.4	(3.1)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：灰白10YR8/2 内面：灰白10YR8/1	1㎜以下の長石を含む	
257	弥生土器 底部		5.0	(2.6)	底部外面：叩き 内面：摩滅のため調整不明	外面：褐灰10YR4/1 内面：灰白10YR8/1	2㎜以下の石英・角閃石を含む	
258	弥生土器 底部		2.6	(2.2)	外面：叩き 内面：摩滅のため調整不明	外面：灰黄褐10YR6/2 内面：灰黄褐10YR6/2	1㎜以下の石英・長石・角閃石を含む	
259	弥生土器 底部		2.9	(2.0)	底部外面：板なで 底部内面：刷毛目	外面：黄灰k2.5Y5/1 内面：灰白2.5Y8/1	2㎜以下の石英・長石・角閃石を含む	底部：黒斑
260	弥生土器 壺	14.8		(7.5)	口縁部外面：なで 口縁部内面：なで 体部内面：篦削り	外面：橙5YR6/6 内面：橙5YR6/6	1㎜以下の石英・長石・角閃石を含む	口縁端部：凹線2条
261	弥生土器 広口壺	22.0		(1.5)	口縁部外面：なで 口縁部外面：なで	外面：にぶい橙5YR7/4 内面：にぶい橙7.5YR7/3	3㎜以下の長石・角閃石等を含む	
262	弥生土器 甕	13.4		(2.5)	口縁部外面：なで 口縁部内面：なで，指頭圧痕	外面：にぶい黄橙10YR7/4 内面：にぶい黄橙10YR7/3	1㎜以下の長石・角閃石を含む	
263	弥生土器 底部			(3.1)	外面：なで 内面：なで	外面：黒2.5Y2/1 内面：橙2.5YR6/6	1㎜以下の石英・長石を含む	
264	弥生土器 高杯	23.6		(6.0)	口縁部外面：なで 体部外面：摩滅のため調整不明 口縁部内面：なで 体部内面：篦磨き	外面：にぶい橙7.5YR7/3 内面：橙7.5YR6/6	1㎜以下の石英・長石・雲母を含む	
265	弥生土器 大形片口鉢	40.4		(9.0)	口縁部外面：横なで 体部外面：篦削り 口縁部内面：横なで 体部内面：摩滅のため調整不明	外面：にぶい橙7.5YR7/4 内面：にぶい黄橙10YR6/4	1㎜以下の石英・長石・角閃石を含む	口縁部内外面：黒斑
266	弥生土器 壺	16.0		(1.2)	口縁部外面：なで 口縁部内面：なで	外面：にぶい橙7.5YR6/4 内面：にぶい橙7.5YR6/4	1㎜以下の石英・長石・角閃石・雲母を含む	口縁端部：凹線3条
267	弥生土器 壺頸部			(5.4)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：にぶい赤褐5YR5/3 内面：にぶい赤褐5YR5/3	1㎜以下の石英・長石・角閃石を含む	頸部：沈線4条，板圧痕
268	弥生土器 甕	13.0		(1.7)	口縁部外面：なで 口縁部内面：なで	外面：にぶい橙7.5YR7/4 内面：にぶい橙7.5YR7/4	1㎜以下の石英・長石・雲母を含む	
269	弥生土器 甕	9.8		(6.5)	口縁部外面：なで 体部外面：刷毛目 口縁部内面：なで 体部内面：刷毛目	外面：にぶい橙5YR7/4 内面：にぶい橙5YR7/4	1㎜以下の石英・長石を含む	
270	弥生土器 甕	9.4		(4.8)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：浅黄橙10YR8/4 内面：灰白7.5YR8/1	4㎜以下の石英・長石を含む	
271	弥生土器 高杯脚部		19.0	(7.2)	脚部外面：なで 脚部内面：なで，指頭圧痕，篦削り	外面：明褐7.5YR5/8 内面：橙7.5YR6/6	1～5㎜以下の石英・長石・角閃石を含む	脚部：円孔
272	弥生土器 大形片口鉢	29.0		(5.7)	口縁部外面：横なで 口縁部内面：横なで	外面：にぶい橙7.5YR6/4 内面：にぶい黄橙10YR7/3	2㎜以下の石英，1㎜以下の雲母・角閃石を含む	
273	弥生土器 大形片口鉢	31.2		(7.4)	口縁部外面：なで 口縁部内面：なで 体部内面：篦削り	外面：にぶい褐7.5YR6/3 内面：にぶい褐7.5YR6/3	1～2㎜以下の石英・長石・角閃石・雲母を含む	
274	弥生土器		5.8	(5.3)	外面：摩滅のため調整不明 底部底部内面：指頭圧痕	外面：浅黄橙10YR8/3 内面：灰白2.5Y8/2	2㎜以下の長石を含む	
275	弥生土器 製塩土器		3.0	(3.3)	外面：なで 内面：なで，指頭圧痕	外面：にぶい褐7.5YR6/3 内面：にぶい橙7.5YR6/4	1～3㎜以下の石英・長石・角閃石を含む	
276	弥生土器 製塩土器		2.8	(3.0)	体部外面：なで 体部内面：指頭圧痕	外面：灰白2.5Y8/2 内面：灰白2.5Y8/2	3㎜以下の石英・長石を含む	
277	弥生土器 甕	15.0		(2.8)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：にぶい橙5YR7/4 内面：橙5YR6/6	1～2㎜以下の石英・長石・雲母を含む	
278	弥生土器 小型鉢	10.8	2.5	6.6	外面：なで 内面：なで	外面：浅黄橙7.5YR8/4 内面：灰白10YR8/2	微砂粒を含む	
279	弥生土器 小型鉢	12.2	2.8	6.1	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：灰白10YR8/2 内面：灰白10YR8/2	2㎜以下の石英・長石を含む	
280	弥生土器 甕	14.6		(3.6)	口縁部外面：なで 体部外面：刷毛目 口縁部内面：なで 体部内面：指頭圧痕	外面：にぶい橙7.5YR6/4 内面：にぶい橙7.5YR7/4	3㎜以下の石英・長石・雲母を含む	
281	弥生土器 ミニチュア土器	2.4	2.5	2.5	外面：なで，凹 内面：なで，指頭圧痕	外面：浅黄橙10YR8/3 内面：黄橙10YR8/6	2㎜以下の石英・長石等を含む	
282	弥生土器 長頸壺	16.4		(8.0)	口縁部外面：なで 頸部外面：刷毛目 口縁部内面：なで 頸部内面：指頭圧痕	外面：橙5YR6/6 内面：褐灰7.5YR5/1	1～2㎜以下の石英・長石・角閃石・雲母を含む	頸部：沈線3条
283	弥生土器 広口壺	16.4		(1.2)	口縁部外面：なで 口縁部内面：なで	外面：にぶい褐7.5YR6/3 内面：にぶい褐7.5YR6/4	1㎜以下の石英・長石・角閃石・雲母を含む	口縁端部：竹管文
284	弥生土器 高杯	19.6		(2.5)	口縁部外面：なで 口縁部内面：なで	外面：明赤褐5YR5/6 内面：明赤褐5YR5/6	1㎜以下の石英・長石・角閃石・雲母を含む	
285	弥生土器 甕	13.8		(4.0)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：橙7.5YR7/6 内面：にぶい橙7.5YR7/4	1㎜以下の長石・角閃石を含む	
286	弥生土器 甕	14.0		(5.7)	口縁部外面：なで 体部外面：摩滅のため調整不明 口縁部内面：なで 体部内面：指頭圧痕	外面：橙7.5YR6/6 内面：橙7.5YR6/6	1㎜以下の石英・長石・雲母を含む	
287	弥生土器 高杯	20.8		(4.5)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：橙7.5YR6/6 内面：橙5YR6/6	1㎜以下の石英・長石・角閃石・雲母を含む	
288	弥生土器 高杯	19.0		(3.8)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：にぶい橙2.5YR6/4 内面：にぶい橙2.5YR6/4	2㎜以下の石英・長石を含む	
289	弥生土器 高杯			(5.6)	杯部外面：篦磨き 脚部外面：なで 杯部内面：摩滅のため調整不明 脚部内面：篦削り	外面：橙7.5YR6/6 内面：橙5YR6/6	1～3㎜以下の石英・長石・雲母を含む	
290	弥生土器 高杯			(6.2)	外面：摩滅のため調整不明 杯部内面：篦磨き 脚部内面：篦削り	外面：にぶい橙7.5YR6/4 内面：橙5YR6/6	5㎜以下の石英・長石・角閃石・雲母を含む	
291	弥生土器 高杯			(6.5)	杯部外面：篦磨き 脚部外面：刷毛目 杯部内面：篦磨き 脚部内面：篦削り	外面：橙5YR6/6 内面：にぶい橙5YR6/4	3㎜以下の石英・長石・雲母を含む	
292	弥生土器 高杯			(4.0)	外面：摩滅のため調整不明 杯部内面：篦磨き	外面：にぶい橙7.5YR6/4 内面：にぶい橙7.5YR6/4	1㎜以下の長石・角閃石を含む	

報告番号	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴	色調	胎土	備考
293	弥生土器 高杯		17.6	(10.5)	外面：摩滅のため調整不明 脚部内面：篦削り	外面：橙7.5YR6/6 内面：橙7.5YR6/6	5㎜以下の石英・長石・角閃石・雲母を含む	脚部：円孔1穴
294	弥生土器 鉢		3.2	(5.6)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：灰白10YR7/1 内面：灰白10YR8/1	1～2㎜以下の石英・長石を含む	
295	弥生土器 底部			(7.0)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：灰白10YR8/2 内面：淡橙5YR8/4	1㎜以下の長石を含む	
296	弥生土器 底部		4.8	(4.3)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：にぶい橙7.5YR6/4 内面：にぶい橙7.5YR6/4	1㎜以下の長石を含む	
297	弥生土器 底部		3.6	(2.6)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：灰白10YR8/1 内面：黄橙10YR8/6	1㎜以下の石英・長石を含む	
298	弥生土器 壺			(19.5)	体部外面：刷毛目 体部内面：指頭圧痕	外面：にぶい黄橙10YR5/4 内面：灰黄褐10YR5/2	6㎜以下の石英・長石・角閃石・雲母を含む	底部：黒斑
299	弥生土器 底部		7.6	(6.1)	外面：摩滅のため調整不明 内面：篦削り	外面：橙7.5YR6/8 内面：橙7.5YR6/6	1㎜以下の長石・石英を含む	外面：黒斑
300	弥生土器 広口壺	15.5		(4.5)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：橙5YR6/6 内面：明赤褐2.5YR5/6	1～3㎜以下の長石・石英を含む	口縁端部：凹線1条
301	弥生土器 鉢		4.5	(2.3)	体部外面：篦削り 底部外面：指頭圧痕 体部内面：なで 底部内面：なで	外面：灰黄褐10YR6/2 内面：にぶい黄橙10YR6/3	1～3㎜以下の長石・石英を含む	
302	弥生土器 長頸壺			(11.3)	頸部外面：刷毛目 頸部内面：指頭圧痕	外面：橙5YR6/6 内面：にぶい橙5YR6/4	2㎜以下の石英・長石・角閃石を含む	
303	弥生土器 高杯	19.6		(3.5)	口縁部外面：なで 杯部外面：篦削り 口縁部内面：なで 杯部内面：摩滅のため調整不明	外面：橙5YR6/6 内面：橙5YR6/6	1㎜以下の長石・石英を含む	
304	弥生土器 高杯			(7.5)	杯部外面：篦磨き 脚部外面：なで 杯部内面：篦磨き 脚部内面：篦削り	外面：にぶい橙5YR6/4 内面：灰褐5YR6/3	1～5㎜以下の石英・長石・角閃石を含む	
305	弥生土器 高杯			(6.4)	外面：摩滅のため調整不明 脚部内面：絞り目	外面：浅黄橙7.5YR8/3 内面：灰白10YR8/1	1～5㎜以下の石英・長石を含む	
306	弥生土器 円形付文				外面：摩滅のため調整不明	外面：にぶい黄橙10YR7/3 内面：にぶい黄橙10YR7/3	1㎜以下の長石を含む	
307	弥生土器 長頸壺	16.0		(12.2)	口縁部外面：なで 頸部外面：刷毛目 口縁部内面：なで 頸部内面：指頭圧痕	外面：にぶい橙7.5YR6/4 内面：にぶい橙7.5YR6/4	3㎜以下の長石・石英・角閃石・雲母を含む	頸部：沈線2条
308	弥生土器 長頸壺	17.2		(0.9)	外面：なで 内面：なで	外面：にぶい橙7.5YR6/4 内面：にぶい橙7.5YR6/4	1㎜以下の石英・長石・雲母を含む	
309	弥生土器 長頸壺			(24.1)	体部外面：摩滅のため調整不明 頸部内面：指頭圧痕 体部内面：指頭圧痕	外面：にぶい褐7.5YR6/3 内面：褐7.5YR5/4	1～3㎜以下の石英・長石・雲母を含む	頸部：凹線6条
310	弥生土器 長頸壺			(9.8)	頸部外面：刷毛目 頸部内面：指頭圧痕	頸部外面：橙7.5YR6/6 頸部内面：橙7.5YR6/6	1㎜以下の石英・長石・雲母を含む	
311	弥生土器 甕	6.0		(4.3)	口縁部外面：なで 体部上半外面：なで 体部下半外面：篦磨き 口縁部内面：なで 体部内面：篦削り後指頭圧痕	外面：にぶい黄褐10YR5/3 内面：灰黄褐10YR6/2	2㎜以下の長石・石英・角閃石を含む	
312	弥生土器 甕	13.8		(8.0)	口縁部外面：なで 体部外面：刷毛目 口縁部内面：なで 体部内面：指頭圧痕	外面：にぶい橙7.5YR7/3 内面：にぶい橙7.5YR6/3	1㎜以下の石英・長石・角閃石を含む	
313	弥生土器 甕	16.6		(3.5)	口縁部外面：なで 口縁部内面：なで 体部上半内面：指頭圧痕	外面：橙5YR7/6 内面：にぶい橙7.5YR7/3	1㎜以下の石英・長石を含む	
314	弥生土器 甕		3.2	(7.2)	頸部外面：指頭圧痕 体部外面：なで 底部外面：指頭圧痕 体部上半内面：指頭圧痕，なで 体部下半内面：なで	外面：にぶい黄橙10YR6/4 内面：にぶい黄橙10YR6/3	1㎜以下の長石・角閃石を含む	
315	弥生土器 甕		2.6	(10.5)	外面：摩滅のため調整不明 内面：接合痕，摩滅のため調整不明	外面：灰白10YR8/2 内面：灰白2.5Y8/2	1～5㎜以下の石英・長石を含む	底部から底面：黒斑
316	弥生土器 高杯	24.4		(10.1)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：にぶい橙7.5YR6/4 内面：にぶい橙7.5YR6/4	1～3㎜以下の石英・長石・角閃石を含む	
317	弥生土器 高杯			(5.5)	脚部外面：刷毛目 脚部内面：摩滅のため調整不明	外面：にぶい褐7.5YR5/4 内面：灰黄2.5YR7/2	1～3㎜以下の長石・石英・角閃石・雲母を含む	円孔1穴
318	弥生土器 台付鉢		5.2	(3.2)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：にぶい橙7.5YR7/4 内面：にぶい橙7.5YR7/4	2㎜以下の石英・長石を含む	
319	弥生土器 小型台付鉢		3.6	(2.7)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：浅黄橙10YR8/4 内面：浅黄橙7.5YR8/3	1㎜以下の長石を含む	
320	弥生土器 底部		4.4	(4.7)	外面：摩滅のため調整不明 底部内面：指頭圧痕	外面：灰白10YR8/1 内面：灰白10YR8/1	3㎜以下の長石・石英等を含む	
321	弥生土器 底部		4.6	(1.7)	外面：篦磨き 内面：板なで	外面：黒褐10YR3/1 内面：黒褐10YR4/1	2㎜以下の長石・石英を含む	
322	弥生土器 鉢		8.2	(1.7)	外面：指頭圧痕 内面：摩滅のため調整不明	外面：灰黄2.5Y7/2 内面：灰白7.5YR8/2	1～2㎜以下の石英・長石を含む	底部から底面：黒斑
323	弥生土器 高杯	21.6		(5.7)	口縁部外面：なで 杯部外面：摩滅のため調整不明 口縁部内面：なで 杯部内面：篦磨き	外面：橙7.5YR6/6 内面：橙7.5YR6/6	1～3㎜以下の長石・石英・角閃石を含む	
324	弥生土器 長頸壺			(14.8)	頸部外面：摩滅のため調整不明 頸部内面：板なで，指頭圧痕	外面：明褐杯7.5YR7/2 内面：明褐杯7.5YR7/2	1～2㎜の長石・石英・角閃石を含む	頸部外面：凹線4条 頸部内面：煤付着
325	弥生土器 細頸壺			(11.9)	体部外面：刷毛目後篦磨き 体部内面：指頭圧痕後篦削り	外面：にぶい褐7.5YR5/4 内面：にぶい黄橙10YR6/4	1～3㎜以下の長石・石英・雲母を含む	
326	弥生土器 高杯	21.9		(4.2)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：橙5YR6/6 内面：にぶい橙5YR6/4	4㎜以下の長石・石英・雲母・角閃石を含む	
327	弥生土器 広口壺	15.2		(3.4)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：にぶい橙7.5YR6/4 内面：にぶい橙7.5YR6/4	1㎜以下の石英・長石・角閃石を含む	
328	弥生土器 広口壺			(5.9)	外面：摩滅のため調整不明 内面：なで，指頭圧痕	外面：にぶい橙7.5YR6/4 内面：にぶい橙7.5YR6/4	1㎜以下の石英・長石・角閃石を含む	
329	弥生土器 甕	14.2		(11.5)	外面：摩滅のため調整不明 口縁部内面：なで 体部上半内面：なで，指頭圧痕 体部下半内面：篦削り	外面：にぶい黄橙10YR6/4 内面：にぶい黄橙10YR6/4	2㎜以下の石英・長石・角閃石を含む	
330	弥生土器 高杯	21.0		(4.6)	杯部外面：なで 杯部内面：なで	外面：にぶい橙7.5YR6/4 内面：橙7.5YR6/6	2㎜以下の石英・長石・角閃石・雲母を含む	
331	弥生土器 高杯			(5.2)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：明赤褐5YR5/6 内面：明赤褐5YR5/6	1～5㎜以下の石英・長石を含む	
332	弥生土器 高杯			(4.8)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：橙7.5YR6/6 内面：にぶい橙7.5YR7/4	1～3㎜以下の石英・長石を含む	

報告番号	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴	色調	胎土	備考
333	弥生土器 高杯			(3.2)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：橙7.5YR6/6 内面：にぶい橙7.5YR7/3	1～3㎜以下の石英・長石を含む	
334	弥生土器 高杯			(3.0)	外面：なで 内面：なで	外面：にぶい橙5YR7/4 内面：灰黄褐10YR6/2	1㎜以下の石英・長石・角閃石を含む	
335	弥生土器 鉢		4.0	(5.7)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：にぶい黄橙10YR7/4 内面：にぶい黄橙10YR7/4	3㎜以下の石英，1㎜以下の雲母・角閃石を含む	
336	弥生土器 底部		4.2	(2.1)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：にぶい橙7.5YR6/4 内面：にぶい橙7.5YR6/3	1㎜以下の長石・角閃石を含む	底部中央：穿孔
337	弥生土器 底部		3.0	(2.7)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：浅黄橙7.5YR8/4 内面：浅黄橙7.5YR8/3	1㎜以下の長石を含む	
338	弥生土器 鉢		2.8	6.6	体部外面：なで 体部内面：板なで，指頭圧痕	外面：にぶい黄2.5Y6/3 内面：灰黄2.5Y6/2	1㎜以下の長石を含む	外面：黒斑
339	弥生土器 高杯			(4.7)	外面：摩滅のため調整不明 杯部内面：篦磨き 脚柱部内面：篦削り	外面：にぶい橙5YR6/4 内面：橙2.5YR6/6	1～3㎜以下の石英・長石・角閃石・雲母を含む	
340	弥生土器 高杯			(6.8)	杯部外面：篦削り 脚部外面：なで 杯部内面：篦磨き 脚部内面：篦削り	外面：橙7.5YR6/6 内面：にぶい褐7.5YR6/3	1～3㎜以下の長石・石英・角閃石を含む	
341	弥生土器 甕	13.2		(7.9)	外面：摩滅のため調整不明 体部内面：指頭圧痕	外面：橙5YR6/6 内面：にぶい橙7.5YR6/4	1～2㎜以下の石英・長石を含む	
342	弥生土器 甕	17.4		(4.2)	口縁部外面：なで 頸部内面：指頭圧痕	外面：にぶい橙7.5YR7/4 内面：にぶい橙7.5YR6/4	1～2㎜以下の石英・長石・角閃石を含む	
343	弥生土器 甕		5.4	(6.9)	体部外面：篦磨き 底部外面：篦磨き，指頭圧痕 体部内面：篦削り	外面：にぶい褐7.5YR5/4 内面：にぶい褐7.5YR5/4	1㎜以下の石英・長石・角閃石・雲母を含む	
344	弥生土器 高杯	14.8		(6.0)	口縁部外面：なで 杯部外面：篦削り後篦磨き 口縁部内面：なで 杯部内面：摩滅のため調整不明	外面：にぶい褐7.5YR6/3 内面：にぶい褐7.5YR6/3	2㎜以下の石英・長石・角閃石を含む	
345	弥生土器 高杯			(9.2)	杯部外面：篦磨き 杯部内面：篦磨き 脚部内面：篦削り	外面：橙5YR6/6 内面：にぶい橙7.5YR6/4	1～3㎜以下の石英・長石・角閃石・雲母を含む	
346	弥生土器 高杯			(3.3)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：にぶい橙7.5YR6/4 内面：にぶい橙7.5YR6/4	2㎜以下の石英・長石・角閃石を含む	
347	弥生土器 高杯		12.6	(8.3)	杯部外面：なで 脚部外面：なで 杯部内面：なで，絞り目 脚部内面：なで	外面：にぶい黄橙10YR7/3 内面：にぶい黄橙10YR7/3	1㎜以下の長石を含む	脚部：円孔1×4箇所
348	弥生土器 鉢	7.0		(4.5)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：灰白10YR7/1 内面：灰白10YR7/1	1㎜以下の長石を含む	体部外面：かご目付着？
349	弥生土器 広口壺	21.6		(3.8)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：橙7.5YR6/6 内面：橙7.5YR6/6	1㎜以下の石英・長石を含む	口縁端部：竹管文
350	弥生土器 高杯	25.6		(3.2)	口縁部外面：なで 口縁部内面：なで	外面：橙5YR7/6 内面：橙5YR7/6	1.5㎜以下の石英・長石を含む	
351	弥生土器 甕	14.2		(2.0)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：にぶい褐7.5YR6/3 内面：にぶい黄橙10YR7/4	2㎜以下の石英・長石・角閃石を含む	
352	弥生土器 甕	12.2		(2.9)	口縁部外面：なで 口縁部内面：なで	外面：淡黄2.5Y8/3 内面：淡黄2.5Y8/3	2㎜以下の石英・長石を含む	
353	弥生土器 底部		4.5	(2.0)	外面：指頭圧痕 内面：なで	外面：灰白7.5YR8/2 内面：灰白7.5YR8/1	1㎜以下の石英・長石を含む	底部外面：黒斑
354	弥生土器 甕	11.2		(8.6)	口縁部外面：指頭圧痕 体部外面：刷毛目 体部内面：篦削り後指頭圧痕	外面：灰黄褐10YR4/2 内面：にぶい黄2.5Y6/3	3㎜以下の石英・長石を含む	
355	弥生土器 甕			(5.2)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：にぶい黄橙10YR7/4 内面：灰白2.5Y7/1	1㎜以下の長石を含む	
356	弥生土器 広口壺	24.0		(2.8)	口縁部外面：なで 口縁部内面：なで	外面：橙7.5YR6/6 内面：橙5YR6/6	3㎜以下の石英・長石・角閃石・雲母を含む	
357	弥生土器 底部		4.4	(2.8)	体部外面：篦磨き 底部外面：篦磨き 内面：摩滅のため調整不明	外面：にぶい褐7.5YR5/3 内面：にぶい黄橙10YR6/3	1～3㎜以下の石英・長石を含む	体部・底部外面：黒斑
358	弥生土器 底部		3.2	(1.9)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：にぶい黄橙10YR7/4 内面：にぶい黄橙10YR7／3	1～3㎜以下の石英・長石を含む	底部外面：黒斑
359	弥生土器 甕	14.0		(4.9)	口縁部外面：なで 体部外面：刷毛目 口縁部内面：なで 体部内面：指頭圧痕	外面：にぶい橙7.5YR6/4 内面：にぶい褐7.5YR6/3	1㎜以下の石英・長石・角閃石・雲母を含む	
360	弥生土器 甕		4.8	(2.6)	外面：なで 内面：なで	外面：淡黄2.5Y8/3 内面：黄灰2.5Y5/1	1㎜以下の長石を含む	底部：円孔
361	弥生土器 甕		5.0	(3.0)	外面：叩き 内面：なで	外面：橙5YR7/6 内面：灰白7.5YR8/2	1㎜以下の長石を含む	
362	弥生土器 高杯		17.0	(4.5)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：灰白10YR8/2 内面：にぶい褐7.5YR6/3	4㎜以下の長石・石英を含む	脚部：円孔1穴
363	弥生土器 甕	13.8		(3.4)	口縁部外面：なで 体部外面：刷毛目 口縁部内面：なで 体部内面：指頭圧痕	外面：にぶい黄橙10YR7/2 内面：灰白10YR8/1	2㎜以下の長石・石英・角閃石を含む	
364	弥生土器 甕	15.2		(4.6)	口縁部外面：なで 体部外面：摩滅のため調整不明 口縁部内面：なで 体部内面：指頭圧痕	外面：明褐7.5YR5/6 内面：橙7.5YR6/6	1～2㎜以下の長石・石英を含む	
365	弥生土器 甕	16.4		(9.2)	口縁部外面：なで 体部外面：刷毛目 口縁部内面：なで 体部内面：指頭圧痕	外面：にぶい褐7.5YR5/4 内面：にぶい褐7.5YR6/3	1～2㎜の長石・石英・角閃石を含む	
366	弥生土器 底部		6.2	(4.4)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：灰白10YR8/1 内面：灰白10YR8/1	3㎜以下の長石等を含む	
367	弥生土器 鉢	18.9		(7.1)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：灰白10YR8/1 内面：灰白7.5YR8/2	1～2㎜の長石・石英を含む	外面：黒斑
368	弥生土器 底部		3.4	(7.0)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：灰白2.5Y8/2 内面：灰白2.5Y8/2	2㎜以下の長石・石英を含む	底部外面：黒斑
369	弥生土器 甕	17.0		(4.3)	口縁部外面：なで 体部外面：摩滅のため調整不明 口縁部内面：なで 体部内面：指頭圧痕	外面：明褐7.5YR5/8 内面：橙7.5YR6/8	1㎜以下の長石・石英を含む	口縁端部：凹線3条
370	弥生土器 底部		5.6	(2.1)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：明褐灰5YR6/1 内面：にぶい橙5YR7/3	1㎜以下の長石・角閃石を含む	
371	弥生土器 底部		2.8	(5.1)	底部外面：粗い刷毛目 底部内面：摩滅のため調整不明	外面：浅黄橙10YR8/3 内面：にぶい黄橙10YR7/3	1～5㎜以下の石英・長石・雲母を含む	底部外面：黒斑
372	弥生土器 底部		3.3	(4.9)	外面：摩滅のため調整不明 内面：なで	外面：灰白10YR8/2 内面：灰白2.5Y8/2	1㎜以下の石英・長石を含む	底面外面：黒斑

報告番号	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴	色調	胎土	備考
373	弥生土器 底部		3.6	(2.9)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：浅黄橙7.5Y R8/3 内面：灰白10Y R8/2	1㎜以下の石英を含む	
374	弥生土器 底部			(2.3)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：灰白10Y R8/2 内面：褐灰10Y R5/1	1㎜以下の石英・長石を含む	
375	弥生土器 高杯			(3.2)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：にぶい褐7.5Y R5/3 内面：にぶい褐7.5Y R5/3	1㎜以下の長石・角閃石を含む	
376	磨製石器 用途不明石器	(長さ) 13.4	(幅) 3.8	(厚さ) 3.5		外面：灰白10Y R7/1		重さ：318.5g
377	弥生土器 甕	16.6		(5.0)	口縁部外面：なで 体部上半外面：刷毛目 口縁部内面：なで 体部上半内面：篦削り	外面：にぶい黄橙10Y R6/4 内面：にぶい黄橙10Y R4/3	1㎜以下の長石・雲母・角閃石を含む	
378	弥生土器 甕	12.8		(10.3)	口縁部外面：なで 体部外面：刷毛目 口縁部内面：なで 体部内面：指頭圧痕	外面：いぶい橙7.5Y R7/4 内面：灰黄褐10Y R5/2	4㎜以下の石英・長石を含む	
379	弥生土器 長頸壺頸部	9.6		(12.7)	口縁部外面：なで 頸部外面：なで 口縁部内面：なで 頸部内面：指頭圧痕，絞り痕	外面：にぶい橙5Y R6/4 内面：橙5Y R6/6	1㎜以下の長石・石英を含む	
380	弥生土器 広口壺	25.2		(2.2)	口縁部外面：なで 口縁部内面：なで	外面：橙7.5Y R6/6 内面：にぶい橙7.5Y R6/4	2㎜以下の長石・角閃石を含む	口縁端部：凹線4条 内面：煤付着
381	弥生土器 甕	15.0		(3.0)	口縁部外面：なで 体部上半外面：刷毛目 口縁部内面：なで 体部上半内面：指頭圧痕	外面：橙7.5Y R6/6 内面：橙7.5Y R6/6	1㎜以下の長石・角閃石を含む	
382	弥生土器 高杯			(6.2)	杯部外面：篦磨き 脚部外面：なで 杯部内面：篦磨き 脚部内面：篦削り	外面：にぶい橙7.5Y R7/3 内面：橙5Y R6/6	1～2㎜以下の石英・長石・角閃石・雲母を含む	
383	弥生土器 高杯		19.2	(9.0)	外面：篦磨き 内面：篦削り	外面：橙5Y R6/6 内面：橙5Y R6/6	1～5㎜以下の長石・石英を含む	脚部上段：円孔1×3箇所 脚部下段：円孔2×3箇所
384	弥生土器 底部		2.4	(4.9)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：浅黄橙10Y R8/3 内面：橙5Y R6/1	2㎜以下の石英を含む	
385	弥生土器 底部		4.0	2.2	外面：指頭圧痕 内面：摩滅のため調整不明	外面：橙5Y R7/6 内面：灰白5Y R8/1	1㎜以下の長石・石英を含む	
386	弥生土器 甕	11.8		(3.1)	外面：なで 内面：なで	外面：橙7.5Y R6/6 内面：にぶい橙7.5Y R6/4	2㎜以下の石英・長石・角閃石・雲母を含む	
387	弥生土器 底部		3.3	(3.1)	外面：指頭圧痕 内面：摩滅のため調整不明	外面：灰白2.5Y8/1 内面：灰白2.5Y8/1	3㎜以下の石英・長石・雲母を含む	
388	弥生土器 製塩土器		3.6	(2.2)	脚部外面：指頭圧痕 内面：摩滅のため調整不明	外面：にぶい赤橙10R6/4 内面：赤灰2.5Y R5/1	2㎜以下の石英・長石を含む	
389	弥生土器 長頸壺	11.7		(8.0)	口縁部外面：なで 頸部外面：篦磨き 口縁部内面：なで 頸部内面：指頭圧痕，接合痕	外面：にぶい橙7.5Y R6/4 内面：にぶい橙7.5Y R6/4	2㎜以下の石英・長石・角閃石・雲母を含む	内面：粘土接合痕
390	弥生土器 甕	6.3		(5.9)	口縁部外面：なで 体部外面：摩滅のため調整不明 口縁部内面：なで 体部内面：指頭圧痕	外面：橙5Y R6/6 内面：橙5Y R6/6	2㎜以下の石英・長石を含む	
391	弥生土器 高杯		16.8	(4.8)	脚部外面：摩滅のため調整不明 脚部内面：篦削り	外面：橙7.5Y R6/6 内面：橙7.5Y R6/8	3㎜以下の石英・長石・角閃石・雲母を含む	
392	弥生土器 鉢		3.0	(5.1)	外面：摩滅のため調整不明 内面：なで	外面：にぶい黄橙10Y R7/3 内面：橙5Y R6/6	1～3㎜の石英・長石・雲母を含む	
393	弥生土器 底部			(4.5)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：灰白10Y R8/1 内面：灰白10Y R7/1	1㎜以下の石英・長石を含む	
394	弥生土器 底部		1.0	(4.1)	外面：摩滅のため調整不明 内面：なで	外面：灰白10Y R8/2 内面：灰白10Y R8/2	1.5㎜以下の石英・長石を含む	
395	弥生土器 甕	11.0		(5.3)	外面：摩滅のため調整不明 口縁部内面：なで 体部内面：指頭圧痕	外面：橙7.5Y R6/6 内面：黄灰2.5Y5/1	5㎜以下の長石・角閃石を含む	
396	弥生土器 広口壺	15.4		(2.2)	口縁部外面：なで 口縁部内面：なで	外面：浅黄橙10Y R8/3 内面：にぶい黄橙10Y R7/2	1㎜以下の石英・長石を含む	
397	弥生土器 底部		6.0	(2.2)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：明赤褐5Y R5/6 内面：明褐灰7.5Y R7/2	1～3㎜以下の石英・長石・角閃石を含む	
398	弥生土器 壺	19.4		(1.9)	口縁部外面：なで 口縁部内面：なで	外面：にぶい橙7.5Y R6/4 内面：にぶい橙7.5Y R6/4	2㎜以下の石英・長石を含む	
399	弥生土器 底部		5.2	(1.8)	外面：摩滅のため調整不明 内面：なで	外面：褐灰10Y R5/1 内面：にぶい黄橙10Y R7/2	1㎜以下の石英・長石・角閃石を含む	
400	弥生土器 高杯脚部		20.0	(4.8)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：橙7.5Y R6/6 内面：にぶい橙7.5Y R6/4	7㎜以下の石英・長石・角閃石・雲母を含む	円孔
401	弥生土器 広口壺	13.8	6.8	30.8	口縁部外面：横なで 体部上半外面：刷毛目 体部下半外面：篦磨き 口縁部内面：横なで 頸部内面：横刷毛目 体部上半内面：指頭圧痕 体部下半内面：篦削り	外面：灰黄褐10Y R6/2 内面：にぶい黄橙10Y R6/4	3㎜以下の砂粒を含む	口縁部・体部外面，体部下半内面：煤付着
402	弥生土器 長頸壺			(10.6)	体部外面：刷毛目後，篦磨き 体部上半内面：指頭圧痕 体部下半内面：篦削り	外面：にぶい黄橙10Y R6/3 内面：にぶい黄橙10Y R6/3	1㎜以下の長石・角閃石を含む	
403	弥生土器 長頸壺	13.6		(12.7)	口縁部外面：横なで 頸部外面：刷毛目 口縁部内面：横なで 頸部内面：指頭圧痕	外面：灰黄褐10Y R6/2 内面：灰黄褐10Y R6/2	1㎜以下の長石・角閃石を少量含む	
404	弥生土器 底部		4.8	(2.1)	体部外面：刷毛目 底部内面：刷毛目，指頭圧痕	外面：にぶい黄橙10Y R6/3 内面：黒10Y R2/1	1㎜以下の長石・角閃石を含む	
405	弥生土器 甑	19.8		(16.3)	体部外面：刷毛目 体部内面：刷毛目	外面：にぶい橙7.5Y R7/4 内面：にぶい褐7.5Y R6/3	1～2㎜以下の砂粒を含む	
406	木製品 鉄斧柄	(長さ) (16.5)	(柄径) 3.0					1本作り，枝別れの部分利用
407	弥生土器 壺	9.4		(9.0)	口縁部外面：横なで 体部外面：刷毛目後，篦磨き 口縁部内面：横なで 頸部内面：絞り目 体部内面：指頭圧痕凸帯文，篦削り	外面：灰黄2.5Y6/2 内面：灰黄2.5Y6/2	2㎜以下の砂粒を含む	
408	弥生土器 長頸壺	13.2		(6.7)	口縁部外面：なで 内面：摩滅のため調整不明	外面：にぶい橙7.5Y R6/4 内面：にぶい橙7.5Y R6/4	1㎜以下の石英・長石・角閃石・雲母を含む	
409	弥生土器			(8.6)	外面：なで，刷毛目 壺内面：なで	外面：灰黄褐10Y R6/2 内面：にぶい褐7.5Y R6/3	1～3㎜以下の石英・長石・角閃石を含む	
410	弥生土器 鉢	13.0		(5.1)	口縁部外面：なで 体部外面：なで 口縁部内面：なで 体部内面：なで	外面：にぶい黄橙10Y R6/3 内面：にぶい黄橙10Y R6/3	3㎜以下の長石・角閃石を含む	

報告番号	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴	色調	胎土	備考
411	弥生土器 ミニチュア土器		3.9	(7.4)	体部外面：指頭圧痕，なで 体部内面：板名で，指頭圧痕	外面：灰白2.5Y8/1 内面：黒2.5Y2/1	2㎜以下の長石を含む	
412	弥生土器 高杯	25.6		(4.8)	口縁部外面：横なで 杯部外面：篦磨き 口縁部内面：横なで 杯部内面：篦磨き	外面：にぶい黄橙10YR6/4 内面：にぶい黄橙10YR6/4	4㎜以下の石英，1㎜以下の角閃石を含む	
413	弥生土器 高杯	28.2		(6.1)	口縁部外面：横なで 杯部外面：篦磨き 口縁部内面：横なで 杯部内面：篦磨き	外面：にぶい黄橙10YR6/3 内面：灰黄褐10YR6/2	2㎜以下の石英・長石を含む	
414	弥生土器 壺			(17.6)	頸部外面：なで 体部外面：横篦磨き 頸部内面：指頭圧痕 体部上半内面：なで 体部下斑内面：篦削り	外面：にぶい橙10YR7/3 内面：灰白2.5YR8/2	1㎜以下の石英・長石・角閃石を含む	頸部外面：刻目文，竹管文
415	弥生土器 甕	12.8		(14.7)	口縁部外面：なで 体部下半外面：篦磨き 口縁部内面：なで 体部内面：指頭圧痕	外面：橙7.5YR6/6 内面：橙7.5YR6/6	2㎜以下の石英，3㎜以下の角閃石を含む	体部中位：刺突文
416	弥生土器 甕	14.0		(11.4)	口縁部外面：なで 体部外面：摩滅のため調整不明 口縁部内面：なで 体部内面：篦削り，指頭圧痕	外面：にぶい橙5YR6/4 内面：明赤褐5YR5/6	1～2㎜以下の石英・長石・角閃石・雲母を含む	口縁端部：凹線2条
417	弥生土器 甕	15.6		(9.2)	口縁部外面：なで 体部外面：粗い刷毛目後，なで 口縁部内面：なで 体部内面：指頭圧痕	外面：にぶい橙7.5YR6/4 内面：にぶい黄橙10YR6/4	1～2㎜以下の石英・長石・角閃石・雲母を含む	口縁端部：凹線2条
418	弥生土器 甕	16.2		(10.8)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：明赤褐5YR5/8 内面：にぶい黄橙10YR7/3	1～5㎜以下の石英・長石・角閃石を含む	体部：黒斑
419	弥生土器 甕			(11.4)	体部外面：なで，刷毛目 体部内面：なで，篦削り	外面：にぶい橙5YR7/3 内面：にぶい赤褐5YR4/4	1～5㎜以下の石英・長石・角閃石を含む	
420	弥生土器 底部		7.4	(12.5)	底部外面：篦磨き 底部内面：篦削り	外面：にぶい橙7.5YR6/4 内面：にぶい黄橙10YR6/3	2㎜以下の長石・角閃石を含む	
421	弥生土器		7.4	(11.8)	底部外面：篦磨き 底部底部内面：篦削り，指頭圧痕後なで	外面：灰褐7.5YR6/2 内面：黒褐2.5Y3/1	1～5㎜以下の石英・長石・角閃石を含む	
422	弥生土器 高杯		12.4	(11.0)	外面：摩滅のため調整不明 脚部内面：篦削り	外面：にぶい橙7.5YR7/3 内面：にぶい橙5YR6/4	1～2㎜以下の石英・長石・角閃石を含む	脚部：上段円孔1×3箇所 下段円孔2×3箇所
423	弥生土器 高杯		15.4	(4.8)	脚部外面：摩滅のため調整不明 脚部内面：篦削り	外面：にぶい褐7.5YR6/3 内面：にぶい橙7.5YR7/3	1～3㎜以下の石英・長石・角閃石を含む	脚部端部：凹線3条，円孔1穴
424	弥生土器 小形鉢		3.3	(5.5)	体部外面：篦磨き 体部内面：篦磨き	外面：灰白10YR8/1 内面：褐灰10YR6/1	2㎜以下の長石を含む	底部外面：赤色顔料付着
425	弥生土器 壺	13.6		(4.5)	口縁部外面：なで 頸部外面：なで 口縁部内面：なで 頸部内面：なで	外面：にぶい橙7.5YR7/3 内面：橙7.5YR7/6	3㎜以下の長石等を含む	口縁端部：竹管文 口縁端部内面：竹管文 頸部外面：凹線4条
426	弥生土器 甕	16.8		(7.5)	口縁部外面：なで 体部外面：刷毛目 口縁部内面：なで	外面：浅黄橙10YR8/4 内面：灰白10YR8/2	3㎜以下の石英・長石等を含む	口縁端部：凹線2条
427	弥生土器 甕	14.8		(9.8)	口縁部外面：なで 体部外面：刷毛目 口縁部内面：なで 体部内面：篦削り後，指頭圧痕	外面：にぶい橙7.5YR6/4 内面：にぶい褐7.5YR5/3	1㎜以下の長石・角閃石・雲母を含む	
428	弥生土器	11.3		(3.8)	体部外面：刷毛目 小形鉢体部内面：篦磨き	外面：灰白7.5Y8/1 内面：灰白10Y8/1	2㎜以下の長石を含む	
429	弥生土器 甕	14.0		(7.8)	口縁部外面：なで 体部外面：粗い刷毛目 口縁部内面：なで 体部内面：指頭圧痕，刷毛目	外面：にぶい褐7.5YR5/3 内面：にぶい褐7.5YR6/3	1～2㎜以下の石英・長石・角閃石を含む	口縁部から体部：黒斑
430	弥生土器 甕	11.6		(12.5)	口縁部外面：なで 体部外面：刷毛目 口縁部内面：なで 体部内面：指頭圧痕	外面：にぶい橙7.5YR7/4 内面：橙7.5YR6/6	3㎜以下の長石等を含む	口縁端部：凹線2条 体部中位：刺突文 体部下半：煤付着
431	弥生土器 甕	20.0		(5.0)	口縁部外面：なで 口縁部内面：なで	外面：橙5YR6/6 内面：橙5YR6/6	2㎜以下の石英・長石・角閃石を含む	口縁端部：凹線2条
432	弥生土器 甕	14.6		(6.3)	口縁部外面：なで 体部外面：摩滅のため調整不明 口縁部内面：なで 体部内面：指頭圧痕	外面：にぶい黄褐10YR7/2 内面：にぶい褐7.5YR6/3	1～2㎜以下の石英・長石を含む	口縁端部：凹線3条
433	弥生土器 高杯	24.8		(6.0)	口縁部外面：なで 杯部外面：摩滅のため調整不明 口縁部内面：なで 杯部内面：篦磨き	外面：にぶい橙7.5YR6/4 内面：にぶい橙5YR6/4	1～3㎜以下の石英・長石・角閃石を含む	口縁端部：凹線3条
434	打製石器 石庖丁	(長さ) 4.7	(幅) 7.8	(厚さ) 1.2		外面：灰N5/		重さ：54.3g サヌカイト
435	弥生土器 甕	14.5		(19.6)	口縁部外面：横なで 体部上半外面：刷毛目 体部下半外面：篦磨き 口縁部内面：横なで 体部上半内面：指頭圧痕 体部下半内面：篦削り	外面：灰褐7.5YR4/2 内面：にぶい褐7.5YR5/4	1㎜以下の長石を含む	体部外面：煤付着
436	弥生土器 広口壺	22.0		(2.5)	口縁部外面：なで 口縁部内面：なで	外面：にぶい橙7.5YR6/4 内面：にぶい橙7.5YR7/4	4㎜以下の石英・長石・角閃石・雲母を含む	
437	弥生土器 甕	14.0		(5.6)	口縁部外面：なで 体部外面：刷毛目 口縁部内面：なで 体部内面：指頭圧痕，なで	外面：明褐7.5YR5/6 内面：明褐7.5YR5/6	1㎜以下の石英・長石・角閃石を含む	体部外面：黒斑
438	弥生土器 小形鉢	15.4	3.6	5.7	外面：なで 内面：なで	外面：灰白2.5Y8/2 内面：灰白2.5Y8/1	1～3㎜以下の石英・長石を多量に含む	
439	弥生土器 高杯	34.0		(6.3)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：橙7.5YR6/6 内面：橙7.5YR6/6	1㎜以下の長石・角閃石を含む	
440	弥生土器 甕	17.0		(9.8)	外面：摩滅のため調整不明 口縁部内面：なで 体部内面：篦削り後指頭圧痕	外面：にぶい黄橙10YR6/4 内面：浅黄2.5Y7/3	5㎜以下の石英・長石を含む	
441	弥生土器 高杯	12.2		(3.5)	杯部外面：なで 杯部内面：なで	外面：浅黄橙7.5YR8/4 内面：橙7.5YR7/6	3㎜以下の石英・長石を含む	
442	弥生土器 底部		2.0	(4.6)	底部外面：摩滅のため調整不明 底部内面：指頭圧痕	外面：橙5YR6/6 内面：灰白10YR8/2	3㎜以下の石英・長石を含む	底部外面：黒斑
443	弥生土器 底部		4.0	(3.0)	外面：篦磨き 内面：なで	外面：灰黄褐10YR6/2 内面：褐灰10YR4/1	微砂粒を含む	
444	弥生土器 甕	12.4		(7.5)	外面：摩滅のため調整不明 体部内面：指頭圧痕	外面：浅黄橙10YR8/3 内面：褐灰10YR6/1	1㎜以下の長石を含む	
445	弥生土器 甕	14.0		(6.5)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：淡赤橙2.5YR7/4 内面：淡赤橙2.5YR7/4	2㎜以下の長石を含む	

報告番号	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴	色調	胎土	備考
446	弥生土器 甕	13.0		(3.3)	口縁部外面：なで 口縁部内面：摩滅のため調整不明	外面：にぶい橙7.5YR7/3 内面：にぶい黄橙10YR7/3	1～5㎜以下の石英・長石・角閃石を含む	
447	弥生土器 甕	15.0		(3.0)	口縁部外面：なで 口縁部内面：なで	外面：にぶい橙5YR6/3 内面：にぶい橙5YR6/3	1㎜以下の長石を含む	
448	弥生土器 高杯			(2.6)	外面：摩滅のため調整不明 内面：なで，篦磨き	外面：灰褐5YR5/2 内面：灰褐5YR4/2	1～3㎜以下の石英・長石・角閃石・雲母を含む	
449	弥生土器 製塩土器		2.6	(3.5)	外面：なで 内面：なで，指頭圧痕	外面：灰白10YR8/1 内面：灰白2.5Y8/2	1～2㎜以下の石英・長石を含む	
450	弥生土器 底部		4.8	(4.7)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：褐灰10YR6/1 内面：褐灰10YR5/1	2.5㎜以下の石英・長石を含む	
451	弥生土器 甕	15.4		(5.7)	口縁部外面：なで 体部外面：叩き 口縁部内面：なで 体部内面：篦削り	外面：にぶい褐7.5YR6/3 内面：浅黄2.5Y7/3	1～3㎜以下の石英・長石・雲母を含む	
452	弥生土器 高杯			(7.1)	外面：摩滅のため調整不明 内面：なで，指頭圧痕	外面：明赤褐5YR5/6 内面：明赤褐5YR5/6	1～3㎜以下の石英・長石・角閃石を含む	
453	弥生土器 底部		2.0	(4.7)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：浅黄橙7.5YR8/3 内面：灰白10YR8/2	1㎜以下の石英・長石を含む	外面：黒斑
454	弥生土器 底部		5.4	(2.6)	外面：刷毛目 内面：なで	外面：浅黄橙7.5YR8/4 内面：褐灰10YR5/1	3㎜以下の石英・長石を含む	
455	弥生土器 甕	16.6		(5.9)	口縁部外面：なで 体部外面：摩滅のため調整不明 口縁部内面：なで 体部内面：指頭圧痕	外面：橙7.5YR6/6 内面：にぶい橙7.5YR7/3	2㎜以下の長石・雲母を含む	
456	弥生土器 甕	16.7		(3.0)	口縁部外面：なで 口縁部内面：摩滅のため調整不明	外面：にぶい褐7.5YR6/3 内面：にぶい黄橙10YR7/3	3㎜以下の石英・長石・雲母を含む	
457	弥生土器 底部			(5.5)	外面：叩き後，なで 内面：なで，指頭圧痕	外面：浅黄橙10YR8/3 内面：灰白10YR8/2	微砂粒を含む	
458	弥生土器 高杯	19.6		(3.6)	杯部外面：摩滅のため調整不明 杯部内面：摩滅のため調整不明	外面：にぶい橙5YR6/4 内面：橙5YR6/6	2㎜以下の長石を含む	
459	弥生土器 高杯	27.2		(3.8)	杯部外面：摩滅のため調整不明 杯部内面：摩滅のため調整不明	外面：にぶい橙7.5YR6/4 内面：にぶい橙7.5YR6/4	1㎜以下の石英・角閃石・雲母を含む	
460	弥生土器 壺		3.6	(10.9)	外面：摩滅のため調整不明 体部内面：指頭圧痕	外面：にぶい橙7.5YR6/4 内面：にぶい褐7.5YR6/3	3㎜以下の石英・長石を含む	
461	弥生土器 甕	12.0		(1.1)	口縁部外面：なで 口縁部内面：なで	外面：橙7.5YR6/6 内面：橙7.5YR6/6	1㎜以下の石英・長石を含む	
462	弥生土器 壺	19.0		(1.5)	口縁部外面：なで 口縁部内面：なで	外面：灰白2.5Y8/2 内面：灰白2.5Y8/2	1㎜以下の石英・長石を含む	
463	弥生土器 細頸壺	10.0		(8.9)	外面：なで 口縁部内面：なで 頸部内面：指頭圧痕	外面：にぶい橙7.5YR6/4 内面：にぶい褐7.5YR5/3	1㎜以下の石英・長石・角閃石を含む	
464	弥生土器 細頸壺	10.6		(12.7)	口辺部外面：なで 口辺部内面：指頭圧痕	外面：にぶい黄橙10YR6/3 内面：にぶい黄橙10YR6/3	1㎜以下の石英・長石・雲母を含む	
465	弥生土器 細頸壺			(11.9)	体部外面：篦磨き 頸部内面：指頭圧痕 体部内面：篦削り 底部内面：指頭圧痕	外面：明赤褐7.5YR7/1 内面：にぶい褐7.5YR5/3	1～5㎜以下の石英・長石・角閃石を含む	
466	弥生土器 甕	13.4		(11.2)	口縁部外面：なで 体部外面：叩き後刷毛目，接合痕 口縁部内面：なで 体部内面：指頭圧痕，篦削り	外面：橙2.5YR6/6 内面：橙2.5YR6/6	1～4㎜以下の石英・長石を含む	
467	弥生土器 甕	15.0		(15.2)	口縁部外面：なで 体部上半外面：摩滅のため調整不明 体部下半外面：篦磨き 口縁部内面：なで 体部上半内面：指頭圧痕 体部下半内面：篦削り	外面：にぶい褐7.5YR6/3 内面：にぶい褐7.5YR5/3	4㎜以下の石英，1㎜以下の雲母・角閃石を含む	
468	弥生土器 甕	15.4		(6.9)	口縁部外面：なで 体部外面：刷毛目 口縁部内面：なで 体部内面：指頭圧痕	外面：にぶい褐7.5YR5/4 内面：にぶい褐7.5YR5/4	1㎜以下の石英・長石・角閃石・雲母を含む	
469	弥生土器 甕	15.2		(5.1)	口縁部外面：なで 口縁部内面：なで 体部内面：指頭圧痕	外面：橙5YR6/6 内面：にぶい橙5YR6/4	1㎜以下の石英・長石・雲母を含む	
470	弥生土器 甕	16.0		(4.5)	口縁部外面：なで 体部外面：摩滅のため調整不明 口縁部内面：なで 体部内面：指頭圧痕	外面：橙7.5YR6/6 内面：にぶい褐7.5YR6/3	1㎜以下の石英・長石・雲母を含む	
471	弥生土器 甕	15.6		(4.1)	口縁部外面：なで 体部外面：刷毛目 口縁部内面：なで 体部内面：指頭圧痕	外面：にぶい橙7.5YR6/4 ない面：灰黄褐：10YR6/2	1㎜以下の石英・長石・角閃石を含む	
472	弥生土器 甕	12.4		(4.0)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：橙5YR6/6 内面：橙5YR6/6	1㎜以下の石英・長石を含む	
473	弥生土器 底部		6.5	(3.6)	外面：叩き 内面：なで，刷毛目	外面：にぶい黄橙10YR7/3 内面：浅黄橙10YR8/3	1～5㎜以下の石英・長石を多量に含む	
474	弥生土器 底部		3.6	(5.7)	外面：刷毛目 内面：なで，指頭圧痕	外面：にぶい橙7.5YR7/4 内面：褐灰10YR4/1	1㎜以下の石英・長石・角閃石を含む	外面：黒斑
475	弥生土器 底部		3.1	(4.8)	底部外面：なで，刷毛目 底面外面：刷毛目 底部内面：なで，刷毛目	外面：明赤褐2.5Y5/6 内面：にぶい黄橙10YR7/3	1～3㎜以下の石英・長石・雲母を含む	体部から底部外面：黒斑
476	弥生土器 底部		2.4	(4.8)	外面：叩き後，刷毛目 内面：篦削り	外面：にぶい赤褐5YR5/4 内面：灰褐7.5YR5/2	2㎜以下の石英・長石・角閃石を含む	
477	弥生土器 底部		3.6	(3.6)	底部外面：指頭圧痕 底部内目面：指頭圧痕	外面：橙2.5YR6/8 内面：橙2.5YR6/6	3㎜以下の石英・長石を含む	
478	弥生土器 底部		3.6	(4.5)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：浅黄橙7.5YR8/3 内面：灰白10YR8/2	1㎜以下の石英・長石を含む	
479	弥生土器 高杯			(6.3)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：橙7.5YR6/8 内面：橙7.5YR7/6	3㎜以下の石英・長石・角閃石を含む	
480	弥生土器 高杯	43.7		(6.8)	口縁部外面：なで 杯部外面：摩滅のため調整不明 口縁部内面：なで 杯部内面：摩滅のため調整不明	外面：にぶい橙7.5YR7/4 内面：にぶい橙7.5YR7/4	3㎜以下の石英を含む	
481	弥生土器 大形片口鉢	39.8		15.5	口縁部外面：摩滅のため調整不明 体部外面：篦削り 内面：摩滅のため調整不明	外面：にぶい黄橙10YR7/3 内面：にぶい黄橙10YR7/2	1㎜以下の石英・長石・角閃石を含む	口縁部外面：凹線3条 口縁部内面：凹線6条
482	弥生土器 大形片口鉢	37.6		17.0	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：にぶい橙5YR6/3 内面：にぶい橙5YR6/3	1㎜以下の長石・角閃石を含む	口縁部外面：凹線3条
483	弥生土器 大形片口鉢	34.0		23.3	外面：篦磨き 内面：刷毛目	外面：にぶい橙2.5YR6/3 内面：にぶい橙2.5YR6/3	5㎜以下の石英・長石を含む	外面：黒斑
484	弥生土器 壺	15.2		(1.2)	口縁部外面：なで 口縁部内面：なで	外面：橙5YR6/6 内面：橙5YR6/6	1㎜以下の石英・長石・角閃石・雲母を含む	

報告番号	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴	色調	胎土	備考
485	弥生土器 甕	11.0		(3.9)	体部外面：刷毛目 体部内面：指頭圧痕	外面：にぶい黄橙10Y R7/3 内面：にぶい黄橙10Y R7/3	1㎜以下の石英・長石・角閃石を含む	
486	弥生土器 鉢			(5.4)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：灰白2.5Y8/2 内面：灰白2.5Y8/2	3㎜以下の石英・長石を含む	
487	弥生土器 甕底部			(5.4)	外面：叩き 内面：なで	外面：橙5Y R6/6 内面：にぶい橙5Y R7/4	1～3㎜以下の石英・長石を含む	外面：黒斑
488	弥生土器 高杯	25.4		(5.4)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：にぶい褐7.5Y R5/4 内面：にぶい褐7.5Y R5/4	1㎜以下の石英・長石・角閃石・雲母を含む	
489	弥生土器 甕			(3.0)	外面：摩滅のため調整不明 体部内面：篦削り	外面：浅黄橙10Y R8/3 内面：灰白10Y R8/2	1～2㎜以下の石英・長石を含む	
490	弥生土器 甕	9.2		(3.2)	外面：なで 内面：なで，指頭圧痕	外面：橙5Y R7/6 内面：浅黄橙7.5Y R8/4	1㎜以下の長石を含む	
491	弥生土器 高杯	15.0		(3.0)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：橙7.5Y R6/6 内面：7.5Y R6/6	1㎜以下の石英・長石・角閃石を含む	口縁端部：竹管文
492	弥生土器 高杯		16.4	(6.1)	外面：篦磨き 内面：摩滅のため調整不明	外面：橙5Y R6/6 内面：橙7.5Y R6/6	1～5㎜以下の石英・長石を含む	円孔
493	弥生土器 底部		5.5	(2.6)	底部外面：なで 底部内面：篦削り	外面：橙2.5Y R6/6 内面：赤灰2.5Y R4/1	1㎜以下の石英・角閃石を含む	
494	弥生土器 壺	15.4		(1.7)	口縁部外面：なで 口縁部内面：なで	外面：にぶい褐7.5Y R5/4 内面：にぶい褐7.5Y R5/4	1㎜以下の石英・長石・角閃石を含む	
495	弥生土器 高杯			(5.8)	脚部外面：刷毛目 脚部内面：篦削り	外面：にぶい褐7.5Y R6/3 内面：にぶい褐7.5Y R6/3	2㎜以下の石英・長石・雲母を含む	
496	弥生土器 底部		4.5	(2.0)	外面：指頭圧痕 内面：摩滅のため調整不明	外面：赤橙10R6/6 内面：灰白2.5Y7/1	1～5㎜以下の石英・長石を含む	外面：黒斑
497	弥生土器 高杯	17.2		(3.8)	外面：摩滅のため調整不明 口縁部内面：なで 杯部内面：篦磨き	外面：にぶい橙7.5Y R6/4 内面：にぶい橙7.5Y R6/4	1㎜以下の石英・長石・雲母を含む	
498	弥生土器 高杯	24.0		(4.7)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：にぶい橙7.5Y R6/4 内面：にぶい橙7.5Y R6/4	1㎜以下の石英・長石を含む	
499	弥生土器 高杯		20.0	(5.2)	脚部外面：なで 脚部内面：篦削り	外面：にぶい橙5Y R6/6 内面：橙7.5Y R6/6	1～5㎜以下の石英・長石を含む	円孔
500	弥生土器 底部		4.9	(3.0)	体部外面：なで 体部内面：なで	外面：橙5Y R6/8 内面：橙5Y R6/8	2.5㎜以下の石英等を含む	
501	弥生土器 細頸壺	9.0		(8.8)	外面：摩滅のため調整不明 頸部下半内面：指頭圧痕	外面：橙5Y R6/6 内面：明褐灰5Y R7/1	2㎜以下の石英・長石を含む	
502	弥生土器 小型丸底壺			(2.9)	外面：摩滅のため調整不明 内面：指頭圧痕	外面：浅黄橙10Y R8/3 内面：浅黄橙10Y R8/3	1㎜以下の石英・長石を含む	
503	弥生土器 甕	13.0		(14.8)	口縁部外面：なで 体部外面：摩滅のため調整不明 口縁部内面：なで 体部上半内面：指頭圧痕 体部下半内面：篦削り	外面：にぶい黄橙10Y R7/3 内面：にぶい黄橙10Y R7/3	1～2㎜の石英・長石・雲母を含む	
504	弥生土器 小型甕	14.0		(9.6)	口縁部外面：横なで 体部外面：刷毛目 口縁部内面：横なで 体部内面：篦削り後なで	外面：にぶい橙7.5Y R7/4 内面：にぶい黄橙10Y R7/2	1㎜以下の石英・長石を含む	外面：黒斑
505	弥生土器 甕	14.2		(5.7)	口縁部外面：なで 体部外面：摩滅のため調整不明 口縁部内面：なで 体部内面：指頭圧痕	外面：にぶい橙7.5Y R6/4 内面：にぶい橙7.5Y R6/4	1～2㎜以下の石英・長石・角閃石を含む	
506	弥生土器 甕	13.4		(5.5)	口縁部外面：なで 体部外面：刷毛目 口縁部内面：なで 体部内面：指頭圧痕	外面：にぶい橙7.5Y R6/4 内面：にぶい橙7.5Y R6/4	2㎜以下の石英・長石・雲母を含む	
507	弥生土器 中形鉢	21.6	4.9	9.1	体部外面：刷毛目 体部内面：なで，指頭圧痕	外面：明赤褐2.5Y R5/6 内面：橙2.5Y R6/6	1～2㎜の石英・長石を含む	底部：黒斑
508	弥生土器 小形鉢	12.0	3.4	6.9	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：灰白7.5Y R8/1 内面：灰白10Y R8/1	1～2㎜以下の石英・長石を含む	
509	弥生土器 高杯	20.8	16.7	15.9	口縁部外面：なで 杯部外面：摩滅のため調整不明 脚部外面：摩滅のため調整不明 口縁部内面：なで 杯部内面：篦磨き 脚部内面：篦削り	外面：にぶい橙7.5Y R7/4 内面：にぶい橙7.5Y R7/4	3㎜以下の石英・長石・角閃石・雲母を含む	脚部上位：円孔1×3箇所 脚部下位：円孔2×3箇所
510	弥生土器 高杯	23.0		(6.3)	口縁部外面：なで 杯部外面：篦磨き 口縁部内面：なで 杯部内面：篦磨き	外面：にぶい橙7.5Y R6/4 内面：にぶい黄橙10Y R6/4	1～3㎜以下の石英・長石・角閃石を含む	口縁端部内面：凹線2条
511	弥生土器 高杯	23.0		(4.8)	杯部外面：なで 杯部内面：なで	外面：橙7.5Y R6/6 内面：橙7.5Y R6/6	5㎜以下の石英・長石・角閃石を含む	
512	弥生土器 高杯	20.4		(6.8)	口縁部外面：なで 杯部外面：篦削り 口縁部内面：なで 杯部内面：なで	外面：橙7.5Y R6/6 内面：橙7.5Y R6/6	3㎜以下の石英・長石・角閃石・雲母を含む	
513	弥生土器 高杯		19.1	(10.7)	脚部外面：摩滅のため調整不明 杯部内面：篦磨き 脚部内面：篦削り	外面：にぶい橙7.5Y R6/4 内面：にぶい黄橙10Y R6/4	3㎜以下の石英・長石・角閃石を含む	脚部：上段円孔2×4箇所 脚部：下段円孔2×4箇所
514	弥生土器 高杯		17.4	(3.5)	脚部外面：なで 脚部内面：篦削り	外面：にぶい橙7.5Y R6/4 内面：にぶい橙7.5Y R6/4	3㎜以下の石英・長石・角閃石・雲母を含む	円孔3穴
515	弥生土器 高杯		18.4	(2.0)	外面：摩滅のため調整不明 内面：篦削り	外面：にぶい黄橙10Y R7/2 内面：にぶい橙7.5Y R/7/3	1㎜以下の長石を含む	円孔2穴
516	弥生土器 高杯		18.4	(3.0)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：橙7.5Y R6/6 内面：にぶい橙7.5Y R6/4	1㎜以下の石英・長石を含む	脚部：円孔1×4箇所
517	弥生土器 高杯	14.2		(6.0)	外面：摩滅のため調整不明 杯部内面：篦磨き	外面：にぶい橙7.5Y R6/4 内面：にぶい橙7.5Y R6/4	1㎜以下の長石・角閃石を含む	外面：黒斑
518	弥生土器 高杯			(6.8)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：橙5Y R6/6 内面：にぶい橙7.5Y R6/4	1～5㎜以下の石英・長石・雲母を含む	円孔1穴
519	弥生土器 底部		4.0	(2.2)	外面：叩き，接合痕 内面：摩滅のため調整不明	外面：浅黄橙7.5Y R8/3 内面：灰白7.5Y8/1	1㎜以下の石英・長石を含む	底部内外面：黒斑
520	弥生土器 底部		2.2	(5.2)	外面：摩滅のため調整不明 内面：板なで	外面：淡黄2.5Y8/3 内面：灰白2.5Y8/2	0.5㎜以下の長石・石英を含む	
521	弥生土器 底部		4.4	(2.6)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：橙7.5Y R6/6 内面：にぶい橙7.5Y R6/4	3㎜以下の石英，1㎜以下の角閃石を含む	
522	弥生土器 細頸壺	9.6		(13.3)	外面：摩滅のため調整不明 内面：指頭圧痕	外面：にぶい褐7.5Y R6/3 内面：にぶい褐7.5Y R6/3	1㎜以下の石英・長石を含む	外面：黒斑
523	弥生土器 細頸壺	11.0		(10.8)	体部外面：篦削り 体部内面：指頭圧痕	外面：にぶい黄橙10Y R6/3 内面：にぶい黄橙10Y R6/3	3㎜以下の石英・長石・角閃石を含む	体部：円孔
524	弥生土器 高杯		9.0	(5.0)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：浅黄橙7.5Y R8/3 内面：浅黄橙7.5Y R8/3	2㎜以下の石英・長石・角閃石を含む	脚部：上段円孔1穴 下段円孔1穴

報告番号	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴	色調	胎土	備考
525	弥生土器 広口壺	15.8		(18.4)	口縁部外面：なで 頸部外面：なで 体部外面：摩滅のため調整不明 口縁部内面：なで 頸部内面：指頭圧痕 体部内面：指頭圧痕	外面：にぶい橙7.5YR7/4 内面：にぶい橙5YR7/4	2㎜以下の長石・石英・角閃石を含む	
526	弥生土器 広口壺	18.2		(6.6)	口縁部外面：なで 頸部外面：刷毛目 口縁部内面：なで 頸部内面：なで，指頭圧痕	外面：にぶい橙7.5YR7/4 内面：にぶい橙7.5YR7/4	1㎜以下の石英・長石を含む	
527	弥生土器 壺	18.4		(7.1)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：灰白10YR8/2 内面：灰白10YR8/2	1㎜以下の石英・長石を含む	
528	弥生土器 細頸壺	9.2		27.3	頸部外面：なで 体部外面：なで 頸部内面：絞り目 体部内面：篦削り	外面：橙5YR7/6 内面：橙5YR7/6	1㎜以下の長石を含む	底部内面：つつき痕9個
529	弥生土器 細頸壺	8.4		(13.0)	口縁部外面：なで 頸部外面：篦磨き，刷毛目 口縁部内面：なで 頸部内面：なで，指頭圧痕，絞り目	外面：にぶい黄橙10YR7/3 内面：灰黄褐10YR6/2	1㎜以下の長石を含む	
530	弥生土器 細頸壺			(7.6)	胴上部外面：刷毛目 胴下部外面：摩滅のため調整不明	外面：にぶい褐7.5YR6/3 内面：にぶい褐7.5YR6/3	1～3㎜以下の石英・長石・角閃石を含む	
531	弥生土器 細頸壺			(7.0)	体部上半外面：横篦磨き 体部下半外面：縦篦磨き 体部下半内面：板なで	外面：にぶい橙7.5YR6/4 内面：にぶい黄橙10YR7/2	2㎜以下の石英・長石を含む	
532	弥生土器 長頸壺			(7.8)	外面：摩滅のため調整不明 胴中央部内面：指頭圧痕	外面：にぶい橙5YR6/4 内面：明赤灰2.5YR7/2	1～5㎜以下の石英・長石・雲母を含む	
533	弥生土器 細頸壺		5.4	(13.6)	体部外面：摩滅のため調整不明 底部外面：指頭圧痕 内面：摩滅のため調整不明	外面：灰白7.5YR8/1 内面：灰白2.5Y8/1	1～5㎜以下の石英・長石を含む	体部から底面：黒斑
534	弥生土器 小型丸底土器	8.8		(9.5)	体部外面：篦磨き 体部内面：指頭圧痕，篦磨き 底部内面：篦削り	外面：にぶい黄橙10YR6/4 内面：にぶい黄橙10YR6/4	2㎜以下の砂粒を含む	底部：穿孔
535	弥生土器 小型丸底土器	9.6		7.9	頸部外面：指頭圧痕，なで 頸部内面：指頭圧痕，なで 胴部内面：指頭圧痕，なで	外面：にぶい橙5YR7/4 内面：明褐灰5YR7/2	1.5㎜以下の長石・石英・角閃石を含む	
536	弥生土器 甕	14.2	5.2	(27.1)	口縁部外面：なで 頸部外面：指頭圧痕 体部上半外面：刷毛目 体部下半外面：篦磨き 底部外面：指頭圧痕 口縁部内面：なで 体部上位内面：指頭圧痕 体部中から下位：板なで	外面：にぶい黄橙10YR7/3 内面：にぶい黄橙10YR7/3	1～3㎜以下の石英・長石・角閃石を含む	底部：黒斑
537	弥生土器 甕	13.0		(12.6)	口縁部外面：なで 体部外面：刷毛目 口縁部内面：なで 体部上半内面：指頭圧痕 体部下半内面：篦削り	外面：にぶい褐7.5YR5/4 内面：にぶい黄橙10YR6/4	1～3㎜以下の石英・長石・雲母・角閃石を含む	
538	弥生土器 甕	12.8	6.6	24.9	外面：摩滅のため調整不明 体部上半内面：指頭あつ痕 体部下半内面：篦削り	外面：にぶい橙7.5YR7/4 内面：橙7.5YR7/6	1㎜以下の長石・石英・角閃石を含む	底部：黒斑
539	弥生土器 甕	13.6	4.5	21.3	口縁部外面：なで 体部上半外面：刷毛目 体部下半外面：篦磨き 口縁部内面：なで 体部上半内面：篦削り 体部下半内面：摩滅のため調整不明	外面：にぶい黄橙10YR7/2 内面：にぶい黄橙10YR7/3	1～2㎜以下の石英・長石・雲母を含む	底部から底面：黒斑
540	弥生土器 甕	13.0		22.7	口縁部外面：なで 体部外面：摩滅のため不明 口縁部内面：なで 体部上半内面：指頭圧痕 体部下半内面：摩滅のため不明	外面：橙5YR7/6 内面：橙5YR6/6	2.5㎜以下の長石・石英・角閃石を含む	
541	弥生土器 甕	14.0	5.4	20.8	体部外面：叩き後刷毛目 内面：摩滅のため調整不明	外面：にぶい橙5YR6/4 内面：褐灰10YR5/1	1㎜以下の石英・長石・角閃石を含む	外面：黒斑
542	弥生土器 甕	12.6		(13.2)	口縁部外面：なで 体部上半外面：刷毛目 体部下半外面：摩滅のため調整不明 口縁部内面：なで 体部上半：指頭圧痕 体部下半内面：篦削り	外面：灰白7.5YR8/2 内面：灰白10YR8/1	1～2㎜以下の石英・長石を含む	
543	弥生土器 小型甕	9.6		(3.7)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：橙5YR6/6 内面：橙2.5YR6/6	1㎜以下の石英・長石を含む	
544	弥生土器 甕	12.2		(10.0)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：浅黄橙10YR8/3 内面：浅黄橙7.5YR8/3	1～2㎜以下の石英・長石を含む	
545	弥生土器 甕	14.4		(9.0)	口縁部外面：なで 体部外面：刷毛目 口縁部内面：なで 体部内面：なで，指頭圧痕	外面：にぶい橙7.5YR7/4 内面：灰白10YR7/1	1㎜以下の石英・長石・角閃石を含む	
546	弥生土器 甕	12.4		(11.8)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：灰白10YR7/1 内面：灰白10YR7/1	1㎜以下の石英・長石を含む	
547	弥生土器 中形鉢	20.6	5.2	10.0	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：灰白10YR8/1 内面：灰白10YR8/1	2㎜以下の長石を少量含む	外面：黒斑
548	弥生土器 小型鉢	11.3	5.8	6.5	底部外面：指頭圧痕 内面：摩滅のため調整不明	外面：橙2.5YR6/8 内面：橙5YR6/8	1～2㎜以下の石英・長石を含む	
549	弥生土器 高杯	20.3		(12.4)	口縁部外面：なで 杯部外面：篦削り後篦磨き 脚部外面：摩滅のため調整不明 口縁部内面：なで 杯部内面：篦磨き 脚部内面：篦削り後なで	外面：にぶい橙7.5YR7/4 内面：にぶい黄橙10YR7/3	1㎜以下の石英・長石・角閃石を含む	外面：黒斑
550	弥生土器 高杯	18.0		(8.7)	杯部外面：篦磨き 杯部内面：篦磨き	外面：にぶい橙7.5YR7/3 内面：にぶい黄橙10YR7/3	1～2㎜以下の石英・長石・角閃石・雲母を含む	脚柱部：円孔3穴
551	弥生土器 高杯	23.3		(7.9)	口縁部外面：なで 杯部外面：篦磨き 口縁部内面：なで 杯部内面：摩滅のため調整不明	外面：にぶい橙10YR6/4 内面：にぶい橙7.5YR6/4	1～5㎜以下の石英・長石・角閃石を含む	口縁部内面：凹線4条
552	弥生土器 高杯	24.4		(5.4)	口縁部外面：なで 杯部外面：篦削り 口縁部内面：なで	外面：にぶい橙10YR7/4 内面：にぶい橙10YR7/3	1㎜以下の石英・長石・角閃石を含む	
553	弥生土器 高杯	20.0		(8.5)	口縁部外面：なで 杯部外面：篦削り 口縁部内面：なで 杯部内面：篦磨き	外面：橙5YR6/8 内面：橙5YR6/6	3㎜以下の石英・長石等を含む	

報告番号	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴	色調	胎土	備考
554	弥生土器 高杯	24.8		(4.5)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：にぶい橙5YR6/4 内面：にぶい橙5YR6/4	2㎜以下の石英・長石を含む	
555	弥生土器 高杯	13.6		(8.9)	口縁部外面：なで 杯部外面：篦削り後篦磨き 脚部外面：篦磨き 口縁部内面：なで 杯部内面：篦磨き 脚部：篦削り	外面：にぶい黄橙10YR6/3 内面：褐灰7.5YR4/1	3㎜以下の石英・長石・角閃石・雲母を含む	
556	弥生土器 高杯	18.6		(4.3)	口縁部外面：なで 杯部外面：摩滅のため調整不明 内面：なで	外面：にぶい橙7.5YR6/4 内面：にぶい橙7.5YR6/4	1㎜以下の石英・長石・角閃石を含む	口縁端部：凹線文
557	弥生土器 高杯		18.0	(5.4)	外面：摩滅のため調整不明 脚部内面：篦削り	外面：にぶい橙5YR6/4 内面：にぶい橙5YR7/3	3㎜以下の石英・長石を含む	脚部上段：円孔1×3箇所(推定) 脚部下段：円孔2×3箇所
558	弥生土器 高杯		26.0	(5.0)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：明褐灰7.5YR7/3 内面：明褐灰7.5YR7/3	1㎜以下の石英・長石を含む	脚部：円孔1×4箇所
559	弥生土器 底部		3.3	(3.3)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：浅黄橙7.5YR8/3 内面：灰白7.5YR8/2	1㎜以下の長石を含む	
560	弥生土器 底部		3.4	(3.0)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：にぶい橙7.5YR7/3 内面：灰白10YR8/1	1㎜以下の石英・長石を含む	
561	弥生土器 甕	15.0		(3.1)	外面：摩滅のため調整不明 内面：指頭圧痕	外面：にぶい橙7.5YR6/4 内面：橙5YR6/6	1～3㎜以下の石英・長石・角閃石・雲母を含む	
562	弥生土器 甕	15.6		(2.0)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：橙7.5YR6/6 内面：橙7.5YR6/6	1㎜以下の石英・長石を含む	
563	弥生土器 底部		4.8	(5.7)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：明褐灰5YR7/2 内面：灰白5YR8/1	2㎜以下の石英等を含む	
564	弥生土器 底部		5.4	(1.7)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：褐灰10YR4/1 内面：にぶい黄橙10YR7/3	1㎜以下の石英・雲母・角閃石を含む	
565	弥生土器 壺			(10.8)	外面：摩滅のため調整不明 頸部内面：指頭圧痕 体部内面：指頭圧痕	外面：にぶい橙7.5YR7/4 内面：橙7.5YR6/6	2㎜以下の石英・長石・角閃石・雲母を含む	
566	弥生土器 甕	12.8		(6.4)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：浅黄橙10YR8/3 内面：灰白10YR8/1	3㎜以下の石英1㎜以下の角閃石を含む	
567	弥生土器 甕	14.8		(14.7)	口縁部外面：なで 体部外面：刷毛目 口縁部内面：なで 体部上半内面：指頭圧痕	外面：橙7.5YR6/6 内面：橙7.5YR6/6	4㎜以下の石英・長石を含む	
568	弥生土器 甕	13.8		(13.9)	外面：摩滅のため調整不明 体部内面：指頭圧痕	外面：にぶい橙5YR7/4 内面：にぶい橙5YR7/4	2～3㎜以下の長石少々，1㎜以下の石英・長石を含む	
569	弥生土器 甕			(15.7)	体部外面：刷毛目 体部上半内面：なで，指頭圧痕 体部下半内面：篦削り	外面：橙7.5YR6/6 内面：橙7.5YR6/6	2㎜以下の石英・長石・雲母を含む	
570	弥生土器 甕		6.0	(11.2)	底部外面：篦磨き 底部内面：摩滅のため調整不明 底面内面：指頭圧痕	外面：にぶい褐7.5YR5/3 内面：にぶい橙7.5YR7/4	1～5㎜以下の石英・長石・角閃石を含む	底部：黒斑
571	弥生土器 高杯	23.2		(10.0)	口縁部外面：摩滅のため調整不明 杯部外面：篦削り後篦磨き 口縁部内面：摩滅のため調整不明 杯部内面：篦磨き 脚部内面：篦削り	外面：にぶい橙7.5YR6/4 内面：にぶい橙7.5YR6/4	1㎜以下の石英・長石・角閃石を含む	
572	弥生土器 高杯			(5.3)	杯部外面：摩滅のため調整不明 脚部外面：篦磨き 杯部外面：摩滅のため調整不明 脚部内面：なで	外面：にぶい橙7.5YR7/4 内面：にぶい橙7.5YR7/4	1㎜以下の長石を含む	
573	打製石器 石鏃	(長さ) 2.3	(幅) 1.2	(厚さ) 0.4		外面：褐灰10YR5/1		重さ：0.5g サヌカイト
574	弥生土器 底部		5.8	(2.3)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：灰白7.5Y8/1 内面：淡黄2.5Y8/3	1～2㎜以下の長石・石英を含む	底面：黒斑
575	弥生土器 製塩土器		3.6	(1.4)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：にぶい橙5YR6/4 内面：にぶい橙5YR6/4	1㎜以下の長石を含む	
576	弥生土器 細頸壺			(2.4)	外面：なで 内面：なで	外面：灰黄褐10YR6/2 内面：灰黄褐10YR6/2	1㎜以下の石英・長石・角閃石を含む	
577	弥生土器 甕	14.8		(3.2)	口縁部外面：なで 体部外面：摩滅のため調整不明 口縁部内面：なで 体部内面：指頭圧痕	外面：にぶい橙7.5YR6/4 内面：にぶい橙7.5YR6/4	1㎜以下の石英・長石・角閃石を含む	
578	弥生土器 製塩土器		3.8	(3.0)	底部外面：指頭圧痕 底部内面：なで	外面：褐灰10YR4/1 内面：浅黄橙7.5YR8/4	1㎜以下の長石を含む	体部から底部：黒斑
579	弥生土器 底部		2.0	(4.7)	外面：刷毛目 内面：板なで	外面：橙7.5YR6/8 内面：橙7.5YR7/6	3㎜以下の石英を含む	
580	弥生土器 甕	12.8		(3.7)	口縁部外面：叩き 内面：摩滅のため調整不明	外面：橙5YR6/8 内面：橙5YR6/8	1㎜以下の石英・長石・角閃石・雲母を含む	
581	弥生土器 底部		5.2	(2.7)	外面：篦磨き 内面：摩滅のため調整不明	外面：橙7.5YR6/6 内面：にぶい橙7.5YR6/4	1㎜以下の石英・長石・角閃石を含む	
582	弥生土器 広口壺	22.4		(1.8)	口縁部外面：なで 口縁部内面：なで	外面：橙5YR6/6 内面：橙5YR6/6	1㎜以下の石英・長石・角閃石を含む	
583	弥生土器 甕	18.2		(8.6)	口縁部外面：なで 体部外面：叩き 内面：摩滅のため調整不明	外面：橙5YR6/6 内面：褐灰5YR5/1	2㎜以下の石英・長石・角閃石を含む	
584	弥生土器 甕	13.6		(5.2)	口縁部外面：なで 体部外面：叩き 口縁部内面：なで 体部内面：指頭圧痕，篦傷	外面：橙7.5YR6/8 内面：にぶい橙7.5YR6/4	1㎜以下の長石を含む	
585	弥生土器 鉢	22.0	4.0		外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：にぶい橙7.5YR7/4 内面：黒褐7.5YR3/1	1～4㎜の石英・長石を含む	内面全体：黒斑
586	弥生土器 高杯			(4.4)	杯部外面：篦磨き 杯部内面：篦磨き	外面：黄褐10YR5/6 内面：黄褐10YR5/6	5㎜以下の石英・長石・角閃石を含む	
587	弥生土器 底部		2.3	(3.4)	外面：板なで 内面：指頭圧痕	外面：褐灰10YR4/1 内面：灰白10YR8/1	1㎜以下の長石・角閃石・雲母を含む	底部：黒斑
588	弥生土器 広口壺	16.4		(9.3)	外面：摩滅のため調整不明 口縁部内面：なで 頸部内面：刷毛目，指頭圧痕	外面：にぶい橙7.5YR6/4 内面：にぶい橙7.5YR6/4	6㎜以下の長石・雲母を含む	
589	弥生土器 甕	11.9		(2.2)	口縁部外面：なで 口縁部内面：なで	外面：橙7.5YR7/6 内面：にぶい橙7.5YR7/3	2㎜以下の長石等を含む	
590	弥生土器 甕			(17.6)	体部上半外面：刷毛目 体部下半外面：篦磨き 体部上半内面：指頭圧痕 体部下半内面：篦削り	外面：灰褐7.5YR4/2 内面：にぶい褐7.5YR5/4	4㎜以下の石英・長石・雲母を含む	
591	弥生土器 小型器台		10.0	(4.9)	脚部外面：篦磨き 脚部内面：篦削り	外面：淡赤橙2.5YR7/4 内面：淡橙5YR8/3	5㎜以下の長石・石英を含む	脚部上段：3×4箇所(貫通しない穴),脚部下段：3×4箇所(貫通しない穴)
592	玉製品 管玉	(長さ) 1.3	(幅) 0.6	(厚さ) 0.6		外面：オリーブ灰10Y4/2 内面	オリーブ灰10Y4／2	重さ：0.6g

報告番号	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴	色調	胎土	備考
593	弥生土器 高杯		16.5	(10.0)	外面：摩滅のため調整不明 脚柱部内面：絞り目 脚裾部内面：篦削り	外面：にぶい赤褐5Y R5/4 内面：にぶい赤褐5Y R5/4	6㎜以下の石英・長石を含む	脚部：円孔1×4箇所
594	弥生土器 甕	13.8		(3.3)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：にぶい褐7.5Y R6/3 内面：明褐灰7.5Y R7/2	1㎜以下の長石・雲母を含む	
595	弥生土器 広口壺	13.6		(8.5)	口縁部外面：摩滅のため調整不明 頸部外面：摩滅のため調整不明 口縁部内面：摩滅のため調整不明 頸部内面：指頭圧痕	外面：にぶい橙5Y R7/3 内面：にぶい橙5Y R7/3	1㎜以下の石英・長石・角閃石を含む	
596	弥生土器 壺	13.6		(3.1)	口縁部外面：なで 口縁部内面：なで	外面：橙7.5Y R7/6 内面：灰白7.5Y R8/1	5㎜以下の長石・角閃石を含む	
597	弥生土器 甕	14.9		(6.5)	口縁部外面：なで 体部外面：摩滅のため調整不明 口縁部内面：なで 体部内面：指頭圧痕	外面：にぶい赤橙10R6/4 内面：赤橙10R6/6	2㎜以下の石英・長石を含む	
598	弥生土器 甕	16.8		(4.5)	口縁部外面：なで 体部上半外面：刷毛目 口縁部内面：なで 体部上半内面：指頭圧痕	外面：淡赤橙2.5Y R7/4 内面：灰白10Y R8/2	3㎜以下の石英・長石を含む	
599	弥生土器 高杯	22.2		(3.8)	外面：なで 内面：なで	外面：にぶい橙7.5Y R6/4 内面：灰白10Y R8/2	2㎜以下の石英・長石・角閃石を含む	
600	弥生土器 高杯	19.8		(3.1)	外面：なで 内面：なで	外面：にぶい橙7.5Y R6/4 内面：明褐7.5Y R5/6	1㎜以下の石英・長石を含む	
601	弥生土器 底部		5.2	(4.5)	外面：篦磨き 内面：摩滅のため調整不明	外面：明赤褐5Y R5/8 内面：橙5Y R6/6	3㎜以下の石英・長石を含む	外面：煤付着
602	弥生土器 長頸壺	6.6		(6.3)	外面：刷毛目 内面：指頭圧痕	外面：淡橙5Y R8/3 内面：橙5Y R7/6	1㎜以下の長石・石英を少々含む	
603	弥生土器 壺			(4.6)	頸部外面：なで 頸部内面：摩滅のため調整不明	外面：灰白7.5Y R8/2 内面：灰白7.5Y R8/2	1～5㎜の石英・長石を含む	頸部凸帯上に竹管文
604	弥生土器 二重口縁甕	11.9		(4.1)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：にぶい黄褐10Y R7/3 内面：橙5Y R6/6	2㎜以下の石英・長石を含む	
605	弥生土器 甕	13.4		(8.0)	口縁部外面：摩滅のため調整不明 体部外面：摩滅のため調整不明 口縁部内面：摩滅のため調整不明 体部内面：指頭圧痕	外面：暗赤褐Y R3/6 内面：暗赤褐Y R3/6	5㎜以下の石英・長石を含む	
606	弥生土器 甕	7.5		(6.9)	口縁部外面：なで 体部外面：摩滅のため調整不明 口縁部内面：なで 体部内面：指頭圧痕	外面：橙7.5Y R6/8 内面：橙7.5Y R6/8	2㎜以下の石英・長石・角閃石を含む	
607	弥生土器 甕	13.6		(6.4)	口縁部外面：なで 体部外面：刷毛目 口縁部内面：なで 体部内面：指頭圧痕	外面：にぶい褐7.5Y R6/3 内面：にぶい橙7.5Y R7/3	2㎜以下の石英・長石・雲母を含む	
608	弥生土器 甕	12.9		(7.7)	口縁部外面：なで 体部外面：摩滅のため調整不明 口縁部内面：なで 体部内面：指頭圧痕	外面：浅黄橙10Y R8/3 内面：灰白10Y R8/2	3㎜以下の石英・長石等を含む	
609	弥生土器 甕	15.3		(4.5)	口縁部外面：なで 体部外面：摩滅のため調整不明 口縁部内面：なで 体部内面：指頭圧痕	外面：にぶい橙7.5Y R6/4 内面：にぶい黄橙10Y R7/3	3㎜以下の石英・長石・雲母を含む	
610	弥生土器 甕	17.2		(5.0)	口縁部外面：なで 体部外面：刷毛目 口縁部内面：なで 体部内面：指頭圧痕	外面：橙7.5Y R6/6 内面：橙7.5Y R6/6	1㎜以下の石英・長石を含む	
611	弥生土器 甕	12.1		(4.7)	口縁部外面：なで 体部外面：刷毛目 口縁部内面：なで 体部内面：指頭圧痕	外面：にぶい橙7.5Y R6/4 内面：にぶい橙7.5Y R7/3	1～2㎜の石英・長石・雲母を含む	
612	弥生土器 甕	13.0		(3.1)	外面：摩滅のため調整不明 口縁部内面：指頭圧痕 体部上半内面：板なで	外面：灰白2.5Y8/2 内面：灰白2.5Y8/1	1㎜以下の長石を含む	
613	弥生土器 甕	11.7		(2.3)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：灰白10Y R8/1 内面：灰白10Y R8/1	0.1㎜以下の石英・長石を含む	
614	弥生土器 甕			(11.7)	外面：摩滅のため調整不明 体部上半内面：指頭圧痕 体部下半内面：篦削り	外面：にぶい橙5Y R7/3 内面：灰白2.5Y7/1	1～2㎜以下の石英・長石を含む	
615	弥生土器 底部		5.4	(14.4)	体部外面：篦磨き 底面外面：篦磨き 体部内面：指頭圧痕	外面：橙5Y R6/6 内面：灰黄2.5Y6/2	1～5㎜以下の石英・長石・角閃石を含む	体部から底面：黒斑
616	弥生土器 底部		5.3	(3.3)	外面：篦磨き 内面：板なで	外面：黒褐10Y R3/1 内面：灰白10Y R8/2	2.5㎜以下の長石を含む	外面：煤付着
617	弥生土器 底部		3.0	(3.3)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：灰白10Y R8/1 内面：灰白10Y R8/1	0.2㎜以下の長石を含む	
618	弥生土器 底部		5.6	(3.8)	外面：なで 内面：なで，指頭圧痕	外面：にぶい黄橙10Y R7/4 内面：にぶい黄橙10Y R6/3	2㎜以下の石英・角閃石・雲母を含む	
619	弥生土器 底部		3.2	(4.0)	外面：指頭圧痕 内面：摩滅のため調整不明	外面：灰白10Y R8/1 内面：灰白10Y R7/1	1㎜以下の石英を少々含む	
620	弥生土器 壺底部		7.8	(6.3)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：灰白10Y R8/2 内面：黒褐5Y R3/1	1～3㎜の石英・長石を含む	
621	弥生土器 高杯	14.6		(3.0)	口縁部外面：なで 杯部外面：篦磨き 口縁部内面：なで 杯部内面：篦磨き	外面：にぶい黄橙10Y R7/3 内面：にぶい橙7.5Y R6/4	1㎜以下の石英・長石・角閃石を含む	
622	弥生土器 高杯	22.4		(6.9)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：橙5Y R6/6 内面：橙5Y R6/6	1～5㎜以下の石英・長石・雲母を含む	口縁部内面：凹線3条
623	弥生土器 高杯	23.0		(5.2)	口縁部外面：なで 杯部外面：篦磨き 口縁部内面：なで 杯部内面：篦磨き	外面：にぶい黄橙10Y R7/3 内面：にぶい橙7.5Y R6/4	2㎜以下の長石・角閃石・雲母を含む	
624	弥生土器 高杯	21.8		(5.9)	口縁部外面：なで 杯部外面：篦削り 内面：摩滅のため調整不明	外面：橙5Y R6/8 内面：橙5Y R6/8	1㎜以下の石英・長石・角閃石・雲母を含む	
625	弥生土器 高杯	21.2		(5.5)	口縁部外面：なで 杯部外面：篦削り 口縁部内面：篦磨き 杯部内面：なで	外面：にぶい橙7.5Y R7/4 内面：にぶい黄橙10Y R6/4	2㎜の長石・雲母を含む	
626	弥生土器 高杯	32.2		(5.6)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：橙5Y R6/6 内面：にぶい橙5Y R7/4	3㎜以下の長石を含む	
627	弥生土器 高杯	28.6		(4.3)	口縁部外面：なで 口縁部内面：なで	外面：にぶい橙5Y R6/4 内面：にぶい橙5Y R6/4	4.5㎜以下の長石を含む	

報告番号	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴	色調	胎土	備考
628	弥生土器 甕	14.1		(23.4)	口縁部外面：なで 体部上半外面：刷毛目 体部下半外面：刷毛目，篦磨き 口縁部内面：なで 体部上半内面：指頭圧痕 体部下半内面：篦削り	外面：にぶい褐7.5YR5/3 内面：にぶい黄橙10YR7/2	1～5㎜以下の石英・長石・角閃石・雲母を含む	体部下半外面：煤付着
629	弥生土器 甕		5.4	(17.5)	体部外面：篦磨き 体部内面：篦削り	外面：にぶい褐7.5YR5/4 内面：にぶい黄橙10YR6/4	3㎜以下の長石・石英を含む	
630	弥生土器 紡錘車	2.8	2.8	0.6	外面：なで	外面：にぶい黄橙10YR7/2 内面：にぶい黄橙10YR7/2	1㎜以下の長石・石英を含む	中央の穿孔：貫通せず
631	弥生土器 製塩土器		3.6	(1.6)	底部外面：指頭圧痕 底部内面：なで	外面：にぶい橙7.5YR7/3 内面：明褐灰7.5YR7/1	1～2㎜の石英・長石を含む	
632	弥生土器 製塩土器		4.0	(2.4)	底部外面：指頭圧痕 内面：摩滅のため調整不明	外面：にぶい橙5YR6/3 内面：灰黄2.5Y6/2	1㎜以下の石英・長石・角閃石を含む	
633	弥生土器 底部		2.0	(2.7)	外面：指頭圧痕 内面：指頭圧痕	外面：灰白7.5YR8/1 内面：褐灰7.5YR4/1	0.5㎜以下の長石を含む	
634	弥生土器 高杯			(6.6)	外面：篦磨き 内面：指頭圧痕，なで	外面：にぶい橙7.5YR7/4 内面：にぶい橙7.5YR7/4	1～2㎜以下の石英・長石・角閃石を含む	
635	弥生土器 底部		3.6	(2.0)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：灰白7.5YR8/1 内面：明褐7.5YR5/8	2㎜以下の長石・石英を含む	
636	弥生土器 広口壺	15.0		(8.1)	口縁部外面：なで 頸部外面：摩滅のため調整不明 口縁部内面：なで 頸部内面：指頭圧痕，なで	外面：橙7.5YR7/6 内面：にぶい橙7.5YR7/4	1～2㎜以下の長石・石英を含む	
637	弥生土器 甕	12.2		(5.6)	外面：摩滅のため調整不明 体部内面：篦削り	外面：橙5YR6/8 内面：明赤褐5YR5/8	1～2㎜の長石・石英を含む	
638	弥生土器 底部		7.6	(3.6)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：にぶい黄橙10YR7/4 内面：浅黄橙10YR8/3	1～5㎜以下の石英・長石・雲母を含む	
639	弥生土器 広口壺	14.8		(4.9)	口縁部外面：なで 頸部外面：刷毛目，指頭圧痕 口縁部内面：なで 頸部内面：指頭圧痕	外面：橙7.5YR6/6 内面：にぶい橙7.5YR7/3	2㎜以下の長石・石英・角閃石・雲母を含む	
640	弥生土器 甕	14.2		(5.7)	口縁部外面：なで 体部外面：刷毛目 口縁部内面：なで 体部内面：指頭圧痕，篦磨き	外面：橙5YR7/6 内面：橙5YR7/6	1㎜以下の長石・石英を含む	口縁端部：凹線2条
641	弥生土器 甕		4.6	(8.2)	外面：叩き 内面：なで	外面：浅黄橙10YR8/3 内面：灰白10YR8/1	1～2㎜以下の石英・長石を含む	孔：11×14mm，内外面：黒斑
642	弥生土器 製塩土器		3.8	(9.5)	体部外面：篦削り 底部外面：指頭圧痕 体部外面：なで 底部外面：指頭圧痕	外面：にぶい褐7.5YR6/3 内面：橙7.5YR6/6	1㎜以下の長石・石英・角閃石を含む	
643	弥生土器 壺		2.8	(9.1)	体部外面：なで 体部内面：なで	外面：にぶい黄橙10YR7/4 内面：浅黄橙10YR8/4	3㎜以下の長石・石英等を含む	
644	弥生土器 甕	13.6		(4.5)	口縁部外面：なで 体部外面：刷毛目 口縁部内面：なで 体部内面：摩滅のため調整不明	外面：にぶい橙7.5YR6/4 内面：にぶい橙7.5YR6/4	1～2㎜以下の石英・長石・雲母を含む	
645	弥生土器 底部		5.6	(2.3)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：黒褐7.5YR3/1 内面：灰白N7/	1～3㎜以下の石英・長石を含む	
646	弥生土器 広口壺	21.2		(3.2)	口縁部外面：なで 口縁部内面：なで	外面：橙7.5YR7/6 内面：橙7.5YR6/8	2㎜以下の長石・雲母・角閃石を含む	
647	弥生土器 広口壺	17.1		(6.8)	口縁部外面：摩滅のため調整不明 頸部外面：刷毛目 内面：摩滅のため調整不明	外面：橙7.5YR6/8 内面：橙5YR6/6	3㎜以下の石英・長石・雲母を含む	
648	弥生土器 甕	16.1		(4.9)	口縁部外面：なで 体部外面：摩滅のため調整不明 口縁部内面：なで 体部上半内面：指頭圧痕	外面：にぶい褐7.5YR5/3 内面：灰褐7.5YR5/2	1㎜以下の長石・雲母・角閃石を含む	
649	弥生土器 甕	14.2		(4.1)	口縁部外面：なで 体部外面：摩滅のため調整不明 口縁部内面：なで 体部内面：摩滅のため調整不明	外面：にぶい褐7.5YR6/3 内面：にぶい黄橙10YR7/2	1㎜以下の石英・長石・雲母・角閃石を含む	
650	弥生土器 甕	17.0		(2.5)	口縁部外面：なで 口縁部内面：なで	外面：橙7.5YR6/6 内面：橙7.5YR6/6	3㎜以下の石英・長石・雲母・角閃石を含む	
651	弥生土器 甕	11.2		(4.2)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：灰白7.5YR8/1 内面：灰白7.5YR8/2	1㎜以下の石英・長石を含む	
652	弥生土器 底部		4.0	(3.2)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：にぶい橙7.5YR7/4 内面：橙7.5YR7/6	1㎜以下の長石・雲母・角閃石を含む	
653	弥生土器 中形鉢	27.0		(7.2)	外面：摩滅のため調整不明 内面：なで	外面：橙7.5YR7/6 内面：灰白7.5YR8/2	4.5㎜以下の長石・石英を含む	
654	弥生土器 高杯			(4.2)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：橙5YR7/6 内面：橙5YR7/6	1㎜以下の石英・長石を含む	
655	弥生土器 底部		4.4	(1.9)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：灰白10YR8/2 内面：灰白10YR8/1	0.2㎜以下の長石を含む	
656	弥生土器 底部		6.6	(11.8)	体部外面：刷毛目 底部外面：摩滅のため調整不明 体部内面：摩滅のため調整不明 底部内面：指頭圧痕	外面：にぶい赤褐5YR5/4 内面：にぶい褐7.5YR5/4	1～5㎜の石英・長石・雲母・角閃石を含む	
657	弥生土器 中形鉢	27.8		(5.9)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：橙7.5YR6/8 内面：灰黄褐10YR6/2	2㎜以下の長石・石英を含む	
658	弥生土器 底部		1.6	(4.1)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：浅黄橙7.5YR8/6 内面：浅黄橙7.5YR8/3	5㎜以下の石英を含む	
659	弥生土器 底部		4.0	(2.3)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：黄灰2.5Y4/1 内面：灰白2.5Y8/1	3㎜以下の石英，1㎜以下の雲母を含む	
660	弥生土器 底部		2.2	(5.8)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：明赤褐5YR5/6 内面：橙7.5YR6/6	4㎜以下の長石・石英を含む	
661	弥生土器 高杯		18.4	(4.9)	脚部外面：摩滅のため調整不明 脚部内面：篦削り	外面：橙7.5YR7/6 内面：橙7.5YR6/6	2.5㎜以下の長石・石英・角閃石を含む	
662	ガラス製品 ガラス玉	(長さ) 0.6	(幅) 0.6	(厚さ) 0.4		外面：青		重さ：0.2g
663	弥生土器 甕	14.8		(5.2)	外面：摩滅のため調整不明 口縁部内面：なで 体部内面：指頭圧痕	外面：赤橙10YR6/6 内面：橙2.5YR6/6	1～3㎜以下の長石・石英を含む	
664	弥生土器 広口壺	18.4		(1.8)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：にぶい橙7.5YR6/4 内面：にぶい橙7.5YR6/4	1㎜以下の長石を含む	
665	弥生土器 底部		4.4	(3.1)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：灰5Y6/1 内面：灰白10YR8/1	2㎜以下の石英を含む	
666	弥生土器 鉢		3.0	(6.5)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：灰白7.5YR8/2 内面：淡橙5YR8/4	1～3㎜以下の長石・石英を含む	
667	弥生土器 小型鉢		3.0	(5.2)	体部外面：摩滅のため調整不明 脚部外面：指頭圧痕 体部内面：摩滅のため調整不明	外面：橙5YR7/6 内面：橙5YR7/6	1～3㎜以下の長石・石英を含む	

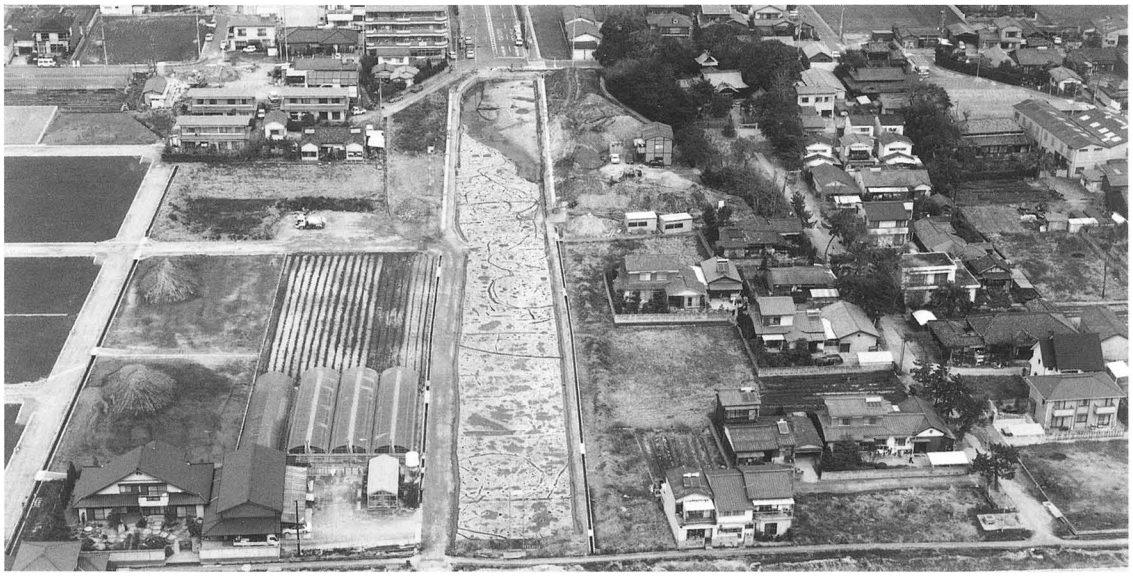
報告番号	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴	色調	胎土	備考
668	弥生土器 底部		8.0	(2.5)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：橙7.5YR7/6 内面：にぶい橙7.5YR7/4	1㎜以下の長石・角閃石を含む	外面：黒斑
669	弥生土器 長頸壺	17.6		(13.3)	口縁部外面：なで 頸部外面：刷毛目 口縁部内面：なで 頸部内面：指頭圧痕	外面：にぶい橙5YR7/4 内面：橙7.5YR6/6	1～3㎜以下の長石・石英を含む	口縁端部：沈線1条 頸部外面：沈線1条
670	弥生土器 甕	15.4		(26.9)	口縁部外面：なで 体部上半外面：刷毛目 体部下半外面：篦磨き 口縁部内面：なで 体部上半内面：指頭圧痕 体部下半内面：摩滅のため調整不明	外面：にぶい褐7.5YR6/3 内面：にぶい褐7.5YR7/3	1～3㎜以下の石英・長石・角閃石・雲母を含む	底部：黒斑
671	弥生土器 甕	14.4		(13.0)	口縁部外面：なで 体部外面：刷毛目 口縁部内面：なで 体部上半内面：指頭圧痕 体部下半内面：篦削り	外面：灰褐7.5YR6/2 内面：明灰褐7.5YR7/2	1～2㎜以下の長石・石英・角閃石を含む	体部内面：黒斑
672	弥生土器 高杯	24.4		(1.9)	口縁部外面：なで 口縁部内面：なで	外面：にぶい橙7.5YR7/4 内面：にぶい橙7.5YR7/4	1～2㎜以下の長石・石英・角閃石を含む	
673	弥生土器 高杯	20.0		(4.2)	口縁部外面：なで 杯部外面：摩滅のため調整不明 口縁部内面：なで 杯部内面：摩滅のため調整不明	外面：浅黄2.5Y7/3 内面：にぶい黄橙10YR6/4	1～5㎜以下の長石・石英・角閃石・雲母を含む	口縁部外面：黒斑
674	弥生土器 高杯		18.8	(14.3)	杯部外面：篦磨き 脚部外面：摩滅のため調整不明 杯部内面：篦磨き 脚部内面：篦削り	外面：にぶい褐7.5YR6/3 内面：にぶい褐7.5YR6/3	4㎜以下の長石・石英・角閃石を含む	脚部下位：円孔1穴
675	弥生土器 細頸壺	9.2		(8.9)	外面：摩滅のため調整不明 内面：指頭圧痕	外面：にぶい橙7.5YR6/4 内面：にぶい橙7.5YR7/3	1～2㎜以下の長石・石英を含む	
676	弥生土器 底部		2.4	(1.9)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：黄橙7.5YR7/8 内面：橙7.5YR7/6	1㎜以下の石英少々含む	
677	弥生土器 鉢	19.6	4.0	10.8	体部外面：指頭圧痕，なで 体部内面：指頭圧痕，なで	外面：灰白10YR8/2 内面：灰白10YR8/2	2㎜以下の長石・石英を含む	体部外面：粘土割れ 体部下半外面：黒斑
678	弥生土器 甕	13.0		(2.5)	口縁部外面：なで 口縁部内面：なで	外面：にぶい黄橙10YR6/4 内面：にぶい黄橙10YR6/3	2㎜以下の長石を含む	
679	弥生土器 鉢	22.0	5.4	6.7	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：褐灰10YR5/1 内面：褐灰10YR4/1	1～2㎜以下の長石・石英を含む	
680	弥生土器 絵画土器	(長さ) 3.9	(幅) 4.2	(厚さ) 0.7		外面：にぶい橙7.5YR6/4 内面：にぶい橙7.5YR6/4	3㎜以下の長石・石英・金雲母・角閃石等を含む	重さ：7.8g絵画？
681	打製石器 刃器	(長さ) 10.3	(幅) 6.1	(厚さ) 1.4		外面：灰N5/		重さ：93.8g サヌカイト
682	磨製石器 石庖丁未製品	(長さ) 5.6	(幅) 11.2	(厚さ) 1.1		外面：灰N5/		重さ：58.9g サヌカイト
683	磨製石器 砥石？	(長さ) 10.1	(幅) 7.8	(厚さ) 4.4		外面：灰白10YR7/1		重さ：563.6g
684	磨製石器 石錘	(長さ) 8.7	(幅) 7.4	(厚さ) 4.2		外面：灰白5Y7/1		重さ：374.7g
685	磨製石器 石錘	(長さ) 9.7	(幅) 7.5	(厚さ) 4.2		外面：灰白7.5Y7/1		重さ：496.1g 側面のみ有溝
686	打製石器 石鏃	(長さ) 5.4	(幅) 2.7	(厚さ) 0.7		外面：灰N5/		重さ：9.4g サヌカイト
687	磨製石器 たたき石	(長さ) 8.6	(幅) 4.1	(厚さ) 3.5	外面：研磨	外面：明褐灰7.5YR7/1		重さ：180.4g 外面：一部が黒色に変色
688	弥生土器 甕	13.2		(8.7)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：灰白7.5YR8/2 内面：灰白7.5YR8/1	1㎜以下の石英・長石を含む	口縁部から体部外面：黒斑
689	弥生土器 甕	13.2		(7.6)	口縁部外面：なで 体部外面：なで 口縁部内面：なで 体部内面：なで，板なで	外面：灰白2.5Y8/1 内面：灰白2.5Y8/2	2㎜以下の長石を多量に含む	
690	弥生土器 甕	10.8		13.5	外面：摩滅のため調整不明 口縁部内面：摩滅のため調整不明 体部内面：指頭圧痕	外面：灰白2.5Y8/2 内面：灰白2.5Y8/2	1㎜以下の砂粒を含む	口縁部から体部外面：黒斑
691	弥生土器 甕			(8.4)	体部外面：刷毛目，なで 体部内面：刷毛目，なで	外面：灰白2.5YR8/2 内面：灰白2.5YR8/2	1㎜以下の石英・長石・角閃石を含む	外面：黒斑
692	弥生土器 製塩土器		3.5	(2.6)	外面：板なで 内面：摩滅のため調整不明	外面：橙2.5YR6/6 内面：橙2.5YR6/6	1㎜以下の石英・長石・角閃石を多量に含む	
693	弥生土器 甕	14.8		(3.0)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：にぶい黄橙10YR7/4 内面：にぶい黄橙10YR7/3	2㎜以下の石英等を含む	
694	弥生土器 甕	12.8		(4.2)	口縁部外面：なで 体部外面：刷毛目 口縁部内面：なで 体部内面：摩滅のため調整不明	外面：にぶい橙7.5YR6/4 内面：にぶい橙7.5YR6/4	2㎜以下の石英・長石を含む	
695	弥生土器 底部		5.2	(1.8)	外面：なで 内面：なで，指頭圧痕	外面：灰黄褐10YR6/2 内面：灰黄褐10YR4/2	1㎜以下の石英・長石・雲母・角閃石を含む	外面：黒斑
696	弥生土器 甕	13.9		(3.9)	口縁部外面：なで 体部外面：摩滅のため調整不明 口縁部内面：なで 体部内面：指頭圧痕	外面：にぶい褐7.5YR6/3 内面：にぶい褐7.5YR6/3	3㎜以下の石英・長石・雲母を含む	口縁端部：凹線2条
697	弥生土器 底部		5.4	(7.3)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：明褐7.5YR5/6 内面：明褐灰7.5YR7/1	1.5㎜以下の長石・石英等を含む	
698	弥生土器 鉢	12.6		(8.3)	口縁部外面：刷毛目 体部外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：にぶい褐7.5YR6/3 内面：灰黄褐10YR5/2	1㎜以下の砂粒を含む	
699	弥生土器 甕	14.4		(7.7)	口縁部外面：なで 体部外面：粗い刷毛目 口縁部内面：なで 体部内面：指頭圧痕	外面：にぶい橙5YR6/4 内面：にぶい橙7.5YR6/4	1～3㎜以下の石英・長石・角閃石を含む	体部外面：黒斑
700	弥生土器 底部		6.7	(2.7)	底部外面：篦磨き 底部内面：篦削り	外面：にぶい橙5YR6/3 内面：橙5YR6/6	4㎜以下の花崗岩・石英等を含む	
701	弥生土器 甕底部			(6.2)	外面：摩滅のため調整不明 内面：なで	外面：灰白7.5YR8/2 内面：灰白7.5YR8/1	1㎜以下の石英・長石を含む	
703	弥生土器 底部		5.5	(6.0)	体部外面：篦磨き 体部内面：篦削り	外面：にぶい黄橙10YR7/3 内面：にぶい橙7.5YR7/3	1㎜以下の石英・長石を少量含む	外面：煤付着
702	弥生土器 底部			(3.8)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：灰白2.5Y8/2 内面：黄灰2.5Y4/1	4㎜以下の石英，1㎜以下の雲母・角閃石を含む	
704	弥生土器 鉢底部		3.9	(3.3)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：浅黄橙7.5YR8/3 内面：橙7.5YR7/6	2㎜以下の石英を含む	
705	弥生土器 甕	19.8		(1.5)	口縁部外面：なで 口縁部内面：なで	外面：橙7.5YR6/6 内面：にぶい橙7.5YR7/4	1㎜以下の石英・長石を含む	
706	弥生土器 高杯脚部		15.8	(4.6)	脚部外面：横なで 脚部内面：篦削り	外面：にぶい橙7.5YR7/4 内面：にぶい黄橙10YR7/3	1㎜以下の石英・長石・角閃石を含む	外面：黒斑

報告番号	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴	色調	胎土	備考
707	弥生土器 甕	13.4		(12.7)	口縁部外面：なで 体部外面：刷毛目 口縁部内面：なで 体部上半内面：指頭圧痕 体部下半内面：篦削り	外面：にぶい橙7.5ＹＲ6/4 内面：にぶい橙7.5ＹＲ6/4	3㎜以下の長石等を含む	
708	弥生土器 高杯			(10.2)	脚部外面：なで 脚部内面：なで	外面：にぶい黄橙10ＹＲ6/3 内面：にぶい黄橙10ＹＲ6/3	微砂粒を含む	脚部：円孔３穴
709	弥生土器 底部			(3.3)	外面：なで 内面：なで	外面：にぶい橙7.5ＹＲ7/4 内面：灰白10ＹＲ8/2	1㎜以下の石英・長石を含む	
710	弥生土器 広口壺	18.0		(5.5)	体部外面：刷毛目 口縁部内面：横なで 頸部内面：なで，指頭圧痕 体部内面：篦削り	外面：橙7.5ＹＲ6/6 内面：にぶい橙7.5ＹＲ6/4	1㎜以下の石英・長石を含む	
711	弥生土器 小型甕	10.1	4.2	9.9	口縁部外面：なで 体部外面：なで，篦削り，指頭圧痕 口縁部内面：なで，指頭圧痕 体部内面：なで，指頭圧痕	外面：にぶい黄橙10ＹＲ7/3 内面：にぶい橙7.5ＹＲ7/3	1～3㎜以下の石英・長石・角閃石・雲母を含む	体部外面：黒斑
712	弥生土器 甕	21.0		(6.6)	外面：摩滅のため調整不明 口縁部内面：篦削り後指頭圧痕 体部内面：篦削り後指頭圧痕	外面：灰白2.5Ｙ8/2 内面：黄灰2.5Ｙ5/1	4㎜以下の石英・長石・雲母を含む	体部外面：突帯１条
713	弥生土器 蓋	22.0		(1.4)	体部外面：指頭圧痕 内面：摩滅のため調整不明	外面：にぶい橙5ＹＲ6/4 内面：淡黄2.5Ｙ8/3	5㎜以下の石英・長石を含む	
714	弥生土器 甕底部		5.8	(5.6)	体部外面：篦磨き 内面：摩滅のため調整不明	外面：灰白10ＹＲ8/1 内面：褐灰10ＹＲ5/1	2㎜以下の石英・長石を含む	
715	弥生土器 高杯	24.0		(7.2)	口縁部外面：なで 杯底部外面：篦削り後篦磨き 口縁部内面：なで 杯底部内面：篦磨き	外面：にぶい黄橙10ＹＲ7/4 内面：にぶい黄橙10ＹＲ7/4	2㎜以下の石英・長石を含む	
716	弥生土器 大形片口鉢	40.6		(10.9)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：にぶい橙7.5ＹＲ7/4 内面：にぶい黄橙10ＹＲ7/4	4㎜以下の石英・長石を含む	
717	弥生土器 高杯			(4.5)	外面：摩滅のため調整不明 脚部内面：指頭圧痕	外面：にぶい褐7.5ＹＲ5/3 内面：にぶい褐7.5ＹＲ5/3	1～3㎜以下の石英・長石・雲母を含む	
718	弥生土器 甕	16.2	5.2	23.5	口縁部外面：なで 頸部外面：刷毛目 体部上半外面：摩滅のため調整不明 体部下半外面：篦磨き 底部側面外面：指頭圧痕 口縁部内面：なで 体部上半内面：指頭圧痕 体部下半内面：篦削り	外面：にぶい黄橙10ＹＲ7/3 内面：灰白2.5Ｙ8/1	1㎜以下の石英・長石を含む	底部：円孔 底部外面：黒斑
719	弥生土器 甕	14.4		(20.3)	口縁部外面：なで 体部上半外面：刷毛目 体部下半外面：篦磨き 口縁部内面：なで 体部上半内面：指頭圧痕 体部下半内面：篦削り	外面：橙7.5ＹＲ7/6 内面：にぶい黄橙10ＹＲ7/4	6㎜以下の石英・長石・角閃石を含む	外面：煤付着
720	弥生土器 高杯脚部		19.2	(3.3)	外面：なで 内面：篦削り	外面：にぶい褐7.5ＹＲ5/4 内面：にぶい褐7.5ＹＲ5/4	1㎜以下の石英・長石・角閃石を含む	脚部：円孔２×１箇所
721	弥生土器 甕	9.7		(6.7)	体部外面：指頭圧痕 口縁部内面：指頭圧痕 体部内面：指頭圧痕	外面：橙2.5Ｙ6/6 内面：浅黄橙10ＹＲ8/3	2㎜以下の石英・長石を含む	
722	弥生土器 甕	15.8		(3.9)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：浅黄2.5Ｙ7/3 内面：浅黄2.5Ｙ7/3	4㎜以下の石英・長石・雲母を含む	
723	鉄製品 鉄器	(長さ) (4.5)				外面：明褐7.5ＹＲ5/6		重さ：6.8g
724	磨製石器 石器	(長さ) 3.5	(幅) 1.0	(厚さ) 1.1		外面：黄灰2.5Ｙ6/1		重さ：4.3g
725	弥生土器	15.4		(1.7)	口縁部外面：なで 広口壺口縁部内面：なで	外面：橙5ＹＲ6/6 内面：橙5ＹＲ6/6	4㎜以下の石英・長石を含む	
726	弥生土器 長頸壺			(8.9)	頸部外面：細かい刷毛目 頸部内面：指頭圧痕	外面：にぶい橙7.5ＹＲ6/4 内面：にぶい黄橙10ＹＲ6/4	2㎜以下の石英・長石・雲母を含む	
727	弥生土器 中形鉢	26.5		(8.8)	口縁部外面：なで 体部外面：摩滅のため調整不明 口縁部内面：なで 体部内面：篦磨き	外面：にぶい橙7.5ＹＲ6/4 内面：にぶい褐7.5ＹＲ6/3	1㎜以下の石英・長石・角閃石・雲母を含む	
728	土師器 杯	13.8		(5.8)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：橙2.5ＹＲ7/6 内面：橙7.5ＹＲ7/6	1㎜以下の石英・長石を含む	
729	土師器 甕	18.0		(3.3)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：灰白7.5ＹＲ8/2 内面：灰白7.5ＹＲ8/2	1～5㎜以下の石英・長石を多量に含む	
730	須恵器 壺		6.3	(2.1)	外面：回転なで 内面：回転なで	外面：灰白N7/ 内面：灰白N8/	やや粗，1㎜以下の石英・長石を含む	
731	須恵器 甕			(8.7)	口縁部外面：回転なで 体部外面：格子目叩き 口縁部内面：回転なで 体部内面：同心円当て痕	外面：灰白N7/ 内面：灰N6/	密	
732	須恵器 甕			(8.5)	外面：格子目叩き 内面：同心円当て痕	外面：灰白N7/ 内面：灰白N7/	密	
733	弥生土器 甕	13.4		(2.1)	口縁部外面：なで 口縁部内面：なで	外面：橙7.5ＹＲ6/6 内面：橙7.5ＹＲ6/8	0.5㎜以下の石英を多く含む	
734	弥生土器 底部			(7.5)	外面：刷毛目 内面：篦削り，指頭圧痕	外面：明褐7.5ＹＲ5/6 内面：明褐灰7.5ＹＲ7/2	1㎜以下の石英・長石を含む	
735	弥生土器 底部		4.4	(4.6)	外面：刷毛目 内面：板なで	外面：橙7.5ＹＲ6/8 内面：灰白10ＹＲ8/1	1㎜以下の石英・長石，5㎜以下の長石を少量含む	外面：黒斑
736	弥生土器 高杯脚柱部			(6.3)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：灰白7.5ＹＲ8/2 内面：灰白7.5ＹＲ8/2	1～2㎜以下の石英・長石を含む	
737	弥生土器 製塩土器			(3.0)	外面：指頭圧痕 内面：摩滅のため調整不明	外面：赤10Ｒ5/6 内面：明赤褐2.5ＹＲ5/6	1～3㎜以下の石英・長石を含む	杯部内面：黒斑
738	弥生土器 土師器鍋	34.0		(2.9)	口縁部外面：なで 口縁部内面：なで	外面：灰黄褐10ＹＲ5/2 内面：にぶい橙10ＹＲ6/4	2㎜以下の角閃石を含む	
739	打製石器 石庖丁	(長さ) 5.0	(幅) 4.8	(厚さ) 0.9		外面：灰N5/		重さ：27.9g サヌカイト
740	弥生土器 広口壺	15.8		(1.9)	外面：なで 内面：なで	外面：橙5ＹＲ6/6 内面：橙5ＹＲ6/6	1㎜以下の石英・長石・角閃石を含む	
741	弥生土器 広口壺			(17.1)	頸部外面：刷毛目 体部外面：刷毛目 頸部内面：指頭圧痕 体部内面：指頭圧痕，篦削り	外面：にぶい橙7.5ＹＲ7/4 内面：灰黄2.5Ｙ7/2	1㎜以下の石英・長石・角閃石を含む	
742	弥生土器 長頸壺			(7.4)	外面：摩滅のため調整不明 内面：指頭圧痕	外面：橙7.5ＹＲ6/6 内面：灰白10ＹＲ7/1	1～2㎜以下の石英・長石を含む	外面：黒斑
743	弥生土器 台付小型丸底鉢			(2.8)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：にぶい黄橙10ＹＲ6/4 内面：にぶい黄橙10ＹＲ6/4	1㎜以下の石英・長石・角閃石を含む	

報告番号	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴	色調	胎土	備考
744	弥生土器 甕	16.0		(3.7)	外面：摩滅のため調整不明 体部内面：指頭圧痕	外面：橙7.5YR6/6 内面：橙7.5YR6/6	3㎜以下の石英・長石・角閃石・雲母を含む	
745	弥生土器 甕	15.8		(1.9)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：にぶい橙7.5YR6/4 内面：にぶい橙7.5YR7/4	1㎜以下の長石・石英を含む	
746	弥生土器 甕	12.6		(3.1)	口縁部外面：なで 体部外面：摩滅のため調整不明 口縁部内面：なで 体部内面：指頭圧痕	外面：にぶい橙7.5YR6/4 内面：にぶい橙7.5YR6/4	1㎜以下の石英・長石・雲母を含む	
747	弥生土器 甕	10.0		(2.4)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明，接合痕	外面：灰白7.5YR8/2 内面：黄灰2.5Y5/1	1㎜以下の石英・長石を含む	
748	弥生土器 大型片口鉢	38.4		(7.0)	外面：なで 内面：なで	外面：にぶい橙5YR7/4 内面：にぶい橙5YR6/4	1～2㎜以下の石英・長石・角閃石を含む	
749	弥生土器 高杯	19.4		(4.2)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：にぶい黄橙10YR7/3 内面：にぶい黄橙10YR7/4	0.5㎜以下の長石・石英・角閃石を含む	
750	弥生土器 高杯	17.2		(4.1)	杯部外面：なで 杯部内面：なで	外面：にぶい橙7.5YR6/4 内面：にぶい黄橙10YR7/3	1～3㎜以下の石英・長石・角閃石を含む	
751	弥生土器 高杯	18.6		(3.9)	外面：なで 内面：なで	外面：にぶい橙7.5YR6/4 内面：にぶい橙7.5YR6/4	1㎜以下の石英・長石・角閃石・雲母を含む	
752	弥生土器 高杯			(6.8)	外面：摩滅のため調整不明 杯部内面：篦磨き 脚部内面：篦削り	外面：にぶい橙7.5YR7/4 内面：橙5YR6/6	1～3㎜以下の石英・長石・角閃石を含む	
753	弥生土器 高杯		17.4	(3.2)	脚部外面：摩滅のため調整不明 脚端部外面：なで 内面：摩滅のため調整不明	外面：にぶい橙7.5YR6/4 内面：にぶい橙7.5YR6/4	2㎜以下の長石を含む	
754	弥生土器 鉢			(6.5)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：橙7.5YR7/6 内面：にぶい橙7.5YR7/3	5㎜以下の石英・長石を含む	
755	弥生土器 底部		5.4	(4.1)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：にぶい黄橙10YR7/3 内面：灰白10YR8/2	2㎜以下の石英・長石・角閃石を含む	底部外面：黒斑
756	弥生土器 底部		2.6	(8.0)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：浅黄橙7.5YR8/3 内面：浅黄橙10YR8/3	密	
757	弥生土器 底部		2.4	(4.5)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：橙7.5YR7/6 内面：橙5YR6/6	1～2㎜以下の石英・長石・雲母を含む	
758	弥生土器 底部			(4.5)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：灰白10YR8/2 内面：灰白7.5YR8/1	1～3㎜以下の石英・長石を含む	
759	弥生土器 底部		3.6	(4.1)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：淡黄2.5Y8/3 内面：灰白2.5Y8/2	微砂粒を含む	
760	弥生土器 底部		6.0	(3.8)	外面：なで 内面：篦削り	外面：にぶい橙5YR6/4 内面：にぶい橙5YR6/3	1～3㎜以下の石英・長石・角閃石を含む	
761	弥生土器 底部		6.8	(3.8)	外面：指頭圧痕 内面：篦削り	外面：にぶい褐7.5YR6/3 内面：にぶい褐7.5YR6/3	1㎜以下の長石・角閃石を含む	外面：黒斑
762	弥生土器 底部		6.2	(2.0)	外面：摩滅のため調整不明 底部内面：板なで	外面：黒褐7.5YR3/1 内面：にぶい褐7.5YR6/3	4㎜以下の石英1㎜以下の雲母・角閃石を含む	
763	弥生土器 底部		4.3	(1.9)	外面：叩き 内面：指頭圧痕	外面：にぶい橙2.5YR6/4 内面：赤灰2.5YR4/1	3㎜以下の石英・長石を含む	
764	弥生土器 製塩土器		3.2	(1.2)	外面：指頭圧痕，叩き 内面：摩滅のため調整不明	外面：褐灰10YR4/1 内面：褐灰10YR5/1	1～2㎜以下の石英・長石を含む	
765	弥生土器 製塩土器		3.9	(2.8)	外面：指頭圧痕 内面：なで	外面：灰白10YR8/1 内面：褐灰10YR4/1	1㎜以下の長石を含む	
766	弥生土器 製塩土器		3.6	(2.3)	外面：指頭圧痕，なで 内面：なで	外面：にぶい黄橙10YR7/2 内面：褐灰10YR5/1	1㎜以下の長石・角閃石を含む	
767	不明土器	(長さ) (9.3)	(幅) 3.5	(厚さ)	外面：なで 内面：刷毛目	外面：灰白2.5Y8/1 内面：灰白10YR8/1	1㎜以下の長石を含む	一部黒斑
768	弥生土器 高杯	28.7		(3.1)	口縁部外面：なで 口縁部内面：なで	外面：にぶい橙7.5YR6/4 内面：橙7.5YR6/6	3㎜以下の長石・石英を含む	口縁端部：沈線状の凹線3条
769	弥生土器 底部		1.3	(2.2)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：浅黄2.5Y7/3 内面：灰白2.5Y8/1	3㎜以下の石英を含む	
770	弥生土器 甕	19.4		(11.3)	口縁部外面：なで 体部外面：刷毛目 口縁部内面：なで 体部内面：指頭圧痕	外面：にぶい橙7.5YR6/4 内面：明褐灰7.5YR7/2	2㎜以下の長石を含む	
771	須恵器 蓋	15.3		(2.1)	外面：回転なで 内面：回転なで	外面：灰白N7/ 内面：灰白N8/	密	
772	須恵器 蓋	19.0		(1.3)	口縁部外面：回転なで 口縁部内面：回転なで	外面：灰白10YR7/1 内面：灰白10YR7/1	0.5㎜以下の石英を含む	
773	須恵器 蓋			(1.4)	外面：回転なで 内面：回転なで	外面：灰N6/ 内面：灰N6/	密	
774	須恵器 杯	12.2		(3.3)	外面：回転なで 内面：回転なで	外面：灰白10YR7/1 内面：灰白10YR7/1	密	
775	須恵器 杯	12.6		(3.4)	口縁部外面：回転なで 杯部外面：回転なで 口縁部内面：回転なで 杯部内面：回転なで	外面：褐灰10YR6/1 内面：褐灰10YR6/1	1㎜以下の石英・長石を含む	
776	須恵器 杯	12.0	9.2	4.6	口縁部外面：回転なで 体部外面：回転なで 口縁部内面：回転なで 体部内面：回転なで	外面：灰白10YR7/1 内面：灰白10YR7/1	1㎜以下の石英を含む	
777	須恵器 杯		12.8	(3.8)	外面：回転なで 内面：回転なで	外面：灰白N7/ 内面：灰白N7/	やや粗，1～2㎜以下の石英・長石を含む	
778	須恵器 杯		10.6	(1.7)	底部外面：回転なで 底部内面：回転なで	外面：灰白10YR7/1 内面：灰白10YR7/1	密	
779	須恵器 杯		6.7	(0.9)	底部外面：回転なで 底部内面：回転なで	外面：灰白N7/ 灰：N6/	密	
780	須恵器 高杯	13.0		(1.5)	体部外面：回転なで 体部内面：回転なで	外面：灰白N7/ 内面：褐灰10YR6/1	密	
781	須恵器 壺		9.9	(4.1)	体部外面：回転なで 底部外面：回転なで 体部内面：回転なで 底部内面：回転なで	外面：灰白N8/ 内面：灰白N8/	密	体部・底部内面：自然釉
782	須恵器 甕			(8.6)	体部外面：回転なで 体部内面：回転なで	外面：灰白10YR7/1 内面：灰白5Y7/1	密	
783	玉製品 管玉	(長さ) 1.4	(幅) 0.6	(厚さ) 0.6		外面：明青灰10BG7/1 内面：明青灰10BG7/1		重さ：0.7g
784	須恵器 杯	14.0	10.0	2.7	体部外面：回転なで 底部外面：回転なで，篦削り 体部内面：回転なで	外面：灰白N8/ 内面：灰白N8/	密	
785	土師器 皿	10.4	6.0	2.9	体部外面：回転なで 底部外面：板名で，篦削り 体部内面：回転なで	外面：淡橙5YR8/3 内面：灰白5YR8/2	密	
786	土師器 皿	10.6	7.0	2.3	体部外面：回転なで 底部外面：篦切り 内面：回転なで	外面：灰白2.5Y8/2 内面：灰白2.5Y8/2	密	

報告番号	器種	法量(cm)			形態・手法の特徴	色調	胎土	備考
		口径	底径	器高				
787	土師器 皿	10.6	6.2	2.2	口縁部外面：なで 体部外面：なで 底部外面：回転篦切り 内面：なで	外面：灰白2.5Y8/2 内面：灰白2.5Y8/2	密	
788	須恵器 甕			(5.8)	体部外面：格子目叩き 体部内面：同心円文当て痕	外面：灰N5/ 内面：灰N6/	密	
789	弥生土器 壺		9.0	21.9	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：灰白10YR8/1 内面：灰白7.5YR8/1	1～3㎜以下の石英・長石を含む	
790	弥生土器 甕	14.8		(21.9)	外面：摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	外面：にぶい橙7.5YR7/3 内面：橙7.5YR6/6	1～3㎜以下の石英・長石・角閃石を含む	
791	打製石器 石鏃	(長さ) 4.7	(幅) (3.0)	(厚さ) 0.5		外面：灰N5/		重さ：5.3g サヌカイト
792	磨製石器 石庖丁	(長さ) 7.6	(幅) 5.8	(厚さ) 0.7		外面：灰白2.5Y7/1		重さ：51.0g 粘板岩

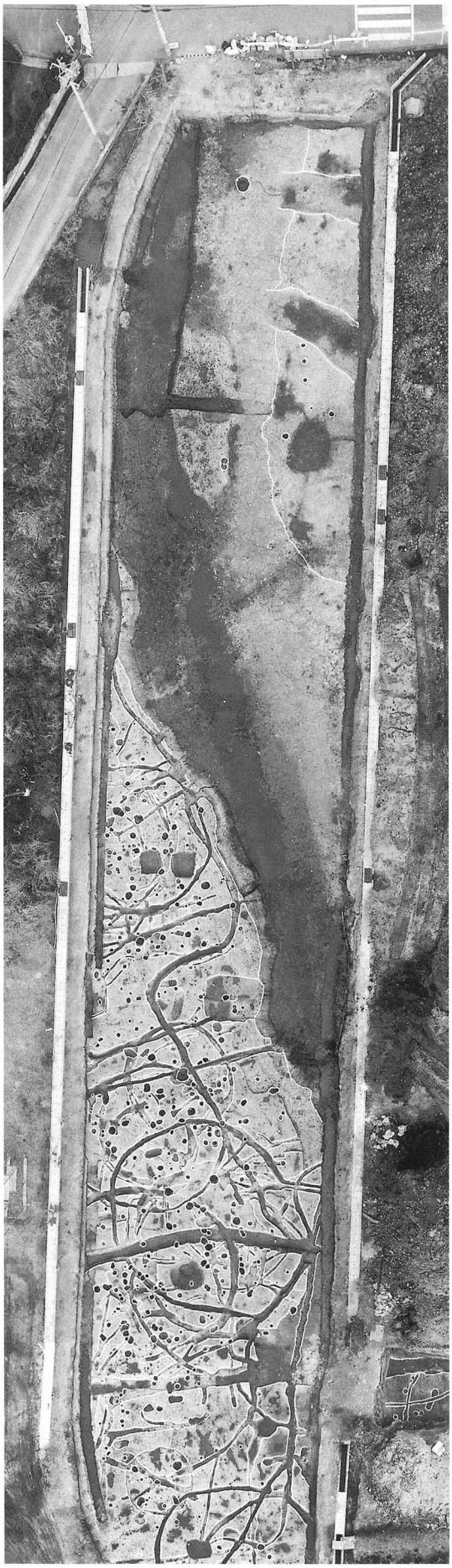
調査区周辺全景（航空写真，南から北を望む，向かって右が春日川）



調査区全景（航空写真，南から）

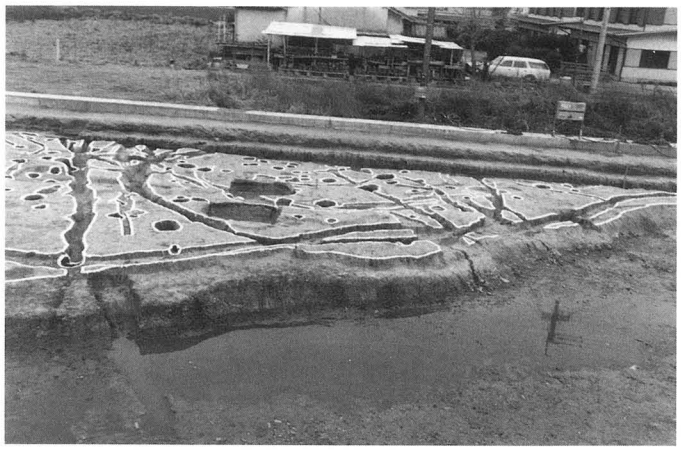
調査区付近全景（航空写真，東から，向かって右側が熊野神社社叢）

図版2

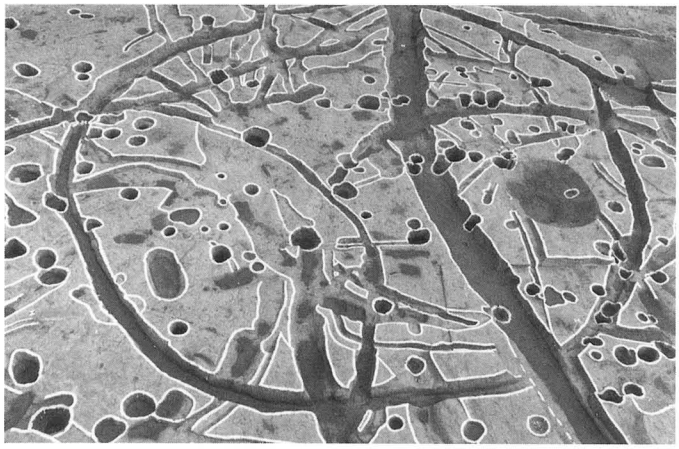


調査区全景（北半分，上が略北）

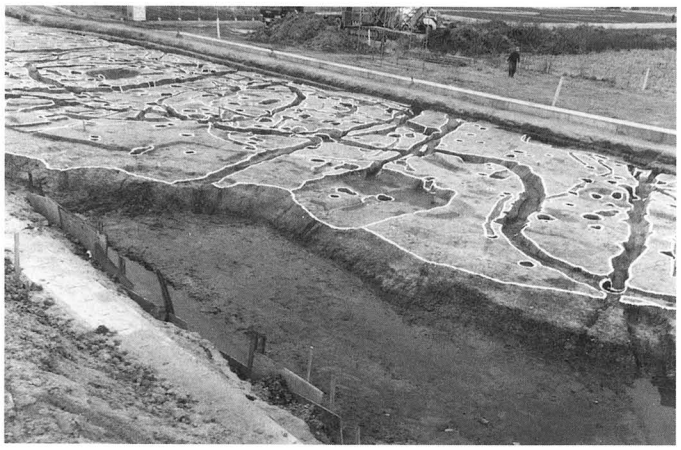
調査区全景（南半分，上が略北）



1　3～4区完掘状況（東から）

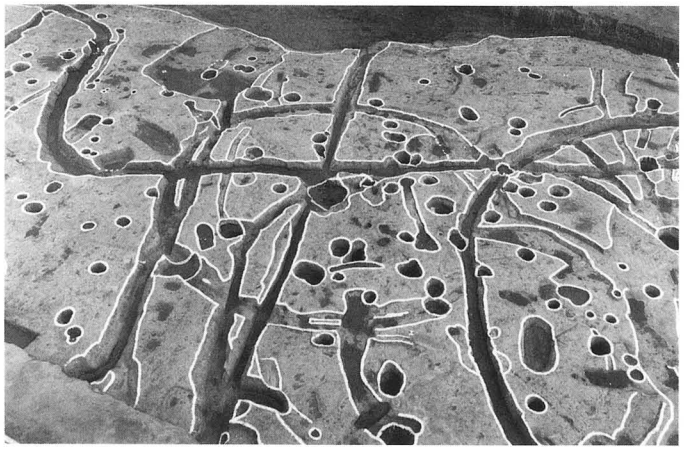


5　5区（SH10・11）完掘状況（西から）



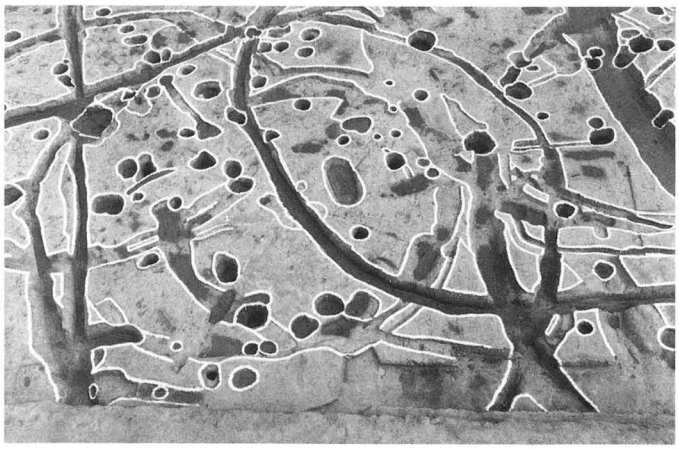
2　4～5区完掘状況（北東から）

6　5～6区完掘状況（北西から）



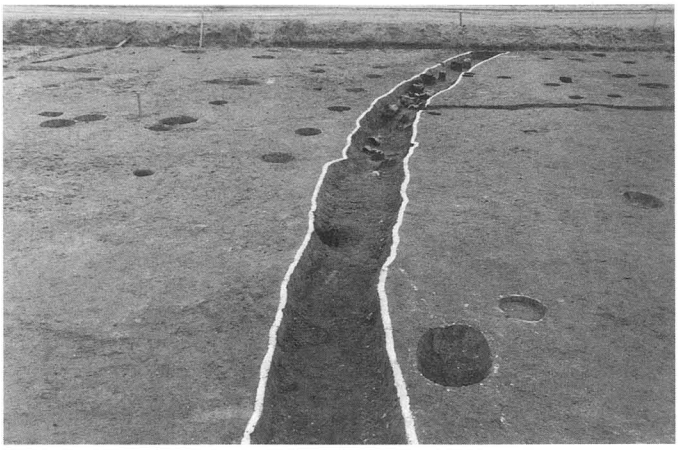
3　4区（SH04）完掘状況（西から）

7　6～11区完掘状況（北西から）



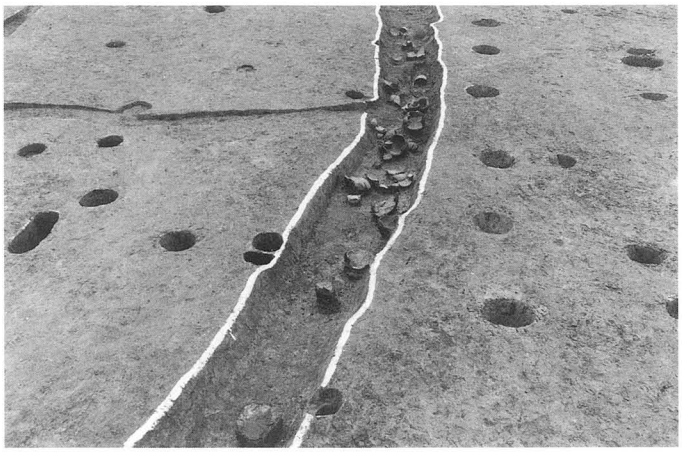
4　5区（SH03）完掘状況（西から）

8　6m街路完掘状況（南東から）



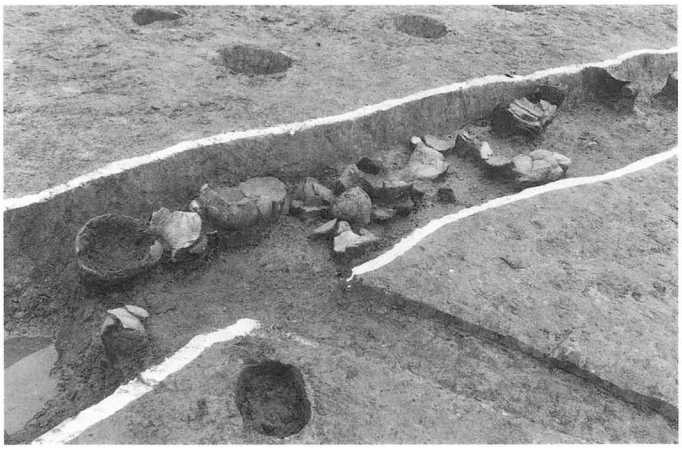
1　ＳＤ11完掘状況（東から）

5　ＳＤ63完掘状況（西から）



2　ＳＤ11遺物出土状況（西から）

6　ＳＤ63遺物出土状況（東から）



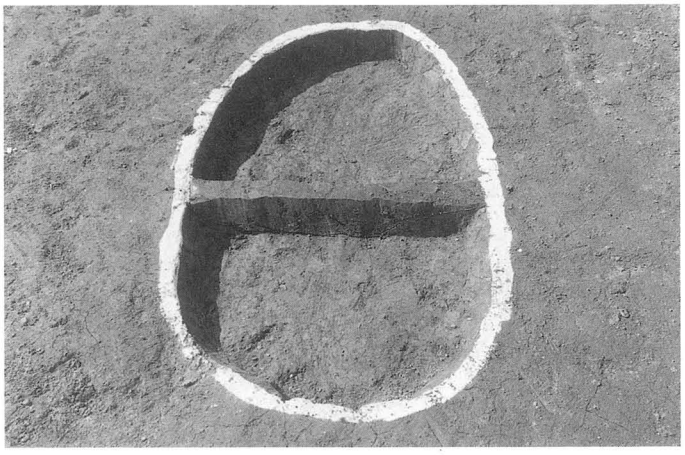
3　ＳＤ11遺物出土状況（北東から）

7　ＳＤ63遺物出土状況（南西から）

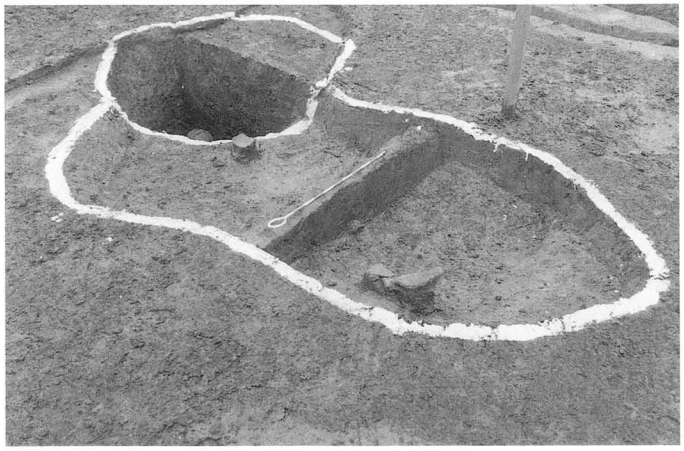
4　ＳＤ11断面②（東から）

8　ＳＤ63断面⑥（西から）

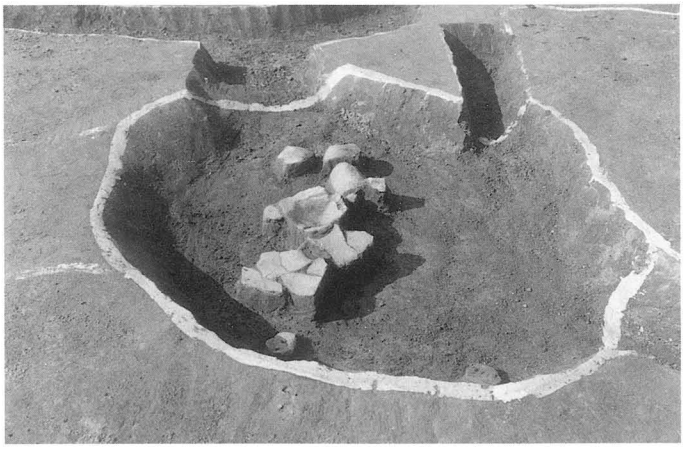
1　ＳＤ63断面⑦（北から）



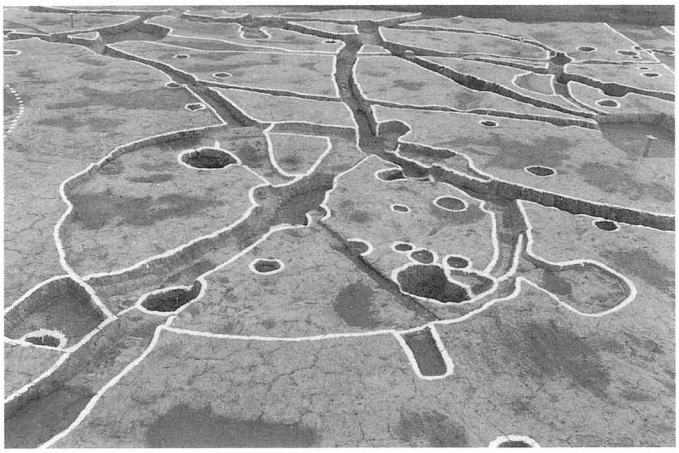
2　ＳＫ06完掘状況（東から）



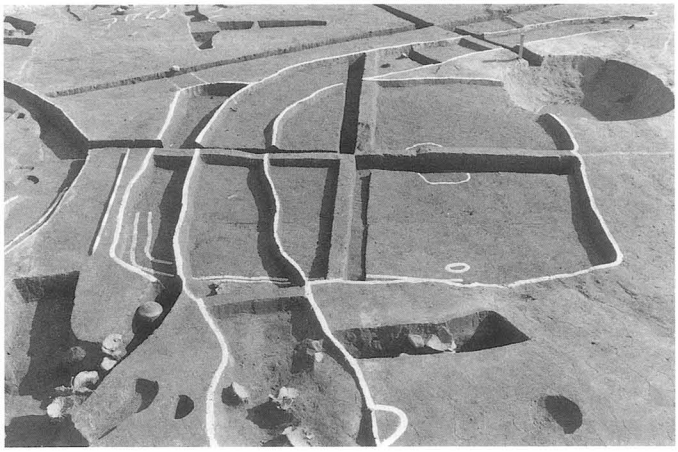
3　ＳＫ07掘削状況（北東から）



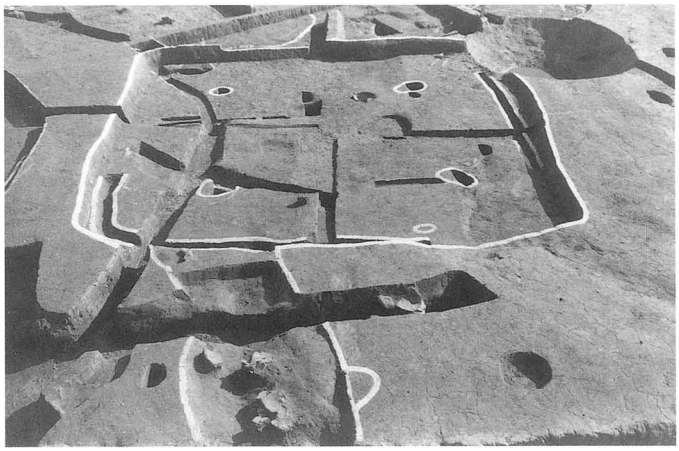
4　ＳＫ10遺物出土状況（南から）



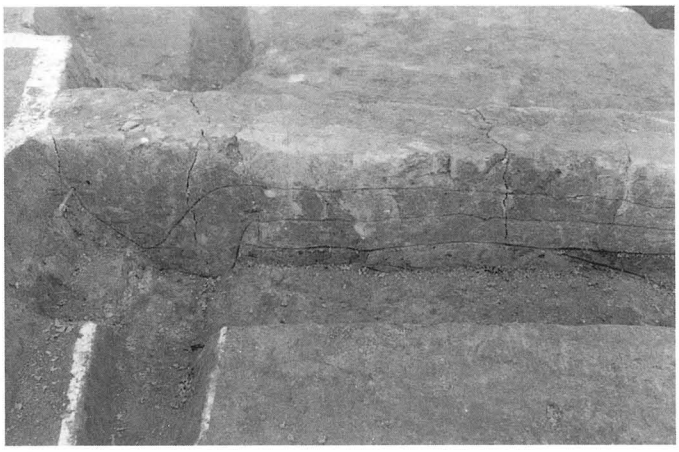
5　ＳＨ01完掘状況（西から）



6　ＳＨ02第２次床面＆ＳＤ60（西から）



7　ＳＨ02第１次床面（西から）

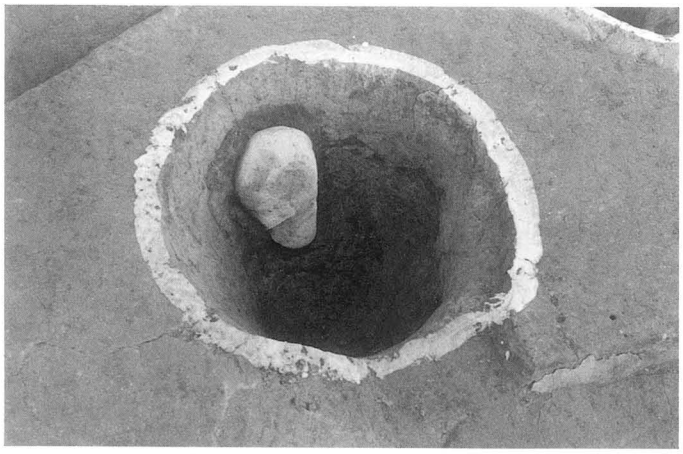


8　ＳＨ02東西断面（西端，南から）

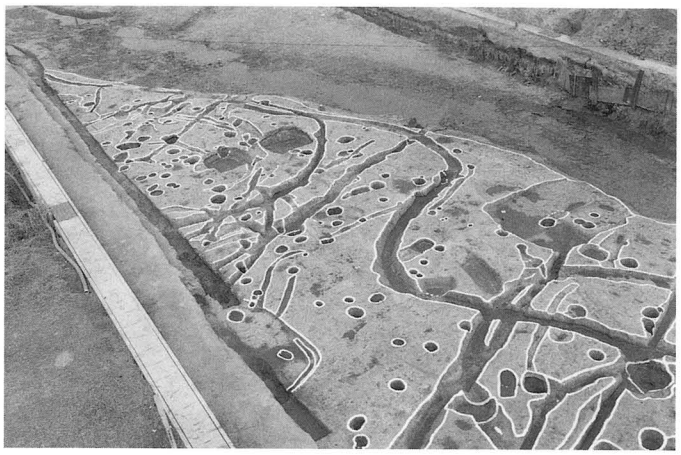
1　ＳＨ03・04完掘状況（東から）

2　ＳＨ03完掘状況（西から）

3　ＳＨ04完掘状況（西から）



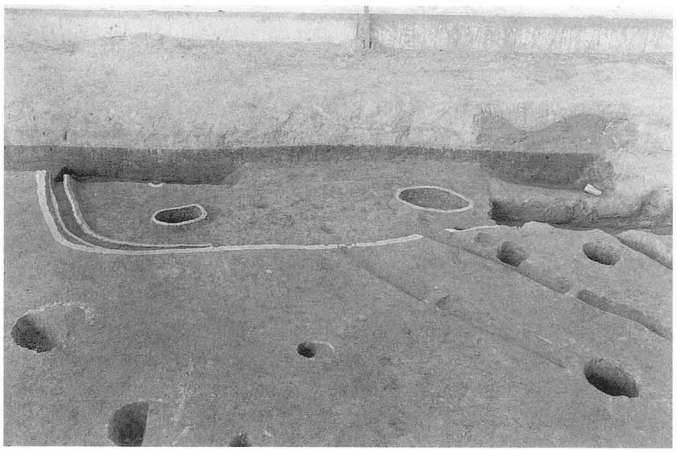
4　ＳＨ04柱穴（ＳＰ4-123）完掘状況（南西から）



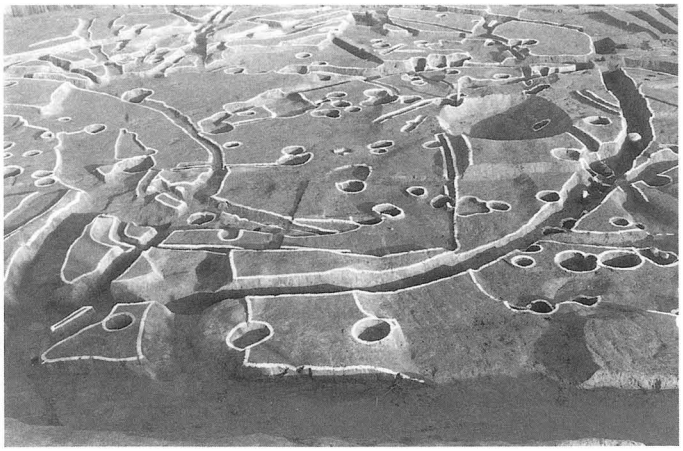
5　ＳＨ05～07完掘状況（南西から）

6　ＳＨ05・06南北断面（ＳＨ06炉址，西から）

7　ＳＨ07完掘状況（西から）



8　ＳＨ08完掘状況（東から）



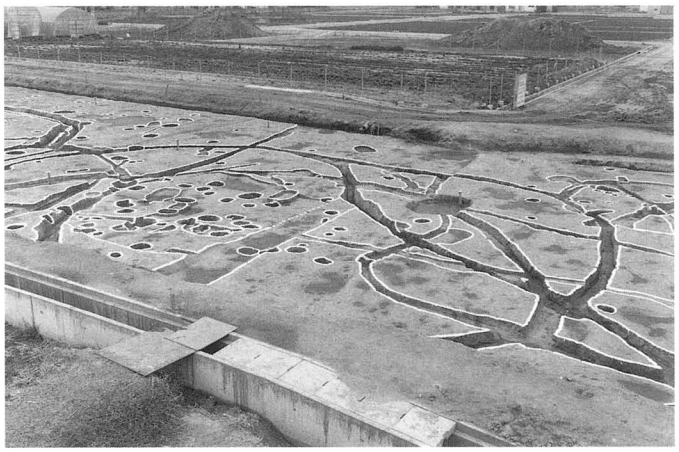
1　ＳＨ10・11完掘状況（西から）

5　ＳＤ62（ＳＨ11周講）遺物出土状況（北から）

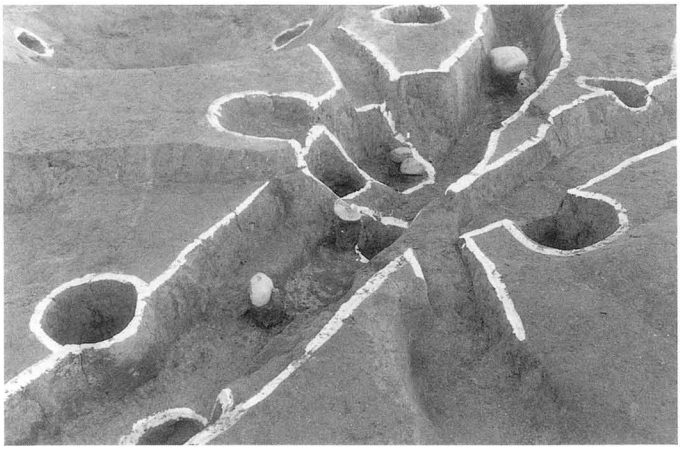
2　ＳＨ11炉址遺物出土状況（北から）

6　ＳＤ62断面（東から）

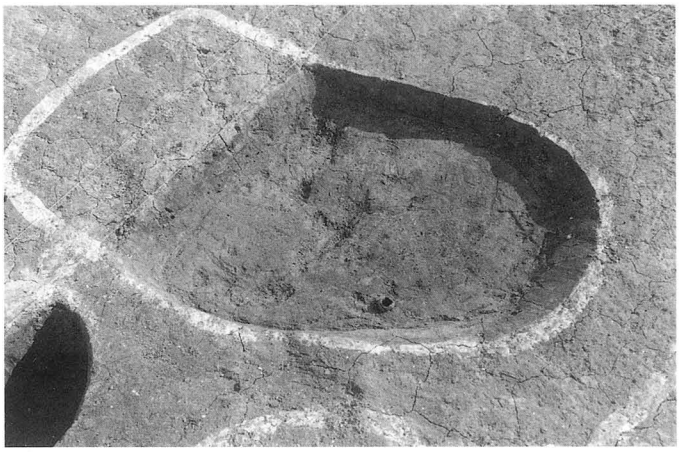
3　ＳＨ11炉址完掘状況（北西から）



7　ＳＨ14・15完掘状況（東から）



4　ＳＤ59（ＳＨ11周溝）遺物出土状況（西から）



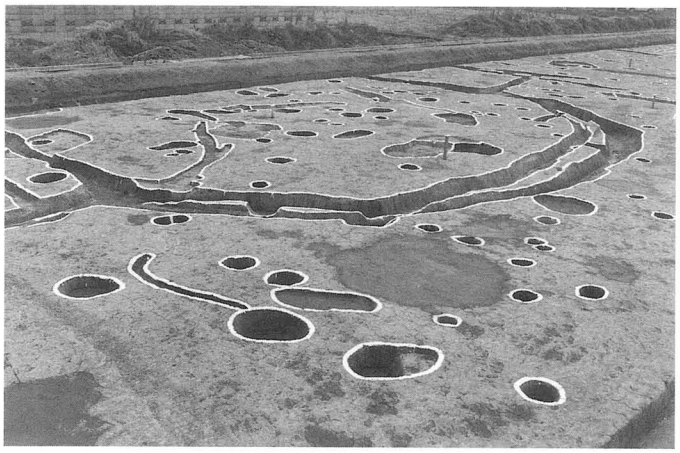
8　ＳＨ14炉址完掘状況（北西から）

1　ＳＨ15炉址断面（西から）

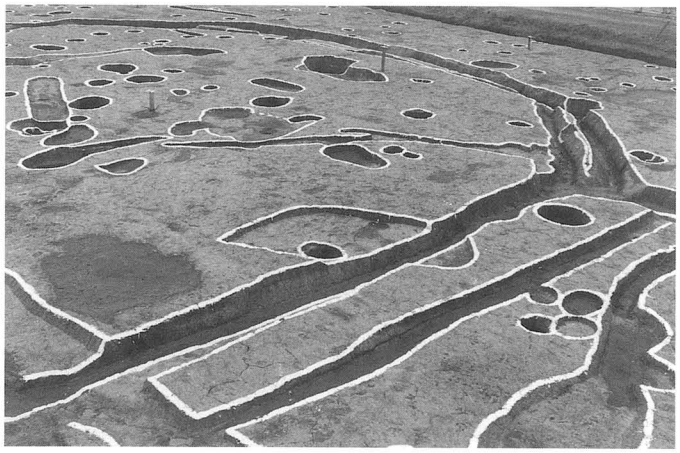
2　ＳＤ46（ＳＨ14・15周溝）遺物出土状況（北から）

3　ＳＤ46（ＳＨ14・15周溝）断面（西から）

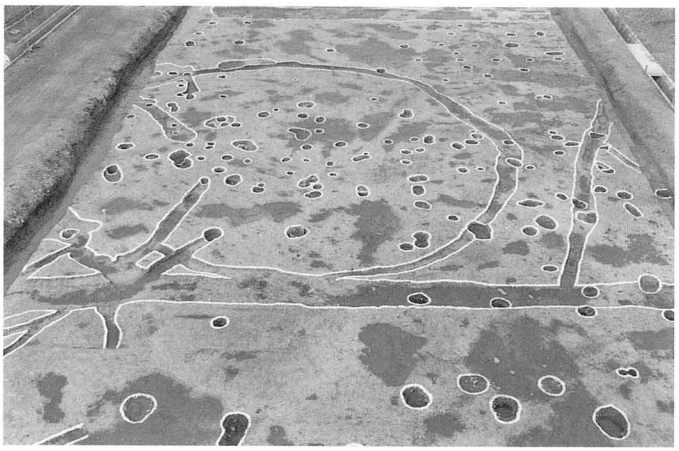
4　ＳＤ141（ＳＨ14・15周溝）断面（東から）



5　ＳＨ16・17完掘状況（北西から）

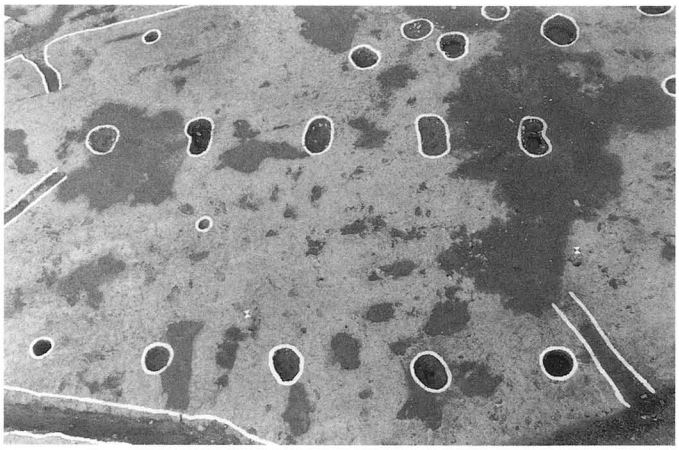


6　ＳＨ17完掘状況（北東から）

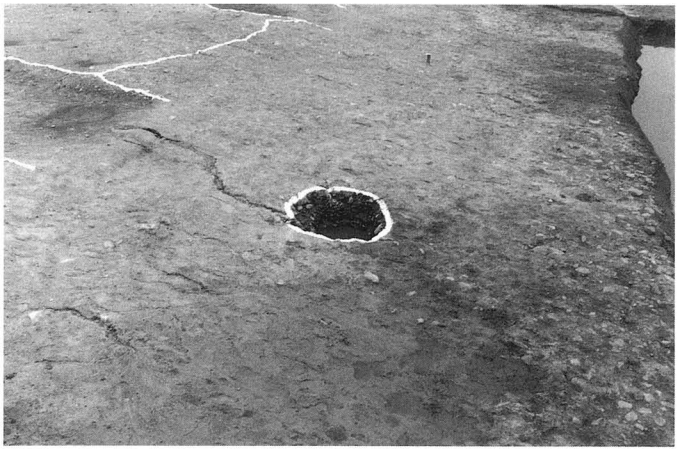


7　ＳＨ18完掘状況（南から）

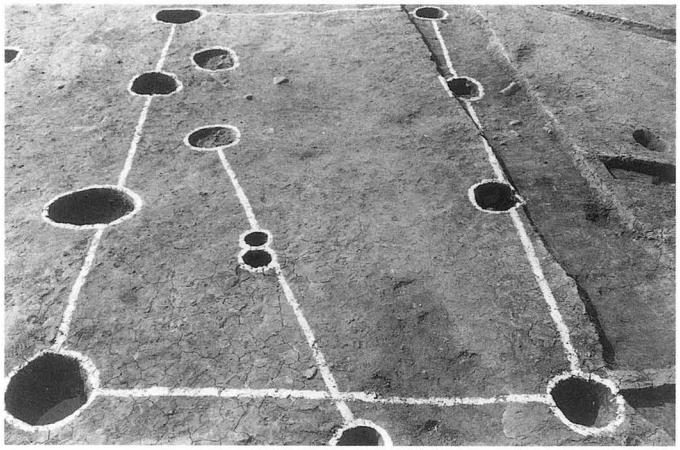
8　ＳＤ122（ＳＨ19周溝）遺物出土状況（西から）



1　ＳＢ01完掘状況（南から）

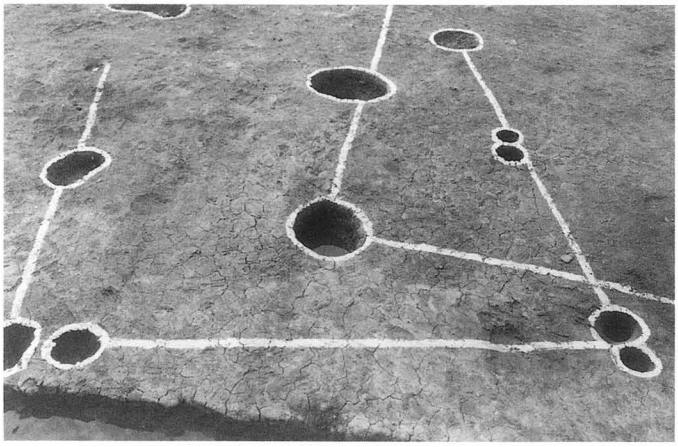


5　ＳＥ01完掘状況（北から）



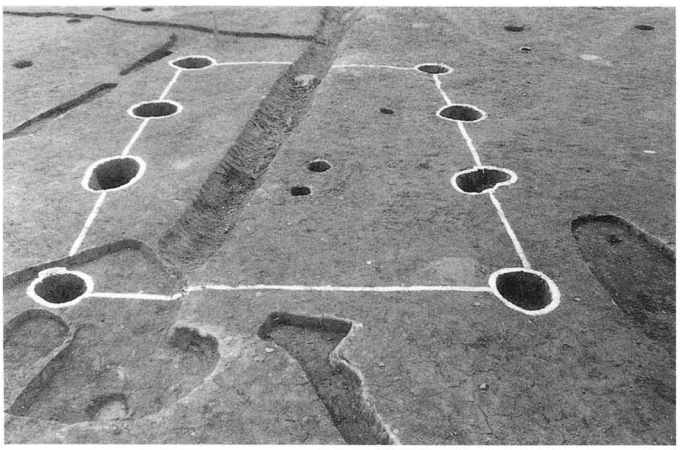
2　ＳＢ02完掘状況（東から）

6　ＳＥ01断面（第２・３層，南から）



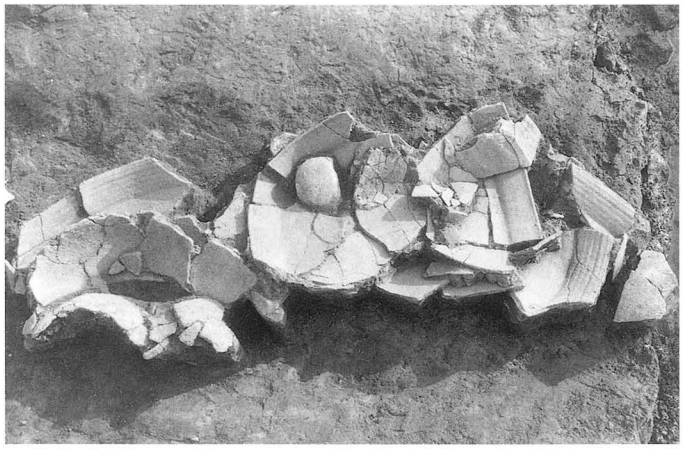
3　ＳＢ03完掘状況（東から）

7　ＳＥ02完掘状況（南から）



4　ＳＢ08完掘状況（東から）

8　ＳＥ02断面（東から）



1　ＳＤ04遺物出土状況（北から）

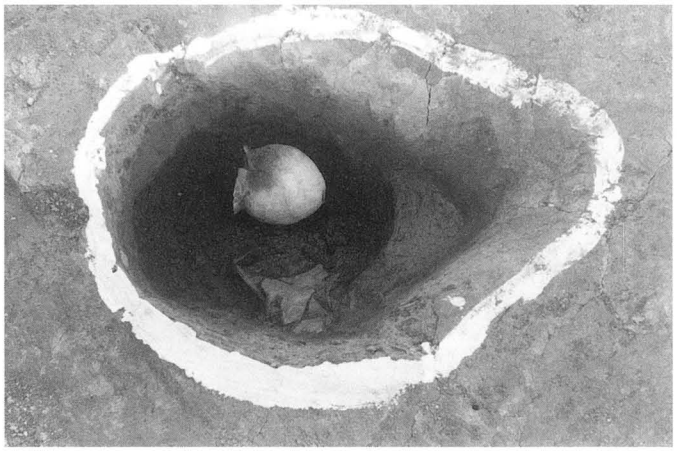
2　ＳＤ24・27遺物出土状況（南東から）

3　ＳＤ24遺物出土状況（東から）

4　ＳＤ27遺物出土状況（北西から）

5　ＳＤ27遺物出土状況（西から）

6　ＳＤ35遺物出土状況（西から）

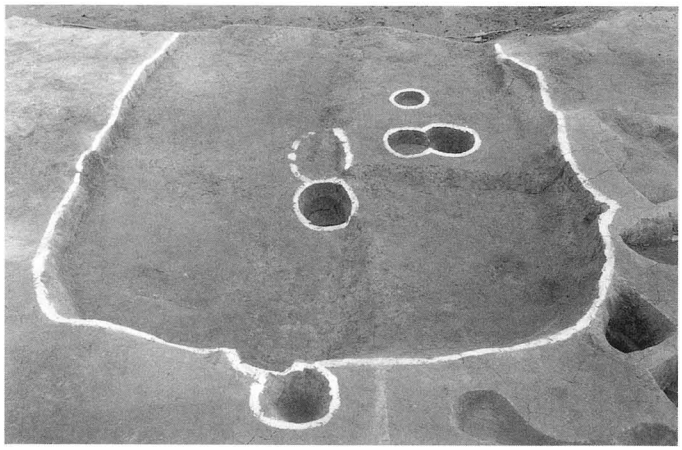


7　ＳＰ５-２遺物出土状況（南から）

8　ＳＰ５-２断面（東から）

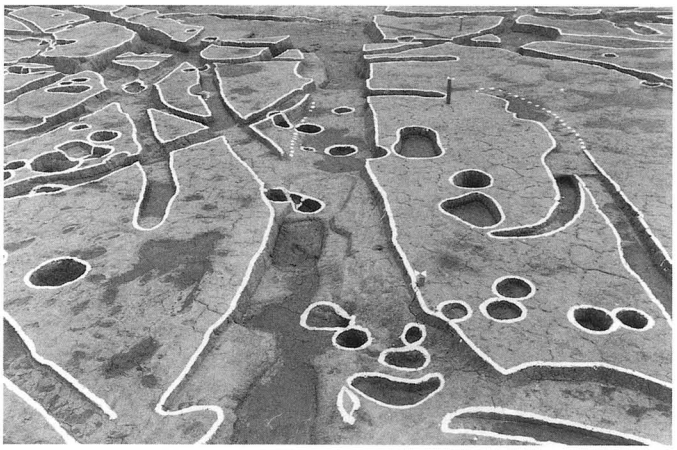
1　ＳＰ６-30遺物出土状況（北から）

2　ＳＰ７-78遺物出土状況（北から）

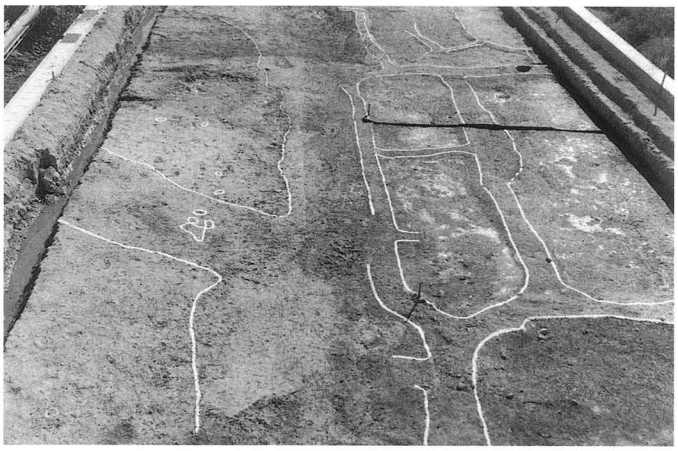


3　ＳＨ09完掘状況（西から）

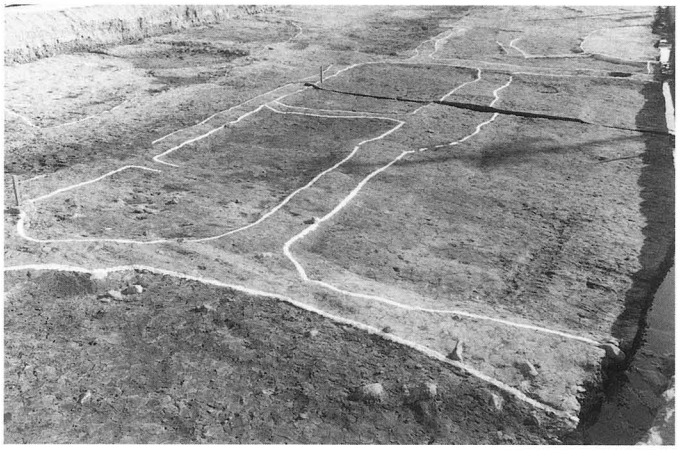
4　ＳＨ09かまど完掘状況（北から）



5　ＳＤ55完掘状況（西から）



6　小区画水田完掘状況（北から）



7　小区画水田完掘状況（北西から）

8　畦畔石組検出状況（南西から）